石川県バドミントン協会
創立50年史





ごあいさつ

石川県バドミントン協会
会長　岡田尚壮

石川県バドミントン協会が発展、興隆のうちに創立50周年を迎えることができましたことは、日本バドミントン協会、石川県体育協会はじめ諸団体の皆様のご指導、ご鞭撻の賜であり、深謝申し上げますとともに、この間協力一致、努力を続けられた役員、会員の皆様にはおねぎらいを申し上げます。

昭和23年に当協会を設立、基礎づくりから発展への道筋に汗を流し、バドミントン石川の名を全国にとどろかせた先輩の皆様の栄光の記録と思い出を刻み、将来のいっそうの発展、興隆を誓う決意を込めて、ここに創立50年史を発刊することといたしました。

近年では平成３年の石川国体を契機としてジュニア層の底上げと組織の拡大充実をはかり、その土台の上に選手の競技力を向上させてまいりました。その結果、国体はじめ全国中学大会、高校総体では優勝、上位入賞の好成績を続けています。また家庭婦人・勤労者などのバドミントン人口を年々増加させ、着実に愛好者の層を厚く、広くいたしているところであります。

当協会といたしましては、努力の結晶である確固たる基盤に立ち、今後さらにその頂きを高く、裾野を広げてまいる所存であります。何とぞ引き続き温かいご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げる次第であります。

最後になりましたが、記念誌発刊にあたって貴重な原稿をお寄せいただいた方々、また編集に携わられた協会関係者、および関係各位に心よりお礼申し上げて、ごあいさつといたします。



祝　辞

日本バドミントン協会
会長　桜内義雄

石川県バドミントン協会が、この度創立50周年を迎え、記念誌の発刊をみるに至りましたことを、心からお祝い申し上げます。

貴会におかれましては、戦後の混迷期にあった昭和23年に創立され、以来、役員各位と会員が一体となって幾多の困難と障害を克服し、バドミントンの普及、発展に情熱を傾け今日の確固たる基盤を築かれて、今や会員数が3,000名を超え、これまでに多数の全日本チャンピオン、世界選手権大会優勝者を輩出している全国の中心的な協会に成長されましたことは誠に喜ばしい限りで、深く敬意を表するものであります。

申すまでもなく、日本バドミントン協会の発展は、都道府県バドミントン協会の充実がそのいしずえとなっております。その意味からも平成３年度に開催された石川国体での総合優勝をはじめ、その後、各種全国大会で素晴らしい成績をおさめていることは記憶に新しいところであり、50年の長い歴史の１ページを飾ったことは、誠に意義深く、日本バドミントン協会としても感謝に堪えません。

この50周年を一つの節目として、貴協会が日本のバドミントン界のリーダー的存在として、ますます発展されますことを祈念し、お祝いの言葉といたします。



祝　辞

石川県知事　谷本正憲

昭和23年３月に石川県バドミントン協会が設立され、関係者の熱意とご努力により、本年50周年の隆盛を迎えられましたことを心からお祝い申し上げます。

貴協会におかれましては、まだ先の大戦の戦禍が癒えない昭和22年に、本県で開催された第２回国民体育大会を契機として、いち早くバドミントンの普及に取り組まれ、半世紀の永きにわたり、組織の拡充や選手・指導者の育成等にご尽力されてこられました。その間、昭和27年金沢二水高校の全国高等学校バドミントン選手権大会の団体優勝を皮切りに、金沢市立工業高校や金沢向陽高校、そして河北台中学校・高松中学校・田鶴浜中学校の全国優勝、さらには教員大会の優勝など、数多くの輝かしい実績を残され「バドミントン王国石川」という不動の地位を築かれました。これもひとえに、歴代役員をはじめ関係各位のご尽力の賜と、深く敬意を表するものであります。

また一方、選手強化のみならず各種大会の開催・運営や競技人口の拡大にも積極的に取り組まれ、全国からトップレベルの中学生が参加した「石川ジュニアオープン選手権大会」を開催されるとともに、貴協会傘下に社会人連盟や家庭婦人連盟をはじめ８団体の組織化を図られるなど、本県の生涯スポーツの振興にも多大なご貢献をいただいているところであります。

来るべき21世紀に向け、明るく活力ある県民性を培うためにも、更なるスポーツ界全体の発展・振興が望まれておりますが、そうした意味においても、貴協会の果たす役割はますます重要であり、今後のご活躍に大きな期待を寄せるものであります。最後になりましたが、創立50周年の栄光を節目に、貴協会のより一層の飛躍を祈念して、お祝いの言葉といたします。



祝　辞

財団法人石川県体育協会
会長　米沢外秋

このたび、石川県バドミントン協会が創立50周年を迎えられその足跡を収めた記念誌を発刊されますことは誠に意義深く、スポーツを愛好する私にとりましても大きな喜びでございます。ここにスポーツ界を代表して心からお祝いを申し上げます。

バドミントン競技は国民体育大会において、毎年何れかの種別で優勝もしくは、入賞することが常識とされるなど、早くから県のお家芸と言われるまでに発展していったのであります。

その後半世紀にも及ぶ長い年月の中で、全日本選手権大会、世界選手権大会等へ多数の選手を派遣し、これまでに数多くのチャンピオンを輩出するなど、名実共に石川県を代表するトップの競技団体に成長してまいりました。

この輝かしい歴史と伝統は、永年にわたる関係各位の情熱と地道にして真摯な努力の結果でありその献身的な姿に衷心より敬意を表する次第であります。

平成３年石川国体で天皇杯・皇后杯を獲得しました石川県体育協会では、今日大きな課題を持っております。

その一つは競技力の維持向上であり国民体育大会において総合得点1,000点、総合順位10位台を常時維持していくことです。

もう一つの課題は、生涯スポーツの尚一層の振興であります。生活の中にスポーツ活動を取り入れ健康で豊かな生活を営んでいただく為に全力を注がねばなりません。

バドミントン協会におかれましても、この課題達成のために尚一層の力添えをお願いするものであります。

終わりになりましたが、バドミントン協会が一段と力強い飛躍を遂げられることをご祈念申し上げまして祝辞といたします。

国際試合での活躍



第１回世界バドミントン選手権女子ダブルスで優勝した栂野尾悦子(右)・植野恵美子組



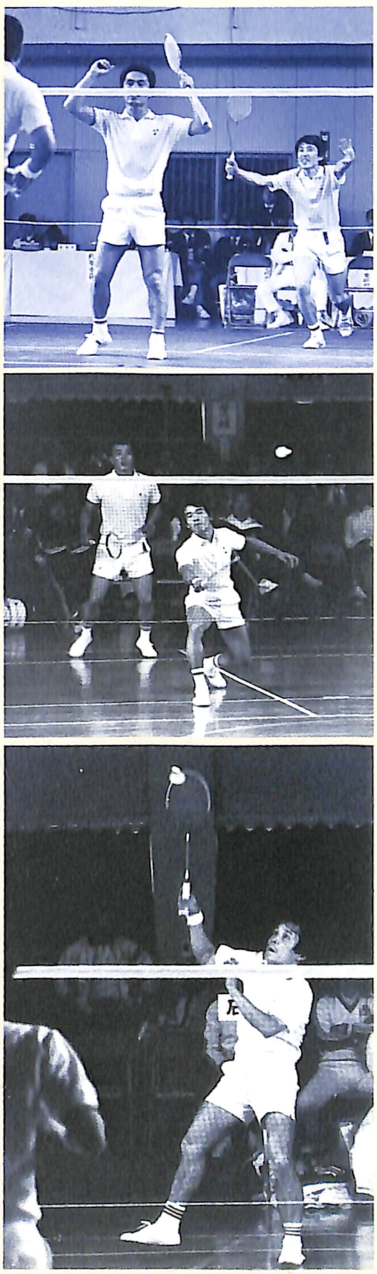
第８回アジア大会(昭和53年)に出場した銭谷欽治(右)

三重国体(昭和50年)と佐賀国体(昭和51年)で２年連続総合優勝を果たした石川県チーム





三重国体の表彰式(上)、佐賀国体で優勝し胴上げされる中島寿禧監督



全国トップの水準を誇る高校生



第18回全国高校総体(昭和42年)で初優勝した金沢市立工業高校

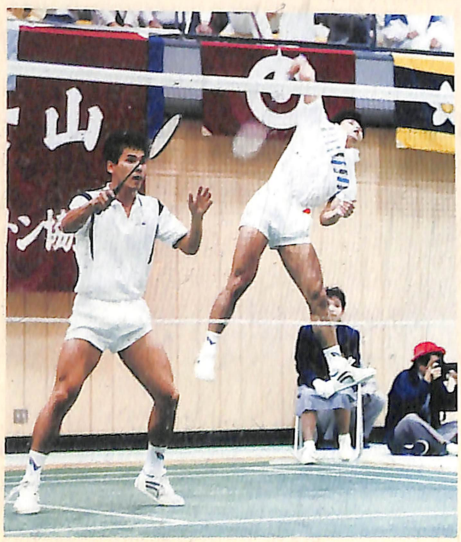
石川国体(平成3年)で3度目の総合優勝



シャトルで作られた天皇杯と皇后杯で













第27回全国高校総体(昭和51年)で5回目の優勝を果たした金沢市立工業高校



第46回・第47回全国高校総体(平成7・8年)男子シングルスで優勝した舛田圭太(金市工)



第42回全国高校総体(平成3年)で準優勝をした金沢二水高校



第46回全国高校総体(平成7年)女子ダブルスで優勝した中島珠美、片糸由希子組(金沢向陽)



第23回全国高校選抜バドミントン選手権(平成7年)で初優勝した金沢向陽高校



第48回全国高校総体(平成9年)女子ダブルスで優勝した田井美幸、舛田恵組(金沢向陽)



日韓大会に出場した金沢市立工業高校と四条畷高校(昭和50年、ソウル)

中学生の全国制覇



第16回全国中学校バドミントン大会(昭和61年)で優勝をした河北台中学校



第17回全国中学校バドミントン大会(昭和62年)で優勝した高松中学校



第26回全国中学校バドミントン大会(平成8年)で優勝した田鶴浜中学校

目　次

ごあいさつ　石川県バドミントン協会会長　岡田尚壮
祝　辞　日本バドミントン協会会長　桜内義雄
祝　辞　石川県知事　谷本正憲
祝　辞　財団法人石川県体育協会会長　米沢外秋

第1章　沿　革 …… 3

第2章　協会加盟連盟のあゆみ …… 15

石川県実業団バドミントン連盟16／石川県社会人バドミントン連盟21／石川県家庭婦人バドミントン連盟25／石川県少年バドミントン連盟29／石川県中学校体育連盟バドミントン競技部31／石川県高等学校体育連盟バドミントン部35／石川県教職員バドミントン連盟40

第3章　各市町村協会のあゆみ …… 43

金沢市バドミントン協会44／加賀市バドミントン協会48／小松市バドミントン協会49／松任市バドミントン協会52／七尾市バドミントン協会55／輪島市バドミントン協会58／山中町バドミントン協会59／根上町バドミントン協会60／寺井町バドミントン協会63／美川町バドミントン協会64／鶴来町バドミントン協会66／野々市町バドミントン協会67／河内村バドミントン協会68／津幡町バドミントン協会69／高松町バドミントン協会70／七塚町バドミントン協会73／宇ノ気町バドミントン協会75／内灘町バドミントン協会76／鳥屋町バドミントン協会77／鹿島町バドミントン協会78

第4章　思い出 …… 79

日本一に輝いた人たち　80
想い出のかずかず　澁谷弘利　80

バドミントンの思い出　北川悦子　81
バドミントンと私　堤　紀久子　84
バドミントンと共に歩んだ道　松下　力　85
私のバドミントン人生　栂野尾悦子　87
私のバドミントン人生　銭谷欽治　92
バドミントンの思い出　宮森庄吉　96
私のバドミントン人生　気谷篤人　99
日本一になって　竹鼻拓也　100

日本一を育てた人たち　101

日本一を目指して　河原山晴夫　101
日本一になって　和田　修　103
金市工バドミントンと私　彼島重範　104
日本一に向かって　森川　徹　106
日本一になれて　浅野外志　110
全中をふりかえって　観田健治　112

バドミントン石川を彩る人たち　114

バド狂　50年の足跡　中島寿禧　114
こよなくバドミントンを愛した恩師　梅田良三　117
勝つ為には何をしてでもよいのか　北方　匡　118
監督冥利に尽きる30年　村西　一　120
未来に向かって　長谷川　進　121
志あるところに道ありき　舛田圭太　122

座談会　バド王国石川を築いた礎　123

資料編　137

石川県バドミントン協会年表　138
競技会記録　157
協会・連盟歴代役員　214

編集後記

第1章

沿　　革

はじめに

昭和20年(1945) 8月15日、長い戦争が終わりを告げた。戦争の終わりの受け止め方は、当時の国民の数だけあっただろう。その中で、スポーツに照準を絞った場合、まずは、戦場や戦災・戦病で世を去った関係者の死に思いをいたしたに違いない。そして、やがて訪れた戦後の混乱期の様々な不便こそあったが、心ゆくまでスポーツに専念できることに感慨深かったのではないだろうか。

アジア諸国との不幸な歴史を振り返る時、戦後我が国に紹介されたバドミントン競技は、まさに平和の象徴的な意味合いを持つといえよう。中国・韓国・インドネシア・マレーシアなどの諸国と、この競技で競い合ってきたことのすばらしさと尊さとを、戦争について学ぶことの少ない若い世代の選手達に、まず知っておいてもらいたい。

戦後我が国に紹介されたバドミントン競技で、私たちの住む石川県を自負の念を込めて「バドミントン王国」と呼ぶ。石川県が「バドミントン王国」と呼ばれるにいたった経緯と、その歩みをたどることにする。

石川県におけるバドミントン競技の隆盛を考える時、草創期での次の三つの要素を見逃すことができないといえるだろう。その三点とは、

(1)石川県が戦災を受けなかったこと
(2)旧軍司令部の存在地であったため、占領軍及び関係団体が進駐してきたこと
(3)バドミントンを受け入れる人々がいたこと

である。

第2回国民体育大会が石川県で開催されたのは、石川県が戦災を受けなかったため国民体育大会を受け入れる余裕が他都道府県よりあったことが大きな理由といえるだろうし、石川県でのバドミントンの普及にＹＭＣＡが大きな役割を果たしたことは、草創期の関係者には周知の事実である。バドミントンを受け入れる人々がいたことについては、戦災を受けなかったことで、スポーツに専念できる人々が存在できたともいえるだろうが、同じ状況の人々が全てバドミントンに関心を抱いたとは思えない。

従って、最も大きな要素は、終戦直後にバドミントンと出会い、バドミントンに没頭していった人々がいたことではなかろうかと思われるが、この三点のどれが欠けても石川県におけるバドミントン競技の歴史は違ったものになったであろう。

第2回国民体育大会

第1回は京都で開催された。周知の通り、世界文化遺産に指定された多くの寺社が所在する京都は、その文化的価値のために米軍が空襲を見合わせたといわれる。阪神地区の多くの都市が空襲に見舞われたなか、京都はその難を免れた。そして、国民体育大会は、第2回(昭和22年＝1947)の開催地として、非戦災都市・金沢を選んだのである。

バドミントン競技は、第四高等学校(金沢大学の前身、現在の県中央公園がその跡地)の講堂で、公開競技として紹介された。当時、テニス選手で運動具店に勤めていた中島寿禧(県

協会名誉理事長)は、会場設営や、競技紹介の講師の担当窓口となって、運営に関わっていた。紹介されたバドミントンを見た中島は、「なんと華麗なスポーツだろうと、いっぺんに虜になってしまった」という。この瞬間、石川県バドミントン協会50年の歴史がスタートしたといってよいのではないか。

中島と彼のテニス仲間が金沢バドミントンクラブ（ＫＢＣ）を結成したのは、同年11月、空き地に縄を張っての出発だった。

その当時の心境を中島は次のように振り返っている。

> 戦争に負けて、若者の情熱はどこへももっていきようがなかった。我々は、その青春をスポーツにぶつけたというのがはじめだね。たまたまそこにバドミントンがあった。バドミントン以外に人生はないというほど、今までやってきたわけだが、どうしてあれだけできたのかなと思うことはたくさんある。

バドミントンに魅せられたＫＢＣのメンバーは、競技の普及に取り組み、会員の所属企業に続々とクラブが結成されていった。

一方、レクリエーション協会の杉本氏(朝日新聞社)、池山氏(陸連)などもバドミントン競技の普及をめざし、富士銀行の人々も加わって協会結成の動きが表れた。

昭和23年(1948) 1月には、協会設立のための最初の会議が開かれた。

石川県バドミントン協会設立

昭和23年(1948) 3月28日、ついに石川県バドミントン協会は設立された。初代会長は、真柄要助(真柄建設)、理事長は久保田誠(富士銀行）であった。

4月には、第1回の石川県選手権を協会結成記念大会と銘打ち、金沢の高岡町中学で開催し、60人の選手が参加した。

同年には、高体連にバドミントン専門部も加盟し、以後昭和20年代に不滅の金字塔を築くことになる。

草創期の努力

用具や競技環境という点では、多難な時代であった。

空き地に縄を張る（これはネットがわりということである)ところから始まり、風がいけないので小学校の体育館を渡り歩く会場探し、借りた先の体育館でのチョークによるコート引き、飛ばない陸鳥シャトル、接着剤によるシャトルの補修、重い上に放置しておくと変形するため毎日プレスする必要がある木製ラケット、一週間でだめになるシューズなど、現在からみると驚くことばかりであるが、バドミントンに魅せられた人々にとって、それらは懐かしい昔話のようである。

人々の努力は、用具や環境に関してだけではなかった。当時のプレーヤーは、現在我々が打つ全てのストロークを最初から打っていたのではないのである。

当時のゲームは、

①ロングサービス→クリアー(陸鳥のせいもあり飛ばない) →スマッシュ
②ショートサービス→ロブ→スマッシュ
このようなラリーが多かったようである。そして、スマッシュでほとんどのラリーは終わっていた。

ところが、戦争中に、インドネシアでバドミントンに3年間親しんだ爪長健一が、石川県のプレーヤーにドロップとヘアピンを紹介した。こうして、ロングサービスからドロップ、あるいはクリアーからドロップというラリー、ショートサービスからヘアピン、さらにはドロップからヘアピンというラリーが生まれていったのであろう。

また、中島は単身、長崎のGHQに武者修行に赴き、カットを修得し、その技術を石川県に持ち帰った。爪長がインドネシアでバドミントンを経験し、その成果を伝えてくれたこと、中島が一人長崎に赴き積極的に新たな技術を持ち帰ってくれたことは、技術的に石川県のバドミントンを大きく前進させた。

こうして、石川のプレーヤーは急速に力をつけ、昭和24年(1949)の第1回北日本大会(新潟市) でタイトルを総なめにする。

全日本選手権大会開催

昭和24年(1949) 4月、第3回全日本選手権大会が金沢で開催された。地方では初の開催であった。

この大会は、協会が誘致開催したものであるが、この間の事情を中島は次のように語っている。

草創期には、他の競技団体などからは、なんだ羽根突きか、女のやるスポーツだと、常に軽視されていたので、なんとかバドミントンをメジャーの仲間入りさせねば、それには、第一に強くなる事、基礎を作り、実績を作る事が肝心だと思いました。そのために、地方では初めての全日本選手権大会を誘致開催した。みんな手弁当で頑張ったものです。

関係者の努力により、23都道府県470名の選手を迎え、盛大な大会となったが、これを機に県内におけるバドミントンへの関心はますます高まりを見せ、各職場や高校に次々にバドミントン部が誕生する。大会誘致の効果が顕著に表れたといってよいだろう。

24年末には一般18、高校20とチーム数は増加し、各郡市部に協会が結成された。各郡市への広がりは、翌25年(1950) 9月の第1回郡市対抗大会に結実するのである。

第1期黄金時代

こうしてバドミントン競技は急速に普及していくが、中島が第一の目標とした「強くなること」も、昭和20年代半ばから次々と戦績として現実化していくのである。

昭和25年(1950)、第1回の全国高校バドミントン選手権大会(現全国高校総体) が横浜で開催され、男子泉丘が3位、女子津幡が2位に入賞。26年(1951)、男子泉丘3位、二水4位。27年(1952) は石川県同士の決勝戦となり、二水優勝、泉丘2位。29年(1954) は金沢で開催し、二水が二度目の優勝を遂げた。

高校生の活躍と期を同じくして、本県出身の澁谷弘利（京都大）が小島信（現澁谷亮治夫人）とのペアで、全日本選手権のミックスダブルスを、26年から28年（1953）まで三連覇した。

この間、澁谷は、この時代としては極めて合理的、独創的な練習方法を編み出していたという。

また、澁谷組の連覇が始まった昭和26年には、登悦子（現北川）が女子シングルスで全日本選手権を制した。

一方、国体においても、26年、一般女子2位、高校男子2位。27年には、一般女子が貝原まさえ・登悦子・高田八重子・岩倉衣絵というメンバーで初優勝を果たした。高校男子も3位に入賞し、同年の高校総体での同県決勝もあって、この昭和27年は、石川県のバドミントン界にとって画期的な年といえる。

第9回の全国高校総体で金城の山崎喜久子がシングルスで、山崎・川組がダブルスで優勝した昭和33年（1958）ごろまでの、協会発足後10年ほどの期間を、関係者は「第1期黄金時代」（河原山現理事長）、「第1期バドミントン王国」（中島）などと呼ぶ。協会発展の足がかりを築いた時代であった。

しかし、華々しく活躍しながら外部からの補助がいっさいなく、協会の収支は毎年赤字であった。協会運営に関係者は頭を悩まし、シャトルの確保に躍起になる毎日であったらしい。安易な比較は禁物だが、現在の選手は恵まれているといえるだろう。

教職員の活躍

金城の山崎の単複制覇のあと、およそ10年間、草創期を華々しい戦績で飾った高校は、団体・個人ともに全国大会での入賞がなく、低迷期に入る。

一般も、昭和34年（1959）に山崎（現堤、当時熊本女子大）が田島（香川）とのダブルスで、沢田力（現松下、津幡－法政大）が森（奈良）とのダブルスで35年（1960）から37年（1962）にかけ三連覇を達成したほかは、前代と比べると、やや低迷の感があった。

この時代にめざましい活躍ぶりを示したのが、教職員勢である。草創期に高校生として全国に名をはせた選手たちが大学を卒業し、国体に教員の部が設けられたのに併せて、活動の舞台を国体に移していく。

昭和35年（1960）、熊本国体で初優勝（河原山晴夫・北方匡・茂藤寛）以来、38年（1963）まで4連覇し、39年（1964）に2位、40年（1965）に5度目の優勝を遂げた。41年（1966）に2位となったが、この間江尻圭三もメンバーに加わり、さらに村西一・原栄一・松本忠之・長谷川進・和田修・高来秀夫などが次々と戦列に加わり、選手交代もスムーズに行われた。

第2期黄金時代

昭和50年（1975）に国体教員の部で10年ぶりに優勝（原栄一・和田修・長谷川進）を果たすと、52年（1977）から舛田吉光も加わり、54年（1979）まで5連覇を遂げた。

50年は、国体で初の総合優勝を飾り、翌51

年(1976)には、教員とともに少年男子が初優勝（重山成生・森田均・坂本昌嗣)、成年男子の3位とあわせて圧倒的な得点で総合2連覇を達成した。この頃が「第2期黄金時代」「第2期バドミントン王国」とされる。

55年(1980)から国体参加人数削減のあおりを受け、教員の部が廃止されるが、国体で活躍した教職員選手たちは、現役引退後は指導者として、情熱的に選手育成、チームづくりに専心し、以後の本県バドミントン界発展の礎となった。今日の隆盛の一端を担っているといえよう。

名選手の輩出

昭和42年(1967)に、金沢で2度目の全国高校総体が開催された。県協会をあげての強化が実り、金市工が初優勝。高校男子の低迷に終止符を打つとともに、「金市工時代」の幕をあける。

44年(1969)、48年(1973)、50年(1975)、51年(1976)と計5回日本一に輝くとともに、ほとんどの年に2・3位に入賞を続けた。昭和40年代から50年代初頭にかけて、日本の高校男子はまさに「金市工時代」であった。

金市工が常勝を誇ったこの時代、優秀な選手を育む石川の土壌から、全日本、世界に羽ばたく名選手が続々と登場する。

天性の素質をもった竹中悦子(現栂野尾、二水ー新潟青陵短大)は、43年(1968)に相沢(新潟)とのペアで全日本総合選手権(全日本選手権の名称変更)で初優勝し、以後ダブルスで7回、シングルスで1回、ミックスで5回日本一となった。

その間、ユーバー杯(女子団体の世界選手権)で日本チームの中心選手として、優勝の原動力となった。また、個人戦の世界選手権である全英選手権でも優勝するなど、世界を舞台に大活躍した。

男子でも銭谷欽治（大聖寺ー中央大）が51年(1976)に全日本総合選手権で初優勝し、以後シングルスで7回、ダブルスで1回優勝するなど、銭谷時代を作った。

その後、宮森庄吉（金市工ー法政大）が59年(1984)に井上（熊本）とのペアで優勝している。

記憶に新しいところでは、平成7年(1995)に気谷篤人（金市工ー日大）が佐々木（富山）とのミックスで、平成9年(1997)に竹鼻拓也（二水ー法政大）が太田（東京）とのペアで全日本総合選手権優勝を果たした。

協会創立以来、今日まで10人の日本チャンピオン（澁谷・小島、登、山崎、沢田、竹中、銭谷、宮森、気谷、竹鼻）が誕生した。この人たちの功績を讃え、協会では様々な大会に、チャンピオンたちの名を冠している。

53年(1978)から澁谷杯ミックス大会を、60年(1985)からジュニアの北國杯の予選をかねて、能登地区で栂野尾杯、金沢地区で松下杯〔参加者多数のため、平成9年(1997)から河北郡・羽咋郡市を分離独立して宮森杯〕、加賀地区で銭谷杯を開催している。

組織整備

現在、県協会には、実業団連盟、社会人連盟、家庭婦人連盟、少年連盟、中学校体育連盟、高等学校体育連盟、学生連盟、教職員連

盟の8連盟が加入している。

設立の時期はそれぞれだが、その背景や趣旨を語る関係者の弁にはまことに趣深いものがある。

昭和39年（1964）の東京オリンピック以来、高度経済成長が続く中、車社会が労働者の余暇の創出や行動圏を広げたことと、労働組合が企業内スポーツを振興したことが、県内でくすぶっていた実業団チームを全国大会に押し出していくこととなった。

（実業団連盟初代理事長・中田吉昭）

中体連・高体連・学連・教職員連盟・実業団連盟が組織され、登録人員も年々増加し、当初の目的の一つであったバドミントン競技の普及は着実に実現していった。

全国大会での好成績を背景に、体協内での地位も確固たるものになっていった。

この土壌に種をまき、苗を育てるには、社会人・婦人・ジュニアが一体となることが必要と考えた。

そうした折、昭和66年（実際には平成3年＝1991）に石川国体開催の話があり、先行して結成されていた家庭婦人連盟（お母さんたち）に続き、少年連盟を結成、ジュニア層の強化に力を入れた。

国体開催が本決まりになると、運営面の最後の砦である社会人連盟（お父さんたち）の結成に入った。（名誉理事長・中島寿禧）

バドミントンは競技スポーツとして猛烈に体力を必要とする激しい面と、手軽に簡単にできるレクリエーション的な面とを併せ持っている。

そのため、年々競技人口が増加し、小学生から壮年まで、そして家庭婦人へと幅広く愛好者が増え、県内の競技人口が爆発的に増加した。

その結果、各種大会も増えて、県協会だけでの単独開催が不可能となり、また、より効果的にするため、県協会の下に各連盟が設置された。　（現理事長・河原山晴夫）

中田の談からは、日本の戦後史のある局面で、社会の状況がスポーツに多大な影響を与えたことがうかがえる。スポーツが人の営みである以上、世の流れに無関係であることができない好例といえるだろう。

社会人・家庭婦人・ジュニアを三本柱と考えた中島の着想は、まさに慧眼であったといえる。これは想像であるが、この構想を練った時、中島はある家庭を思い描いたのではないだろうか。それは、家族全員がバドミントンを楽しむ家庭である。バドミントンが全てだったと言い切る中島にとって、まさに理想の家庭といえる。その家庭では、一家団欒の際に、バドミントンが話題になることも多いだろう。

そして、このような情景が十分に現実的であるのも、河原山が指摘しているとおり、バドミントンの競技としての特性によるところが大である。競技人口の急速な増加を象徴的な情景で示すと、前述のような家庭が描かれるのではなかろうか。また、近年盛んに推奨される生涯スポーツの見地からも、バドミントンが優れた競技であるといえる。

こうして、平成元年（1989）には、県内の全てのバドミントン競技者を網羅する体制が完成したのである。

各連盟の概要

詳細は各連盟史に譲るが、簡単に概要を眺めてみることにする。

実業団連盟

昭和36年(1961) 4月創立。56年から実業団リーグを開催し、本格的に活動を行う。63年(1988)に全日本実業団大会を誘致開催。平成3年(1991)に北國銀行が日本リーグ1部に昇格(現在は男女とも2部の上位にいる)。4年に松任、7年に金沢で日本リーグを開催。県内トップレベルの選手が在籍し、レベルアップに大きく向上している。

社会人連盟

平成元年(1989) 7月創立。同年から社会人リーグを開催。2年に全日本社会人大会を誘致開催。同一職場でチームを編成できない選手たちによるクラブチームを対象として愛好者の増大に貢献し、トップレベルから初心者まで裾野を広げている。

家庭婦人連盟

昭和52年(1977) 5月創立。同年から団体・個人戦を開催。平成3年(1991)に全日本家庭婦人大会を開催。経験者から初心者まで多くの家庭婦人が在籍。

少年連盟

昭和59年(1984) 6月創立。同年から団体・個人戦を開催。月1回のペースで強化指定選手の合同練習会を開催。県外での各種大会、練習会にも積極的に参加。社会体育・地域スポーツの時代にジュニア層の普及強化に大きく貢献している。平成8年(1996)から中学生対象の石川オープン(全国大会)を開催。同年に全国小学生大会を金沢で開催。

教職員連盟

昭和43年(1968) 5月創立。同年から県内教職員を対象(初心者も可)の試合(ランク別)を実施。55年と平成6年(1994)に全日本教職員大会を金沢で開催。選手は未登録でも出場可。役員は、中・高の教職員(部顧問)が当たっている。

高体連

県高体連本部に属し、本部の設立と同時に発足した。

中体連

県中体連本部に属し、本部の設立と同時に発足した。

学生連盟

金沢大を中心に早くから活動、北信越大学大会や中部地区大学大会等で活躍している。

ジュニア育成体制の成果

昭和46年(1971)から全国中学校体育大会が開催され、47年(1972)の第2回大会で高松中学男子が団体2位に入賞(9回=1979年までは都道府県対抗の団体戦のみ)。その後、10年間は入賞がなかった。

59年(1984)に少年連盟が発足、ジュニアの本格的な強化に乗り出し、早くからこれに取

り組んでいた熊本や、関東・関西の各県に追いつこうと体制を整備した。

61年(1986)に河北台中学男子が本県中学校では初めて全国制覇を達成。また、ダブルスでも宇ノ気中学男子ペアが優勝（藤島浩司・藤森隆)。翌62年（1987）にも同じく河北郡の高松中学男子が日本一に輝いている。その後、10年間ほど、優勝こそ果たせなかったが、個人戦において、2・3位に入賞する選手がいた。

平成にはいると、少年連盟加盟のジュニアクラブは能登から加賀市まで県内全域に誕生していく。この中には、自分の通う中学校にバドミントン部のない選手もいたり、部があっても平素はジュニアクラブでの練習に主眼を置く選手も出だした。当初は多少の摩擦もあったが、広域的かつ急速な普及を背景に、次第に理解と賛同の輪が広がっていく。こうして、ジュニアクラブの選手たちも、中学校の部活動から大会に出場する選手とともに、県内のトップレベルに位置するようになり、さらに全国の舞台でも見事な成果を収めるようになるのである。

平成7年(1995)の全国中学校大会では、田鶴浜町の相馬クラブで育てられ、田鶴浜中学校に進んだ男子選手が大活躍し、ダブルス優勝(大畠隆史・山下淳)、団体も3位に。翌8年（1996）には団体とダブルス（広瀬雅志・長尾昌典)で優勝した。この大会の団体決勝戦は石川同士の対戦となり、伝統校・高松中学が惜敗し2位となっている。また、美川中学女子も3位に入り、県勢女子団体で初の入賞を果たした。活躍した選手たちはいずれもジュニアクラブからの経験者である。

前述した「第1・2期黄金時代」「第1・2期バドミントン王国」の時代は、中学校時に未経験あるいは無名の選手でも、高校時代に全国的選手に育つことがあった。しかし、最近では小学校時代からラケットを持つ選手が有利な感は否めないところである。

こうした意味からも、「ジュニア層の強化」こそが県全体のレベルの底上げになり、これを最重点課題とした県協会の方針は、まさに正鵠を射たものとなった。現在、県協会は、強化指定選手の合同練習や県外大会への参加の援助、各クラブへのシャトル配布等、強化のための様々な手当てを行っている。

ジュニア層の活躍により、高校勢も安定した成績を挙げ続けるようになる。51年(1976)の優勝以来、全国高校総体での団体優勝はないものの、男子はほとんどの年に2・3位に入賞している。また、個人戦では、60年(1985)地元金沢での選抜大会で、金市工同士の決勝戦となり、西島弘幸・中川守が優勝。平成2年（1990）の同大会でも、大多晴久・石本明男（金市工）が優勝した。

石川国体

平成3年(1991)に石川県は二巡目の国体を開催することになった。前回は、昭和22年(1947)の第2回大会で、石川県にバドミントンが紹介され、以後数々の栄光のスタートとなった記念すべき大会であったが、当時バドミントンは公開競技であり、石川県の選手も出場していない。

したがって、地元県として総合優勝に挑むのは初めてのことである。協会はこの目標達成のために、長期的な強化体制を組んだ。

本大会では、4種別全部で3位(準決勝で敗れ、3位決定戦で勝つ)という、国体史上例のない珍しい記録で総合優勝(3回目)を成し遂げた。

「総合優勝が至上命令」という強烈なプレッシャーの下、見事にこれを果たした関係者の思いはいかほどであったろうか。

特に、昭和22年の第2回国体でバドミントンと出会い、自らプレーし、普及に走り、協会を創立し、資金を集め、県内でのバドミントン競技の地位向上に腐心し、多くの大会で好成績をあげられる体制を作り上げ、ついに44年ぶりに地元で開催された国体を総合優勝で飾った、中島名誉理事長(現在)たち草創期から協会を支え続けてきた人々の思いは、結局のところ、彼らのみが共有できるものではないだろうか。

この人々の思いをいくらかでも後世に伝えることができれば幸いである。

第3期黄金時代

この国体を契機に、ジュニアの継続的な強化が功を奏し、高校勢も好成績を続けていくが、特に、長年、全国大会で上位入賞に縁遠かった高校女子が急速に力をつけてくる。ジュニアで育った選手が高校進学時に分散していたのが、1、2校に集中するようになったのも大きな原因であろう。レベルの高い北信越地区で、毎年優勝が有力視される程になってきている。

平成7年(1995)の全国選抜大会で、向陽が本県女子として初めての団体優勝に輝いた。また、同年の高校総体では、ダブルスで中島珠美・片糸由希子組(向陽)が優勝。国体でも見事優勝(中島珠美・片糸由希子・堀哲子)を果たす。

翌8年(1996)は、主力選手の卒業で上位入賞は難しいと思われたが、高校総体で団体2位に入賞し、9年(1997)には、高校総体で、田井美幸・舛田恵組がダブルスで優勝するなど、伝統が作り上げられつつある感がする。

一方男子では、金沢ジュニアクラブから金市工に入学した舛田圭太が、1年時からレギュラーとなり、2年時の高校総体でシングルスに優勝、その余勢を駆ってオールジャパンでは並み居る大学・社会人選手を破って、高校2年では初の2位となった。3年時も高校総体シングルスで優勝、国体でも念願の団体優勝(舛田圭太・車浩明・酒井忠相)を果たした。

高校勢の活躍により、平成7年(1995)～9年(1997)の国体での獲得点は、本県競技団体中最高点を挙げ続けている。ジュニア層と高校勢の若い世代の活躍が目立つ現在を、第3期黄金時代と呼べるだろう。

おわりに

中島名誉理事長をはじめ、草創期から協会を支えてきた人々の力で、選手が競技に集中できる環境は整い、県協会の地位も確固たるものとなった。もはや何びともバドミントンを侮ることはできないであろう。一方、愛好者達がバドミントンを楽しめる環境も、十分に整備されたといえるように思う。

協会創立5年後の昭和28年(1953)から平成4年(1992)まで、40年間に亘り理事長を務め

てきた中島寿禧は、まさに協会の歩みそのものである。

現会長・岡田尚壮は、７代目会長として、昭和63年（1988）からその任にある。

現理事長・河原山晴夫は、中島の後を引き継いだ。

金市工を率いて、高校総体で５回、国体で１回全国制覇を達成した河原山は、平成９年４月に、日本バドミントン協会・強化本部長に就任した。その手腕に衆目の集まるところである。

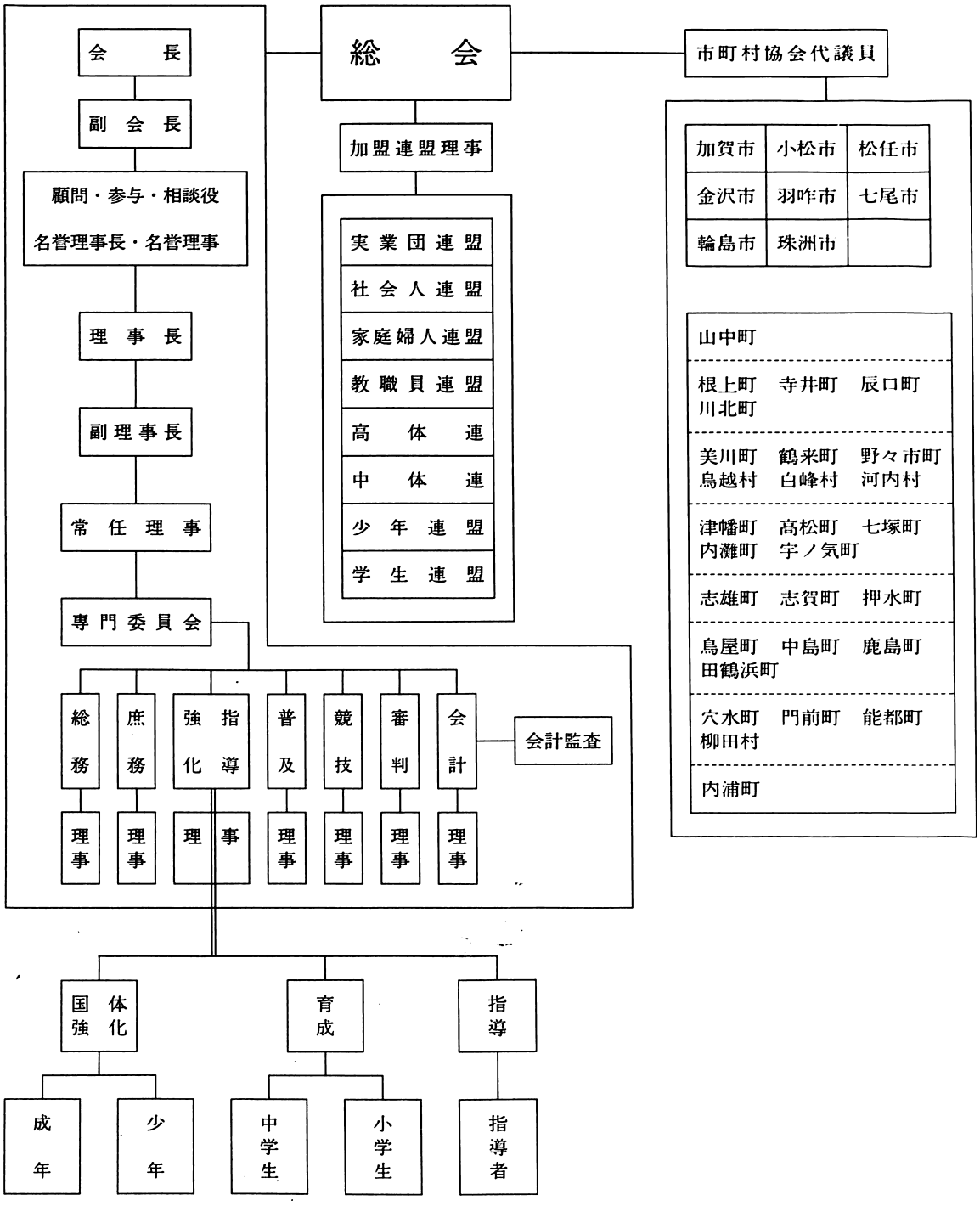
「バドミントン王国石川」と呼ばれることがある。しかし、現理事長・河原山晴夫は、「その言葉にふさわしい時代は、50年の歴史の中で10年おきに３回だ」という。

50年の歴史を刻んで、名実ともに、石川県バドミントン協会はこの地にしっかりとした根を下ろしたのである。今、新たな歴史が始まるが、先人たちの育てたこの木に花を咲かせ続けるために、また、新たな節目に際し、新たな事績を綴るために、後に続く者の責は重大である。先人から託されたものの重さを感じずにはいられない。

協会隆盛のために尽力された先輩達の事績を記念し、その恩に感謝するとともに、さらなる発展のために微力を尽くす誓いを申し述べ、協会50年の沿革の筆を置くこととする。

（この文は、河原山晴夫氏の他誌掲載原稿を元に、中島寿禧氏の手記を参考として、棒田昌生が執筆したものである）

石川県バドミントン協会組織図



第２章

協会加盟連盟のあゆみ

石川県実業団バドミントン連盟



会長　大門重樹

連盟の創成期

石川県実業団バドミントン連盟（以下『実連』）の正式な発足は、昭和45年に規約が制定され、会長に大友佐泰(石川プレート工業)、理事長に中田吉昭（倉庫精練）が就任したことに始まる。

発足に加わった事業所には、原明弘のいる小松製作所粟津工場や、安江勉が入社した津田駒工業などがあったが、当時は事業所の数も少なく、連盟がよちよち歩きをはじめた創成期といえる。

それ以前の実業団の動きとしては、昭和36年に全日本実業団バドミントン連盟（以下『日実連』）が発足し、それに呼応するように石川県バドミントン協会（以下『協会』）も動いた。翌昭和37年に倉庫精練が全日本実業団バドミントン選手権大会（以下『全実大会』）に参加するために、石川県も日実連に加盟をした。このころは、社会人との区分もグローバルで、協会内部で十分対応が可能であったことと思われる。その年の全実大会に藤花高校教員の北方匡が参加するなど、かなりオープンであったことからもうかがい知ることができる。

さらにさかのぼること昭和31年に、お隣高岡市で全実大会が開催され、石川県から初めて北國銀行、小松織物組合、金沢大学附属病院が参加した。

金沢大学の参加者には、なつかしい故人松田龍一、石川元一の名も見られる。

また、県内でも記録からみると、昭和30年前後に越田杯争奪石川県勤労者大会、昭和35年前後には、金沢市実業団大会などがあったり、石川県総合選手権大会の中に実業団の部（昭和40年前後）があったりして、企業として参加する道が開けていたことがうかがえる。

こういった大会の参加事業所には、前述のチームの他に石川繊維、小坂ガラス、澁谷工業、大和百貨店、赤座繊維、日本硬質陶器(現ニッコー)、金沢市役所などがあり、いずれも実業団の老舗といえる。

初代理事長の中田は、こう述懐する。

「昭和39年の東京オリンピック以来高度経済成長が続く中、車社会が労働者の余暇の創出や行動圏を広げたことと、労働組合が企業内スポーツを振興したことが、県内でくすぶっていた実業団チームを全国大会に押し出していく背景となった。倉庫精練の参加以後、小松製作所、津田駒工業などが参加し、連盟設立の原動力となったと思っている」。

連盟設立の昭和45年には、実業団選手権大会（個人戦）や、寺井町が中心となった寺井大会も誕生し、県内の大会が充実していくこととなった。

昭和47年には、北信越実業団選手権大会がはじまったが、富山県の中山邦夫（高岡市役所）などと協力した実連の努力の産物である。


二代目会長就任時の谷口一夫

この年度の終わり頃から、連盟のメンバーに金沢市役所の泉光男、太田博之、石川県庁の南孝らが加わり、少しずつ実連も充実していった。

昭和50年には、第４回の北信越大会を石川県体育館で開催し、組織力・競技力を少しずつ高めていくこととなった。以後５年ごとに北信越大会は、金沢市で開催されている。

しかしなんといっても、大きな転機には、実業団リーグの創設と『全実大会』の地元開催を挙げなければならない。

その間、連盟といっても、企業代表というより、好きものの集まりと言っていいほどで、組織的には非常に弱いものだった。

そのような中、昭和51年に二代目会長に就いたのが谷口一夫である。当時県議会議員に初当選したばかりの谷口にとって、票固めになると思ったことからなのか、独特の開放的、熱血的な性格からなのか、谷口は実連の地位向上に並々ならぬ熱意を持ち続けた。

そのことがかえって、協会との確執を生み、事あるごとに実連が、中島理事長からの槍玉に挙がることとなった。

「長年に亘る谷口前会長との様々のやり取りは、間に入った私を大いに悩ませた。とりわけ人絡みの確執、選挙支援等、思い通りにならないとよく叱責された。割り切ってしまうまでは、傷つきもしたものでした。しかし、リーグの運営、『全実大会』の金沢主催には欠かせない存在であったと思います」と、前理事長安江は思い出を語る。

実業団リーグ創設

昭和55年度の協会総会で、一流選手の企業への受け入れ先を作るためにも、実業団リーグの開設の強い要請がなされた。その年は、北信越実業団選手権の地元開催もあって見送ったが、翌昭和56年にリーグは開設された。

その間、昭和54年、55年には県民サークル大会と銘打って、事業所対抗とクラブチーム対抗との団体戦のみの大会を行い、企業チームの発掘に努めた。

この大会は、参加チームが非常に多く、試合は深夜にまで及び、運営は非常に苦労を強いられたものであった。結果的には、実業団選手の参加につながらず、その意味では労多く実は少なかったが、バドミントン愛好者の底辺の広さには、頼もしさを感じたものである。

この大会は、リーグ開設に伴い、わずか２回で消滅したが、大会の意図はゴーセン杯やヤマハ杯に引き継がれることとなった。

昭和54年の協会の拡大理事会で中島理事長からは、２部リーグだけでも早くスタートさせて、会社組織を中心に実連は活動するよう要請があったのも事実である。

一方で、理事長の中田は、あくまで実連が一般社会人も含めた協会の礎であるとの考え方を持っていたため、会社ぐるみのものだけを相手にすれば良いという考え方とは一線を画していた。

この辺りの思い入れの違いのため、少し遠回りをしたが、ともかく、いろいろな期待と不安の中で実業団リーグを作ろうと、愛知県、三重県等の実業団リーグの要項を取り寄せるなど暗中模索のまま、リーグはスタートをした。

初代の事務局は太田が務め、その後、林芳広（金沢市役所）、浜谷安裕（ＮＴＴ北陸）と引き継がれている。

この職務は一番大変で苦労は多いが、実連の礎である。今後携わる人は、この意識をもって、任に当たってほしいものである。

当初の参加チームは、男子のみの15事業所、19チームでスタートしたが、ほとんどは現在も活躍中である。残念にも活動を停止しているのは、収納アパレル七尾、専売金沢、石川プレート、日成ビルド、国鉄金沢である。

また、準備不足でスタートしてしまったため、プログラムには競技役員のみ掲載し、大会役員を漏らしてしまったり、金沢市中央体育館（現中央小学校体育館）での開会式後、スムーズな試合開始に入れなかったことなどトラブルも多くあった。

翌昭和57年には、諸々の反省を含め、女子の部も創設し、男子は４部制となり、18事業所28チームと充実した。女子チームには、菅井由美子を含めた菅井法律事務所、岡部憲昌率いる北國銀行、県立中央病院の看護婦で構成する石川県庁、澁谷工業、専売金沢、津田駒の６チームの参加があった。

男子にも、伸晃化学の初参加を得た。昭和58年から平成３年まで加盟していたユーザック（後にＰＦＵ）も、男女共有望な選手がいて、忘れられないチームである。

実業団リーグの初動期に忘れてはならないのが、ゴーセン北陸営業所初代所長の村谷信男である。リーグのレプリカのほとんどはゴーセン提供であり、選手として役員として活躍するなど、物心両面でリーグを支えてくれた。今その流れは、二代目酒井直人所長に引き継がれている。

昭和60年に中田は、リーグが定着したこともあって、後進に道を譲ることとなった。こうして、二代目理事長に安江が就いた。

また、中田に代わり倉庫精練から東茂樹が積極的に実連にかかわりを持つことになった。昭和62年より副理事長となり、社会人連盟理事長に就任するまで実連を支えていくことになる。

安江は、中田前理事長から、当時主管していた石川県団体総合選手権など、大会開催地の分散化をこだわりをもって継承したばかりでなく、新しいことにも積極的に取り組んだ。

まず、就任早々、実業団リーグと福井リーグとの交歓会をはじめとして、普及強化に取り組んだ。この交歓会は現在も継続している。さらに、この年のリーグオープンには、石川県ではおなじみである、元日本チャンピオンの銭谷欽治を松任若宮体育館に招き、模範試合と講習会を行った。

そして、安江の「中央を見た前向き」にという考え方が、全実大会、日本リーグの誘致へとつながっていくのである。

確かに、実業団リーグは各企業から構成するという意味で実連を確固たる組織にした。この組織があったからこそ、全国大会を開催する原動力につながったものと思われる。

リーグ創設が組織を形成したとするなら、全実大会の地元開催は組織を確立したと言って良い。

折しも、平成３年（昭和66年）に石川国体の開催が決定していたが、リハーサル大会としての開催には、協会も日実連も協力できないということで、影響のない昭和63年開催で誘致することとなった。

全日本実業団バドミントン選手権大会

その年は、東京都での開催予定であったが快く譲っていただいた。何分にも、この大会は総勢約1,800人のマンモス大会といわれるもので、経験のない石川県でうまくやれるのかは率直な疑問であった。

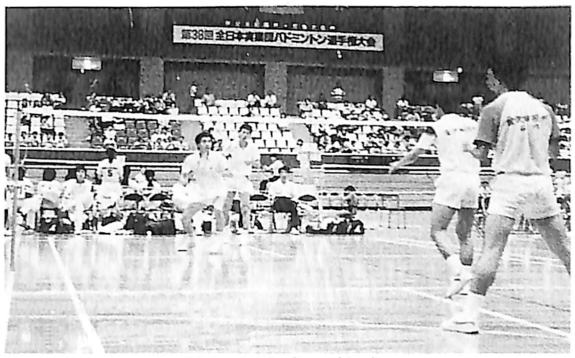
全日実連役員の野村嘉明（京都）、油井秀男（名古屋）、京屋孝治（神奈川）、並木萬次郎（東京）らの助言・資料で手さぐりで準備を進めた。

安江、東、太田が誘致活動等の中心になっていったが、林、浜谷、岡部など実連の役員と、ＮＴＴ、金沢市役所、北陸電力、北陸郵政など事業所のバックアップのお陰で、大会は成功裡に終わった。家庭婦人連盟の動員等、協会のお世話にもなった。

輪島の御陣乗太鼓で始まり、フロアを埋めつくした入場行進、岡田協会長の挨拶、毛利達彦（金沢市役所）の選手宣誓等、開会式は日実連の役員には今も語り継がれるほど立派なものであった。

大会は、６月15日から５日間金沢市総合体育館を中心に３会場で開催された。男子128チーム、女子64チームもの参加があり、男子は西山選手を擁するＮＴＴ東京が、女子は女王・北田選手率いる三洋電機が連覇を成し遂げたが、地元としても北國銀行が初めて男女アベックベスト16に入ったばかりでなく、金沢市役所の毛利のほか、田村稔、太村正信、庄田秀実のメンバーで石川県初めての５位入賞を果たし、この上のない成績となった。

石川県でのバドミントン行事として、今世紀最大規模のこの大会が残したものは、いろいろある。今では当たり前になったことだが、公共施設に物販を始めたこと、テレビ中継、



第38回大会の熱戦



第38回大会シンボル塔

百万石まつり協賛、有料化、手作りによる費用節減等々とである。しかし、何と言っても、ナショナルメンバーの高度なプレーを石川県の愛好者に見せたことの意義は大であったと思う。

そして、企業には全国大会を身近なものに感じさせた。そのことが実連の組織を定着させたのである。

北國銀行の台頭

結果的にではあるかもしれないが、この頃から国体メンバーはほとんど実業団のチームから選ばれている。これは、中田のいう「協会の礎としての実連」が成長した証といえる。

その背景には、岡部ら北國銀行の献身的な中央の学生選手の受け入れがある。羽田義仁に始まり、崎田健一、山本明彦らの加入が次なるステップ・日本リーグ入りに繋がるので



ある。

組織の充実と共に、内外から指摘されてきたのが会長の問題であった。北信越実連からは大会ごとに会長が代わるので、会長の固定化を、日実連からは加盟事業所を代表する会長の選考を要請された。

そこで、県内トップの位置にある北國銀行からということで米谷半平に再三の要請をしたが実現をしなかった。その代わりとして同行内の大門重樹が平成3年より三代目の会長に就任し現在に至っている。

その際に規約も一部改正し、本部を石川県体育協会内から実連総務担当に移し、以来重政誠之（北國銀行）が事務局を預かっている。

北國銀行の日本リーグ加入は、平成2年から平成4年までの3回ではあるが、全実大会は平成3年から今年まで連続してベスト8（5位入賞）を果たしている。

その実績もあって、平成4年には、安江の尽力により金沢市総合体育館で日本リーグの開催が実現した。

11月23日に行われた対戦カードは、北國銀行とトヨタ自動車をはじめ、お隣富山県のトナミ運輸、三協アルミやヨネックスなど男女各2試合の8チームで、協会の要望が全て通って関係者を喜ばせた。

「応援合戦など一種独特な日本リーグの雰囲気は、高岡市役所の河村博之からアドバイスは受けていたが、北國銀行は立派にそれに応えてくれた。会場を埋めつくした3,000人余りの観客にも、驚きと興奮を共有して観てもらったと思う」（安江談）

残念なことに、この年の北國銀行は最下位で、その後日本リーグへ復帰していない。石本明男の加入もあり、2部リーグでは2年連続して優勝したが、入れ替え戦で涙を呑んでいる。平成7年にも、実連が中心になって松任市で日本リーグを催したが、地元チームの出場がない試合は一味欠ける。早く壁を破って欲しいものである。

おわりに

最後に、平成9年より三代目理事長に太田が就任したが、残された課題として、女子チームの増加を含め、参加事業所数を増やすことと、競技レベルの向上がある。

いずれも、理事長一人で解決できる問題ではなく、実連、協会が総力を挙げてもなかなか難しい問題である。企業は日本経済の動向に大きく影響を受ける。ましてや県内にこれといった企業は少ない。そのような状況の中でバド愛好者が参画できない場所や組織が無いよう、努めていく所存である。

就任後、初めての仕事として協会50周年記念誌編集のため、実連の沿革や資料をそろえながら、バド愛好者の歴史を知ることとなった。この歴史は消えることはないし、今後も続くだろう。その火を消さないことを責務と考える。

（文責　太田博之）

石川県社会人バドミントン連盟



会長　要明英二

連盟の誕生

石川県協会は、実業団、教職員、家庭婦人、少年と各連盟を設立してきたが、一般社会人の愛好者が増え、幅広くクラブチームの活動を支援するために社会人連盟を計画・発足した。平成元年６月26日に、当時の中島寿禧理事長、現相談役の奥村明義、菅井由美子、東茂樹、原正人、舛田吉光が集まり準備委員会を開催。社会人連盟の事業として、リーグ大会とヤマハ杯を主管とすることで一致したが、リーグの名称をめぐり、初代執行部と理事長サイドの意見が分かれ、常務理事会預かりとなった。執行部側は、〝社会人リーグ〟を提唱したが７月４日の常務理事会において〝県バドミントン〟の名称でスタートすることに決定した。

設立にあたり会長は、当時の県協会・澁谷弘利副会長の御尽力により、上野英吉・石川トヨペット㈱社長に就任要請し、快諾をいただいた。理事長には普及部より東、事務局長にはバドミントンの普及に燃える舛田、理事には、それぞれの推薦する、原、山口亮、東玲子、宮城静子が内定した。副会長には、舛田の推薦により、宮城徹三郎県中央病院医師に就任していただいた。規約は、大阪、京都、愛知等の各県の社会人連盟の規約を参考にして、７月13日に準備委員会を開き、趣旨に賛同する28団体の代表者にて制定した。平成元年９月14日、創立記念パーティーを、県協会岡田尚壮会長、澁谷副会長、県協会役員と社会人連盟役員及び加盟団体代表者で、ニューグランドホテルにおいて開催し、出発を祝った。

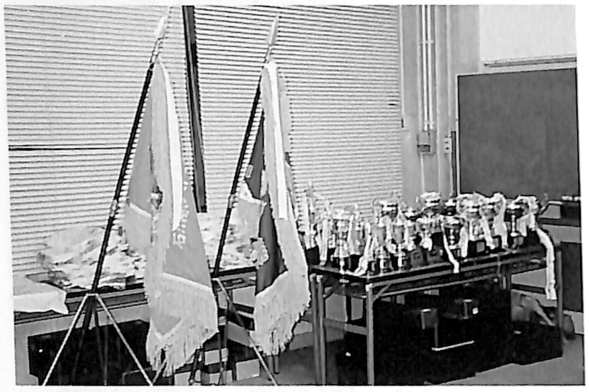


前会長　上野英吉

連盟の変遷

平成元年の〝県バドミントンリーグ〟は、28団体、男子５部31チーム、女子３部15チームの参加を得て、９月28日、石川県体育館でスタートした。得点は21点１ゲームであったが、出場チームより物足りないという指摘があり、平成２年度評議員会において、11点３ゲームで試合を行う旨評議し、決定した。平成２年度は、38団体、男子８部48チーム、女子５部31チームと増加したが、石川県体育館の一会場で開催できた。





平成３年に、紙谷邦蔵バザール社長が副会長に就任した。また、連盟の運営を円滑に執行できるよう常務理事体制を確立し、舛田、原、能崎喜吉３氏を昇格させた。

この年、上野会長に優勝旗を作りたい旨を相談したところ、ご賛同を得、全額出資していただいて、現在の優勝旗が誕生した。その上野氏は、平成７年３月31日に逝去された。３週間前の３月11日に評議員会・夜の懇親会にも元気に出席されており、突然の出来事だった。翌日に、紙谷、宮城副会長と共に弔問に伺い、やすらかなお顔を見て最後のお別れをした事を思い出す。元年から６年間連盟のために数多くのご援助をいただいたことを報告し、冥福をお祈りする。以後、優勝旗は石川トヨペット旗と命名した。

役員では、平成４年度に県協会の役員変更により、河原山晴夫県理事長が相談役に就任。平成５年度に竹内信孝美川町長に顧問を要請し快諾を得る。平成７年度には北山吉明に相談役を要請、氏はスポーツドクターでありバドミントンの愛好者でもある。

名称が〝県バドミントンリーグ〟に戻り、平成３年は49団体、男子11部63チーム、女子７部39チームと増加したため、18面以上の体育館が必要になった。平成４年は56団体、男子13部75チーム、女子56チームと更に増加し、３カ所以上の体育館を使用して試合を消化しなくてはならなくなり、うれしい悲鳴を上げる状況となった。連盟では、13部から新規加盟して、１部までに昇格するのに順調に行って13年もかかる事態を解消するために、平成５年度評議員会において現在のピラミッド方式を採用するよう評議し、決定した。また、男女共１・２部を正規の得点、男女ダブルス・男子シングルス15点３ゲーム、女子シングルス11点３ゲームに変更した。

平成５年度は、57団体男子13部76チーム、女子11部62チーム、平成６年度は、62団体男子14部83チーム、女子12部68チームとなり、体育館を４つ以上確保しなければならない状態になった。執行部では日をずらしての日程を提案したが、評議員会で小さな体育館でもいいから同一日開催を要望されて現在に至っている。平成７年度は、74団体男子16部92チーム、女子13部77チームとなった。この年、11



昇格早め、代謝、促進

県バドリーグが編成見直し

男子13部を6部に

今年、過去最高の138チームが参加する県バドミントンリーグ

北國新聞（平成５年６月13日付朝刊）

月17日に空席となっていた会長に、要明英二・石川トヨペット㈱社長に就任を要請し、県協会の河原山理事長のバックアップもあり、快く就任していただいた。

平成８年は、新会長を迎え、参加チーム数が172チームと更に増加し、リーグは活発化している。平成９年度評議員会において、結成以来事務局と連盟の基礎を築いてきた舛田が勇退する事になり、後任を、北村浩之が引き継ぐ事になった。舛田氏の功績を高く評価し、感謝する意味で、名誉理事に就任していただいた。また、この評議委員会において、平成９年度よりリーグ名称を〝石川県バドミントン社会人リーグ〟に改称することも決定した。平成９年度は、175チームとさらに増加し、コートを34面以上確保しなければならない加入状況になり、執行部側では、うれしい悲鳴を上げている。

連盟のもう一つの柱のダブルス大会も、旧ヤマハ杯から引き継ぎ、平成元年から３年まで継続した。平成４年度からの大会名称変更後も模索はあったが、現在の形に定着しつつある。チャンピオンクラスには出場できないが、階級を細分化し、経験者からビギナーまで、若者から熟年者まで参加できる大会になった。平成８年度からは、合計年齢100歳以上のベストシニアクラスを設け、バドミントンにおける生涯スポーツの原点になれば良いと思っている。現状クラス別は、男女ともスタンダード（年齢不問）、ビギナーA、ビギナーB、ナイスミドル（30歳以上）、ナイスシニア（40歳以上）、ベストシニア（合計年齢100歳以上）である。


バド石川のスクラム強化

県社会人連盟結成へ

実業団除くクラブ集合

石川リーグの開催も

北國新聞（平成元年６月15日付朝刊）

平成９年度役員

◇会長　要明英二　◇副会長　宮城徹三郎、紙谷邦蔵　◇顧問　岡田尚壮、野本昇、竹内信孝　◇参与　川原重、東正真　◇常任相談役　澁谷弘利、中島寿禧　◇相談役　河原山晴夫、奥村明義、菅井由美子、北山吉明　◇名誉理事　舛田吉光　◇理事長　東茂樹　◇副理事長　原正人　◇常務理事　能崎喜吉、幸田正吉、瀬戸正昭、大井川久、北村浩之　◇理事　中谷哲二、松田新二郎、藤田哲、安川直人、山本幸裕、寺岡貞一、桶谷千鶴子、寺尾美和子、宮城静子、新屋與市、東真佐人、喜多洋　◇監事　山口亮、武田恵子

今後の展望

社会人連盟は、バドミントンの発展と向上を目的としているが、会員の親睦も図りながら発展していくものと思っている。全国でも、数多くの社会人のクラブチームが活躍をしているように聞いている。先頃も、近畿社会人連盟より、近畿社会人クラブチーム選手権大会に石川県も出ないかとお誘いを受けた。他の大会と時期も重なり、また突然だったのでお断りした。しかし、いずれは全国クラブチーム大会も開催されるようになるであろう。そのためにも、当連盟も10周年を目処に、土台を固めなければならないと思っている。当連盟の登録状況が反映して、全国大会の出場選

手割り当ても増加している。会員のシニア大会の機会もあるので、連盟からの援助もささやかではあるが、継続したいと考えている。

当連盟は、平成元年に400名であった大会が、平成9年度では1,650名と登録会員が増加し、体育館の確保も厳しくなっている。この状況下で毎年リーグ戦を開催していただいている美川町バドミントン協会には感謝の言葉もない。これまで開催していただいた七尾、鹿島の各協会のご協力にも感謝する。今後も、体育館の確保のため、県内各市町村バドミントン協会の皆様のご協力をお願いすると共に、ふるってリーグ戦に参加いただきたいと思っている。

（文責　東　茂樹）

石川県家庭婦人バドミントン連盟



会長　岡根良子

石川県バドミントン協会、創立50周年を迎えられましたことを、心よりお祝い申し上げます。

50年の長い歴史の中で、県協会中島理事長の「ヒヨッコ選手集まれ」の呼びかけのもと、昭和51年10月24日、澁谷弘利会長、中文彦副会長、窪田香代理事長を中心に、石川県家庭婦人バドミントン連盟が結成された。また同時期に、第１回家庭婦人バドミントン競技大会が、県協会および、北國新聞社主催で、開催された。

第１回大会は、ダイヤモンドクラス（初級)、エメラルドクラス(中級)、ゴールドクラス（上級）の３クラスに分かれて行われ、４人一組で、15クラブより、28チーム（112名）の参加があった。３クラスとも白熱した試合で盛り上がり、大会は大成功をおさめた。

翌年の第２回大会は、接戦で勝敗が決まらないため、ダイヤモンドクラスは、みかん箱にどれだけシャトルを入れることができるか、それで優勝戦の勝敗を決めようと提案された。選手の人達は状況も把握できず、言われる通り、相手コートのショートサーブの位置にある、みかん箱をねらう。たくさん羽根を入れれば勝ちということで、がんばるのだが、羽根はことごとく、箱の上を飛び越えてしまう。多くの役員の方や他の選手の見ている前で、皆舞い上がってしまい、誰一人として、みかん箱にシャトルを、入れることができなかった。やり直したが、やはりだめだった。結局箱に羽根をあてた、湊婦人体力作り教室が優勝し、野々市レディスが惜敗の２位となった。みかん箱にどれだけシャトルを入れることができるか、という前代未聞の優勝戦だった。

その頃、東京では、選手経験者大会と並んで、大人になってバドミントンを始めた人達の大会が、開催されていた。未経験者の人達には活気があるので、そのような人達でも参加できるよう、昭和53年、第５回日本家庭婦人バドミントン競技大会が、金沢で開催された。また６人一チームで、団体戦の試合を行うようになったのも、この大会以後のことである。

連盟を支える躍動する家庭婦人クラブ勢

全国大会の報道並びにクラブの生い立ち等、新日本スポーツ紙に、掲載された様子を、紹介する。

発足以来日も浅いが、第５回全国家庭婦人バドミントン大会を、金沢で開催し、全国の仲間達とのふれあいもでき、明日の発展に大きな自信を得、将来の飛躍が期待され、関係者の多くが有意義であったと認めるところであるが、この連盟を支える加入クラブチームを紹介すると、活発なほどがうかがえる。

〔藤花クラブ〕

何年ぶりかで、健康のため持とうということで、クラブを結成、いざやってみると体が思う様に動かず、あくる日は、体のあちこちに痛みを感じながらも、学生時代のバドミントンの頃が、なつかしく思い出される。ママさんグループともなるとつい家庭のことを忘れて、力が入り、調子が出ているときに、こどもが「ママオシッコ」とさけぶたびに、プレーは中止される。でも子供も、ママに声援をおくり「ママガンバレー」「ガンバッテ」となごやかな雰囲気である。練習後は、パパさん、子供たちの話でもちきりである。第1回家庭婦人バドミントン大会では、見事優勝をかざり、ますます張り切っている。汗をかいた後は、さっぱりとさわやかで、楽しくいつまでも若く、そして健康であることを願って、毎週の練習がとても楽しみである。

（代表者　菅井由美子）

〔芳斉バドミントン同好会〕

発足以来2年余りで、きわめて小規模なものの、3年前に、隣接している小学校で対抗バドミントン大会を行ったのがきっかけで、愛好者が集まってできた。練習は旧芳斎町小学校の講堂を借りて、火曜日と金曜日の週2回、夜7時から9時まで行っている。初めの頃は5人の会員だったが、今では男女合わせると、20名位になる。清く、正しく、美しく、をモットーに、明日をめざして練習に励んでいる。

（代表者　澁谷寿枝）

〔瓢友クラブ〕

瓢友クラブの第一の特長は、専用の体育館があることである。医院の3階にある体育館は、コート一面ではあるが、クラブ専用なので、準備も後片付けもいらず、使用時間の制限もないので、深夜でも使用できる利点がある。クラブ員は30名ばかりで、11歳から55歳まで、年齢、職業とも、いろいろな人が集まっている。練習は週二回、夜8時から、11時頃まで、初心者も国体クラスも共に、ダブルスを組んで、ゲームをしている。一年程前から、家庭婦人の部が独立して、週一回、午後2時間の練習が行なわれる様になった。クラブには、とってもよく世話をして下さるマネージャーがおり、年二回クラブ内全員が参加しての大会をはじめ、新春家庭婦人大会、納涼ビールパーティ、忘年会等、たくさんの行事があり、クラブ員の楽しみとなっている。

（代表者　石丸恭子）

〔長土塀公民館〕

長土塀公民館クラブは、連盟の加盟クラブの中では古い方だと思う。足かけ4年前に、小学校育友会のスポーツサークルとして誕生した。最初のうちは、練習といっても10名ばかりしか集まらず、隣接校との交歓会のメンバーを揃えるのにも苦労したものであるが、次第に仲間がふえて、今では毎回30余名の参加がある。練習は週2回、夜7時から9時まで、小学校の体育館で行っている。長く続いているだけに、団結力の強さは抜群である。育友会の行事でも新年会でも、話が出ればすぐまとまって素早く行動する。なかにはバドミントンも楽

しいけど、終わってからの一杯が何ともこたえられないという人もいる。強力な技術指導者がいないのが悩みといえば悩みであるが、これから長くバドミントンを楽しんでいきたいと思う。　（代表者　武田恵子）

〔野々市レディスバドミントンクラブ〕

野々市町在住の家庭婦人は、皆それぞれであるが、週一度の集いを楽しみに、練習中は明るくなごやかな雰囲気で、笑いが絶えず、シワのふえるのが気になるという人も居る。52年１月に、バドミントン教室としてスタートして以来、会員もめきめきと腕を上げ、会員数も20余名と安定したクラブとなった。初めてラケットをにぎって３カ月目の第一回家庭婦人親睦会を皮切りに、第二回にも続けて出場した。何らかの形で入賞したため、意気も上がり練習にもさらに身が入るようになった。また年、数回の懇親会（反省会）をもって、会員の和をはかっている。　（代表者　船木珠洲子）

〔湊婦人体力作り教室〕

美川町教育委員会の呼びかけで、総合的な体力作り教室として、バレー、バスケット、ソフトボール、マットレス、バスケット、跳び箱など『「何でもやってみよう」教室』も湊小体育館で５年目をむかえ、延べ人数200名を超えるまでになった。水曜日の夜２時間魅力あふれる松田先生のもとで、バッチリ、汗をかき、今ではバドミントンを中心とする教室になった。気候の良いときに、親睦を大切にして、参加に意義を感じる人達の集いだったが、今では、真冬でも休む事なく、年齢や、フォームにとらわれず、気力で乗り切り、団結心のカタマリの様な人達は、よく笑い、よく食するので、肉体美の持ち主が多い。体協や、バドミントン町協会の後押しがあり、その点心強く幸運な教室である。ダイヤモンド、春の個人戦、秋の団体戦で優勝の経験がある。
（代表者　岡根良子）

新聞に掲載された記事から、各クラブの、やる気や、情熱が伝わってくる。

昭和56年連盟は、公正化を図るために出場した各選手の成績を10段階に分け、出場しなかった選手のランクをクラブ長の目で見て、10段階にあてはめて提出していただき、それを基にランク分けをし、誰が見ても、納得できる様にした。すなわち成績優秀者は上のランクへ、１勝の人はそのままのランクへ、無勝の人は下のランクへ移るという、実力本位の体制に変更した。

58年秋の団体戦では、50％増の参加があり、役員一同うれしい悲鳴をあげた。

同時期には、日本バドミントン協会公認の全日本家庭婦人バドミントン連盟が正式に発足し、各県年齢別と並んで、クラブ対抗団体戦、経験者の大会と未経験者の大会が、同時開催されることになった。そのためクラブ対抗戦では、北信越より２チームの出場権があり、北信越予選会も他県の連盟がそろうまでの５年間、石川県でお世話をし、現在は順次持ち回り体制となった。

昭和61年には、連盟創立10周年をむかえ連盟旗もつくられた。またそのときの優秀クラブとして美川クラブがえらばれた。

平成２年８月、第８回全日本家庭婦人バド

第8回 全日本家庭婦人バドミントン競技大会会場

都道府県対抗／クラブ対抗

期日　平成二年七月二十八日(土)～二十九日(日)



年齢別対抗に出場した石川県選手団



歓迎レセプション

ミントン年齢別、並びにクラブ対抗戦大会を金沢で開催した時、連盟一丸となって乗り切り、バドミントンの技術だけでなく、全国での選手の輪も大きく、ひろがってきた。

女性パワー全開

平成８年３月、北信越各家庭婦人連盟が主管する大会は女性だけで運営している情勢を受けて、石川県でも澁谷会長の計らいで、女性が運営する体制に移行し、今までご協力いただいた役員の皆様方には、顧問や名誉理事になっていただいた。

これまで婦人連盟は、その基本方針として「バドミントンを通じて自己実現」を念頭に置いてきた。この方針は今後も変わることがないと思う。

年齢別、クラブ対抗別に大会が二極化したのも自然のなりゆきと思う。しかしながら、これらの組織化がなされた背景として、石川県バドミントン協会の存在を忘れることはできない。協会の助力なしでは現在のような、バドミントンが普及している状況は望めなかったようだ。さらにバドミントンが普及し、女性が社会生活の中で活きるようになるためにも、石川県バドミントン協会の協力は必要不可欠である。

バドミントンを通したよりよい自己実現、よりよい社会実現のためにも、石川県バドミントン協会の今後ますますの発展をお祈り申し上げます。

（文責　岡根良子）

石川県少年バドミントン連盟



会長　北山吉明

昭和54年『蒔くこと少なければ、収むること少なし』と、中島寿禧県理事長（当時）の発案で理事会の了解を得て、普及部の泉光男、太田博之、菅井由美子各氏と数度の会議を重ね、婦人連盟の協力を得、少年連盟の母体となった小学３年生～中学２年生までの男女92ペア参加のダブルス大会第１回バドッ子競技会を開催（現ジュニア競技会）する。

昭和58年に第１回小学生バドミントン交歓会〔団体戦・個人戦（参加チームより２名出場）〕を開催、その席上石川県少年連盟設立の趣旨（基本的な方針）について協議、昭和59年２月26日、初代会長に松島桃喜男（故人）、副会長に中谷欣二、山田勝二、新保岩夫の各氏を選出する。

昭和60年に、小学生交歓会より個人戦を分離し、能登地区を栂野尾杯（旧竹中悦子）、河北・金沢地区を松下杯（旧沢田力）、加賀地区を銭谷杯（欽治）と全日本チャンピオンになられた３氏の冠杯大会とし、カップ、トロフィを寄贈していただき、小学生選手に夢と希望を与えるシングルスのみの地区大会とした。平成９年には児童数減少の中にありながら、河北・金沢地区の参加人数が500人を超えたために、羽咋・河北地区を宮森杯（正吉）として分離し、４ブロック制とした。上述各地区大会のベスト８以上の選手32名が、５年、６年、中学１年の各男女に分かれ総勢192名の選手により北國杯争奪少年バドミントン選抜大会として、北國新聞社と共催で毎年鹿島町で開催している。

小学生バドミントン交歓会は、６年生の部、５年生以下の部の団体戦のみの大会となり、優勝、準優勝チームが北陸三県大会の出場権を得ることができる。

北陸三県小学生児童の交流と友情を高める大会とすることで、福井県、富山県理事長の了解を得、平成２年３月４日第１回北陸三県小学生バドミントン交歓会を美川町町民体育館にて実施した。後に北陸三県持ち回り大会となる。

昭和63年８月24・25日、香港・日本親善ジュニアバドミントン鹿島大会を開催。香港チーム16名、石川県選抜チーム26名が参加して、ダブルス４、シングルス５ゲームの交流大会を行う。年齢と学年の違いこそあれ、香港チーム選手のフットワーク、ラケットさばきは洗練されていたようだった。翌年、鹿島選抜チームが香港を訪問して再会をはたし、両国の交流、ホームステイ等で国際親善の友好の輪を広げた。

平成７年12月24・25日の両日開催された全国統一大会は、東日本・西日本に分離開催されていた団体戦、個人戦の大会から個人戦のみを発展的に分離したものであった。こうして全国10ブロック代表、開催県、次期開催県







の選手550名が参加した第４回全国小学生バドミントン選手権大会は、谷口明会長（故人）はじめ、新保岩夫、鶴見富男、佃一成副会長の物心両面の援助、常任理事及び33加盟団体理事一人一役の合言葉で、大会の運営にあたり、５年生男子ダブルスで新田峰・山瑞康裕（下甘田）組が堂々３位に入賞し、大会は大成功の内に幕をとじた。

平成８年には発足当時からの理事長、副理事長の奥村明義、古沢清二から松田新二郎が理事長に就任し、総務部武田恵子、指導部舛田吉光、競技部徳井隆志三副理事長体制で連盟は新しく生まれ変わり、県下33加盟チーム総勢803名の小学生バドミントン愛好者の夢と希望を実現できるように努力し、今後多くのジュニアの育成と世界に通用する選手づくりを目指した。

平成９年には前会長、現会長の両氏の相ついでの急逝で連盟に暗いムードが漂ったが、それを払拭するかのように全国小学生バドミントン大会の５年男子シングルスで山口俊（下甘田ジュニア）が３位に入賞し、平成８年度スタートした第１回都道府県別バドミントン大会（平成９年２月実施）に大井川久監督、近藤朝範コーチの下、村上亮、山下幸司、宮川郁也、高塚大輔の男子チームが３位入賞、平成９年度（平成10年２月実施）にも同監督、コーチの下、宮村順也、山田一哉、羽野亮平、山口俊、熊田有希の男子チームが準優勝し明るい話題を提供してくれた。競技面での活躍もさることながら、児童の減少している中、34加盟チームと１チーム増へ、総勢814名の加盟人数となった。

平成10年に３代目会長北山吉明が就任し職業であるスポーツドクターとして今後の連盟の多くの子供達のよき相談相手として実務していただく会長として期待している。

県協会50年の歩みの中で、当連盟はまだ十数年しか歴史のない連盟である。しかし将来に多くの可能性を持った子供達をあずかる一番重要な役割をになっているのではないかと考える。

当連盟の主役は子供達である。子供達がよりよい環境で世界を目指し、スポーツを通じて物事に素直に感動できるように、県下1,000名の小学生達がバドミントン愛好者になれるように努力するつもりである。

（文責　松田新二郎）

石川県中学校体育連盟バドミントン競技部



部長　水口　武

創成期（昭和26年～46年）

中学校のバドミントン県体は、昭和26年より男子大会、昭和27年より女子大会が行われ、今日に至っている。

当初から、河北郡の女子の優勝が非常に多かった。特に、種中学校は昭和38年４月に津幡中学校に統合されたが、生徒数100名程の規模でよい成績を残している。

この時期の優勝校チームの選手の中で、その後活躍する顕著な人をあげてみると

原　　栄一：32年東部中学校で優勝

竹中悦子：39年高松中学校で優勝

があり、その他

村田和雄：29年金津中学校で優勝

山崎紀久子：30年種中学校で優勝

堂谷内均：東部中学校

などの名選手を出している。

また、参加校は昭和37年～39年（12～14回）は男子13校、14校と多いが、21回大会は９校に減っている。女子の方は逆に14校から17校に増加した。

さらに昭和45年より北陸三県大会。46年より個人戦、同年から全中大会が加わった。

発展期（昭和47～56年）

この時期、指導者、関係者の努力が徐々に成果を実らせた。

ここ数年の県大会団体戦、個人戦の成績を見ると、河北郡、特に高松中学校の優勝が目立っている。昭和47年には、北陸三県大会では２位だったものの、全国大会でも準優勝を成し遂げている。

この内、酒井、西川、牧野、岡田は金沢市立工業へ進み、国体の旗手をつとめた宮森庄吉（津幡中学校出身）らと共に、インターハイ団体優勝の原動力となり黄金時代を迎える。

また、その後活躍する著名な選手として、

石田（伊東）ひとみ：城南中学校より47年県体出場。学生チャンピオン、全日本教職員チャンピオンとして活躍した。

毛利達彦：48年野田中学校より県体出場。学生チャンピオン、社会人チャンピオンとして活躍した。



第２回全国中学校バドミントン選手権大会団体戦で準優勝した高松中学校。前列右より岡田常雄、山下教明、酒井直人、西川慎一、大門利昭、牧野裕、後列右より森川徹監督、竹中悦子、１人おいて高田一朗（昭和47年）

長谷聖華：54年高松中学校で団体優勝、北陸三県大会でも団体・個人ダブルス（竹田組）優勝。その後、二水高校で中学時代常に決勝戦で戦った宇ノ気中学校の杉本雅恵と共に活躍した。

また、この時期の特徴として、県大会も31回を数え、規模の拡大、選手のレベルアップがあり、実力の接近で大変盛り上がる試合内容となった。

技術的にも、中学生でハイバックストローク、リバーススピンサーブが見られた。

さらに、ラケットがウッドからスチール製に、シャトルがナイロン製に変わったのもこの時期である。

充実期（昭和57年～平成８年）

この時期は、まさに先輩達が築いた土台をもとに花開くのであるが、選手・指導者にとって、目標が高いほど苦難の時期であったとも言える。

まず、この時期の顕著な選手として

気谷篤人：昭和57年県体シングルス優勝。河北台中学校出身。北信越３位、実業団で活躍中。

小池田基：昭和59年県体シングルス優勝。宇ノ気中学校出身。北信越１位、実業団で活躍中。

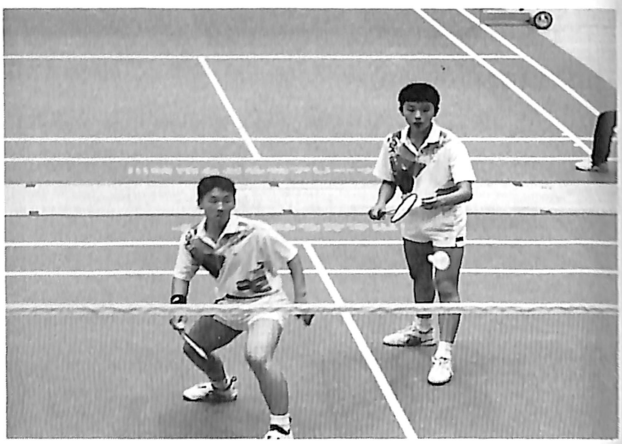
石本明男：昭和63年県体ダブルス優勝。美川中学校出身。北信越１位、実業団で活躍中。

寺尾隆司：平成元年県体シングルス優勝。犀生中学校出身。高校北信越１位、実業団で活躍中。

徳坂　渉：平成４年県体シングルス優勝。医王山中学校出身。北信越１位、全中３位。



全国中学校選抜バドミントン大会でシングルス３位となった犀生中学校の舛田圭太


田鶴浜中学校の広瀬・山下組

舛田圭太：平成５年県体シングルス優勝。犀生中学校出身。北信越１位、全中３位。平成７年全日本総合選手権２位。

岩脇　史：平成６年県体シングルス優勝。西南部中学校出身。北信越１位、全中２位。

大畠隆史：平成７年県体ダブルス優勝。

山下　淳：田鶴浜中学校出身。北信越１位。全中１位。

広瀬雅士：平成８年県体ダブルス優勝。

長尾昌典：田鶴浜中学校出身。北信越１位。全中１位。

まだ他にもたくさんの選手を挙げたいが、紙面の都合で割愛する。

次に、団体戦では昭和57年～62年まで男女



第16回全国中学校バドミントン選手権大会で優勝した河北台中学校。前列右より越野史郎、坂野靖、紺谷幸一、中村勲、後列右より森川徹監督、武田淳一校長、綾瀬寛隆、花芳秀、北井淳、杉浦康弘、高田一朗コーチ（昭和61年）



第17回全国中学校バドミントン選手権大会で優勝した高松中学校。前列右より柴田外次郎、竹中新弥、西孝広、後列右より草野孝司、金津勲、森喜朗、大多晴久（昭和62年）

とも河北勢が県体優勝を独占する。

そして、昭和61年河北台中学校が遂に念願の全国制覇を成し遂げる。

さらに、昭和62年高松中学校男子が全国優勝し２年連続で石川県が覇権を握るという快挙をなした。

次に、女子の活躍についてみると、昭和63年～平成９年までの10年間で、美川中学校が７回県体で優勝している。指導者として、水内浩監督が医王山中から赴任して、熱心に指導し、強化策が実った成果である。

しかし、着任当初は苦労もあった。61年の石川県体育大会団体の部では、河北台中学校に１回戦で当たり、３試合ともラブゲーム６セットで、66対０で完敗という屈辱を味わっている。

近年の活躍としては、平成８年の田鶴浜中学校の全国優勝をあげることができる。この優勝は、前年度、酒井、大畠、山下を擁して優勝を逃しただけに観田健治監督にとって、まさに悲願の優勝であった。

７年の観田の感想の中に「この子達は、監督やコーチが考えている以上にすごいちからをもっているかも……」

また、優勝した８年には、「昨年の全国大会が終わってから、『次は優勝……』と言われ続け、多くのプレッシャーに圧せられながらの一年であった」と振り返りながらも「子ども達が最後まであきらめず頑張ってくれた」と熱い思いを語っている。

また、平成８年の全中では、団体男子決勝が石川県同士であった。惜しくも準優勝になった高松中学校と女子団体３位の美川中学校のメンバーを掲載する。さらに、平成９年の全中では、男子団体で鹿島中学校が３位に入賞した。鹿島中の藤田監督は、県内の中学生強化に熱心に取り組み、選手のレベルアップに努めながら、５年目にしてその努力が、報われたといえる。

この章の最後に、近年の中学生の活躍が目立っているが、その要因として、第一に、田鶴浜中の観田監督の言葉を借りるが、「石川県のバドミントン界が、学校単位の小さなセクト主義に陥らずに、学校という枠を越え、常に声をかけ県全体で選手を育成しようと言う



第26回全国中学校バドミントン選手権大会で優勝した田鶴浜中学校。前列右より長尾昌典、谷口航、廣瀬雅幸、寺井健朗、後列右より上野茂監督、観田健治監督、山下淳、柴田寛之、小林紀史（平成８年８月20日～23日、愛知県大府市民体育館）



第26回全国中学校バドミントン選手権大会で女子団体３位となった美川中学校。前列右より梅津知恵、内匠加奈恵、本田喜美、後列右より松田浩幸監督、島野千明、今村優子、中川敦子、西宏子、松田新二郎コーチ（平成８年８月20日～23日、愛知県大府市民体育館）



第26回全国中学校バドミントン選手権大会で準優勝した高松中学校。右より香林直晴監督、畑山馨太、堀田洋平、北大輔、川井大輔、森和裕、金田拓也、沖野慎平、麻生大志郎（平成８年８月20日～23日、愛知県大府市民体育館）



第27回全国中学校バドミントン大会で３位に入賞した鹿島中学校。左より藤田典知監督、加賀裕美、表英徳、中村徳之、京徳昭、車淳史、桜井孝之、横山康博、表知徳（平成９年８月21日～24日、愛媛県新居浜市市民体育館）

雰囲気が浸透しているため」であろう。実際に、県協会強化指導委員会と中体連専門部がタイアップして強化練習会を年間８回、県外遠征を年４回行っている。

第二に、県内のジュニア育成の成果であると思う。小松地区、美川地区、金沢地区、河北地区、鹿島地区、七尾地区でそれぞれ小学生からの育成に当たっておられる指導者の方に深く敬意を表すると共に、労をねぎらい中体連として感謝する次第である。（文責　越野清昭）

石川県高等学校体育連盟バドミントン部



部長　中村英夫

石川県高等学校体育連盟（以下高体連）は、戦後の学制改革に伴い昭和23年に旧中等学校体育連盟を発展継承する形で発足した。

バドミントン部は、昭和24年に七尾・泉丘・菫台・津幡・金城・北陸学院など20校にクラブができたことを契機に、高体連に加盟することとなった。初代専門部長は秋山宗治(菫台校長)、専門委員長は杉森喜三吉(二水)であった。共学制・総合制・小学区制といった新しい教育の試みは、戦後の混乱と荒廃の中で、高体連も様々な問題を孕みながらのスタートであった。バドミントン競技は、戦後に紹介された新興スポーツであり、指導者・用具・練習場所等の確保が極めて困難な競技であった。にもかかわらず、一般社会人や地域のクラブチームなどで、バドミントンに親しむ人が急激に増えたことが高校生の競技人口の増加に拍車をかけた形で普及していった。

高体連は、戦後の各種大会の整理統合や生徒の大会参加に関わる規制等で、混乱状態を徐々に統制のとれた形に整えていくことを発足当時の役割としていた。その中で、県レベルの大会への生徒の参加については、厳しい規制を設け、無秩序に複数の高校の混合チームが大会に参加した場合は出場停止処分を行使する姿勢を示した。歴史上ただ一度だけ、昭和28年に、バドミントン競技に関わる生徒が出場停止処分を受けている。

バドミントンは歴史の極めて浅い競技ながら、熱心に練習する高校生が多く、高体連加盟当初より全国レベルの選手を多く輩出している。全国高等学校バドミントン選手権大会は、昭和25年に神奈川県横浜市で第１回大会が行われ、県代表の高校を決めるための大会が同年より実施されている。その横浜市大会では、男子の金沢泉丘が第３位、女子の津幡が第２位の輝かしい成績を収め、本県高体連バドミントン部の歴史の第１頁を華々しく飾ることとなった。その後、約10年間は男子の活躍がめざましく、昭和27年の香川県善通寺町大会では、金沢二水と金沢泉丘が決勝で対戦する偉業も成し遂げている。金沢二水は、昭和29年の金沢市大会でも全国優勝をしており、金沢二水、金沢泉丘、津幡が石川県はもとより全国のバドミントン競技をリードすることとなった。しかしながら、全国の競技レベルの向上に伴い、昭和34年の男子津幡、女子金城の第４位を最後に全国の壁を超えることが次第に困難になった。

高体連バドミントン部では、昭和42年に金沢市大会が13年ぶりに開催されることとなり、この大会を目標に、競技力の向上を期することとなった。昭和20年代後半から30年代前半にかけて全国上位に入賞した選手達が、指導者となって高体連バドミントン部を支える時代となり、北方匡や河原山晴夫などが、その

後の歴史に残る黄金時代を築き上げることとなった。

昭和42年大会では、男子の金沢市工が全国初優勝し、昭和29年の二水以来、実に13年ぶりに石川県に優勝旗が戻ってきた。更に、個人戦でも高来・流組と山本・松本組が第３位に、金沢の黒田が第２位に入賞するなど、県勢の活躍は華々しいものであった。これは、昭和41年から実に25年間石川県１位を続けることとなる、金沢市工の大活躍の始まりでもあった。

金沢市工は、昭和43年の福山市大会で第２位に、翌昭和44年の桐生市大会では再び全国優勝を果たすこととなり、昭和47年から６年連続で３位以内の入賞を続けるなど、名実ともに、バドミントン王国石川の名をほしいままにした。その間、個人戦でも金沢市工の生徒を中心として、数多くの選手が上位に名前を連ねている（詳細は記録編を参照）が、特筆すべきは、昭和45年の名古屋市大会の個人シングルスで第２位に入賞した銭谷欽治（大聖寺高校）である。銭谷は金沢市工全盛の中で、ひとり気を吐いた選手であり、大学進学後や社会人としての活躍やコーチ・指導者としての活躍の原点がここにある。

一方、女子は全国の壁が厚く、昭和50年の水戸市大会で藤花の第３位が、実に15年ぶりの[illegible]った。個人も昭和33年・34年に金城と北陸学院の選手が入賞して以来、16年間第３位以内の入賞が無く、同じ水戸市大会で石田ひとみ〔藤花・現伊東ひとみ（尾山台教員）〕の入賞が面目躍如といったところであった。この間、昭和41年と42年の２年連続県内で個人優勝した竹中悦子（二水・現栂野尾悦子）の存在は忘れてはならず、高校卒業後の



第26回全国総体優勝した金沢市工（昭和50年、水戸市）

竹中の活躍は全国レベルを遙かに超えるものであった。世界選手権大会での優勝という、日本のバドミントン界において一時代を築いた名選手の輩出も記憶にとどめなければならない。

昭和47年に、それまで関東地区で行われていた強化合宿が、日本バドミントン協会の主催で全国高等学校選抜バドミントン選手権大会としてスタートした。この大会においても当時全盛期の金沢市工がその実力を遺憾なく発揮し、昭和49年の東京都大会に初めて第３位に入賞したことを皮切りに、団体・個人とも上位入賞を繰り返してきた。

昭和20年代を第１期、昭和40年代を第２期とするならば、昭和60年の石川インターハイ開催を目標とした昭和50年代後半からを第３期と呼ぶことができる。昭和52年の、倉敷市大会での第２位を最後に、全国で沈黙状態の金沢市工に七尾工業が挑む形で県内大会が進行したが、昭和57年の枕崎市大会において金沢市工が５年ぶりに第２位に入賞した。この年を再スタートとして金沢市工は団体・個人とも常に上位入賞を続けることとなり、目前



全国総体５回目の優勝を果たした金沢市工（昭和51年、中野市）


全国総体ダブルス決勝戦　山本・気谷組（金沢市工）（昭和60年、高松町）

に迫った、３回目の金沢市大会での活躍に弾みをつけ始めていた。

一方女子は、相変わらず全国の壁が厚く、過去に個人戦で金城・金沢二水の選手が第３位に入賞するものの、団体戦では結果を残すことができずにいた。金沢市大会を目の前にして競技力の向上が急がれる状態にあったが、このころから、金沢向陽が初めて県内を制覇し、全国大会に駒を進め始めていた。昭和60年の大会に向けて、金城と金沢向陽と金沢二水の熾烈な争いが続くことになる。

全国インターハイの前哨戦となった全国選抜金沢市大会が昭和60年に開かれ、男子の金沢市工が堂々の準優勝、個人でも中川・西島組が優勝し、気谷・山本組が第２位に、シングルスで同じ山本が第３位の成果を上げ、女子でも個人シングルスで金城の一木が第３位に入賞した。

過去２回の金沢市大会では、男子が団体優勝を成し遂げているが、昭和60年の大会では、惜しくも金沢市工の第３位が最高成績であった。個人戦では金沢市工の気谷・山本組と中川・西島組がともに第３位、同じく山本がシングルスで第３位に入賞し、開催県としての面目は十分に保つことができた。

昭和60年の金沢市大会を終え、高体連バドミントン部は昭和66年（当時）に、戦後２度目の開催となる「66国体（当時）」が次の大きな目標となった。過去の国体では、昭和25年の愛知国体での第３位入賞に始まり、指導者である教員の部５連覇など、その成績は輝かしいものが見られる。開催県として少年男子・少年女子の上位入賞を目指し、男子では金沢市工と金沢二水が、女子では金沢向陽と金沢二水が強化指定校となり、より一層の競技力向上を進めることとなった。

女子では、金沢向陽が昭和63年に兵庫県宝塚市で開かれた全国インターハイに久々に出場し、ベスト８の成績を残すことになったが、この宝塚市大会をスタートとして以後10年間連続して全国インターハイへ出場することとなる。

各校の指導者も世代が交代し、金沢市工の彼島重範は昭和48年の三重県四日市市大会での全国優勝メンバーであり、金沢向陽の和田修は国体教員の部５連覇のメンバーである。一方、金沢二水の村西一は、昭和32年に金沢泉丘で選手として活躍し、大聖寺高校で銭谷

欽治を育てた指導者として、古豪金沢二水の復活に賭けていた。それぞれの指導者が石川国体に向けて選手の強化に励む中、各校の熾烈な争いは、昭和が平成に変わった年の新人大会において男子の金沢二水が金沢市工の24連覇を阻み、新人大会初優勝というかたちで表面化することになる。

翌平成２年の県総体では、金沢市工が一矢を報いるが、同年の新人大会と翌平成３年の県総体では、金沢二水が金沢市工を圧倒し、昭和31年以来、実に35年ぶりに全国インターハイに出場することとなった。県総体での勢いは全国大会でも続き、なんと昭和30年以来36年ぶりの準優勝を遂げた。昭和20年代から昭和30年代にかけて全国を制していた古豪の復活である。金沢市工は、団体戦には出場できなかったものの、個人シングルスで石本明夫が第３位に入賞し、その実力を全国大会で示すこととなった。女子は、平成元年の高知市大会で金沢向陽の中橋・多田組が個人で第３位に入賞するも、全国の壁は未だ厚いままであった。

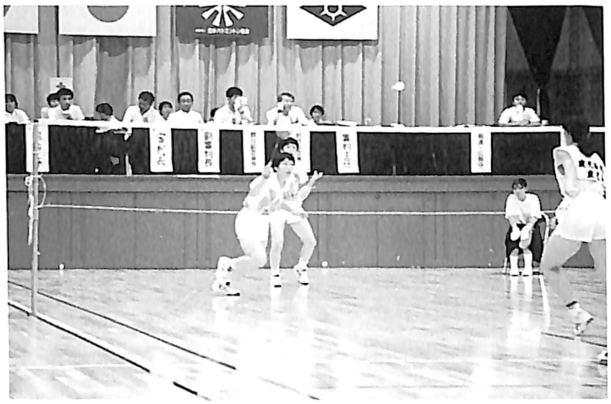
平成３年の石川国体では、男子の金沢二水、女子の金沢向陽を中心とした少年男女のチームが実力を発揮し、ともに第３位に入賞し、国体バドミントン競技総合優勝の一翼を担うかたちとなった。

全国選抜、全国インターハイ、そして国体と相次いだ全国大会が大きな成果を挙げて終了してしまうと、その後の競技力の維持と向上が困難になることが多い。しかしながら、男子の金沢市工と女子の金沢向陽が県内では他を寄せ付けない強さを保ち、着実に全国大会に駒を進めることとなった。

高体連バドミントン部の長い歴史の中で、男子の全国での活躍は枚挙にいとまがないが、女子は、全国の厚い壁の前に幾度と無くはね返されたままであった。その全国の壁に立ち向かい果敢に挑んだのが、金沢向陽であった。国体終了後の全国選抜宇都宮市大会で、第３位に入賞し、女子として初めて全国選抜大会団体戦の入賞を果たした。平成７年の全国選抜上尾市大会において、金沢向陽はついに全国優勝を果たした。これまで、全国に駒を進めた各校が夢にまで見た全国制覇であった。同年の全国インターハイ松江市大会では、春夏連覇の夢をかけて決勝にまで進んだが、あと一歩のところで及ばず、準優勝という結果に終わった。しかしながら、女子の全国準優勝は昭和25年第１回横浜市大会での津幡高校以来実に45年ぶり２度目の快挙であり、個人でも中島・片糸組が昭和33年新潟市大会以来、36年ぶりに優勝したことは、積年の思いがようやくかなったのみならず、高体連バドミントン部の新しい歴史の始まりでもあった。

金沢向陽は、平成８年全国インターハイ甲府市大会でも実力を発揮し、２年連続の準優勝を果たした。これも、高体連バドミントン部の長い歴史の中には他にはない見事な成果である。過去に、類い稀な名選手を擁しながら、なかなかかなうことのなかった全国レベルの実力を持った女子チームの誕生である。

一方男子では、金沢市工の舛田圭太が全国インターハイ個人シングルスで２年連続優勝し、全日本総合バドミントン選手権大会で準優勝するなど、全国の注目をあびることとなった。その舛田のほか、金沢向陽の片糸由希子、堀哲子がナショナルチームの選手に選ばれ、ヨーロッパ遠征をするなど、県内・全国のレベルを超え、世界の檜舞台での活躍が



平成８年全国総体　田井美幸・吉田奈々子組
（金沢向陽）

期待される選手を輩出することとなった。

まもなく、バドミントン部は高体連に加盟して50年を迎える。それは、栄光の50年であり、幾多の名選手と石川県をバドミントン王国と呼ばせるチームを世に送り出してきた。この間、専門部長は20代を数え、現在は中村英夫（金沢市工校長）が、専門委員長は７代目の和田修（金沢向陽）が、新たな50年の始まりを支えている。その50年の節目を前にして、新たな歴史を作り出す新しい力が確実に芽生え、次の50年に語り継がれる名選手・名チームを世に送り出す気配がはっきりと感じられる。

（文責　高井俊也）

石川県教職員バドミントン連盟



会長　中村英夫

連盟創立は昭和43年５月、石川県教職員バドミントン大会も同年より石川県内教職員を対象（初心者でも可）に試合（ランク別）を実施した。

昭和37年第１回全日本教職員バドミントン選手権大会で個人戦、年齢別が開始され、この大会より石川県も参加した。昭和55年と平成６年には、本県金沢市で全日本教職員バドミントン大会を開催した。

国体教職員の部においては、昭和35年に初優勝（河原山晴夫、北方匡、茂藤寛）する。それ以来、昭和38年まで４連覇し、昭和39年に２位、昭和40年に再び優勝した。昭和41年には２位であったが、この間、江尻圭三もチームに入り、更に、村西一、原栄一、松本忠之、長谷川進、和田修、高来秀夫などの選手により、以後も入賞を続け、伝統が引き継がれていった。昭和50年には10年振りに優勝（原栄一、和田修、長谷川進）し、昭和52年から舛田吉光も加わり、昭和54年まで５連覇を遂げた。国体教職員の部で活躍した彼らは、教職員大会での活躍はもとより、指導者として選手づくり、チームづくりに力を注いでいる。

全日本教職員バドミントン選手権大会では、バドミントンを通して平素より青少年の育成指導にあたっている者が一堂に会して相互の理解を深めるとともに、指導の確立のためにその技を競うことを目的として、36年間という長い期間を積み重ねてきている。今日では、一般男女団体、成壮年団体、個人では一般男女単複、30代男女単複、40代、50代、60代の単複と合計17部門の優勝を目指して大会に参加している。

第１回東京大会では、シングルスで北方匡、ダブルスでは北方・河原山組が見事に優勝し、江尻・茂藤組が２位に輝いた。第４回大会から団体戦、一般男女も始まり、第11回大会（昭和47年）では、石川県男子団体が初優勝した。以後、昭和48年、50年、54年、55年（石川大会）と５度の優勝を果たしている。また、一般女子団体においても第23回（昭和59年）に初優勝し、昭和61年と合わせて２回の優勝をしている。個人においても一般男子では長谷川進、舛田吉光のシングルス優勝、一般女子では伊東ひとみのシングル、小野・小路組のダブルス、舛田・小路組のミックスがそれぞれ優勝している。



近年では平成4年、5年と2年連続で年齢別シングルスで伊東ひとみが、ダブルスでは桶谷・伊東組が平成4年、5年、7年と3回優勝を果たしている。

石川県教職員大会は、平成9年に30回の記念大会を迎えた。しかし、大会への参加が年々先細りの傾向が続いている。レクリエーションの多様化や、職場での多忙化など、理由は多々あろうが、学生時代からの選手のみならず、就職後に競技をはじめた人や、放課後の楽しみとしてラケットを握った人などが、一堂に会してバドミントンの楽しさを体験する場として、そして、これまでその教職員の中から石川のバドミントンを支える指導者達が出現してきたように、指導者育成の場として、この大会を再び盛り上げていく必要を痛感している。しかし、そのなかでも、金沢大学・金沢医科大学・北陸大学の方々が、毎年、会場の提供や多数の参加によって、大会を盛り上げて下さっていることも報告しなければならない。この場をお借りしてお礼を申し上げる次第である。

また、全国大会においては、男子では、原栄一（県教育委員会）、能崎喜吉（金沢伏見高校）、村田耕一（県立工業高校）、大井川久（米泉小）、寺西了（金沢二水高校）を、女子では桶谷千鶴子（星稜高校）、伊東ひとみ（尾山台高校）を中心にほぼ一年を通じて若手の選手とともに練習に取り組み、上位入賞を目指している。

その成果もあって一般男子団体で平成8年（千葉市）に3位に、平成9年に2位に、一般女子団体では平成6年（金沢市）に2位に入賞しており、年齢別種目でも毎年入賞を果たしてきている。

今後は、県大会の参加者の増加を図り、さらなる底辺拡大を目指す一方、全国大会では過去の栄光を受け継ぎ、更なる発展を願いながら活動していきたい。　（文責　水内　浩）

第３章

各市町村協会のあゆみ

金沢市バドミントン協会



会長　石丸幹夫

協会の創設時期

(1)　協会の創設

戦後のまだまもない頃、日本が復興時というよりは、まだ社会全体が混乱し、荒廃していた昭和22年夏、それまで、軟式テニスをしていた中島寿禧（石川県バドミントン協会名誉理事長）、香村高璋、西村善信らはバドミントン競技というものを初めて知ってから、その虜となりすぐさま同好者の集まりであるK・B・C（金沢バドミントンクラブ）を設立した。

K・B・Cのメンバーは、程なくしてその年の秋に、大島明（大島運動具店）を初代会長とし、金沢市バドミントン協会を創設、初代理事長に中島が就任した。そして、その後創設された石川県バドミントン協会の母体ともなった。

(2)　協会の活動

当時の世相はといえば、「戦後第１回の通常国会が召集」された年であり、まだ「引き揚げ船が相次いで入港」しており、さらに「食糧も配給制」といった戦後のまだ大変厳しい状況下であった。

この時期、協会員がまず最初にしたことは、何よりもスポーツ競技としてのバドミントンというものを、市民の多くが知らない時代であったため、競技の紹介・普及が中心であった。まだ20歳程の若さの中島達は企業や官庁に赴き、競技を紹介することによって仲間作り、組織作りに奔走した。その足は、県内はもとより、北陸３県にまでも及んだ。

(3)　練習風景

当初のK・B・Cのメンバーの多くが軟式テニスをしていたため、当然今のような練習や試合がすぐにできたわけではなかった。中島達や二代目の理事長で、後に会長も務めた大友佐泰（金沢市バドミントン協会顧問）らは、教本を参考にして、手探りの状態で自ら練習や試合の方法を学んでいた。

そんな中、やや遅れてK・B・Cに参加した爪長憲一は、軍隊でスマトラにいた当時にバドミントンを覚え帰国したが、そのプレーぶりは大きな影響を与えた。初めて見るヘアピンやドロップショットは試合運びというものを知らなかったメンバーに、生きたよき教材となり、その技術をすぐに習得し、めきめきと腕を上げていった。

また、創設当時、練習をするといっても、すぐにラケット、シャトル、ネットなどの用具が揃ったわけではなく、運動具店を経営していた大島の援助により、K・B・C設立後数カ月の後に、ようやく現在の県教育会館のグラウンドの一画に縄を張って練習を始めることができるという状況であった。

そして、物が豊富でない時代、シャトルは陸鳥であり、羽根が傷めば農家からニワトリの羽根をもらってきて、古いシャトルを何度



K・B・C創設時のメンバー　後列右から西村、爪長、香村、伊藤、山岸、金丸、安部、中列省略、前列左から山内、大島、貝原、中島、大友、紙尾

も修理してコックの部分が使えなくなるまで使用した。また、木のラケットは重く、大友は、ガラスを器用に使って、ラケットを削りその重量を軽くする工夫をした。ただし、面が歪みやすいことが難点であった。さらに、シューズは１週間も使用すれば、穴が開いてしまうという代物であり、爪長は裸足で練習をし、そのまま裸足で試合にも参加した。いつも施設、用具、資金に苦しむ日々であった。

(4)　全国大会での活躍

大友は、金沢商業高校で、さらに金沢大学でバドミントンクラブを創設し、自らの競技力を向上させるとともに、多くの後輩を育てた。

教えを受けた東正直（金沢市バドミントン協会副会長）、西貞夫、諸江秀一、江尻桂三らは、昭和20年代の国体において高校の部で優勝をはじめとして数々の好成績を収めた。

さらに、一般の部では波多野、中島、爪長、大友らが、女子では貝原まさえ、登悦子らが全国大会に出場し、実力を大いに発揮し、金沢強しの声を全国に高めた。

主催大会の歴史

(1)　全金沢市対全高岡市交歓バドミントン大会

本協会が主催する最も歴史ある大会であり、昭和34年３月22日に第１回を高岡市で開催し、以後両市で交互に開催している。

この大会を開催したきっかけは、当協会の普及活動によってバドミントンを知った金沢大学の医学部医局の先生達がそれぞれの赴任先で、さらにバドミントンを普及させていき、その縁で高岡市との交歓試合が始まった。ちなみに、金沢大学の医学部、特に耳鼻咽喉科の医局において特に盛んであり、波多野を中心として、故松田竜一（金沢大学医学部名誉教授）、故石川元一（元金沢市バドミントン協会会長）さらに後に石丸幹夫（金沢市バドミントン協会会長）らにその裾野を広げた。外の医局では中文彦（金沢市バドミントン協会副会長）がいる。

当初は、両市代表の高校、青年男女および大学、成年各男子選手が７ダブルス、８シングルスの計15試合で対抗戦を始めたが、回を重ねるにつれ試合内容も充実し、現在では中学、壮年、50歳以上も加わり、19ダブルス、14シングルスの計33試合となっている。

第１回大会は高岡市の勝利で始まり、以後高岡市の優勢で推移したが、近年は金沢市が盛り返し、現在金沢市の21勝18敗である。

栄えある第１回大会の参加選手は次のとおりである。

高校男子　三島、池村、川尻（津幡）
高校女子　竹多、藤江、長谷（金城）
大学男子　岡野、西村、江尻（金大）
青年男子　村田（丸一石油）、酒井（金沢金網）
　　新田（日新火災）、堀（石川いすゞ）
青年女子　有田（岸商事）、松田（松田クリーニ

ング)、川（中村運動具）
成年男子　澁谷（澁谷工業)、中島（中六商事）
松島（松島洋品）

(2)　金沢市内公民館対抗家庭婦人バドミントン競技交歓会

この大会は、協会の普及活動の影響もあり、主婦の間に手軽なスポーツとして、愛好者が増えてきたことから日頃の練習成果を競い、親睦を深めるため始めたものである。

第１回大会は、昭和51年９月５日に旧国鉄体育館で、市内８公民館、９チーム約60人の主婦が参加して開かれた。平均年齢は32歳で、当時は、45歳以上の男子の参加も認められ、２名が参加した。

第１回大会の成績は、

優勝　芳斉Ａ、２位　富樫、３位　味噌蔵

(3)　金沢市バドミントン協会会長杯争奪ダブルス大会

この大会は、長年協会に貢献された石川元一を顕彰する目的で菅井由美子（金沢市バドミントン協会名誉理事）の発案で始めた。

第１回大会は昭和63年２月28日に、県体育館で109ペアの参加のもとに熱戦を繰り広げ、石川からは、豪華カップが寄贈された。

初代チャンピオンは以下のとおり

Ｉ部（30代）　男子　宮丸・杉森（額）
女子　太田・徳本（諸江）
男子　堀・尾山（瓢箪）
女子　田辺・西川（大徳）
III部（50代）　男子　増田・山本（三馬）
女子　新村・吉村（崎浦）

(4)　ばどっこ大会

ジュニア層へのバドミントン競技の普及拡大を図るため舛田吉光（金沢市バドミントン協会理事）の強い要望で始めたのがこの大会であるが、第１回大会は平成元年９月３日県体育館で市内の小学校５、６年生の男女63人が参加して始まった。当初は勝敗よりも競技を通じて親睦を深めることが主であったが、年々参加者も増え８年度の大会では、150人が参加し、バドミントン人口の拡大に大きく貢献している。

栄えある第１回大会の優勝者は、以下のとおりである。

６年生男子　松本雅充（中央ジュニア）
〃　女子Ａ　中島珠美（大浦公民館）
〃　女子Ｂ　松下道代（東浅川少連）
５年生男子　長谷川（新神田）
〃　女子Ａ　坂野（中央ジュニア）
〃　女子Ｂ　岩脇（金沢ジュニア）

現状と課題

当協会が主催、主管等を務める大会は上記の外にも、金沢地区高校選手権大会、金沢市民大会、市民バドミントン大会そして９年度から始まる市民スポーツ・レクリエーション大会など数多くあり、今やバドミントン競技が市民に幅広く浸透している事を証明している。これも、協会創設から熱心に競技の普及を図ってこられた諸先輩の労苦の賜物と感謝している。

現在の協会の仕事は、これら多くの大会運営が主体となっている。これまでジュニアの教室、中学生の強化練習、講習会等は幾度か行ってきたが、協会員の負担も大きく、なかなか長続きしないのが現状である。しかし、その効果は確実にあり、今後もその機会を作り、競技の普及、選手の強化に努力しなければならないと考えている。

バドミントンを金沢市民にさらに普及拡大

し、選手の競技力を向上させていくためには、協会の組織を更に強固なものとしていかなければならない。そのため新たな人材の育成、協会員の若返り、そして何よりも協会創設時の役員が持っていた情熱が必要である。初心に帰って、協会の活動に専心していきたい。

将来の展望

現在、学校のクラブ活動を除いて、市内の各地で毎日のように学校開放の体育館や地区体育館等を利用して、公民館活動として、またジュニアのクラブ活動でバドミントンを楽しんでいる人達が大勢いる。これら多くの愛好家達も協会としてサポートしていく体制作りができればと考えている。

また、平成9年7月、金沢市の助成を受け、太田博之(金沢市バドミントン協会理事)を団長として、5名の選手団を金沢市の姉妹都市である中国蘇州市に派遣する事ができた。国際交流の一助として、今後も機会があれば続けたいと考えている。

役員の異動

これまで協会を支えてこられた歴代の会長・理事長の氏名は、以下のとおりである。

【会　長】

大島明、嵯峨喬、奥村敏

大友佐泰（昭和40年～53年）

石川元一（昭和54年～平成4年）

石丸幹夫（平成5年～）

【理事長】

中島寿禧、大友佐泰、増林博

河原山晴夫、奥村明義（昭和48年～55年）

松下力（昭和56年～61年）

菅井由美子（昭和62年～平成4年）

長谷川進（平成5年～）

（文責　山口亮）

加賀市バドミントン協会



会長　大幸　甚

沿　革

本協会は、昭和25年４月１日に先代矢田松太郎を会長、堀野末雄（後に前田郁郎）を理事長として設立された、江沼郡バドミントン協会をその前身とし、昭和34年４月１日、前年の加賀市市制施行にともない加賀市バドミントン協会として発足した。当時の役員は会長先代矢田松太郎、理事長加納孝一であった。その後、会長は37年２月に北出秀雄、昭和51年10月に大幸甚にそれぞれ交代している。

そして、昭和61年４月より、加納孝一を副会長、中谷孝一を理事長、駒谷憲治を副理事長とする執行部体制でバドミントン競技の普及、発展につとめている。

特記事項

昭和40年代、大聖寺高校からは村西一、山田悌二の両顧問の指導のもと数々の名プレーヤーを輩出した。全日本のランカーで現在は石川県の国体男子バドミントンチーム監督の長谷川進や全日本選手権で７度シングルスチャンピオンに輝いた銭谷欽治がその代表にあげられる。

また、昭和40年代後半から50年代前半にかけては加賀市の競技力は石川県内でもトップレベルにあり、県団体総合選手権や県民体育大会においても優勝している。

しかし、これ以後は加賀市内の中学校にバドミントン部がないこともあり、金沢市などと差がつきはじめ、高校、一般とも成績が低迷しているのが昨今の状況である。

このため、昭和61年度より従来の個人選手権に加え、ヤマテイ杯や加賀山中社会人リーグの団体戦の競技会を開催、またジュニアの教室をクラブ化してバドミントン競技の普及と強化を図っている。

平成９年度加賀バドミントン協会役員

会　長	大幸　　甚	
副会長	加納　孝一	
理事長	中谷　孝一	
副理事長	駒谷　憲治	
理　事	南川　文二	大聖寺高校
〃	南河　武志	錦小ＰＴＡ
〃	大和　政勝	塩谷クラブ
〃（強化）	本出　芳彦	加賀クラブ
〃（強化）	近藤　朝範	加賀クラブ
〃	畑　　常一	加賀クラブ
〃	出口　耕造	ボストンクラブ
〃	番場研次郎	錦城ラブゲーム（錦城養護学校）
〃	大幸　昭善	アフター５（錦城学園）
〃	坪坂　光男	片山津同好会
〃	田原　浩治	月星製作所
〃	上出　常夫	竹内製菓
〃	荒北　敏英	加賀中央病院
〃	辰川加代子	ひまわり
〃	津田　　薫	山中愛好会
〃	上前　郁代	かすみ草
事務局	大田　俊介	加賀市役所
会　計	中村　準一	バドミントンサークル
監　事	下出　健二	加賀クラブ
〃	吉崎　伸一	加賀市役所

（文責　中谷孝一）

小松市バドミントン協会



会長　田井友泰

協会設立

第２回国民体育大会軟式野球の会場が小松市に決定してから、小松市当局やスポーツ団体の動きも急速に活気付き、昭和23年、小松市体育連盟が体育協会として発足するのに時を同じくして、小松市バドミントン協会も設立された。

初代会長に越田荘太郎を迎え、副会長・西本久平、理事長・牛島英二で協会の基礎ができあがった。県内では小松市は金沢市とともに、いち早く普及し、協会の設立をみたものである。

当時スポーツ店開業の牛島理事長が、学校や事務所を対象に普及に努め、高校で部活動として取り入れられると同時に、織物組合を中心に協会の活動が始まった。

24年の第１回市民体育大会には、個人戦のみであるが、バドミントン競技が採用されており、25年に蕪城喜五郎が理事長に就任すると体育協会に働きかけ、翌26年より正式種目となった。

織物組合の検査場には男子では伊藤芳雄、小池恵、鶴島吟太郎、田中博治、女子では浜崎、吉田、日向らが集まり、毎晩９時すぎまで練習を続けた。天井が低く、道具やコートにも恵まれず、見よう見まねであったが、メキメキ実力を付け、26年には、県代表として、オールジャパンへ出場するに至った。同年には県民体育大会で女子が初優勝している。

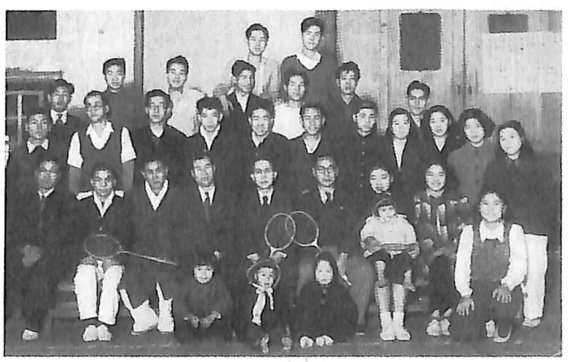
オールジャパンにはその後も、27年奈良、28年新潟、30年四国、32年埼玉と出場しており、特に30年には、伊藤・鶴島組が成年ダブルスで３位入賞、小池が成年シングルスでベスト８に入る大活躍をみせた。

27年から始まった金沢大医学部との交歓試合は楽しい思い出の一つである。医長の松田先生は越田会長とよく気が合い、勝敗を問わず、相互交流を楽しむこと８年に及んだ。

苦悩の日々

30年代に入ると、これまで活躍してきた選手が第一線を退き、協会の活動も低迷してしまった。

高校では、続けて選手たちが頑張っていたが、協会とのつながりが薄れ、社会へ出て続ける人がいなくなってきた。市体、県体前に少し練習をする程度であり、組織も次第に弱



金沢大学医学部との交歓試合

体化してしまった。ただ、金沢市を除けば、ほとんどレベルに差がなく、それなりの成績を維持することができた。

小池が27年に、伊藤が38年に理事長に就任、両氏は協会再興に奔走した。

底辺の拡大

40年代に入ると、鈴木、玉井、藤井、茶山らがようやく協会の中堅としての活躍を始め、協会の立て直しが図られるようになった。

43年に鈴木が理事長に就任し、45年には安井敏郎を会長に迎え、本格的に協会再建へと取り組んでいった。

安井は協会再建のためには、まず、底辺の拡大、バドミントン人口を増やすべきだと考えた。

36年には国府中の山前先生の努力により、ようやく中学校に部が生まれた。男子は国府、中海、女子は芦城、国府、後に松東、南部にもでき、明るい見通しが立った。37年には国府男子が県大会で3位に入る健闘をみせ、いよいよ新しい世代が来ると喜んだものである。

ところが山前先生の奮闘にもかかわらず、45年には男子部が、そして、松東、芦城と廃部に追い込まれた。

安井会長は、中学関係者を集め、必死に説得したものの、功を奏さず、悔しい思いを募らせるばかりであった。

しかし、協会再建の着実な歩みは続けられていた。鈴木理事長を中心に玉井、藤井、茶山らによる「水曜会」の始まりである。ようやくにして、協会が定例の練習会がもてるようになったのである。毛利、田井、関戸の若手もここで育っていった。いよいよ新しい時代が始まろうとしていた。



平成9年度市民体育大会表彰式

市民スポーツ

50年に入り、安井会長の苦労が一気に実を結ぼうとしていた。51年、中江康弘理事長が就任。この年25年ぶりに県体において女子が二度目の優勝を飾った。

中江は、まず協会規約の改正を図り、その後、事務分担をはっきりさせ、組織の確立を目指した。

同年、市教委では、バドミントン教室を開講、指導者として毛利、北濃、南が参画した。

52年、本村公志会長を迎えるに至り、協会はいやが上にも、大きく変わっていった。

翌53年、バドミントン教室の修了者を中心に地域クラブが誕生した。小松バードクラブと東陵クラブの発足である。協会が長い間、待ち望んでいた出来事であった。市民スポーツとして発展する芽生えであった。

毛利信雄、関戸美恵子、辻鈴子が県レベルで安定した実力を発揮し、桝野泰弘、山本智美といった若手も徐々に育ってきた。この頃には水曜会も週3日の練習と、質、量とも充実してきた。

一方、中学校では山前先生の後を継いだ土用下文雄、芦城中の北濃松喜先生の熱心な指導のもとで、続々と選手が育っていった。49・51・52・53年と、県中学大会のベスト4を確

実に占めるようになった。

54年、本村会長のねらいである市民スポーツとしての定着と、バドミントンを正しく理解してもらうためにと、第1回小松市長杯団体選手権が35チーム、200人の参加を得て開催された。

市民スポーツとしての定着は確実に進み、56年以降、クリアーズ、稚松、どんぐり、松陽、ラブスマッシュ、小松（水曜会が発展解消）、第一、など誕生している。

58年3月、バドミントンの底辺拡大、市民スポーツとしての定着に情熱を燃やされ、自らが先頭に立って、指導や普及に努められた中江理事長が急逝されたことは、協会にとって大きな損失であった。遺志を継ぎ、毛利信雄が理事長に就任した。

競技力の向上

56年、国府中の堀正枝が県中学大会で見事に優勝、団体では国府中が北信越大会で準優勝している。

高校では山本智美、日向明子、堀正枝、畑中かおりがインターハイで活躍している。

60年、土用下を中心にジュニアクラブの結成がなされたことは、特筆に値する。酒井茂、関戸美恵子の協力を得てスタートしたが、結成後10年、コーチスタッフも充実し、徳井隆志、桝野泰弘、小幡樹、堂道賢治らの指導により多くの選手を生み出している。

また、辻による「ひまわりジュニア」も平成4年に結成され、小松ジュニアと競争しながら、県レベルに迫っている。平成8年には県中学大会で丸内中が団体3位に入賞し、県総合大会では岸匠（丸内）が中学男子シングルスで3位に入賞するなど今後に期待したい。

一般では、高橋光一が昭和63年度から3年間国体強化選手に選ばれ、平成7年には全日本シニア大会で30歳ダブルス3位入賞を果たしている。

近　年

昭和63年に小松市バドミントン協会40周年記念事業が行われ、これを機会に役員も一新された。翌年、協会長に丹羽和夫を迎え、理事長には中谷哲治が就任した。

協会所属のクラブも10を超え、市民スポーツとして、底辺の拡大はされたが、競技選手の育成という点では伸び悩んだ時期であった。高校を卒業した選手たちが各クラブに所属し、分散された中で、集中、継続した選手強化が十分に行われないことが原因であった。「10年間、県体選手が変わらんなぁ」の言葉がその状態をよくあらわしている。

平成7年、毛利信雄を8代会長に迎え、若葉カップ石川県予選会を小松に誘致するなど、ジュニアを中心とした選手強化を協会の最重要課題に掲げた。

翌8年、毛利会長が病気療養の甲斐なく、亡くなられた。選手として、協会役員としての実績を顧みると小松市にとって大きな打撃であった。広岡邦章会長代行（現副会長）のもと人選が行われ、平成9年、毛利会長の遺志を継ぎ、9代会長に田井友泰が迎えられた。

50年の歴史の中で、多くの先輩たちによってバドミントン競技の普及、選手育成、底辺の拡大、協会組織の充実などが行われ、現在にいたっている。田井会長のもと、先人の努力を基礎に今一度、競技力の向上、選手育成を図ることが課題である。　（文責　中谷哲治）

松任市バドミントン協会



会長　福住　孝

松任でのバドミントンのはじまり

松任（石川郡）へ、はじめてバドミントンがはいって来たのは、昭和24年であった。この年、高等学校の学区制が敷かれ、それまでの松任農業高校が、地域総合制の松任高校として新発足した。

当時、旧一高から松任高校に編入し、２年生であった福住孝・現松任市バドミントン協会長が、何かの機会にバドミントンセットを手に入れた。もちろん、はじめは道路か広場で、羽根を打ち合う程度のものであったが、これが松任、石川郡の地域でバドミントンということばが使われ、そのラケットを手にした者の最初であったという。

氏は、これを何とか正しい競技方法でゲームのできるものにしようと考え、一期先輩の成岡理一、一期後輩の為田亮らと、松任高校のバドミントンクラブの創設を思い立った。女子も含む数名が相寄り、作本先生、近藤先生に顧問を願い、松任高校バドミントンクラブが誕生した。

室内で手軽にできる種目として、当時卓球と並んで、一度やってみようという生徒たちで、講堂は毎日にぎわっていた。これが松任におけるバドミントン競技の先がけとなった。福住は、当時のことを次のように回顧している。

「バドミントンのセットを手に入れたのはたしか親戚の人の土産だったように思う。３人で（福住、成岡、為田）バドミントンクラブを作ろうと相談した。その年の秋、金沢で日本選手権が開かれ、それに出場するまでになっていたから、ともかく我流であったがよく研究したものだと思う」と。

こうして、この松任高校のバドミントンが当時として県内では一流のものとなった。

バドミントン協会の発足

やがて、昭和26年、第１回石川郡体育大会が開かれると、松任高校に誕生したバドミントンクラブが中心になって、石川郡に正式のバドミントン競技会がもたれることになった。

またこの第１回郡体育大会がきっかけで、石川郡バドミントン協会が組織され、初代バ



創設当時の松任高校バドミントンクラブ員前列
右から福住、近藤先生、作本先生、成岡、永島、福井、後列、西川、山本、川端、茶谷、道越、苗代、鶴島

ドミントン協会役員構成がつぎのようにでき上がった。

会　長　福住智二　　副会長　爪長憲一
理事長　成岡理一　　理　事　福住　孝
　　理　事　為田　亮

こうして、石川郡バドミントン協会という正式競技団体ができ上がり、第１回郡体育大会で正式バドミントン競技会がもたれることになった。

大会役員も第１回郡体育大会では、協会役員がそのまま担当したが、第４回では大幅に増え、永島賢三、鶴見弘、北川善信、高鍬耕平、盛本隆四郎、奥村顕、桶川和久などが加わった。

その後、郡体育大会はますますにぎわいをみせ、インかアウトか等の審判抗議で、会場騒然となり、ケンケンゴウゴウたる態を呈し試合を一時中断し、これの拾収にあたらねばならぬほどであった。審判は冷や汗をかきながらやったものだと当時を語る人もある。

協会の変遷

その後、福住(智)会長を頂点とする協会がつづいたが、昭和38年、太田清治を後任会長に委嘱し、歴代理事長も永島賢三、綿谷来、高鍬耕平、桶川和久、横川幸雄らがその任に当たってきた。

昭和34年、35年とつづいた松任バドミントンクラブ員が多数卒業するや、協会は一気に活気づいた。島崎清一、前田和夫、中田吉昭、米田経夫、横川信夫、大西嘉明、前田文雄などであった。また職域では、林久弥、木村光雄がダブルスを組んで強力であった。

とくに中田のラウンドヘッドぎみのスマッシュは県内無敵の技であった。彼は第15回国民体育大会に県代表として出場、第20回まで延べ５回参加し、バドミントン王国石川の中にあって、この個性的力量を十分に発揮した。

昭和40年、美川からの選手も加え、ついに県体優勝の栄冠を勝ちとった。

同じ年、女子では林百合子、館扶佐子を中心として準優勝を果たしている。

昭和46年１月１日を期して、石川郡と分離されることになるや、解散にあたって、福住現会長は、

「市制施行となり、松任が石川郡バドミントン協会と別れることは淋しいが、これからは共によきライバルになろう」と、挨拶した。

松任市バドミントン協会発足

新生松任市にふさわしい協会を発足させるべく、桶川、松田、中田、横川らが中心になって、競技協会の在り方そのものから検討しようということで、いろいろな話を積んだが、要は日々の練習会を充実することであった。協会運営に必要な一切について、夜ふけまで語り合うことがつづいた。こうした折から、この新協会にふさわしい強力な勢力が誕生した。その年、成人した今井、平、町川、梶川らは松任中学当時のバドミントンクラブ員で彼らは、新生協会に加入しようということで小坂、喜多などと一緒に、前後２期のメンバーに呼びかけることを、その成人式のあとに相談しあった。北川、菊田、作本ら同窓会メンバーもそろって、第１回協会総会はヤングパワーの勢いで昂調する会となった。

この第１回協会総会でつぎのような組織構成ができあがった。

会　長　福住　孝　　副会長　福井　衛
理事長　横川幸雄　　会　計　平　康治

会長、副会長共に松任高校バドミントンクラブの創設者であり、ここに名実共に新協会にふさわしい発足となった。

事業面では、定例練習会の成果を問い、技術向上を目指すために、市選手権大会を行うこと、中、高校生を対象にバドミントン教室を開くことなどを決めた。

更に、中央大学バドミントン部主将をつとめた相川進が地元就職を決め、市バドミントンに全国トップレベルを持ち帰った。彼は昭和47、48年度石川県バドミントン総合選手権大会でシングルス、ダブルスチャンピオンとなり国体代表となるなど米正隆と共に松任市の黄金時代を築くとともに、10年間にわたり理事長として協会を支えてきた。

第25回県体開会式で、福住会長が県スポーツ功労者賞を受賞し、さらに平成8年には日本バドミントン協会より研鑽賞を授賞されたことは特記されるべきことであった。

昭和48年、日中バドミントン競技金沢大会がひらかれたとき、中田はその主審をつとめ国際競技会でも、貴重な任務を担当した。

一方、バドミントン普及の面でも、底辺の拡大に協会一丸となって努めた時期でもあった。

松任市バドミントン協会の現状と展望

昭和50年、本市において開催された石川県民体育大会では、毛利達彦（金沢市役所）、宮本照啓（NTT）らを中心とした男子と、山本さよみ、中川由紀子を軸とした女子が宿願の男女アベック優勝を果たした。

その時期を同じくして、小学生の育成にも協会として取り組み、今日まで着実にその歩みをつづけ、栄代兄弟等が巣立っている。

相川以降の国体選手では、高松町より羽田義仁（北國銀行）が結婚を機に本市に居を構え若手選手の手本となるべく更なるレベルアップに貢献しており、山本明彦（同）は現在も県のトップレベルとして活躍している。

一方女子についても、ガッツとねばりを身上に石川県を支えた水本幸代や、実業団においても全国的に活躍した中田裕子などを輩出してきた。

彼女達には、生涯スポーツの推進役として再び松任市において、ママさんバドやジュニアの育成指導者として期待している。

更に、竹鼻拓也（NTT東京）には、世界を目指し活躍することを願うものである。

以上のように数々の名選手を生みだしてきた当協会は、競技面のみならず事業面においても、日本バドミントンリーグが本市文化体育館で開催される等協会と各クラブチームが一体となって普及、振興に取り組んでいる。

また近年、本市と親善友好都市提携を結んでいる静岡県藤枝市とはバドミントンを通して親睦を深め合い協会発足当初からのモットーである、競技団体であると同時に、また友睦の団体であることを受け継いでいる。

今後もバドミントン王国石川の一端を担うべく競技力向上を図ることはもとより、将来を見据えたジュニアの育成強化、さらには親睦と融和を旨とし、確かな歩みを続けたいものである。

（文責　横川祐志）

七尾市バドミントン協会



会長　飴谷信夫

協会の創立

七尾市に初めてバドミントン競技が紹介されたのは、今から50年前の昭和22年のことで、石川県で開催された第２回国民体育大会に第三部の公開競技として実施された時であった。

当時、七尾高校の軟式テニス（ソフトテニス）部員であり、後に七尾市バドミントン協会の会長、副会長として協会発展のために力を尽くすことになる木下成一、小山元也らは、冬季間練習が制約されるテニス競技に比べ、年間を通じて活動出来るバドミントン競技を七尾高校に持ち込み、昭和23年にバドミントン部を結成した。翌24年には、同じメンバーで、後に七尾市長となる上坂鵬太郎（故人）を会長に戴き、理事長には七尾高校バドミントン部顧問の村本斉一（故人）にお願いして七尾市バドミントン協会を設立した。これは県内では金沢市に次いで２番目の協会設立であった。

初期の活躍

協会が設立されたと言っても、体育館がない、用具がない、その上ルールや基礎知識がない、と言った無い無いづくしの集団であったため、活動を軌道に乗せるまでが大変で、練習は天井の低い旧制中学時代の講堂で行い、用具はいちいち金沢まで買い求めに行き、ルールや基礎知識は金沢から講師を招いて勉強をするという状態だった。

このような中で、昭和25年から始まった県高校選手権大会で七尾高校男子が、県内の並み居る強豪を抑えて団体で優勝し、栄えある初代チャンピオンの栄冠を獲得した。また、同年の第５回国民体育大会で、石川県チームの一員として出場していた七尾高校の高田八重子（現姓八田）選手が堂々４位に入賞するなど、協会の門出を祝うに相応しい大活躍が見られた。高田はこの後も活躍を続け、国体や全日本大会等で優勝や入賞を重ねている。男子七尾高校のメンバーのうち、岡崎健一、飴谷信夫、石田康典等の選手は卒業後も競技生活を続け、国体・全日本実業団大会・中部日本大会・県選手権大会・県民体育大会等で優勝や入賞を繰り返している。さらに、この中で飴谷、岡崎は現在の会長、副会長として市の協会を牽引している。

中学校への普及

七尾高校およびその卒業生を中心として活動していた協会は、昭和27年には生実昭によって東部中学にバドミントン部が結成され、さらに昭和43年に協会草創時の中心選手であった小山により、御祓中学校に部が結成された。これにより底辺が拡大され、大いに競技人口が増大した。この後東部中、御祓中とも県中学校体育大会に一再ならず優勝を飾っており、強豪校としての名声を高めているが、

中でも昭和45年から4年連続して栄冠を獲得した東部中女子の活躍は、県中体連の歴史に燦然と輝く金字塔として長く語り継がれることだと思っている。

高等学校への広がり

中学校の充実はそのまま高校の充実へとつながり、当初七尾高校一校にしかなかったバドミントン部はその後七尾商業、七尾工業、七尾農業、鵬学園へと広がり、七尾工業が団体で3回連続全国大会出場を果たしているのをはじめ、個人でも七尾高校の原栄一、桶成信也、大窪豊、柳本和夫、多田圭希、島田清、七尾商業の三野哲弘、小林徹、七尾工業の高橋光一、六川利康、村本幹夫、宮坂満、見神雅之、屋木秀和、七尾農業の坂本宏志等の選手が高校の全国大会（インターハイ）に駒を進めている。その中でも坂本、村本の両選手は全国大会でシングルス3位に入る活躍を見せている。

30年の実績を持つ強化練習

中学、高校の選手が活躍した背景には、毎週火曜日と金曜日に行っている強化練習があるが、これは昭和45年から今日まで30年近くも続いている練習会である。

45年に練習会を始めた時は、中学生を対象としたものだったが、中学生が高校生になり、さらに大学生や一般になっても通うようになって、ますます盛んなものとなって今日に至っている。先述した東部中学女子の4連覇をはじめとする中学校の活躍、高校のインターハイ等の活躍はすべてこの強化練習会があってこその快挙であると言えよう。この練習会で強くなった選手は、先述したインターハイ選手の他に舛田吉光、田上嘉弘、山本幸裕、越沢直久、高僧（松本）智子、元橋（太村）直美等がおり、その多くは現在も協会発展のために協力している。

発展期の活躍

昭和52年、56年に男子が、56年に女子が県民体育大会で優勝しており、55年、56年と連続して男子は県団体総合選手権で優勝している。また、50年には当協会のメンバーで編成したチームで全国青年大会に優勝している。さらに、52、53年には全日本実業団選手権大会個人40歳以上の部で、岡崎・飴谷組が2年連続優勝を遂げており、国体教員男子の部で原が50、51、52年と3連覇を成し遂げているなど、昭和50年代は強化練習も軌道に乗り、その成果が華々しく花開いた時期であった。

主催大会の開催

昭和48年から底辺の拡大をめざして「七尾市民大会」を開催しているが、さらに、まつや時計店の全面的な協力により、昭和61年から「まつや杯争奪七尾市民大会」を開催して多くの市民にバドミントンの楽しさを味わってもらっている。また競技力向上のために「七尾市選手権大会」から「七鹿オープン選手権大会」を経て、現在は昭和63年にそれぞれ会長、副会長を退いた木下、小山両氏から寄贈されたカップを争奪する「木下杯・小山杯争奪能登オープン選手権大会」と名称を変えた大会を開催し、能登全域はもちろんのこと、遠く金沢市や富山県からの参加者をも交えて熱い戦いを演じている。

友好団体との交流

昭和55年に七尾市と親善都市の関係を結んでいる香川県丸亀市のバドミントン協会との友好を深めるため、当時の木下会長以下4名の選手が「丸亀オープン大会」に出場し、これがきっかけとなって、昭和58年に第1回丸亀市。七尾市バドミントン交歓大会が開催された。最初2年毎に交互に訪問しあっていたが、昭和63年からは毎年開かれるようになり、遠征メンバーも年々増えている。また、七尾工業高校出身で現在丸亀市の協会員である六川利康が教鞭をとっている尽誠学園は、何度も七尾市で合宿や練習試合を行っており、香川県でもトップクラスの実力校である同校との交流は七尾市の高校生たちにとっても良い刺激にもなり、ライバル的存在にもなっている。

21世紀に向けて

昭和24年に協会を結成してから今日まで、50年近くの間には、興隆期もあれば低迷期もあったが、現在の主力選手の年齢層や中学、高校生の状況を見ると、低迷期に向かって進んでいるように見受けられる。

低迷期を迎えることなく、金沢市に正面から対抗できる唯一の市として、現状の力を維持し、さらに充実させるためには、次の諸点に注意しながら協会員が一致結束していかなければならないと考えている。

(1)　強化練習会の充実

七尾市バドミントン協会の活動の中心は、毎週2回定期的に行っている強化練習会である。そのため今後もこの練習会を中心に活動を展開していくことはもちろんのことであるが、協会員の拡大と競技力の向上を目指して、市井に埋もれている人材の発掘に努めなければならない。

(2)　ジュニア層の開拓

近年ジュニア層の育成が盛んになっており、県内各地でジュニアバドミントン教室が開催されているが、七尾市も平成3年度から小学生を対象にしたジュニア教室を開催して、ジュニア層の育成に力を入れている。しかし、ジュニア育成に関しては近隣の鹿島町、田鶴浜町が先行しており、当市は始めた日が浅いため両町には未だ及ばないものの、指導者の質と量では、圧しているのだから早急に両町を凌駕する体制を作り上げなければならない。

(3)　一貫性のある指導体制の確立を

これまでジュニア教室、中学生、高校生を教える人や団体が別々であったため、それぞれの段階での結論を急ぐあまり、子どもたちに過重な負荷を与えるという欠陥があった。そのような反省点を踏まえ、また近年の少子化傾向の進行のため、学校によっては部活動の存在すら危うくなる程の状態であることから、協会が主体となって小学生から高校生まで一貫して、計画的に指導するという体制を確立しなければならないと考えている。

（文責　山口宏治）

輪島市バドミントン協会



会長　東　将博

協会創設時期

昭和40年代に、輪島市庭球協会の会員が選手を掛け持ちするかたちで始まった。当時の庭球協会の清水正明が、バドミントン競技の普及に取り組み、その後高森学と東将博が、当協会に貢献した。

昭和50年代に入ると、輪島実業高校にバドミントン部が創部、そのころからバドミントン部ＯＢらが、当協会に加盟するようになり、競技人口も増え、選手層も厚くなり始めた。川島隆之、前古孝人らが協会をもり立てた。

昭和50年も後半に入ると、輪島実業のバドミントン部ＯＢが、協会の大半を占めると選手の実力も向上し、外康弘、若林衛などが活躍した。山上正雄、正角吉松らが協会のために尽力した。

昭和60年代に入り、バドミントンの競技人口も色々な方面で増え、当協会にも活気があった。それに加え、塩山邦治の加盟、活躍で、会員個々の技術力も増大した。橋爪進一郎の貢献も忘れてはいけない。

平成に入ると、会員の新旧の入れ替わりが少なくなってきたが、一人ひとりの努力により技術向上を、現輪島市バドミントン協会会長東将博のもと、研鑽し現在に至る。

競技の普及強化のための取り組み

バドミントンの競技人口の増加が急務であるため、ジュニア、婦人等の講習会や競技会などの開催、審判、指導者等の講習などを行って、底辺の拡大を目指していきたい。

役員の異動

初代会長　清水正明
二代会長　高森　孝
三代会長　東　将博

現状・課題等、将来への展望

現在、会員が約20名で、今後の新会員の加盟が大きな課題になってきたこと、会員個々の高年齢化により先行きが不安で、ジュニアなど低年齢からの競技人口の拡大が急がれることや、県内では、何歩も遅れた感のある技術力の差を克服して、良い指導者、良い選手を育てていくことと、重要課題が山積している。

将来への不安は隠しきれないが会員一丸となってバドミントンという競技に取り組んで素晴らしさ、楽しさを皆に理解して貰うよう努力していきたい。　（文責　黒田光一）

山中町バドミントン協会



会長　日比野顕一

山中町バドミントン協会（事務局所在地、江沼郡山中町下谷町ニ357番地、出口耕造宅）の発足は、昭和35年で、40年近くの歩みになる。

初代の会長は坂本博で、当時街頭や広場などでさかんに遊ばれるようになっていたものを正式な競技にと、坂本や林豊敏、木下征洋らの経験者が中心になって結成したものである。（坂本、木下談）

第２代の会長は、木下で昭和40年から42年まで務めている。第３代は川畑武夫で、昭和43年から59年までの長期間に亘っている。

この間、昭和48年に初めて理事長職が設けられて、要明研二が就いている。昭和51年、52年の２年間は中谷博行が務め、昭和53年から59年までは山崎隆が理事長として活躍した。

昭和60年には山崎が第４代会長に、理事長には出口耕造、事務局長に和田直子が就いている。そして、平成４年からは日比野顕一が第５代の会長に就き現在に至っている。

競技の普及では昭和52年から小学校５、６年生を対象に少年教室を開講している。初期の頃の指導者は、簾揚吉、柴田昇、中谷、山崎、川畑、日比野等で、以後、駒谷憲治、前田利行、出口、川根建治、山下修、須谷芳行、川上純、南出由紀子等が順次参加し、現在に至っている。

平成３年からは、婦人バドミントン教室を開講している。指導には、協会員が交互にあ



たり、底辺の拡大に努めている。婦人教室の参加者の中には、継続して協会に参加し、近隣の各種大会や県体にも出場して、好成績をあげている者もある。

平成４年からは、山中町バドミントン大会を開催している。中には遠く福井市や、松任市等からの参加者もあり、継続してゆくよう頑張っている。

大会での成績は、加賀、江沼地区で行われているリーグ戦や、選手権大会等での優勝程度で、県体でもベスト８が最高位である。

ただし、協会の創設時期に、当時の定時制高校の女子、酒田千恵子、松田時枝、川畑田鶴子等が、県大会で優勝し、北陸三県の大会に出場しているのは特筆すべき事である。

今後、会員の増加や、各種大会での上位入賞をめざしてますます頑張りたい。

（文責　出口耕造）

根上町バドミントン協会



会長　原　明弘

当協会は昭和24年４月に根上中学校の教諭として赴任してきた米光外史彦が町内在住の高校生や町内小中学校勤務の教諭等に呼びかけ、同年11月に設立された。翌年１月には協会主催の町民バドミントン大会が開催され普及強化を図った。

昭和25年４月より組織の確立と充実を図るため、米光の大先輩である松岡文二を会長に、副会長柳瀬潤二、理事長米光外史彦という体制を築き新たなスタートを切った。

また、同年11月には加賀地区高校大会を開催した。後にこの大会は現在の県高等学校バドミントン根上大会として拡充され、今年で47回と地域大会としては一番古く、高校大会としても由緒ある大会として開催されている。

このような活動が実を結び、昭和40年～50年頃には成年・壮年部門で原明弘や竹村藤雄が中部日本総合選手権大会や全日本実業団総合選手権大会等に上位入賞を果たすなどの活躍をした。

また、昭和48年には全国青年祭優勝、県民体育大会においては２部制になった昭和49年頃からの数年間は優勝をはじめ、常に上位入賞を果たすなどの活躍期間もあった。

しかしながら、このように伝統と実績のある根上町バドミントン協会も、昭和24年に発足して以来約50年という歴史を歩んできたが、近年は若手選手の不足により、各種大会には選手の派遣も十分にできず、今一つ良い成績を得られない状況である。今後はこの状況を打破するためにも、長期的な観点に立ち、ジュニアを中心とした教室等を開催しながら、若年選手の育成や各層の普及拡大を図りながら、伝統ある協会の発展に邁進していきたい。



設立当時の根上町協会選手を中心とした能美郡チーム



伝統ある高校バドミントン根上大会の開会式

歴代役員と事業

年度	会長	副会長	理事長	主な事業
昭和24年	米光外史彦	柳瀬潤二		
昭和25年	松岡文二	柳瀬潤二	米光外史彦	加賀地区高校大会、町民大会
昭和26年	松岡文二	柳瀬潤二	米光外史彦	加賀地区能美郡選手権大会
昭和27年	岡本篤光	米光外史彦	山本寛	加賀地区能美郡新人大会
昭和28～32年	南政忠	米光外史彦	山本寛	加賀地区能美郡新人大会
昭和33年	南政忠	米光外史彦　森善明	山本寛	加賀地区能美郡新人大会
昭和34～36年	南政忠	米光外史彦　森善明	山本寛	石川県高校根上大会
昭和37～40年	南政忠	米光外史彦　森善明	西出智長	石川県高校根上大会
昭和41～43年	米光外史彦	佐々木章　森善明	西出智長	石川県高校根上大会
昭和44～52年	米光外史彦	佐々木章　森善明	西出智長	国体代表選手招待模範試合
昭和53～63年	佐々木章	西出智長　米沢徹 竹村藤雄　中村均	原明弘	国体代表選手招待模範試合
平成元・2年	原明弘	西出智長　米沢徹 竹村藤雄　中村均	森邦夫	国体代表選手招待模範試合
平成3～5年	原明弘	米沢徹　竹村藤雄 中村均	森邦夫	国体代表選手招待模範試合
平成6・7年	原明弘	中村均　森邦夫	丹保俊治	国体代表選手招待模範試合
平成8年	原明弘	中村均　森邦夫 丹保俊治	本多外家志	国体代表選手招待模範試合
平成9年	原明弘	中村均　森邦夫 丹保俊治	若村修	国体代表選手招待模範試合

過去の主な成績

昭和42年　中部日本総合選手権大会　成年シングルス　2位　原　明弘
　　成年ダブルス　2位　原　明弘・竹村藤雄
昭和48年　全国青年祭　優勝　監督　中村嘉代子
　　選手　本西亮治、若村　修、末信裕子、中村真智子
昭和49年　県民体育大会　男子団体1位
昭和50年　県民体育大会　男子団体2位　女子団体3位
昭和51年　石川県総合選手権大会　壮年シングルス　優勝　原　明弘
　　全日本実業団総合選手権大会　壮年シングルス　3位　原　明弘
昭和52年　県民体育大会　男子団体3位
　　全日本実業団総合選手権大会　壮年シングルス　3位　原　明弘
昭和53年　県民体育大会　男子団体2位

高校バドミントン根上大会の主な成績

開催年		男子の部		女子の部	
		優勝	準優勝	優勝	準優勝
第 1 回	昭25	金沢桜丘高校		津幡高校	
第 2 回	26	金沢二水高校		津幡高校	
第 3 回	27	金沢二水高校		津幡高校	
第 4 回	28	金沢二水高校		津幡高校	
第 5 回	30	津幡高校		金沢二水高校	
第 6 回	31	津幡高校		津幡高校	
第 7 回	32	津幡高校		津幡高校	
第 8 回	33	津幡高校		津幡高校	
第 9 回	34	大聖寺高校		金城高校	
第 10 回	35	小松高校		金城高校	
第 11 回	36	津幡高校		金城高校	
第 12 回	37	津幡高校		金城高校	
第 13 回	38	津幡高校		藤花高校	
第 14 回	39	大聖寺高校		金沢桜丘高校	
第 15 回	40	金沢市立工業高校		藤花高校	
第 16 回	41	金沢市立工業高校		津幡高校	
第 17 回	42	金沢高校		津幡高校	
第 18 回	43	金沢市立工業高校		津幡高校	
第 19 回	44	金沢市立工業高校		津幡高校	
第 20 回	45	金沢市立工業高校		津幡高校	
第 21 回	46	金沢市立工業高校		津幡高校	
第 22 回	47	金沢市立工業高校		津幡高校	
第 23 回	48	金沢市立工業高校		金城高校	
第 24 回	49	金沢市立工業高校		藤花高校	
第 25 回	50	金沢市立工業高校		金城高校	
第 26 回	51	金沢市立工業高校		藤花高校	
第 27 回	52	金沢市立工業高校		金城高校	
第 28 回	53	金沢市立工業高校		金城高校	
第 29 回	54	金沢市立工業高校		金城高校	
第 30 回	55	金沢市立工業高校	七尾工業高校	金城高校	尾山台高校
第 31 回	56	金沢市立工業高校	松陵工業高校	金沢向陽高校	津幡高校
第 32 回	57	金沢市立工業高校	七尾工業高校	金城高校	七尾高校
第 33 回	58	金沢市立工業高校	金沢二水高校	金城高校	金沢二水高校
第 34 回	59	金沢市立工業高校	七尾高校	尾山台高校	金城高校
第 35 回	59	金沢市立工業高校	七尾工業高校	金城高校	尾山台高校
第 36 回	60	金沢市立工業高校	七尾工業高校	金城高校	尾山台高校
第 37 回	62	金沢市立工業高校	金沢二水高校	金沢二水高校	金沢商業高校
第 38 回	63	金沢市立工業高校	星稜高校	金沢二水高校	金沢商業高校
第 39 回	平元	金沢二水高校	松陵工業高校	金沢二水高校	金沢商業高校
第 40 回	2	金沢市立工業高校	金沢二水高校	金沢二水高校	金沢商業高校
第 41 回	3	金沢市立工業高校	金沢二水高校	金沢二水高校	金沢商業高校
第 42 回	4	金沢市立工業高校	金沢二水高校	金沢二水高校	金沢商業高校
第 43 回	5	金沢市立工業高校	七尾工業高校	金沢高校	金沢商業高校
第 44 回	6	金沢市立工業高校	尾山台高校	尾山台高校	星稜高校
第 45 回	7	金沢市立工業高校	大聖寺高校	金沢商業高校	金沢二水高校
第 46 回	8	金沢市立工業高校	金沢二水高校	金沢市立工業高校	金沢商業高校
第 47 回	9	金沢市立工業高校	星稜高校	金沢市立工業高校	尾山台高校

（文責　原　明弘）

寺井町バドミントン協会



会長　杉本勝昭

昭和37年頃、町民体育大会や郡体育大会、また当時数少ない県主催の社会人、実業団大会に出場していた町在住の愛好者が集うたびに組織化の機運が芽生えはじめた。

これを見聞していた当時町体育協会副会長の井川彦二は町体協事務局長の浜崎敏雄とバドミントン協会の設立にむけ、当時選手達のリーダーだった山口征夫、北村三郎、杉本勝昭、笠間芳次、米脇強等を集め、昭和40年７月寺井町バドミントン協会を設立した。

会長に井川、副会長に浜崎、理事長に山口、事務局長に北村を選出、同時に町体育協会に加盟承認された。この年、第１回寺井町バドミントン選手権大会を開催以来、本年で33回を数えている。40年から郡体育大会に初優勝以後連勝している。また個人戦でもそれぞれが優秀な成績を収め郡代表選手として毎年出場した。当時の選手に山口、北村、杉本、米脇、宮川一信等がいた。

45年11月、第１回石川県社会人、実業団寺井大会を開催、男、女20数チームの参加と石川県の最優秀の選手多数が出場し質、量兼ね備えた盛大な大会となった。この実績により翌年より県協会の正式スケジュールに取り入れられた。60年県協会と協議の上、大会名称を石川県バドミントン寺井大会と改称し本年で27回を数える。本大会は一般の社会人が参加する県内最古のローカル大会である。

昭和46年から59年までの14年間石川県社会人選手権大会、実業団選手権大会を県協会が本町体育館で連続開催し運営に協力した。また県勤労者大会の会場も４年間引き受ける等、加賀地区の中心的会場となり〝バドミントンは寺井町で〟となり得たのも協会員のなみなみならぬ情熱と層の厚さにほかならない。

50年から60年にかけて県大会に優勝または優秀な成績を収めた選手に杉本、米脇、東方寒児、金山憲勇、宇野幸治、徳田亮健がいた。一方競技運営で石田次道が現在も「かなめ」となっている。51年から次代を担う選手の発掘と養成をめざし小中学生を対象にした少年教室、55年から親子教室を併設し現在も底辺拡大に取り組んでいる。

近年に入り県総合選手権、社会人選手権、郡体など各種大会に優勝又は入賞した選手に、東方、宇野、吉田奏、北出正史、小林幸人、東方一道等が活躍している。女子選手では現在中谷久美子、長尾千代子、辻京子、竹内玉見、西川美千代、秋山ひろみ、戸田好恵、小林育栄等が郡体、県体、県家庭婦人リーグ等に出場し活躍している。

平成５年まで永年協会長の井川、副会長の浜崎が勇退し、現在会長に杉本、副会長に笠間、米脇、東方、理事長に宇野、事務局長に北出らが協会発展運営に力を注いでいる。

（文責　米脇　強）

美川町バドミントン協会



会長　秋田　勲

平成３年10月13日、第46回国民体育大会。何という感動だろう。思い起こせば第46回国体が昭和66年に石川県において開催されると知ってから９年、バドミントン会場が美川町に決定して５年間、これまでいろいろ努力したことが走馬灯のように駆け巡る。

新しい総合体育館の建設、そして地元美川町出身の選手の育成、今になって思えば、思いどおり満点に近く事が運んだ。美川町としては立派すぎるくらいに体育館が出来上がり、私たち協会として地元から是非とも国体に選手を出場させようと協会挙げて取り組み、ジュニア強化部を作り美川中学校にバドミントン同好会を発足させた。２年後の昭和60年には部に昇格し、水内先生の強力な指導のもと見事少年男子の部で石本明男、本田暁暢、少年女子の部で安田香奈、藤田美紀の４選手が団体総合優勝に貢献する事ができた。



石川国体　石本(右)、安田

戦後間もない昭和21年蝶屋小学校の津田、米光両先生が石川県で初めてバドミントン競技を行い第２回国体の練習会場に美川小学校体育館が使用された。これが美川町そして石川県バドミントンの原点と言えると思う。

昭和38年初代会長福住智二、副会長金兼真一郎、理事長秋田勲、会員数10名足らずで発足した協会も、今や会員数は170名。傘下の美川町バドリーグ登録人数650名、家庭婦人100名、小学生・中学生ジュニア180名、町民の１割がバドミントンに親しむ大きな協会に発展することができた。

第１回町民バド大会は、わずか１時間で終わる始末だったが、今や大会もシングルスとダブルスの日を変えて遅くまでかかる嬉しい現状である。

特に美川中学バドミントン部は発足してから10年、水内そして現顧問の松田洋幸両先生



全中岩手大会個人２位



全中祝賀会


全英大会に出場した堀（左）


西　広予

の熱心な努力と、協会員の松田新二郎、その他多数の会員の指導で、全国中学生大会に９回出場し、昭和63年岩手県盛岡市の大会で石本・本田組が個人ダブルスで見事準優勝し、昨年平成８年の愛知県大会では、女子団体で３位入賞に輝き、毎年団体、個人とも常にベスト８に入賞する全国でも有名校となった。また一般においても、昨年平成８年度石川県総合選手権大会において、男子ダブルスの部で石本、女子シングルスの部で堀哲子が優勝し、中学生女子の部ではベスト８に６名が勝ち進み、決勝で西広予、今村優子の美川決戦が実現し、ファイナルのセッティングで西が栄冠を勝ち取った。石本、堀、西の３名が全日本強化選手となり世界に羽ばたいており、協会として大変嬉しく、大いに側面より支援したいと思っている。

現在協会員の中より石川県家庭婦人連盟会長に岡根良子、少年連盟理事長に松田、理事に南永一、元副会長に秋田の皆さんがバドミントン王国石川のために頑張っている。

協会の取り組みとして、バドミントン人口を増やすため、まずお母さん方にバドミントンの楽しさを知ってもらい、その子供達を美川と湊地区のジュニア教室で指導し、中学校でバド部に入部、そして高校、大学で活躍し町の協会に入会してもらう考えである。

そのためには常に協会全員の協力が必要で、毎月１回の常任理事会を開き、年１回の総会での計画案を練り直し、いろいろと前向きに話し合いを行っている。また会員相互の親睦を図るため、忘年会、年１回の研修旅行をとり行い、竹内信夫美川町長や町教育委員会の皆さんとも連絡を密にして、社会体育、学校体育共々盛んになるよう願っている。

二代目会長、橘幸男から受け継いで15年、全国社会人大会、国体その他の大会に私自身が関係させて頂き、日本バドミントン協会の役員の方々、また美川で数回合宿をなされたナショナルチームの皆さんと親しくお話することが出来、会長冥利に尽きると大変感謝致している。また当時の小学生、中学生も有名選手から指導の機会を得、今では石川県を代表して向陽高校より美川中出身の６名がインターハイ出場選手となり、必ずや良い成績を収めてくれると確信している。最後になったが石川県バドミントン協会の50周年を心よりお祝い申し上げ、今後ますますバド王国石川の名声が、全国に高まらんことをご祈念申し上げご挨拶とする。

≪美川町バドミントン協会役員ら≫

名誉会長　竹内信孝
会　　長　秋田　勲
副 会 長　三嶋朋雄、北野元男、北野外茂夫
理 事 長　松田新二郎
副理事長　二木達也、岡田孝弘、南　永一
事 務 局　東　真佐人（美川町和波町北80）

（文責　秋田　勲）

鶴来町バドミントン協会



会長　岡本幸治郎

協会創設時期

昭和54年６月21日設立総会を開いて頂き鶴来町体育協会に第18番目の団体として登録、加盟した。競技会の出場は古い。

設立当時の役員

会長・奥村顕、副会長・村山外喜男、村田清、理事長・中本徹、事務局・早瀬有史のメンバーで始めた。

取り組み

設立当初は人数も少なく、練習半分、雑談半分で過ごす事が多かった。しかし、半年ぐらい経ってからバドミントン教室を開くように町民の方々から意見が出て、開催することにした。最初の頃はどのようにして教えたら良いかわからず試行錯誤の連続であったが、なんとか軌道に乗せる事ができ、現在も継続している。昭和62年から家庭婦人（クィーンズ）のクラブを設立した。平成９年の家庭婦人の大会では最上級のゴールドクラスで優勝する事が出来た。（沢真理子、中出春美、沼清子、上坂仙、向口真里子、岩倉美枝）。この時のメンバーは、現在も、新規加入者の指導、育成に力を貸して頂いている。平成に入ってから、家庭婦人の初心者を対象に昼間クラブを開催し、人数も多く各種大会に参加している。

「町対抗バドミントン大会」も開催している。約10年間団体戦で行ったが、参加チームも少なくその後、高校生や中学生も参加出来る個人戦を開催している。白山麓の女子の参加（初心者も含む）の為に北陸電力の協力により白山麓クィーンズバドミントン大会も開催している。

現状の課題

現在の活動クラブは毎週火、金の夜７時30分から９時30分までの協会練習と、家庭婦人クラブ、クィーンズクラブ、初心者教室は木曜昼の練習で活動を行っている。これらのクラブの課題として、底辺の拡大とレベルの向上が重点課題としてあげられる。また新規加入者が少なくなり、平均年齢が高くなっているのが気になるところである。

将来の展望

鶴来町には小学校３校、中学校２校、高校１校があるが、バドミントン部と呼べる部活動が無いため、底辺の拡大が思うように出来ず、当協会から働きかけ、創部を目指したいと思っている。バドミントン愛好者の情報収集と職場対抗の大会を開催しようと考えている。

○現在の役員

会長　岡本幸治郎、副会長　中本、理事長　石村守、事務局　早瀬（創立以来）

（文責　岡本幸治郎、早瀬有史、石村守、沢真理子、向口真里子）

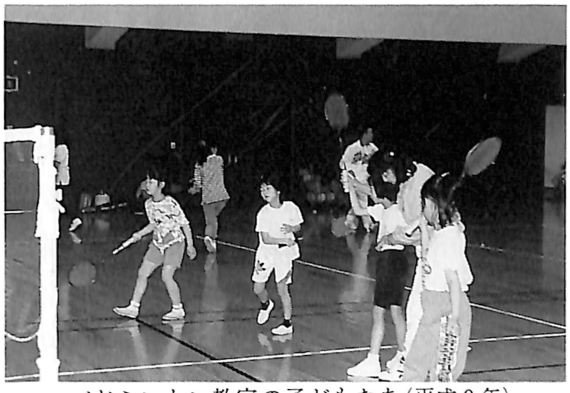
野々市町バドミントン協会



会長　黒山　茂

野々市町バドミントン協会は、まずその前身として、昭和52年（1977年）１月に石川県バドミントン協会より指導員を派遣していただき、女子25名の参加者のもとでのバドミントン教室として発足した。当時の野々市中学校体育館にはネットを張るポールもコートラインもなく、教室は羽根の打ち合いから始まった。その教室が終了してもさらにバドミントンを続けたいとの希望が強く、４月には野々市レディースクラブが結成された。その後、各校下に女子のクラブが結成され、男子も一緒に練習するようになり、バドミントン愛好者の輪が広がっていった。このような経緯のもと、協会設立の働きが高まり、会長森谷俊一、理事長村谷信男のもと、昭和55年（1980年）に野々市町バドミントン協会が設立された。

協会創立の翌年56年（1981年）より郡体、県体に代表選手を送り出すなど、郡、県の協会主催の大会に積極的に参加し、その間全国家庭婦人大会に５回出場など輝かしい成績を残している。一方、事業面では、親睦大会をはじめ、レディース大会、ＮＢＡ会長杯大会、選手権大会を開催し、バドミントンの普及、振興に努めてきた。また、選手層の厚い協会になるように夢を託して、昭和60年（1985年）にはジュニアクラブを結成し、小学生の指導を行い、61年（1986年）よりジュニア大会を催しており若い芽が徐々にではあるが育ってきている。



バドミントン教室の子どもたち（平成９年）

協会の加盟団体は、一般では、男子、グリップクラブ、スマッシュクラブ、女子、野々市クラブ、学校関係では、中学校２校、高校１校、高専１校、短大１校、大学１校、ジュニアクラブ等で構成されている。現在の協会の主な役員は以下のとおりである。

会長　黒山茂　副会長　橋爪晃、黒保悦子
理事長　寺岡貞一、副理事長　渡辺修、木村孝子

平成２年（1989年）に10周年を迎えたのを契機に、本協会のさらなる発展を願い、協会の合言葉である〝友愛の輪を広げよう〟〝健全な心身の育成をはかろう〟〝活気みなぎる町づくりに寄与しよう〟を更に広め、深め、バドミントンの普及、振興に、ひいては野々市町の発展に尽くしたいと願い、活動を続けている。

（文責　寺岡貞一）

河内村バドミントン協会



会長　田中千代人

石川県バドミントン協会創立50周年を、心よりお祝い申し上げます。

河内村バドミントン協会は、昭和54年に創設し、当時はバドミントン部として、初代結城豊三郎部長を中心に、竹村、朽木、上源、末井、竹田、白座、白座、計７名程で発足した。その頃の河内村では練習をするにもなかなかメンバーが集まらず、隣の鶴来町体育協会にお願いし、練習させてもらっていたのが実情であった。おかげで、末井、竹田、白座、白座の４人であったが、県体初出場ながら３位入賞をはたす事ができた。この時の成績が今のところ、当バドミントン協会としては最高となっている。その後、女子の部しか無い小さな村の唯一の悩みで、結婚の為に選手が減ってゆき、平成２年から３年間一時休部となる。しかし、平成５年、当村青年団がバドミントンを習いたいとの事から、創設当時の河内村在住のメンバーが集まり指導を始める。

これがきっかけで、再び県体へ出場するようになる。翌平成６年、河内村体育協会が30周年をむかえ、バドミントン部からバドミントン協会として、ひとりだちする。それを機に少人数ながらも活動を始め、途絶えがちであった後継者育成の為に、中学校部活動へ指導を行ったり、週１回ではあるが小学生への教室を行ったりもしている。

今ようやく、若い子達が入ってきて活気も出て、当協会も途絶えずにすみそうである。

また、昨年より、この小さな村に、もう一度バドミントンを復活させたくて、親子バドミントン大会を夏休みに行い、以前経験した事のある人や、初めての人が集まり、クラス分けして小さいながらも楽しい大会を開催している。今年で２回目だが、親子げんかを始めるチームもいたりで、なかなかおもしろく好調である。お世話する協会員も大変だが、バドミントンをプレーする事で楽しんでもらい、子供達への理解も深めてもらえれば、中学校、高校へとバドミントンを続けるはげみにもなるのではないかと期待している。

今、河内村バドミントン協会は、会長　田中千代人、副会長　結城豊三、理事長　白座桃枝を中心に、石川郡河内村字口直海、河内村役場内に事務局を置き活動を行っている。当村体育協会では「底辺の拡大」が大きく持ち上げられている。なかなか難しい事ではあるが、協会員が力を合わせ協力し合いながら頑張っていきたいと思っている。

（文責　白座桃枝）

津幡町バドミントン協会



会長　鈴木時秀

石川県バドミントン協会50年誌発刊おめでとうございます。

「バドミントン王国石川」と呼ばれるまでの先輩各位の皆様方のご努力に対し、感謝するとともにお礼を申し上げます。

津幡町バドミントン協会も、昭和29年町村合併し、現津幡町バドミントン協会を設立後、初代会長山田藤吾以来、沢田外喜雄、細川重二、堤英樹、中村邦夫、鈴木時秀（現会長）６名の歴代会長をはじめ、初代理事長田川賢一以来、小原芳夫、酒井昭男、小泉暁、細川重二、鈴木時秀、細川悦夫、岩本正男、森田均（現理事長）以上９名の歴代理事長を中心に今日まで、石川県民体育大会では優秀な成績を挙げてきた。なかでも男子優勝１回(平成６年第46回大会)、第２位６回、第３位10回、女子においては優勝１回（昭和53年第30回大会)、第２位５回、第３位６回と常に上位に位置する等、津幡町バドミントン協会は県内でも高いレベルに達することとなった。

近年は男子選手は高等学校時代インターハイ、国体等に出場した選手を多く出し、県バドミントン協会に微力ながら協力させていただいている。

平成２年には片山一美（津幡ジュニアバドミントンクラブ代表者）を中心にジュニアクラブを設立し、将来の優秀な選手を育成するとともに底辺の拡大を目指して、週２回の練習を実施している。

現在ジュニアクラブは児童数60名を超える大所帯となり、練習にも子供たちの明るい声が響いている。

また平成９年からは、元全日本チャンピオン（元ＮＴＴ東京、津幡町出身）宮森庄吉の協力を得て、宮森杯争奪少年バドミントン大会を設け、河北郡内及び羽咋郡市のジュニアバドミントン大会を開催することとなりジュニア強化及び普及を図っている。

石川県バドミントン協会50年誌の発刊にあたりご努力された皆様方に感謝申し上げるとともに、今回の発刊を機にますます石川県バドミントン協会が発展し、常勝石川、バド王国石川を全国にアピールできますよう心からお祈り申し上げます。　（文責　森田均）

高松町バドミントン協会



会長　長谷久人

高松町は、昭和45年全英選手権シングルス優勝、全米オープンシングルス・ダブルス優勝、その後ダブルスで4回世界一に輝いた栂野尾（旧姓・竹中）悦子の出身地である。

その当時からバドミントンが盛んで各分野で活躍し、中学校では県体・北信越大会・全国大会等で数々の成績を収めている。その中でも、女子で県体6年連続優勝、北信越アベック優勝（昭和62年度）、全国大会は男子で昭和62年優勝・昭和47年度と平成8年度が準優勝・平成6年度3位が印象深い。

高校では男子が金沢市立工業高校へ、女子は津幡高校・金沢二水高校・金沢向陽高校・金城高校・金沢商業高校等で活躍し、全国高校総体（インターハイ）で団体優勝が昭和50年度（酒井直人・西川慎一・牧野　裕・岡田常雄）51年度（島崎哲二・山口正和）であり、また男子では山下敏行・林芳広・滝川修・藤橋和俊・[illegible]・羽田俊哉・羽田義仁・村松博・羽田憲治・飯利友幸・板井雅春・中川守・中田茂克・大多晴久・羽田英克らが女子では山内美子・長谷聖華・岡田由美・岡田真澄・川端加世・一木千代乃・中橋利美らが全国大会等で優勝から3位に入賞している。

大学では、それぞれに活躍したが、中でも男子で酒井直人（法政大学）が昭和54年度全日本学生選手権ダブルスに優勝、西川慎一（近畿大学）が同年西日本学生選手権シングルスに優勝するなどすばらしい成績を収めている。女子は、長谷聖華（青山学院大学）が昭和59年度から昭和61年度に全日本学生選手権で上位入賞している。

一般では、男子が県体で昭和54年度から平成4年度まで14年連続優勝し、その後平成7年度に優勝している。同じく女子は、昭和57年度から昭和61年度に5年連続優勝・昭和63年度から平成4年度に5年連続優勝している。

なお、県内各種大会にも積極的に出場し、県民バド大会・勤労者冬季大会・寺井大会等では何度となく優勝し、また、中でも団体のビッグ大会である石川県団体総合選手権大会に男子が昭和57年度、59年度、女子が昭和56年度に優勝している。

さらに、昭和51年11月第25回全国青年大会で第3位、昭和55年11月第29回全国青年大会では、本町バドミントンチーム（折戸勝宏・竹中康弘・川端小夜子・酒井成美）は決勝戦で長崎県代表チームを2－0のストレート勝ちで破り、見事全国制覇を成し遂げた。

これまでは、中学・高校・大学・一般での活躍等を記載したが、次に高松町と我がバドミントン協会との諸行事等について年を追って載せてみる。

①昭和48年9月10日、第1回日中バドミントン大会金沢大会出場の中国チームが高松町へ親善訪問

一行は、団長以下12名で午前中はブドウ園訪問、ゴム入織物工場見学、そして午後からは高松小学校体育館において、待望のバドミントン模範演技となり、中国選手の鍛え抜かれた強烈なスマッシュ、ネットプレーの妙技、華麗な動きに約400人の町民、生徒から歓声がわき自主的にランニングまでする選手からスポーツのきびしさを教えられた。その後、高松中バドミントン部員との交歓練習、中学生側は世界のトップレベルを相手によく食いつき、中国側からも盛んな拍手をうけた。

②昭和56年７月21日、高松中学校体育館改築落成記念バドミントン招待試合の開催

この大会は、栂野尾悦子さんを招き石川県高等学校バドミントンダブルスのベスト８によるトーナメント試合が披露された。その時の高松町出身選手は

羽田　義仁・村松　　博（金沢市工３年）
羽田　憲治・飯利　友幸（金沢市工２年）
乾　　万里（尾山台３年）
長谷　聖華（金沢二水２年）
竹田　裕美（金城２年）
上山由美子（金沢二水１年）
岡田　由美・岡田夕香里（金城１年）
前多　美穂・竹中由美子（金城１年）

③昭和57年１月１日、新年互礼会において高松町顕彰受賞

この表彰は、高松町の自治、産業、経済教育、文化その他の分野で著しく功績のあったと認められる者及び団体を表彰し、もって町の振興と発展に資することを目的とするもので（体育功労－スポーツの振興、体育の向上に尽くし、その功労が顕著なもの）に町バドミントン協会が栄えある団体表彰となる。なお、昭和42年度から今日までに団体で表彰を受けたのはわずか２団体である。

④昭和60年８月１日～６日、全国高等学校総合体育大会バドミントン競技の開催

本町では、２日から６日まで高松中学校体育館で女子バドミントン競技が、６日には個人戦ダブルス・シングルス男女準決勝・決勝が行われた。連日の猛暑の中、白熱した試合が展開され外気をシャットアウトした同体育館は、室温が最高38度にもなるサウナ風呂さながらの様相で、選手も観客も汗まみれの難行苦行ぶりであった。

６日の最終日は、個人戦ダブルス・シングルスの準決勝・決勝で地元金沢市工高の出場とあって館内は600名の観客で埋まりスマッシュが決まるごとに大きな拍手が飛んでいた。勝ち残って母校と郷土の栄光を飾った者、残念ながら敗れ去り捲土重来を期す選手たち。若者たちの熱気は体育館内に渦まいていた。

なお、バドミントンの競技運営面に多大な協力をされた町バドミントン協会の皆さんたいへんありがとうございました。



昭和60年度全国高等学校総合体育大会バドミントン競技　後列左から３人目が栂野尾悦子
（資料：広報たかまつ　昭和60年８月号）

⑤昭和63年度、町バドミントン協会が石川県社会体育優良団体表彰受賞

地域又は職域におけるスポーツの健全な普及・発展に貢献し、体育の振興に顕著な成果をあげた体育関係者及び社会体育団体に贈られる賞である。

協会では、長谷会長をはじめ役員各位が、それぞれの分野で普及強化に努めている。

ジュニア教室は、昭和63年度に開設し森田啓子・小山貴美代・松本伸・酒井直人らが指導に当たり10年が経過し、ようやく軌道にのってきたところである。仲間づくり・体力づくりから更にチャンピオンスポーツへと！

中学校バド部コーチに、昭和40年代から高田一朗が、後に昭和55年から牧野裕、昭和57年から藤橋和俊が加わり、現在は牧野・藤橋が指導に当たり、また高校生・一般の協力を得て競技スポーツを目指して活動している。

家庭バドミントンクラブは、昭和58年に森田啓子、小山貴美代、浅野葉子、多々見治美らによって設立され、毎年責任者が交代でそれぞれの係を決め毎週1回活動している。競技力向上、健康維持、生涯スポーツの観点から各自が個々の目標で楽しみながら取り組んでいる。

これまでの素晴らしい伝統を築き上げて下さった高松中学校バドミントン部の恩師を紹介する。

まず昭和30年代では、山田博(現河北郡バドミントン協会長)が県体で女子2連勝（昭和33年～34年)、昭和35年から村本正昭(現高松中学校長）が県体で女子3連勝（昭和41年～43年）を含む5回の優勝を成し遂げた。また、男子の部を昭和42年に創設し同好者でスタートしたが年ごとに力をつけ、昭和44年に男子初の県体優勝に導いた。昭和45年から森川徹(現津幡町中条小学校長)が、昭和46年に初めて開催された第1回全国大会（都道府県対抗：団体戦のみ)出場、翌年の第2回大会でいきなり準優勝の成績で奮闘した。県体でも、男子が4回優勝、女子も2回優勝し、中でも昭和53年はアベック優勝に導いた。その後、顧問の先生も短い期間で交代していたが、昭和63年から現在まで香林直晴が顧問となり全国大会でも男子準優勝（平成8年)、男子3位（平成6年度)、県体・北信越大会でも数々の成績を残している。熱心な先生方の指導のもと教え子たちは高校・一般で活躍している。

つぎに、町バドミントン協会の今後の展望として、これまで以上にジュニア・中学生の指導育成に力を入れ、更に競技スポーツとして高校及び大学で技術面・精神面を鍛えそれぞれの分野で活躍できる人材が育ってくれるよう将来に向けて努力していかなければならない。また、町内のバドミントン愛好者に環境・場所・雰囲気の提供と、生涯スポーツ・レクリエーションスポーツ・競技スポーツのそれぞれが目指すバドミントンを普及啓蒙していかなければならない。

最後に、県バド協会創立50周年記念誌の発刊にご尽力されている委員の皆さま並びに、県バド協会の今後のご発展をご祈念して、高松町の紹介を終わらせていただく。

（文責　牧野　裕）

七塚町バドミントン協会



会長　奥野好美

七塚町バドミントン協会の歩み

昭和25年、七塚町バドミントン協会長は松田茂であった。

「当時、バドミントン経験者は殆どいなく、私も町の青年団活動をしていた縁で、参加したが、正直なところあまり記憶にない」（松田談）

数年後、故酒井理守（２代目会長）も、選手として中心的に活動しながら、我が町の協会を支えてきた。酒井はその後、10年間程協会に尽くしてきたが、あいにく町の記録が無いためもあって、今の基礎が出来たのは、昭和42年以降である。

紺谷武敏（津幡、法政）をはじめとする男子、女子は南幸枝（藤花、現高島）、米長好美（金城、現沖野）、板井みつえ（津幡、現加戸）、内潟早苗（桜丘、現松村）のメンバーで、この年河北郡体育大会で初優勝。以後３年間女子は連覇した。

「紺谷さんのバドミントンに対する熱い思いで、活動を始めたのが今の七塚町バドミントン協会だと言っても、言い過ぎではないと思います」（沖野談）

昭和48年沖縄国体で、沢野容子（津幡、現奥村）が青年女子で団体３位入賞。昭和49年より石川県民体育大会が、２部制となり、この年から高井京子（津幡、現菊地）、気谷悦子（津幡、現丸山）、伊藤万里子（津幡、現池田）、田丸千尋（津幡、現中嶋）、欅香真澄（藤花、現塩谷）、杉本礼子（河北台商業、現裏野）等を擁して、53年まで４連覇を果たした。

昭和51年、金市工バドミントン部に入部して、初めてラケットを握った酒井修が、インターハイで団体優勝。昭和55年、河北台中学校へ森川徹教諭の赴任。女子部だけであったバドミントン部に、念願の男子部が創部された。昭和57年、第１回石川県中学校選抜大会で、男子Ｓ気谷篤人、Ｄ気谷、田丸忠純組、女子はＤ欅香有里、新蔵直美組がそれぞれ優勝を飾った。

以後素晴らしい成績を収めていく。昭和59年全国中学校選抜大会で、男子Ｄ大塚貴康、田丸裕一組が第３位入賞。昭和60年、地元開催のインターハイでは、協会員が役員として、朝早くから夜遅くまで大活躍し、大会運営に協力した。

選手としては、気谷、西島弘幸、田丸（金市工）が出場し、団体で３位、個人Ｄで気谷が２位、同じく個人Ｄに西島が３位に入賞した。女子は、欅香（向陽、現清水）、中川抄織（金商、現真酒谷）が出場した。

我が町からの大会出場者が多く、町民の応援も大変熱が入り、会場は盛り上がった。秋の鳥取国体では、少年男子に気谷が出場し２位と好成績を残した。

昭和61年男子部創部以来７年、何度も全国



栃木県真岡市総合体育館前で喜びの撮影

に駒を進めながら、そしてベスト４の壁にはね返されながら、ついに悲願の全国制覇を成し遂げた。石川の中学男子としても、栄光の初優勝をもたらした。森川監督をはじめとする、キャプテン花芳秀、エースの北井淳、紺谷幸一、越野史郎、坂野靖、綾瀬寛隆、中村勲、杉浦康弘の各選手。彼らは、「目標は、日本一」と、連日の苦闘に耐えぬいた。

「全国制覇は、何といっても『天の利、地の利、人の利』を得たものであり、感謝の気持で一杯です」（森川談）（『河北台中学校30年のあゆみ』より抜粋）

昭和63年高田雅史、紺谷（金市工）が、インターハイで、団体３位入賞。平成元年気谷（日本大）が、全日本学生バドミントン選手権大会で、団体２位、個人Ｄ１位に輝く。平成２年、櫻井宏子全国中学校総合体育大会で、みごと個人Ｓ３位入賞。平成７年、沖野晶代（向陽）インターハイで団体２位。

平成８年、長年選手不足に苦しんできた、七塚バドミントン男子も、年々強力な選手に恵まれるようになり、県民体育大会で初優勝を飾った。実業団リーグの各チームで県内外に大活躍する選手達が優勝に貢献した。

七塚町民バドミントン大会も、15回を数えた。また七塚ジュニアも創設以来13年になり、好成績をあげてきた。

しかし、少子化の現状はどうにもならず、平成４年中学校の女子部が、廃止となった。今後女子の参加が次第になくなり、活動がにぶるのが残念でならない。

現協会長は、山口秋広（金市工）、有力な男子協会員とともに、現役の家庭婦人も交えての女子会員一同、今皆、燃えている。

七塚町バドミントン協会に今まで、応援、協力してくださった方々に感謝するとともに、これからも御指導、御鞭撻をよろしくお願い致します。

（文責　紺谷　武敏）

宇ノ気町バドミントン協会



会長　大西忰一

戦後新しく普及したバドミントン競技は郡内では小中学校の教職員によってはじめられた。宇ノ気町バドミントン協会は昭和26年に宇ノ気町体育協会の創設と同時に設立され、初代会長は山田博である。山田会長には昭和63年までの長期にわたり協会の発展に力を尽くしていただいた。現在も河北郡バドミントン協会長として活躍している。

草創期より県体が町村対抗となるまで（昭和49年）は郡バドミントン協会の中心的な協会として競技の推進発展に当たってきた。郡体や県体の練習が活動内容の中心であった。昭和35年から45年まで行われた高校新人河北大会を宇ノ気中学校を中心会場にその運営を担ったこともあった。草創期よりその時期までに活躍した人には、吉田与之、山田博、大西忰一、亀坂忍、砂原正己、西村弘、金津真禎、村田和男、森昭夫、山本徹、村本正昭、寺内一郎、中川由記子らがあげられる。



県体会場にて

昭和50年４月より理事長に大西忰一を迎え協会の運営にあたってもらった。その活動内容は、現在も続いているが列記すると次のようなものがあげられる。

・週２回（月、金）の練習

県体が町村対抗となったため、協会の結束と技術の向上をめざす。

・初心者対象の週１回（水）の教室開催

生涯スポーツの一環として同好者を集めて協会員が指導にあたる。

・ジュニア教室の開催（金津・宇ノ気）

・加賀地区中学校新人バドミントン大会（10月下旬）（昭和50年第20回大会より本協会で主管）

・宇ノ気町民バドミントン大会の主催

（３月下旬、100名余り参加）

・各種大会への参加

この頃活躍した人、現在も頑張っている人もいるが、名前をあげると松本忠之、小池田満、長原俊幸、高平嘉津男、南幸子、横山泰子、相川邦子、光林宏美、中島千尋、北義治、林譲治、岡島浩一、光林幸代、西谷千賀子、山本暢子、内田好恵、藤島幸恵、杉本雅恵、今村文恵、松田和代、和田真由美、寺内俊二、山本浩一、藤島誠孝、小池田基らである。

昭和63年４月より会長に大西忰一、理事長に村本正昭をおき現在に至っている。親睦と生涯スポーツの場として協会の発展を願っている。

（文責　村本正昭）

内灘町バドミントン協会



会長　前崎隆夫

沿　革

当協会は、昭和38年の内灘町体育協会と同時に発足した。しかし、当町のバドミントン競技の歴史は古く、昭和24年に内灘町立西荒屋小中学校の教職員が始めた頃に遡る。

当時の教職員であった山田博・河北郡バドミントン協会長は、「当時の校長が、体育館の天井が低いのでバドミントンをしてはどうか、ということで始めた」と話していた。

その後、当協会が発足する際、当時の教職員の方に指導を受けた前崎隆夫が協会長に、北光男が理事長に就任した。理事長はその後、若林弘光・藤田賢英・荒木達行・川崎正一・南歳幸・元林芳枝の各氏が就任し、それぞれ当協会の発展と競技の向上に尽力した。

現在の当協会の役員は、協会長前崎、副会長藤田・川崎・南、理事長元林、事務局岡部悦子の各氏があたっている。

活　動

当協会の活動の目的は、県民体育大会および郡体育祭での優勝であるが、そのために選手の練習・各種大会への参加・ジュニアの育成等も積極的に行っている。

協会員の練習は、水曜日と土曜日の夜８時より行い、ジュニアの指導は、水曜日と土曜日の夕方６時より、宮下晴美・桶谷雅代・元林・川崎の各氏が指導にあたっている。

また、町のバドミントン愛好者を対象に当協会が単独で開催していた、「町民ふれあいバドミントン大会」が、平成９年より「内灘町スポーツ・レクリエーション祭」の一競技として運営されることになった。

その他に、協会員と愛好者が交流する大会として長く続く、町民総合体育大会のバドミントン競技があり、底辺拡大が図られている。

以上のように、競技の普及を図りながら、他方では競技力向上のため、県バドミントン協会の主催する各種大会にも積極的に参加している。

特に、家庭婦人の大会では、石黒洋子・堂谷内まき子を中心に、多数の婦人選手が活躍し、好成績を残している。

また、県バドリーグには男女とも「内灘クラブ」名で登録し、好位置を保っている。

選手達

平成９年度の県民体育大会バドミントン競技で、当町チームは男女とも第３位という快挙であった。ここに選手達を紹介すると、男子は堂谷内均・渡辺秀臣・宮本博隆・神田浩之・奥森勝司・庄田真之、女子は岡部・桶谷・魚棚るみ・潟渕恵子・神田由香・行野千絵であった。

その他に、当協会員として各種大会に参加し活躍している方は、長丸茂人・長丸貴子・舩本長一郎の各氏である。　（文責　南　歳幸）

鳥屋町バドミントン協会

会長　曽山俊和

昭和24年、上坂嘉友の呼び掛けに賛同して角屋力吉、横山円了等、当時の若者たちが集まり、現在のバドミントン協会の基礎を作った。翌昭和25年、運営を円滑にするために鳥屋町バドミントン協会を発足させ、山田新一初代会長の下で組織の充実が図られた。

一般社会人の夜間練習への参加、中学校のバドミントン部設立など、バドミントン人口の拡充が掲げられて活発な活動が行われていたのであるが、昭和42年、生徒会予算上の影響で中学校の部が廃部となった。それを境にバドミントン人口は減少の一途をたどり、協会とは名ばかりで機能しない状態が続く中、昭和49年、県体が市町村対抗となり、必然的に各町に協会を設立する必要性が生じ、昭和51年、心機一転、鳥屋町バドミントン協会が復活する運びとなった。

新たなるバドミントン人口の底辺の拡大を目標に、町の広報で「シャトルを追う」と題して仲間を募ったり、教育委員会や学校、体育協会などへ働きかけが功を奏し、昭和51年、小学４～６年を対象にしたジュニア教室が開講、さらに昭和58年には中学校で部活動復活、加えて昭和55年より、体育協会の年間総合得点種目にもなり広く町民に親しまれるようになった。

新生バドミントン協会と同時に郡バドミントン協会発足、役員に池島隆正が昭和51～54年同副会長、昭和55～58年同会長守山昭二が昭和59～62副会長、平成２～３年同会長を務め、郡内の組織強化に尽力した。

鳥屋町バドミントン協会長も池島隆正から昭和63年度には守山昭二、そして平成６年度からは曽山俊和へと引き継がれる中、人材育成や広く町民へのバドミントン普及に貢献した。

そして、今一つ特筆すべきは、ジュニア教室における北原昭蔵と加津子夫人の長年にわたる献身的な指導、中学生に対する坂本真弓の粘り強い指導である。ジュニア教室で北原夫妻によりバドミントンの楽しさ、おもしろさを知り、中学生になって坂本に一層の磨きをかけられた子どもたちも少なくない。

近年、社会に出て故郷に就職し、協会に入会する若者も現れた。町民においては、平成６年秋から行われている鳥屋町ダブルス大会への出場者も年々増加、少しずつではあるが確実に広がっている。生涯スポーツが叫ばれて久しい中、老若男女を問わず手軽に楽しめるバドミントンが先々町民の中に浸透していくよう愛好者の拡大に微力ながら会員一同、一丸となってこれからも努力していく所存である。

（文責　三野一隆）

鹿島町バドミントン協会



会長　岩井礼二

鹿島町バドミントン協会は、昭和43年に発足し、翌年の11月に協会が設立され、初代会長に合田吉太郎、幹事に泉信男、古澤清二が就任した。

翌年の３月には、バドミントン協会が中心となって第１回の町民バドミントン大会が開催される運びとなった。そして、今もなお、開催されている。

協会が設立されてからというものは、輝く成績が生まれ、その成績を列挙してみると、

※鹿島郡体育大会

37年～56年　男女連続優勝
57年　男子２位　女子１位
58年　男子１位　女子１位
59年　男子１位　女子１位
60年　男子３位　女子１位
61年～９年　男女連続優勝

※石川県民体育大会

50年　男子１位　女子１位
51年　男子１位　女子３位
52年　男子１位
53年　男子１位　女子２位
63年　男子３位

※全国青年大会

50年　第24回大会　優勝
監　督　水田助信　　コーチ　表　辰佑
選　手　松田　茂　　選　手　木下一彦
選　手　浦　由紀子　選　手　寺西加津子
53年　第27回大会　優勝
監　督　沢　昭夫　　選　手　福多正彦
選　手　福井意明　　選　手　滝沢芳子

以上である。

以前から、「バドミントンは女と子供のやるもの」といった偏見を持つ人が多いようであったが、今日では、町民大会や親子大会等が開催され、誰にでも慣れ親しまれるスポーツとして定着してきた。その上、ジュニアバドミントン教室が53年に開設され、底辺の拡大が図られたのであった。その甲斐があって、県中学校体育大会で男子が団体優勝を成し遂げることができた。

近年、当協会では、会員の減少によって活動が停滞気味であるため、会員の確保に努めている。また、小中学生を対象とした指導体制を強化し、後進の養成に努めている。

終わりに、63年にアジア地域スポーツ交流事業（県教育委員会管轄）として香港とジュニアバドミントンの交流会が鹿島町で行われ、たくさんの協会員が審判をして交流の一役を担った。

現在は、会長に岩井礼二、理事長に福井意明が就任して協会を盛り上げている。

（文責　梅澤　博）

第4章

思い出

日本一に輝いた人たち

想い出のかずかず



澁谷工業
澁 谷 弘 利

京大に部を創設

昭和24年、新制大学の１回生として京都大学へ入学した私は、中学からやっていたバレー部へ迷わず入部した。

翌年の夏休みに金沢へ帰ると、バドミントンが盛んに行われており、自宅の空き地にネットを張って初めてラケットを握ってみた。面白くなってきて、京都では兄と２人でＹＭＣＡの体育館へ行った。そこには他の大学の学生も来ており、大学の対抗戦をやろうということになったが、最低もう４人いなくてはチームにならない。教養コースの体育の教授にバドミントン部をつくりたいがと相談したところ、二つ返事でＯＫとなり、体育館を使用してもよいと許可を頂いた。紙や絵の具を買い、〝バドミントン部創む、部員集まれ！〟のポスターを10枚ばかり書いて学内に貼った。

数日後の指定した日には３名の女子学生を含め、10数名が集まったが、ラケットを握った経験者はいなくて、後で分かったことながらバドミントン部へ行ったらメッチェンと会えるぞ、という気概？　で集まってきた野郎達であった。

混合ダブルスで３年連続優勝

兄嫁（旧姓小島信・当時独身）はテニスからバドミントンに移り、練習好きであった。私は大学を卒業し得る単位数を３年間で取得し、４回生の１年間は週に２時間ゼミへ出席するだけで、毎日体育館へ通った。

日本一を目指し、二人だけの練習の日もよくあった。当時の全国レベルのトッププレーヤーの試合があった時に、その球筋や打ち方フットワークをよく見て、それを真似ながら練習に励んだ。

混合ダブルスではシングルスやダブルスと違う取り組み方も考えた。いかに相手側の女性を動かして、チャンスを得るかが勝負所と思い、わが方は私がコートの４分の３をカバーすることを原則としてチームワークを作った。

昭和26年から３年続けて日本選手権で勝つことが出来、今日になってみると、ほんとうに楽しく嬉しい想い出となっている。殊に昭和28年の決勝戦は北海道ペアとの対戦で１セット敗け、２セット11－14からジュースに持ち込み、フルセットの末勝ったのは印象深い。多分、相手は勝てるかもと一瞬思って、無心でプレーを続けることが出来なかったのではなかろうか。私もそれで負けた苦い経験



昭和27年の西日本大会にて優勝

があった。

試合が終わる瞬間まで全身全霊、無心でプレーすることはどんなスポーツでもほんとうにむずかしい。

幻の日本代表選手

昭和27年の日本選手権シングルスでは、第2シードの選手に番狂わせで勝ってベスト8に入った。翌年マニラで行われるアジア大会の日本代表選手として選考された旨、日本バドミントン協会から通知がきた。いそいそと準備を始めていた所へ、マニラでの会場の都合がつかないとの理由でバドミントンほか何種目が中止となり、誠に残念至極、幻の代表選手として終わった。

バドミントンの思い出



金沢医療管理専門学校
北川悦子（旧姓・登）

バドミントンとテニスの選手かけ持ちだった高校1年。バドミントン石川県新人戦に出場した最初から優勝した。それから本格化した。当時、学区制が施行され、各郡以外に出ていた学生も皆戻され、男女が混合され、津幡高校へ集まって来た。部活動も活発化され大西さんがサウスポーながらグループの中ではうまくみんなを集め指導して下さった。

用具のないのを取り合う様にして練習した。

バドミントンクラブが自然と出来上がり体育館の場所取りも必死だった。部の顧問も飯田良信先生になった。練習している間に自然に選手が定まり岩倉衣絵さん、中川としさんと私の三人ペアが出来上がった。

練習の相手は常に男子だった。大西コーチが実にうまく技術を教えてくれた。

2年生から本格的選手生活に入った。

家の手伝いも半分で、放り出してラケットを持って出かけると両親が仕方ないと思ったり、ふくれるやらの父だった。

高校総体、石川県体育大会、国民体育大会、北信越大会、全日本高校選手権大会と予選を含めて相次ぐ試合と練習の毎日であった。

県大会出場都度、決勝戦へ進出した。

石川県大会では、泉丘高校の中井さんと沢田さん、七尾高校の高田さん、羽咋高校の島谷さんが常に激突相手でシーソーゲームを演じていた。

高校時代の私は河北郡高松町中沼に住んで



第５回全日本バドミントン選手権大会女子シングルスの優勝カップを手にして

いた。高松駅まで徒歩30分位はかかった。

朝、家を出るのがちょっと遅くなることしばしばで汽車の線路を通学路にした。

枕木を一歩一歩急いで歩くのも面白かったが遅くなると半分位のところで汽笛が聞こえて息の根が止まる程、走り続けて、駅のホーム近くなると汽車と並行して、やっとデッキの持ち手にブラ下がりよじ登って発車と同じになったりもたまたまではなかった。いつも何人かと同じ事をしていたが、今考えると苦笑せざるを得ない。

団体とか全日本選手権大会には選手として期待をされ、金沢の合同練習場へ朝早くから出かけねばならない日も多く、同じ様に汽車と追いかけっこだった。時にはタッチの差で汽車に乗り遅れることがあると練習場では中島さんや伊藤監督から遅いと大声をあげられた。

練習会場のすぐ近くの金沢住まいの選手は、「今起きて来た」と言って入って来たのを見て、親共々何時間も早くから準備をして走る様にして来たのに、近い人はいいなあと何回も思った事がある。

しかし今にして思えば、会場に到着するまでに近い人より先に走るトレーニングの毎日だったので、人の見えない処で練習になり勝利に導いたんだと思う様になった。勝ったんだと思うと不満が納得に変わった。

金沢女子短期大学へ入学した。５月に初めて一般女子として全国バドミントン選手権大会へ出場。奈良女子大学の体育館だった。

ここでハプニングが起こった。今迄薬嫌い医者嫌いの私は体調を崩すことが一度もなかった。薬ものんだことがなかった。腹痛、風邪薬とも母に見られない様にして捨ててしまって、のんだのんだと言って通して何ともなかった。

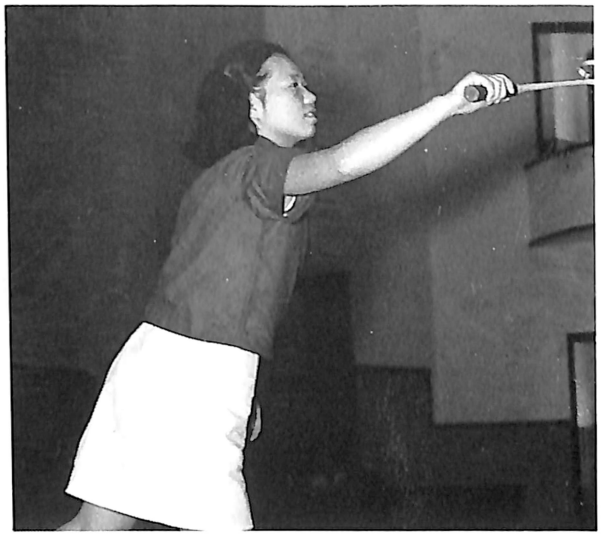
私が大会出発２日前に今迄にない40度の高熱が急に出た。体も動かされず食事も要らない。父母が心配して薬をもらって来たがいつもの様に布団の下に入れてのんだのんだと言った。

出発一日前、熱が下がらず体は痛い。両親はあせった。医者に往診に来てもらって注射をした。身体の中に薬が入った事がなかったのでみるみる内に熱が下がり、夕方には起き上がり軽い食事をしたり、明日の出発の準備を始めたりした。家族は勿論、自分も明日行けるだろうかと心配になった。残念やら悔しいやらの思いであった。出発日の早朝フラフラしながら出掛けた。金沢駅で仲間達の顔を見ると少し元気が出た。

翌日、大会であった。食欲もまあまあながら少し気にしながらの出場であった。

ラケットを持ちコートへ入ると全て忘れ、身心共に立ち上がり、集中して試合にのぞんだ。

１・２・３回戦と快勝で順調に進んだ。い





よいよ決勝戦で愛知県のトヨタ自動車の堀江さんとの対戦だった。彼女は以前から一般女子で女王の座についていた。私は高校から初めての仲間入りなので全ての人達が堀江さんが勝つと思っていた様で、シーソーゲーム接戦の末、最後は堀江さんのミスで私が優勝したので石川県勢も信じがたい顔をしていた。

私も勝った喜びはそんなになかった。自分の素晴らしいスマッシュが入り、最後のゲームセットがあれば勝った実感もあったのかも知れないが無欲のせいかも知れない。

しかし、女子シングルス日本一になって、全日本選手権を得たことは事実で、仲間達が祝福してくれた。北陸電力の西田さん、女子監督の伊藤さん、中島さん、澁谷さん、貝原さん、金沢大学医学部附属病院耳鼻科の石川さんをはじめ皆さんも嬉しそうだった。

金沢へ帰ると金沢駅の改札口に、県庁の方々、金沢女子短大の先生方、父親や友人達が迎えに来て下さっていた。大げさでいっそう照れくさかった。そのまま短大の講堂へ案内された。出羽町の体育館兼講堂に全校生徒が集まっていたので恥ずかしかった。上田学長先生も説明の上、私にひとこと言われて何を言ったのかさっぱり分からない状態であった。

父も同行したと記憶している。

次に出身地の高松へ帰るとまた、高松駅改札口に町のブラスバンドが待っていた。

私を先頭にして音楽演奏しながら町々を歩き、家の玄関まで続いた。その時代のことだから何が何だか分からず恥ずかしかったりしたが、言われるまま歩いた。きっと一番嬉しかったのは両親、私を指導してくれた方々であったと思う。私は無欲の勝利の為、あまり感激はなかった。

本当の喜びと感謝は引退してから感じた。ことあるごとに思い出し、「なせばなる」一生懸命やれば何事も日本一は夢ではないという実感で教訓を得た。日本一なんて大したことはない。この私がそうなんだからと思う様になった。私の今迄の生涯を通じ、一つの仕事を全うするには転んでも球を拾わなければ負けるし、動かなければ勝てないし、練習に励まなければ勝てないという信念が出来た。

この頃の人生の大きな教えはひるみそうな心を支え、元気で明るい人生を歩む自信と支えになっている。

何故、私が勝ったのかを考えてみた。
①父のスポーツへの関心が深かった。
②小さい時から家にピンポン台があり家族でよくした。
③通学路がトレーニングになっている。新興スポーツであった。
④男女共学で男子にきたえられた。共学になっていなければ、勝てなかったかも知れない。
⑤よいコーチ、よい監督。
⑥みんなも思っているだろうが私も思う。

㋑特にスマッシュがうまい訳でもない。
㋺桶谷さんの様にフォームが素敵である訳でもない。
㋩特にこまめに走り廻る訳でもない。
㋥特によいラケット等をもっている訳でもない。
それなのに、どうして勝ったんだろう。
友人は私の特徴はチョロンチョロンと空白へ球をもっていくと言う。そうかも知れない、「カン」が働く方かも知れない。空白コーナーをよくついた。そして私が強いのではなく相手がミスをしたのだ。
㋭青春のときめきもなくおしゃれもなく唯々と練習と試合の為に集中していたと思う。

私の青春の相手はバドミントンであったことが勝利へと結びついたのかも知れない。
今となって改めて御指導頂いた方々に心より感謝と御礼を申し上げたいと思っている。

バドミントンと私



堤紀久子（旧姓・山崎）

石川県バドミントン協会創立50周年を迎えるにあたり、心からお祝い申し上げます。この間、地道に営々と築き上げて、育成して下さった関係者の皆々様に対しては感謝の念でいっぱいである。当時の未熟な私を育てて下さった指導者の方々にも、この場をお借りして厚くお礼申し上げます。
さて、記念誌に何か文章を、との依頼を受け、一番苦手な分野であり、拙文をもって汚すかと思えば身がすくむ思いである。

中学、高校とバドミントンに明け暮れた時代を経て、親元を離れた大学時代の私は、今でいう「燃えつき症候群」におちいっていたのであろう。若気の至りといえばそれまでであるが、20歳を機にバドミントンを封印してしまった。二度とこのラケットを握る日はない、と決心して、大きな箱にすべてしまいこみ、実家の天井裏に放り込んでしまった。あれから17年後、ふと耳にした言葉がきっかけで、再びラケットを手にするようになろうとは。それは男性二人の会話であったが、「バドミントンなんていうスポーツは、しょせん女、子供のハネつきに過ぎないのではないか」という趣意であった。私はその会話を聞きながら、かつて自分がそのスポーツに命を賭ける（？）位、のめりこみ、唯一の精神的よりどころと信じていたものに、泥をかけられた様な残念な気分で一杯になっていたのである。不

思議なもので、その時の本当に女、子供のハネつきかどうか知って貰いたいという気持ちがバネとなり、バドミントンを再開し、グループの人達と現在まで続けている。美容体操を兼ねるなら、これが一番！　週1、2回の心地良い汗は、かけがえのない健康管理につながっている。今は、この楽しさをいつまで続けられるか、ということが、最大の関心事であろうか。

長い人生には様々な挫折がつきものである。ご多分にもれず、私にも山あり谷ありで決して平坦な道ではなかった。でも、そんな時、昔の厳しかった練習や、苦しかった試合を思い出すことで、精神的に負けることなく乗り越えられた気がするのである。これも、バドミントンというスポーツにめぐり合えていたからこそで、体験してきたことすべてが無駄ではなかった、と感じる日々である。

最後に、学生時代、試合中常に呟いていた「攻撃は最大の防御なり」という言葉を、辛い練習に打ち込んでいる若い後輩達に送りたいと思う。

バドミントンと共に歩んだ道



松下　力

高校2年生の時（昭和32年）、全国高等学校バドミントン選手権大会に出場した経験が以降バドミントンを続ける上で大きな意義を持つこととなった。この時先輩に村田和夫、酒井明夫選手がおり、彼等2人の活躍で団体戦においてベスト8まで進むことができた。しかし、単・複に出場した私は1勝もできず、苦く悔しい思いをしたことを今も鮮明に覚えている。先輩達の活躍を目のあたりにし、また、この大会で小宮選手（単優勝者、後の日本チャンピオン）、中村選手（単準優勝者）らの力強いプレーに強く感動し、このことが1年後の大会に向け猛練習に励むことを決意させた。そして翌年、同大会は団体戦では苦戦の連続であったが、何とか、決勝まで進んだものの山形南高校に敗れてしまった。個人戦は単・複ともベスト8であった。しかし、自分の力を十分に発揮できた大会であった。

その後、法政大学に進みバドミントンを続けることになる。高校生当時のライバル達も同校に入学し、その中に後のパートナーになった奈良出身の森や山形南高校の船山らがいた。他校では立教に山形南高校のインターハイ3冠王の板垣、慶応には宮永、明治には三浦といった選手たちが入学していた。その後各種大会で良きライバルとして常に勝負することになる。大学4年間の数々の大会を今もよく記憶している。法政大学はそれまで優勝の経験がなかったが、2年生の時、関東大



第14回全日本総合バドミントン選手権大会男子ダブルスで初優勝

学１部リーグ戦において初優勝、４年生の時インカレの団体戦で初優勝するなど大学４年間は充実した選手生活を送ることができた。

中でも最も印象に残っているのは、２年生の時森と組んで出場した全日本総合選手権大会である。初戦第１シード片石･板垣（兄）組と対戦することになった。だれもが片石・板垣組が勝つことを信じていた。ところが若さとスピードで押しまくった、我々の方が勝ち、大番狂わせを演じてしまった。その後勢いに乗り、決勝まで進み前年度覇者の中村・山田組をストレートで破り、新チャンピオンになった。若さと怖いもの知らずの勝利であった。それから２年間負け知らずの快進撃を続けていった。３年生の時は同大会の決勝で板垣・小宮組と対戦、勝利し、４年生では決勝で永井・小宮組の挑戦をはねのけて３連覇を達成したのである。この勝利について要因を分析してみると、①体調管理が十分であったこと②相手を十分に研究しゲーム中に作戦変更ができたこと③相手の気力、気迫に負けなかったことであろう。この３点を特に重要と考え、現在も指導者として常に頭に置いている。

大学卒業後、電電東京（現ＮＴＴ東京）に就職した。数年間東京でプレーに専念し、その後石川県に転勤となり、現役を続けながら県協会の強化指導等に携わってきた。その間国体に連続10回出場したこと。また、平成３年の国体には指導者として関わり４種目ともに入賞、総合優勝を果たしたことは大変感激した。バドミントンと共に歩んで来た私をこれまで支えていただいた周囲の方々に感謝する。

最後に現在の全日本チャンピオンの竹鼻君や舛田君が大きくはばたいて、オリンピック選手として活躍することを期待してやまない。

私のバドミントン人生



ヨネックス
梅野尾悦子（旧姓・竹中）

昭和45年（1970）、私は、夢にまで見たあの全英選手権シングルス決勝のコートの上に立っていた。

やせでチビでよく熱を出して学校を休むこともあった私は小学６年で137㎝しかなかった。それが中学３年間は無欠席で通せたのは、バドミントンのお陰が大きい。それではどんなにすごい体力づくりのトレーニングをしたのかというと……、つらかった記憶が全くなく、ただ毎日のクラブの時間が楽しくて仕方なかった。

おん馬さん（現高松中学校校長・村本正昭先生）の指導は、ニックネームそのままの人柄でめがねごしの目は優しく大声でどなられることなど一度もなかった。夏休み中に冷やしうどんをごちそうになったことや、郡、県大会の帰りにおごってもらえるのが何ともいえず嬉しかった。中３の県大会前、先生が私達を集めて、「おいお前ら、こんな打ち方もあるがん知っとるか？」と鮮やか？に見せてもらったのがドロップであった。一瞬ポカンとした私達はいっせいに声をあげた。「先生、こんなんインチキや、ひきょうや！」と。これまで教わったことのない初めてのショットが相手をだますようなショットだと抗議した私達は、今の中学生のレベルからは考えられないであろうたわいのないことで騒ぎ、喜々としてそのドロップとやらを打ってみた。おもしろい恰好で打ったといってはコート上で笑いころげたり、練習後のおしゃべりや禁止されている買い食いをしての帰り道、何もかもが楽しくて仕方がなかった中学生時代。

私は、バドミントンと共に歩んできたこの33年間一度もやめようと思ったことがなく、今なおバドミントンが大好きと言わしめているものは何かというと、バドミントンの楽しさを伸び伸びと心にしみこませて下さった、村本先生のご指導が原点であることに間違いはない。

高校３年間は、一言でいうと、土台作り、基礎固めの連続だったといっていい。コーチは二水ＯＢの奥村明義さん。陸鳥から水鳥になったことでフォーム改造にとりくみ、また140g以上もあるラケットのためよく手首を痛めた。週に２～３回しか体育館が使えず、朝練にネットを張って待っていて下さった。夏合宿で体力のなさを知った私は、６時７分の汽車に乗り、学校から野田山まで走り始め、土、日になるとコーチは荷台に山積みにしたぞうりやげたの商売道具を乗せてあちこちと練習試合に連れて行って下さった。高３が金沢でインターハイ開催ということもあり、県の練習会が週２回あり、中島さん、北方先生、河原山先生、松下さん他たくさんの方に練習相手になっていただきアドバイスを頂戴した。

インターハイ、シングルス２回戦は東大阪池田さんと対戦。試合会場の金城高校の応援席からは、両親や兄姉、友人。本部は県バド協の面々。足は地につかず、考えが定まらない。シャトルを見ているのに見ていない状態にプレッシャーと自覚できないまま（11－６、11－０）で完敗し、コーチやバド協会の期待も無抵抗のまま裏切ってしまった。ダブルス３回戦は優勝候補の新潟青陵、相沢、金子組と

対戦。ゲームが始まって間もなく、青陵阿部監督から主審にクレームがかかった。パートナーの坂本さんと私にも十分聞こえる大きな声で、「おさるのかごやじゃあるまいし、あのエッサホイサというかけ声はプレーをじゃまする。やめさせて欲しい」ということであった。当時石川の選手はほとんどが、「いっきょ」、「オーライ」というかけ声をかけていて、2～3回くり返すこともあったが、まさかインターハイ本番でダメと言われるなど思ってもみなかった私達はすっかりしょげてリズムを取れぬまま敗れてしまった。

将来は保母さんになりたいとそのつもりでいた私が、数カ月後には因縁の相沢さんとパートナーを組むなんて誰が想像したであろうか。青陵短大入学後、1カ月ほどのホームシックもあっという間に吹っ飛んでしまうほど目まぐるしい毎日であった。日本のトップも知らない私に、「お前達は世界一になるんだ！」と呪文のように毎日言われた。それだけではない。当時としては斬新ともいえるウエイトトレーニング、サーキット、インターバルトレーニング、心拍数測定、筋肉の名前を覚える、マッサージの仕方を習うなどコート外でさまざまな側面からのアタックを試みる。暗闇の中で音だけを頼りにシャトルを打つ、マスクをしてわざと呼吸を苦しくして動いてみる、2kgの鉄アレイを頭の後ろに持ち、初めは5分、1週間後は1時間の全面フットワーク。名づけて『シェードン』と呼んでいた。又ある日は、練習前に近くのお風呂屋さんへ行き、15分で出てくるよう言われ、すぐ練習を開始する。

毎日が新しく、目を見張る緊張感と期待感でいっぱいであった。私はよく「まぬけ！」と叱られた。負けず嫌いなだけにくやしかったが、虫けら以下に思わせられる程の罵声も自分の実力のなさ故納得するしかなかった。

短大1年の秋、マレーシア、シンガポール遠征に選んでもらえ、出発までの1カ月間、先生は、英会話、マナーなどバドミントン以外の事にも時間を惜しまなかった。それは、「お前達は世界一になれ、そして女性としてもそれに恥じない人間になれ」という思いを常に口にされてきた表れであったろう。

マレーシアオープン決勝で高木、湯木組と対戦した。合宿では今まで1度も勝てなかったのに、(15－11、15－10)の勝利は、今でもラリーの1シーンを思い出せる程強烈な印象が残っている。暑い国は夕方から試合が始まり時にはスコールが激しく水びたしのコートに中断することもあった。マレーシアはインドネシアと同じくらい熱狂的でタン、アイク、ハン、ブンビー、イーカンは国の英雄であった。政府宮廷で行われたガーデンパーティで優勝の嬉しさも加わり、食べたこともないカエルの足やフルーツやジュースをパクパクロにしたのが運のつき、激しい下痢におそわれ一晩中苦しみ、お医者さんに来てもらったが3日間続いた大腸カタルだった。この一件依頼、その後の遠征に1度も風邪をひいたり、体調をくずすことがなかったのは、この時の教訓が効いたのであろう。

相沢さんと組んで8カ月。全日本総合選手権決勝で高木、天野組と対戦していた。組み合わせが決まってから、とにかく高木、天野組に対しての作戦、練習を主体としてきたが大きな作戦は一つ。「ネットから10cm上がったものは全部たたけ！」であった。試合はその通りの展開で進んだ。レシーブの固い二人だ

がそれでも強引に飛びついて、下に向けて打てるものは全てたたいていった。

翌年1月、全日本チャンピオンは全英選手権出場のキップをもらえるが、日本バドミントン協会からの打診は、「個人負担が90万」というとほうもない大金を提示され涙をのむしかなかった。

全日本ダブルス2連勝の翌年は全英への個人負担が60万だった。何としても出場したい。阿部先生の言葉を信じてついていけばきっといつか世界一になれると信じてきた日々を実現できる舞台が全英選手権なのである。親に頼るだけではとうてい間に合う金額ではないが、本間学長自ら新潟市内の新聞社や有力企業をみぞれの降る1、2月の凍る道をカンパに歩いて下さった。県協会も学校からも一人ひとりの温かい応援のカンパをいただいて、ようやくヨーロッパの土を踏むことができたのが、1970年3月だった。

初めてのヨーロッパはレンガ造りのたたずまいで、冬のロンドンはどんよりした空の下にバッキンガム宮殿、ロンドンブリッジ、大英博物館など、歴史の重さをずっしりと感じさせ胸を圧迫してくる気さえした。アーモンドのピンクの花や色とりどりのクロッカスの花が鈍い空にひときわ映える。



1975年の全英選手権で優勝。対戦したイメルダ・テレシャ（インドネシア）とともに

バドミントン選手の全てが目標とする全英選手権のコートに自分が立っている。まぎれもない事実に心がふるえた。シングルス決勝の相手はイギリス、ニールセン夫人であった。20歳の私には、ずっと年上に思えた。よし力で押しきってやろうと思った。ところが欧米人はパワーがある。その上私より経験豊かな分力だけで押しきれないことがわかってきた。馬鹿力だけがとりえのような私だが、ここは前後左右に揺さぶってチャンスに得意のスマッシュで決めていく、足や体力では負けないという感触があった。2ゲーム目マッチポイントを取った時、阿部先生や、コーチして下さった阿部孚さん、本田務さんの顔が浮かんできた。意識しすぎて2～3本取られてしまい、ようやく決めた時、グリップを握っている手がこわばってラケットから離してもグリップを持つ形で固まってしまっていた。

優勝メダルとプレートを手にし感激に浸っている時、コート上へ自分の背丈より大きな花束をかかえてニールセン夫人のそばへ坊やが歩み寄ってきた。「マミィ、コングラチュレーション」とかわいい笑みと共に手渡した。しゃがんで抱きしめ、ほほずりする二人の姿は何てほほえましく素敵だったことだろう。この光景は一生私の胸の中に抱きしめておきたい。

デンマークオープン、全英選手権を通して感銘したことが二つあった。一つは、出場選手の半数いやそれ以上かもしれないがミセスであることだった。当時の日本の常識にはなかった。びっくりした湯木さんや相沢さんと共に、「私達もおばあさんになって入れ歯がネットにひっかかってもバドミントンしてよ

うね」と変な約束をしたものだった。もう一つは、スポーツの原点は何かということをしっかりと捕らえたことだった。北欧の国々には地域ごとにバドミントンクラブがあり専用体育館を備えている。小さな子からずい分年配の方まで自分で会費を払い、コートを予約してバドミントンを楽しんでいる。ガラス張りでコートを見渡せる場所にはレストランバーがありプレーを見ながら歓談する社交場ともいえる。スポーツは生活の一部であり、文化としてしっかり根づいている。そしてこれこそ本当の姿であるのではないだろうか。

〝誰のためでもない自分のためにスポーツする〟という当たり前のことだが今まで真剣に意識したことがなかった。いつだったか阿部先生から「スポーツは自分を表現する一つの手段だ」と聞いたことを思い出した。まさに長いスポーツの歴史を持つ人々はそれらが自然であった。

いつか日本も、特に女性が仕事を持っても家庭を持ってもスポーツを楽しめる時代になって欲しいと心から願わずにいられなかったが、20年以上経た今、その通り老若男女が楽しめる環境や条件が十分になってきていることが何とも嬉しくて仕方がない。

1970年は私にとっても何もかもうまく進んだ一年だった。全英単優勝以下、デンマークオープン複、全米単複、全日本社会人単複、全日本総合単複、国体優勝、アジア大会団体、複と優勝することができ、それらをひっ下げてヨネヤマラケット（現ヨネックス㈱）に入社した。

しかし良い事は長くは続かない。翌年の全英は複3位、単ベスト8、その後のカナダオープンダブルス決勝で体中の骨が砕けたような



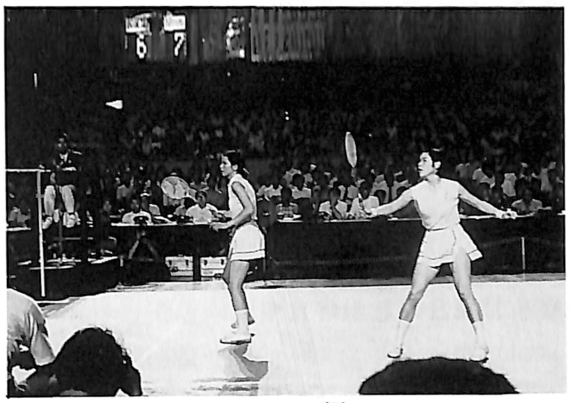
バンコク（タイ）で開かれた1970年アジア大会

音が頭中に響いてひざのじん帯を痛めてしまった。私のバドミントン人生で初めての大きな試練となった。もう一度コートに立ちたいという思いと、もうやれないのじゃ……という不安が交錯する毎日であったが、金沢聖霊病院へ入院した私を郷里は本当に優しく励ましてくれた。友人や先輩、先生方が支えて下さったお陰で7カ月のブランクの末、全日本総合に間に合うことができた。この期間は、絶頂からどん底を味わった私にとって、バドミントンへの情熱をもっと感謝を持って燃やすことができた、大切な日々であった。

社会人となった私達は、自分で何もかも考えて練習していかなければならなかった。それも毎日練習場をさがして開放日の体育館を歩き回った。夢の中に新しいトレーニング法が出てきたこともあり、さっそく翌日試してみたこともあった。

昭和47年（1972）、私達が最も欲しかった全英ダブルス優勝を手にすることができた。二人で長い通路を肩を抱き合い涙を流して更衣室へ向かったのを鮮烈に覚えている。アジア協会長インドのチャダ氏が、「おめでとう、貴女達はアジアの誇りだ」と大変な喜びようだった。男子シングルスはインドネシアのハ





ユーバー杯

ルトノ、女子は湯木さん、男子ダブルスはクリスチャン・チュンチュン組と４種目を制したので無理もないが、アジア諸国、インドも大英帝国の植民地として長い間支配を受けていた歴史を持つだけにその思いはずっとずっと深い所から発せられていたのであろう。この時私は生まれて初めて自分はアジアの人間だと知らされた気がした。

昭和48年（1973）、中国が世界に向けての外交手段としてまずスポーツ外交を始めた。第１回日中友好大会で訪れた北京の万里の長城は中国の歴史全てを代表するようにその英知の偉大さを見せつけられた。シングルスにおいては小島一平さんや湯木さんでさえ半分しか得点できないのに、中国の選手達は「学習」、「学習」とすぐノートを開いて日本の選手の話を書きとめていく姿勢の後ろに、自分は中国の使命を背負っているという誇りさえ感じられた。東南アジアやヨーロッパのバドミントンとは全く違ったスタイルだが、とことん計算しつくし鍛錬されてきた強固さを受けたシャトルが物語ってくれた。「ハッ！」と声を出しながら打つスマッシュ、す速いフットワークは、流れるようなしなやかさからムチのように鋭いショットを放ったルディ、ハルトノとは対照的であった。ウォーミングアップもバドミントンに則した合理的な動作で大変参考になった。それはインドネシアからも学ぶことは多い。シングルスは身体能力そのものが要求されるが、ダブルスはかけひきやコンビネーションも必要としどうにか勝率は良かった。

中国のＩＢＦ加盟問題で日本は中国を支持し、そのため昭和51年の全英には参加できなかったこともあった。又テヘランのアジア大会では、韓国と北朝鮮が対戦したことがあり向かい同士に陣取った応援団は１ラリーの勝敗ごとに目をつり上げてさけぶような大声と怒声がうずまく中を選手達は必死で闘っていた。イスラエルの宿舎の周囲は機関銃を持った兵士が24時間警備をしていた。スポーツの場に政治が介入し選手の意志を無視して振り回されることは今後も決してあってはならないことだと祈るしかない。

私は、今もなお毎日のようにラケットを持っている。自分の大好きなことを職業としていられることはこの上もなく幸せに思う。バドミントンを通して出会えた人々、風景、事柄に少しずつ成長させてもらえたと感謝している。一人でも多くの人にバドミントンの、

スポーツの楽しさを知ってもらうことが私がたくさんの方から受けた恩を返せる方法ではないかと、白いシャトルに込める思いは限りなく広がっていく今日このごろである。

石川県バドミントン協会50周年に心からお祝いを申し上げますと共に、ますますのご発展をお祈り申し上げます。

私のバドミントン人生



三洋電機監督
銭谷欽治

まず初めに石川県バドミントン協会創立50周年を迎えるにあたり当地で生まれ育ち現在なおバドミントンで生計をたてている一人として一言、感謝と御祝いの言葉を冒頭に述べさせていただき、歴史ある石川県バドミントン協会との関わりを想い出しながらペンをとりたいと思う。

私は中学時代（加賀市立錦城中学）は野球少年で、屋外で精一杯汗をかきながら長嶋、王に憧れ末はプロ野球選手にでもとひそかに思っていたのは本当である。しかし私が進学した大聖寺高校はその当時弱かったのである。それとすぐ上の3歳違いの兄、隆詞が大聖寺高校陸上部に所属し、そこそこ頑張っていた影響と担任の陸上部顧問、中川寛二先生の存在もあり何となく迷いながら陸上部に入部。

しかしながら単調な個人の練習に物足りなく又、自己の才能のなさを直感し、退部の相談に行った。そこに私の運命を大きく変え、現在までバドミントンが自己のライフスタイルとなるきっかけを与えてくれた先生がいるとは、露知らなかったのである。

現在金沢二水高校教頭の村西一先生（県バドミントン協会副理事長）である。その当時彼の元には、私の中学野球部先輩の本出芳彦氏をはじめ校区の他中学からの野球経験者が多く入部し、金沢市立工業と1～2位を争っていたのである。

この想いは事実であるが、最初、本出がバ

ドミントンなるものを始めたというのを聞き後輩として野球を続けながら、なんでまた女がやる様なスポーツを始めたんだと思った。要するにバドミントン競技たるものを全く知らず外でやる羽根打ちという認識しかなかったのである。

聖高体育研究室に呼ばれた私は中川先生・村西先生の前に座り、「バドミントンを知っているか」の質問に「知りません」と答え、そして「やってみるか」との質問に「はい、やります」とだけ答えたのを今でもよく憶えている。

人と人との出会いは劇的で感動的ともテレビドラマや映画ではやっているが、私と村西先生、いやバドミントンとの出会いは実にあっけなく、なるべくしてなったと言うか、運命と言うか、何の疑問も不安も持たず、こうして始まったのである。

私も現在3人の父親となりバドミントン指導をライフワークとしているかたわら子供達との少ない接点の中で、何かスポーツでもやりながら普通に育ってくれればと思っているが、全員がバドミントンを始めた時は内心ひそかに嬉しくもあり、やはりカエルの子はカエルになるのだなぁというのを実感した。

しかしそれも原点は村西先生との出会いから始まったのである。無論バドミントンの経験もなし、また今では信じてもらえないと思うが、インターハイという言葉も知らなかったのである。

その当時、加賀地区でバドミントン部があった中学はほとんどなかった状況で、スポーツをする者はほとんどが野球と相場が決まっていたのである。入部後ラケットの素振りからシャトル拾い、サーブ、フットワーク等、慣れない練習も少しずつ打てる様になるにつけ、楽しみに変わっていった。

練習では物足りず同級の上木栄一、近藤朝範、田畑秀樹、吉崎伸一らと早朝、窓から体育館に忍び込み喜々として羽根打ちに没頭していた。その当時の合宿は、教室に畳を敷いて蒲団は自宅から運び食事は勿論自炊である。近藤の父親はなぜか、バドミントン活動に反対で合宿中に息子の蒲団を取り上げにきたりしたが、彼はまた父親の目を盗み、蒲団を運び込むといった親子のバトルを何回か繰り返し、とうとう最後は近藤の粘り勝ちであった。

日大進学後もバドミントンを続け、現在は加賀地区のジュニア指導で本出先輩とともに頑張ってくれている。

野球くらいしかなかったその当時ではあるが、きっかけは別にして、バドミントンを好きになった連中に囲まれながら原点である高校時代を過ごせた事は、今では非常に幸運であったのかも知れないし、またその当時では当然であったのかもしれない。

さて私がバドミントンの試合で初めて泣いたのが、現石川県バドミントン協会理事長、河原山先生が当時、金沢市立工業顧問で、岩手釜石国体（昭和45年）の少年男子監督の時である。決勝戦対奈良県で、ダブルスを落としトップシングルスで青山信吾がポイントをとった後の第2シングルス、エース対決、対巽（正強学園）戦で接戦の末、敗れた時であった。試合後、河原山先生に「おまえには将来がある。大学進学後もしっかり頑張れ」と言われ退場行進の時に涙がとめどなく流れ、どうする事もできなかったのである。

奇しくも河原山先生とは今年の5月以来、日本バドミントン協会強化本部長と私が強化

本部員という関係で日々指導をいただきながら、ともに日本バドミントン界の将来と世界で勝つ選手育成を担っている間柄である。

勝てば優勝という場面で負け、河原山監督の優しい言葉をはじめ、バドミントンを始めてから勝負の厳しさの洗礼を初めて受けた様な気がしたのである。

そして試合で勝って初めて泣いたのが、中央大学4年生（昭和49年）の全日本総合選手権決勝で栂野尾昌一氏（現ヨネックス監督）を破り初優勝した時である。観客席にもどった私に最初に握手をしてくれたのが、偉大な先輩小島一平氏であった。その時もどうしようもなくこれまたとめどなく涙があふれ、止める事ができなかった。

これにはある布石があった。長い競技生活の間、大学3年の時一度だけ腰を痛め約3カ月の間、全く競技から遠ざかった時期を乗り越えた事を小島氏は知っていたし、また陰ながら先輩として支えてくれていたからである。勿論ライバルでもあった。小島氏や秋山真男氏（山梨県バドミントン協会理事長、唯一男子単で全英ＯＰＥＮ決勝進出者）からよくかわいがっていただき練習に呼ばれバドミントンは勿論の事、酒をはじめいろいろな事を学ばせていただいた。今思うと頑張っていたからこれるのではなく機会のみを与えてくれ、自分で学び、悪い言い方になるが、いいものは盗み取り、吸収する事を学ばせてくれたのである。

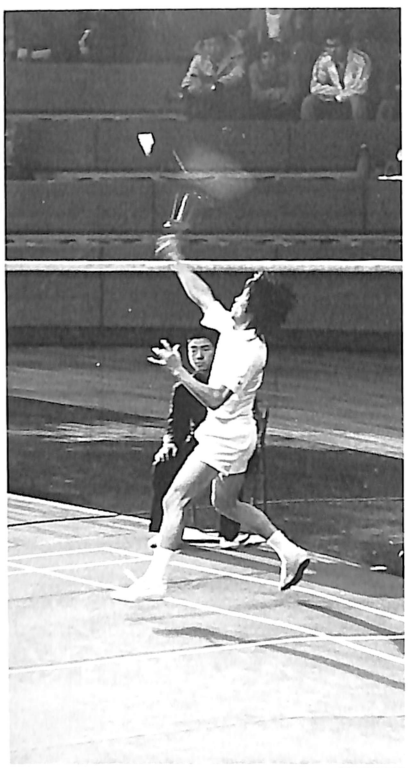
特に小島氏には同じ東京地区にいた事もありよく練習と飲みに連れていっていただいた。何度か酔いつぶれて彼の家に泊めてもらったが、ある年のオールジャパン直後、その時は小島氏が勝ったと思うが、彼の家に行った時、押し入れの襖にオールジャパンのドローが大きくマジックで書いてあり、私をマーキングしてあったのである。これを見た瞬間、今回は「やられた！」と思ったのである。

小島氏には勝負に対する厳しさと思い入れのすごさを学び、秋山氏からは勝負に対するしぶとさと精神的器の大きさを学んだと思う。全日本総合で8度の優勝（男子単）を誇る小島氏をはじめとする先輩方は勿論の事、学生時代に大聖寺に帰省する度に、練習とともによく飲んでいただいたのが、同級生の他、現金沢向陽高校の和田修先生と現在ラケットショップを経営されている長谷川進氏であった。

和田先生は当時加賀聖城高校に勤務され、それ以来おつき合いをさせていただいている。先年全国制覇をされ名実ともに女子高校界のトップ指導者として頑張っておられるのは周知のとおりである。両先輩からは公私にわたり良き相談相手として時々楽しく飲んでいただいている。

昭和59年からはコーチとして三洋電機㈱に入社。立場が変わってのその年、オールジャパンで現役最年長31歳9カ月での7度目の優勝をする事ができた。大聖寺高校での原点から始まり学生時代を経て指導者としてスタートした年の優勝は、各年代で出会ったいろいろな人達から学んだ総決算でもあり、コーチとして学び始めたエキスが利き、今までの優勝の中でも一番内容の充実した、最後を飾るにふさわしい優勝であった。

現在三洋電機バドミントンチームの監督としてチーム指導、運営にあたりながら、チームの勝利、また選手の勝利に何度か涙を流す事ができた。



正直言って自分が指導している選手が勝った喜びは何物にもかえがたい嬉しさであった。

思えば昭和43年からバドミントンを始め、岩手国体で試合に負けて初めての涙を流し、そして昭和49年オールジャパン初優勝で勝利の涙を流し、そして今は指導者として選手のプレーに感動して涙を流す事ができるのも全て、石川県で生まれ、育てられた原点があるからなのである。指導者となってからは四条畷学園の片岡氏、新潟青陵の佐藤氏、熊本中央の工藤氏、埼玉栄の加藤氏、つくば国際大の小島氏、旭川広陵中の中村氏、現金沢市立工業の彼島先生達からいろいろと学ばせてもらっている。

昭和43年村西先生との出会いから多くの先輩、指導者との出会いそして友人、ライバル達を経て現在の立場になり、次代を担う若い選手達特に男子低迷と言われる中、協会役員として今年のオランダJr大会で舛田圭太が日本男子初の単複に優勝。ドイツJr大会でも単2位、複優勝の快挙を成した遠征で私が監督として同行。一年前の全英大会で敗れた時、私の前で涙を流していたのも圭太で、奇しく



ジャカルタで開催されたトマス杯(世界団体選手権、昭和55年)

も27年前の釜石国体とダブり不思議なものを感じてしまった。本県出身者として又育てていただいた一人として協会のますますの御発展と圭太の様な選手育成と世界でのこれからの活躍を切に願いながら御祝いの原稿としたいと思う。

バドミントンの思い出



ＮＴＴ東京
宮森庄吉

初めに、「石川県バドミントン協会創立50周年」ほんとうにおめでとうございます。

私は現在ＮＴＴに勤務しているが、中学・高校と人生の最も重要な時に、良き指導者・先輩・仲間に恵まれたことが今の私がある理由だと思っている。

バドひと筋に20年。

おもしろさ、楽しさを知った中学・高校時代。

厳しさを知った高校・大学・社会人。

そして、鍛えられた社会人。

数多くの方々に支えられたことに感謝している。

私のバドミントン生活は、「悔しさを知ってたくましく」の繰り返しだったと思っている。

中学時代の想い出は、河北郡の予選でなんとか２位となり、県大会へ行っても１回戦負けと言った具合であった。県大会でダブルスも、シングルスも負けはしたが、その時に強い高校に行って、もっとバドミントンをやりたいと思ったことである。幸いにも当時の顧問であった村本先生（現高松中学校校長）から、金市工へ行かないかと言われた時はすごく嬉しかったように記憶している。

翌年金市工に入学した私は、初めて高校の練習に参加した時、何か別世界に来たように感じた。

シャトルを打つ音、練習中の掛け声、トレーニングと、見るものすべてが驚きであった。

入部当時の１年生は10名以上いたと思うが、実力は後ろから２～３番程度だったと思う。

それが、高校２年のインターハイで団体戦に出場することが出来たのである。

準決勝において奈良県代表の正強高校と対戦したが、残念ながら１－３で敗れ、連続全国制覇はならなかった。

試合には負けた訳であったが、私にとっては今までにない〝悔しさ〟を感じることが出来た大切な大会であった。

しかし、翌年のインターハイまでの１年間は、気持ちと県内における試合結果は決して一致しなく、何か空回りしていたように思える時もあった。

そんな時私にとってエピソードと言うか、ある事が起きたのである。

１月の日曜日の練習中であった。金市工の大先輩である東茂樹さん（現倉庫精練勤務）とゲーム練習を終えた直後に「グラウンドを走って来い」と言われたのである。

当然１月のグラウンドは、雪が膝ぐらいまであった。私は裸足で何周もグラウンドを走ったことを覚えている。今思えば頭を冷やして気合を入れてこい、と言うことだったようである。それからは、自分が頑張れば自然



第25回全国高等学校選手権大会で男子団体３位となった金市工チーム

とチームとしての結果も付いて来ると考えられるようになり、気持ちの上で吹っ切れたようなエピソードとなった。

いよいよ高校時代の総決算である、インターハイが茨城県水戸市で開催された。

予定通りと言うか、決勝は宿敵正強高校。

結果は３－０の完勝と思えるスコアであったが、しかし、内容は紙一重だったと思う。

その試合で印象的だったのは、河原山晴夫監督（現石川県バドミントン協会理事長）の間合であった。

トップダブルスで私は酒井直人（現ゴーセン北陸）とペアを組んでファイナルゲームとなった時である。ゲーム終盤13－12と追い上げられ、私もギリギリの状態だったと思う。

こちらのサービスチェンジになるや否や、「１本でいいんや１本で、あわてんといけ」と金沢弁で叫んだのであった。

最後は15－12で逃げ切る結果となったが、その一声が優勝への絶妙の間合だったわけである。ダブルスの対戦相手は、ダブルスの個人戦決勝で敗れた「冨田・吉岡」のペアだった。

その後私は、法政大学に入学。

しかし、高校時代とは違い勇名をはせるなどとは、程遠いものであった。大学卒業時には高校時代の自信は、ただの想い出にしかすぎなかった。



第26回全国高等学校選手権大会で４回目の優勝を飾った金市工

大学時代の戦績で、記載できるものはほとんどない。そんなせいもあって、社会人でのバドミントン生活とか、ナショナルチームを目指してということは、就職先を探している時は考えもしなかったことであった。

ただダメながらも、他人より多く練習をしたと自負だけはあったように思える。

しかし、「縁」とは本当に不思議だなと思うことがある。

実は、高校卒業時一度「電電北陸」に入社が内定していたのを、河原山監督がわざわざ家にまで大学に行かせてやって欲しいと頼みに来て頂き、大学に進学した経緯があり、４年後どういう訳か、今度は池田信孝（現ＮＴＴ東京総監督）氏に「電電東京」に来いと言われ、昭和55年再び電電公社に入社したのである。

私は当時池田監督から電電に来ないかと言われた時、とても悩んだ。理由は２つあった。

当時の電電東京のレギュラー４人全員が、ナショナルチームだったこと。

また、大学時代の戦績ではとても電電東京でプレー出来る自信がなかったこと。この２つが大きな理由であった。自分でも潰れてしまうかなと思ってもいたことを記憶している。

でも、ここでも先輩に恵まれたと思う。

特に印象に残っていることは、初めて大田区の我社の体育館で土田証雄（現ＮＴＴアド勤務）先輩と基礎打ちをした時であった。たった30～40分の基本ストロークなのであるが、土田先輩が言うようなショットは打てるはずもなく、基本練習でフラフラになっている私に、

「宮森おまえは大学４年間なにを練習してたんだ」と一言。とても辛い一言であったが、基礎練習の重要性が身をもって教えられたこと、また私にとって憧れのプレーヤーだったその人に打ってもらえる事、入部すれば当たり前かもしれない事が、私の後々までに大きな影響を与えることになったのである。それは、後輩の面倒を見ること育てることの大切さを知ることでもあった。

社会人１年目は、練習に明け暮れた日々であった。辛くもあったけれど、ほんの少し光が見え始めた年だったかもしれない。

２年目は、先に述べた土田先輩とのダブルスで、全日本実業団、社会人選手権優勝と徐々に成果が出た年であった。ただ土田先輩とペアを組ませてもらった私は、毎日がガムシャラな日々だったと思う。社会人になって始めた昼休みのランニング、寮に帰ってからのフットワーク。特に２年目～５年目ぐらいまでは、定期の月・水・金曜日以外の火・木もほとんど体育館を探し練習をした。

２年目の昭和56年の終わりに、第12回のトマス杯予選メンバーに選ばれてからは、翌年英国であったトマス杯出場など、２度のアジア大会、第13回トマス杯と、日本代表として戦うことが出来、昔の自分を想い出せば信じられないことであり、私にとっては最高の選手生活だったと思う。ただ今も日本代表としての責任を果たせたかどうかは分からない。



昭和62年の全日本総合選手権大会（以降全日本）を最後に現役生活を退くまで、全日本では昭和59年に、井上哲章（現熊本県教員）とペアを組んで唯一の優勝を成すことが出来た。

私にとって全日本でのダブルス優勝は、国内最高の試合で勝てたことはもとより、後輩と組んでいたこと、また３度目の決勝戦であったことなど、その他幾つかの想いが優勝という形で得られ、今でもバド選手として最高の幸せと思っている。

平成２年～５年まで、ＮＴＴ東京女子の監督として、後輩の指導を行い、平成４年の広島で行われた全日本実業団選手権に於いて、男・女アベック優勝することも出来た。

最後になるが、電電東京に入社後、選手として指導者として、私のバド人生は山もあり谷もあった。無我夢中の10年程であった。

これからは広い視野に立ち、私を支えてきてくれた、恩師の皆様、諸先輩方々などと同様に、バド王国石川のますますの発展等に寄与できればと思っている。

私のバドミントン人生



トナミ運輸
気谷篤人

石川県バドミントン協会50周年を迎えるにあたり、心よりお祝い申し上げます。

私がバドミントンを始めたきっかけというのは、中学の体験入部でバドミントンを見に行った時、森川徹先生から「おまえ、明日から練習に出て来いよ」と言われた事からだった。

当時、河北台中学には男子部がなく、森川先生が赴任してこられた年にバドミントン部が出来、私が1期生として入部、3年間とても充実した練習をすることができた。その成果として石川県総合選手権大会中学生の部でシングルス二連覇することができた。

昭和58年4月地元の金沢市立工業に入学、60年8月、私が高校3年の夏には、地元でインターハイが開催された。

チームも、県内でもトップクラスが集まり全員がインターハイ優勝を目指し頑張っていた。

団体戦は、準決勝で優勝候補の埼玉県上尾高校と対戦、第1ダブルスは、私と中川君が組み生井沢・菊地組と試合をし1−2で負けた。シングルスでは、杉岡君と立本君が対戦して0−2で負けて第2ダブルスの山本・西島組まで回すことができず第3位に終わった。

個人戦ダブルスも決勝で、同高校の生井沢・菊地組に私と山本君が挑み、ゲームカウント1−2で敗れ2位という結果だった。

このインターハイは、地元独特の雰囲気や期待がかなりプレッシャーになっていたが、終わってみれば地元インターハイで良かったと思えるほど、地元の方々の声援やOBの方々のアドバイスのお陰で自分の力を全部出し切れた。

しかし、結果的に高校生活の中で一度も優勝することができず「一度でいいから優勝したい」と思い、山本君と日本大学に進学し、大学4年のインカレ個人戦ダブルスで優勝することができた。

山本君とは高校1年間大学4年間ダブルスを組んだが、性格・趣味・行動どれを取っても正反対で、よくパートナーとしてやってこれたなと思う。しかし、この正反対がお互いの良い所を引き出し、悪い所をカバーしあえた最高のパートナーだった。

大学を出た後、山本君は地元の実業団チームの北國銀行入社、私は、富山県高岡市の実業団チームのトナミ運輸に入社し今では良きライバルとして戦っている。

私がトナミ運輸に入社して一番悩んだのはパートナーだったが、2年目で大堀均君と出会い、平成6年の全日本社会人大会、全日本総合選手権大会で共に2位という成績を残すことができた。そして、翌年平成7年12月の全日本総合選手権大会混合ダブルスの部で佐々木忍さんと組み念願の日本一になることができた。

振り返ってみると、中学・高校と大事な時期に森川徹先生、河原山晴夫先生、彼島重範先生という立派な指導者とたくさんの仲間、そして良きパートナーに出会えたことが日本一になれた一番の理由だろうと思う。

最後に、石川県バドミントン協会の発展とバドミントン王国石川で育った選手たちが、一人でも多くオリンピックという大舞台に立てる事を期待しております。

日本一になって



竹鼻拓也

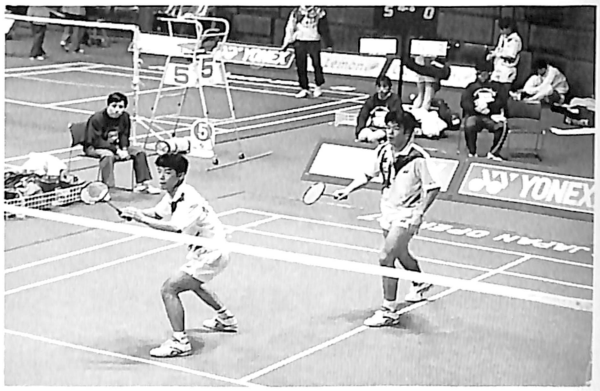
私は、現在、ＮＴＴ東京バドミントン部に所属している。バドミントンを始めて、12年目である。小さい頃は野球選手になりたくて、少年野球を４年間やりとおし投手としてそれなりに成績をのこしたのだが、中学校に入ってから、今でもなんでだろうと思うが、それなりに両親の影響もあったのか、バドミントン部に入っていた。

中学校でバドミントンの成績というとほとんど何もなかった。それでも石川国体が私のちょうど高校３年のとき行われるということで強化指定校である金沢二水高校への進学を決めた。

金沢二水のバドミントン部の顧問である村西先生と出会って、一から十までというのは大げさかも知れないが、沢山のことを学んだ。別に手とり、足とり学んだわけではなかったが、先生との出会いがなかったら今の私はなかったと言えると思う。

そして、法政大学に進学して更にバドミントンを続けるわけだが、大学４年の時、初めて学生で団体とダブルスに優勝することができた。

それから、現在のＮＴＴ東京のバドミントン部に入部して、勝つことの大変さ、勝ち続けることの難しさを身をもって感じている。平成９年の全日本のダブルスに優勝して、ますます、そのことを実感している。勝つことも大変だが、これからは更に努力しなければ



全日本選手権大会優勝。太田（左）、竹鼻（平成９年、名古屋）

ならないということも実感している。

これから選手として、そう長くは出来ないと思うので、悔いのないよう練習に励みたいと思っている。

最後に、石川県バドミントン協会の発展を祈念いたします。

日本一を育てた人たち

日本一を目指して



前金沢市立工監督
河原山晴夫

昭和35年４月、１学年男女で70名位の小中併設校の金沢市立押野中の教諭となった。部活動は男子は野球部、女子はバレーボール部しかない小規模校である。ここで男女のバドミントン部をつくった。運よく３年目で男子が県大会で優勝した。当時は全中どころか北陸三県大会すらなく、県大会が最高の大会であった。指導者にとってこんな物足りないことはなく、高校へ行って日本一を目指したい気持ちが日に日に強まった。そんな折、県・市両方の教委から誘いがあり、昭和39年４月から金市工にお世話になった。

ここでもバドミントン部が無く、１年目は同好会で予算はゼロ、練習場の割り当ても無いところからの出発だった。

「バドミントンの未経験者でも日本一になれるぞ」のキャッチフレーズで部員を募集したところ40名位が入部して来た。火曜日から土曜日までの練習は、金石まで走りそこから砂浜を大野まで往復走り、それから砂の上でのトレーニングだった。当時自分も現役選手（国体で連勝中）だったので生徒と一緒にやったものだった。日曜日だけ小学校の体育館を借りシャトル打ちをした（月曜日は休み）。当初から６年目で日本一になれば良い、それまでは日本一になるに相応しい厳しい練習や、部の雰囲気をつくることに重点を置いた。

その為か、部員は夏休み前には半分の20名位になった。夏休み中は小学校の体育館を借り歩いて、シャトル打ちをどんどんやった。夏休み明けには更に半分の10名位になっていた。結局１年目の部員で最後までやった者は４名だった。彼ら４名共、当時は身長170cm未満の小柄な体格で、運動能力も決して良い方ではなかった。それでも真剣に練習に取り組み、県大会では２年秋から優勝し、３年時には全国総体に出場したが、優勝した宮城工に１－３で敗退した。部の礎を築いてくれた彼らには深く感謝している。

丁度運良く、昭和42年（創部４年目）に石川県で全国総体が開催されることが決まり、県協会挙げて強化に取り組むことになった。中島理事長を中心に、松下強化部長（現副理事長）が指揮を執り、週２～３回の合同練習に励んだ。勿論学校としても、協会におんぶしているだけではなく、近くの大徳小体育館と県体育館を借り練習すると共に、休日には富山県に出向いた。当時日本一であった富山商や高岡商、高岡工芸等強豪チームに練習試合をしてもらった。

選手の技量は日に日に上達するのがはっきりわかる位伸びが早く、彼らが2年の秋に、とうとう私自身が勝てなくなった。そのことが、淋しいと言うより本当にうれしかった。心置き無く現役を引退し指導者一筋で再スタートした。

昭和42年8月地元石川県での全国総体で念願の日本一になった。6年の予定が4年で出来た。地元開催で、県協会挙げてのバックアップのお陰である。無から出発し、諸々の苦難の中、知恵をしぼり地道な努力を続けた結果でもある。この事で「チームを強くするには何が大切か」の基礎が少しわかったようだ。そして何よりも財産は2年、1年の後輩達が「頑張れば日本一になれる」「日本一になるのだ」の気持ちを持ったことだ。そんな気持ちを持った部員がたくさんいることが、所謂伝統のあるチームと言われるのだろう。

伝統を維持し、何度も日本一を狙うのだったら、何と言っても「やる気」と「素質のある」選手が集まらないことには維持出来ない。最初の頃は金沢市内からもそのような生徒が入学して来た。そのうち中心は河北郡以北になった。河北郡の先生方には大変お世話になり、特に村本先生、そして森川先生には言葉に表せない位だ。

受け入れたこちらも真剣だった。上達させねばならない、そして卒業後の進学、就職の面倒もみなくてはならない。よく大学の監督に無理も言ったし、企業の幹部にも頭を下げたものだ。そうすると中学校側は「金市工に送れば最後まで面倒をみてくれる」ということでまた好選手が来てくれた。

そのようなことで、以後44・48・50・51年と都合5回総体で全国を制することが出来た。これは金市工バドミントン部を取り巻く多くの人達のお陰である。特に歴代の選手のお陰だ。中には、体格にも素質にも恵まれないにも拘らず、全国を股に活躍してくれた選手もいる。本当によく頑張ってくれた。「ありがとう」。

現在は県協会理事長の立場にある。幸いにも毎年の国体等で好成績が続いている。ジュニア層からの指導者のお力だ。それぞれの立場での指導者の方々に今後一層のご活躍を期待し、本県バドミントンがますます発展することを念願したい。

日本一になって



和田　修

平成７年は、３月の全国高校選抜大会女子団体優勝、８月の全国高校総体で、女子団体準優勝、女子個人複で、中島珠美・片糸由希子組が優勝、そして10月の国民体育大会少年女子優勝と金沢向陽高校にとって最良の年となった。

このような好成績を残せたのも、選手達が、『日々努力』『継続は力なり』の部訓のもと、頑張ったのはもちろんであるが、それだけではこの結果は残せなかったと思う。

金沢向陽高校全体の強力なバックアップ、石川県バドミントン協会の全面的支援、それに、合宿のおりに、また土曜、日曜日の休日に、学校に来て選手達の練習の相手をしてくれ、厳しく鍛えてくれた北國銀行、ＮＴＴ北陸、金沢市役所、ゴーセン、富山県の三協アルミの、実業団の選手達の協力があったからこそだと思っている。そのほか、個人的にも、油野徳公氏、堂谷内均氏、村本幹夫氏には、毎日の練習において、大変お世話になっている。

この紙面をお借りしてお世話になった方々に心からお礼申し上げたいと思う。

私は、金沢向陽高校に勤務して24年目になる。全国優勝が、私の監督としての夢であり、目標であった。

22年目でその夢を達成することができたが、随分時間がかかった。

優勝のためには随分厳しい練習もしたが、選手達は挫折する事なく、本当によく頑張ったと思う。

私の夢を達成してくれた選手達に感謝の気持ちで一杯である。

国体が終わり、新チームとして活動を開始した。

レギュラーがごっそりぬけて、チーム力は極端におちた。しかし、３年生が頑張って優勝するのをみて、努力すれば、一生懸命やれば、自分たちもなんとかなる、又前年度好成績を挙げているのに、自分たちが、みっともない結果を残せないと思ったのかもしれない。新チームの選手達の、意気込みをひしひしと感じた。

いずれにしても、全国優勝したことが、金沢向陽高校バドミントンにとって、口で言えないほどよい意味で励みになっていることは間違いない。

平成８年は、春の全国高校選抜大会で、個人単で堀哲子が３位、複で堀・奥村亜希代組が３位、高校総体で、女子団体準優勝、個人単で堀・奥村組が３位、秋の国体は４位という結果であった。

昨年度の結果に比べれば良くなかったかもしれないが、選手達は本当に努力したと思う。

平成９年、高校総体個人複で田井美幸・舛田恵組が優勝し、秋の国体では準優勝であった。

平成10年を占う春の全国高校選抜大会を目前に控え、選手達は今年も全国をねらえるチームに成長した。猛練習の毎日だが、来年度も日本一を目指して、監督、選手共々頑張っている。

また、これからもなにかとお世話になると思いますが、よろしくお願いします。

金市工バドミントンと私



金沢市立工監督
彼島重範

平成８年10月、広島国体で、私は監督として、初めて全国優勝を経験する事が出来た。少年男子チームのメンバーは、金市工の３年舛田圭太、２年車浩明、１年酒井忠相の３名である。

インターハイ個人シングルス２連覇の舛田を擁して、最後のチャンスでの、団体優勝であった。

舛田が入学して以降の団体での成績は、次のとおりである。

・平成６年度全国高校総体、団体３位
・平成６年、国民体育大会、少年男子３位
・平成６年度全国高校選抜、団体３位
・平成７年度全国高校総体、団体３位
・平成７年、国民体育大会、少年男子３位
・平成７年度全国高校選抜、団体初戦敗退
・平成８年度全国高校総体、団体ベスト８
・平成８年、国民体育大会、少年男子優勝

以上の大会すべてで、優勝のチャンスはあつたが、ものにする事が出来なかった。

特に舛田が、主将となった新チームの成績が振るわなかった事が、不思議である。

それだけ『日本一』は、むずかしい、というのが実感である。

私が、指導者として、この道に入ったきっかけは、何といっても、高校時代の恩師、河原山晴夫石川県バドミントン協会理事長の影響力が大である。

中学生の頃、体育教師になる夢を持っていた私は、何か一つ、自分の特技を見つけないといけないと思っていた。

当時、バドミントン部に所属はしていたものの、スポーツなら、何にでも興味を示す中学生であり、得意なものは、長距離走とバスケットボールであった。本格的に陸上を始めれば何とかなると思っていたが、高校進学時に選んだのは、バドミントンだった。

その理由は、『日本一』のチームを育てた河原山監督が、金市工にいたからである。

在学中の一コマ。

河原山「おまえら、一生の内で、何かで、日本一になろう思たら、何やったらなれると思う」
生　徒「……（無言）」
河原山「何やっても、そんな簡単になれるもんやない」
生　徒「……（納得）」
河原山「しかしやな、高校で２年半、バドミントンに夢中になって、一生懸命やってみい。日本一になれるんや」
生　徒「……（本当かなあ）」
河原山「日本一ってええもんやぞー」
生　徒「……（よしっ、やるぞ）」

部活動中、何度か聞かされたこの一言で、生徒は、その気になり、一生懸命になって、バドミントンに取り組んだものであった。

高校３年の時に、恵まれた指導者のおかげで、全国制覇を経験させて頂き、その時の感激、何とも言えない満足感を、一人でも多くの後輩達に、体験させたいという思いで、今日に至っている。

大学を出て、新任地の松任中学校で、県大会優勝を目指して、夢中でがんばっていた４年目。河原山先生から、金市工へ転任の話が



全国総体で優勝し金沢駅にて岡金沢市長に出迎えられる金市工チーム（昭和48年）

あり母校へ戻って部の世話をする様になって15年目。国体で、悲願の日本一を達成することができた。

それまで、様々の全国大会で、何度も決勝に進出しながら、目の前の壁にはじきとばされ、事実上の決勝戦といわれる準決勝で、敗れ、２位、３位を繰り返してきた。

その間、絶対的なエース不在に泣く事が多かったが、舛田というエースがいても、同じ事を繰り返してしまった。

結局は、団体で勝つのは、チームの総合力であり、チームワークである。

今までの私の指導は、１に精神力。２に体力。３に技術力。勝つ為には、この３つが、必要だと生徒に説得してきた。今後も変わらないだろうが、時代と共に、生徒達は変わってきている。時代の流れも受け止めながら、一番大切な『こころ』を、指導していきたい。

さて、金市工での15年間を振り返ってみたが、バドミントン協会の存在を抜きにしては語れない。

毎年、恒例となっている、５月の連休合宿、８月の強化合宿、10月の強化合宿と、時期的にはわかっているが、場所等の連絡は、直前でないと通知がこない。いつも、あわてて文書を作り、生徒に渡しているが、そんな合宿に、実に多くの練習相手が、参加してくれる。色々なタイプの相手とゲームをしてもらい、指導を受ける。強化スタッフからも、適切なアドバイスや、叱咤を受けながら、生徒達は成長していく。

また、週２回の強化練習日には、北國銀行の実業団メンバーにも相手をしてもらい、レベルアップに努め、全国大会で、『日本一』に挑戦し続ける事が出来るのだ。

毎年の事ながら、協会スタッフの力強いバックアップに、深く感謝、感謝である。

また、中学校で部活動の指導に当たっておられる先生方には、これまた、いくら感謝しても足りない。毎年、中学校の北信越大会では、圧倒的な力で、石川の底力を見せつけ、全国大会では、ここ数年、常に優勝争いに加わり、いくつもの優勝を勝ち取っておられる。

優勝経験のある中学生を引き受けて、高校で勝たせなければ、申し訳ない。近い将来、第二の舛田を育て、インターハイでの団体優勝を勝ち取りたいものである。

数年前から協会は、ジュニア層の強化に力を入れ、小学生、中学生、高校生と、充実した指導体制を作ってくれた。その事が、今日の石川のレベルアップにつながった事は間違いないと思う。しかし、文部省が同じ事をやり始めた。いずれは、スポーツが学校体育から社会体育へと、移行する時代がくるであろうが、石川県バドミントン協会という強力なバックが、底辺の拡大を援助してくれる限り、石川のバドミントンは不滅である。

皆様と共に、『バド王国石川』を継続し、『日本一』を目指してがんばりたいと思っております。

日本一に向かって
ー思い出のかずかずー



笠野小学校長
森川　徹

私のバドミントン人生は、河原山晴夫先生にご指導を受け、多くの選手や関係者に支えられて歩んできた道であった。

バドミントンのバの字もわからない男が、昭和45年高松中の顧問になるように言われた。「世界的な選手が生まれた高松中バドミントン部、すばらしい指導者、山田博先生、村本正昭先生の築き上げたバドミントン部」を受け持つにはどうしたらよいか、非常に戸惑った。同僚の先生から、「高松には、いろいろ教えてくれる人がいるから、その人たちに習えばいい」と、アドバイスを受けた。

しかしながら、体育館での練習は、ど素人と私と部員たちだけの毎日だった。そんなある日、3年女子の部員をフットワークの指導のまずさから泣かせてしまったのである。コートの両サイドに動く練習で、ラケットで指示するタイミングが悪かったのである。

このことが、私の部活動の顧問としての指導観を変えた。「子供たちを勝たせたい。そして、大きな喜びを持たせるためには、バドミントンの指導をより極めていかなければならない」と、つくづく感じたのである。あの時頑張っていた部員に坂口順子、竹内則子、沖野和代、森田敏子たちがいた。

練習中の体育館入り口の大きな戸が開いた。やって来てくれた人は、高田一朗氏（現・金市工ＯＢ会長）であった。早速、指導の難しさ、悩みを聞いてもらった。また、県内外のバドミントン界の様子も教えてもらった。それから、今後の部活動指導もお願いした。

高田氏の話を聞き、早速、河原山先生を訪ねたのである。「先生、なんとか強い部を作りたいと思います。どうか、強くする秘訣を教えて下さい」、「先生、指導は大変でしょうが、頑張って下さい。何か力になればと思います。部が休みの日には、高松へ行きたいと思います」が、河原山先生との最初の出会いであった。

それ以来、先生に高松に来てもらったり、私が選手を連れて金市工体育館に行って指導を受けたのである。

折しも、高松が生んだ偉大なプレーヤー竹中悦子選手（ヨネックス）が全英で優勝し、高松町に「竹中悦子後援会」が結成されたのである。バドミントンに係わりつつある私にとってたくさんの関係者に会えた。

バドミントンのバの字が少しわかりかけてきた昭和46年、女子が第１回目の全国中学生大会に出場できた。大会会場は、東京都体育館、小さなバッグにウッドのラケットを持って山手線に乗った川端淳子、山本典子、金子ひとみ、瓦小百合、松本明美、沖野千賀子が思い出される。試合は１回戦栃木に勝ち、２回戦高知に敗れた。敗因は、バックハンドサーブ、初めて受けるサーブに目の前が真っ暗、監督の指導不足で子供たちを戸惑わせた。

この年の３年男子部員は、たったの２人であった。後輩と一緒によく頑張った。３学期、「先生、市立工業で頑張りたいです」と申し出てきた少年、滝川修（現甲府商業高校教諭）は、強いバドミントンを求めていたのである。私が金沢市立工業高校に初めて送った生徒である。以後、滝川は、インターハイで単、複

に2位、中央大から甲府商業高校の監督として、今もなお頑張り続けている。

バドミントンを追い求めている彼、高校1年生の時から大学卒業までの7年間、部活動の休みの日、春、夏、冬休みにはいつも中学校に来てくれた。特に、大学時代帰省すると、七尾線高松駅から家の方には行かず中学校の職員室に必ず来て、その日の練習に出て指導してくれるのであった。そして、毎日、後輩の指導にあたってくれた。滝川に続いて、毎年多くの大学生が体育館に来てくれたのである。この大学生の指導によって、中学生の力が、めきめきついてきたのである。

部の指導をして3年目、1年生であった子たちも最上級生となり、全国をめざしてきた。

毎日の練習は、選手自身厳しいものがあった。暗い体育館にスポットライトをつけ、チョークのラインが薄くなるまで動き回った。金市工の選手が練習の休みの日に高松にやって来てくれた。高松中出身の3年山下敏行、林芳広、北憲治、1年の滝川、その他に安原謙二、山森裕志たちが相手になってくれた。相手が高校生であれば、余計に闘志をもやした子供たちだった。特に、安原、山森とは、高校、中学の同学年ということで真剣そのものであった。

彼らのおかげで、郡、県、北三に勝ち、第2回の全中に挑んだのである。金沢から名古屋まで6人の選手はばらばらの席に座り、一言もしゃべらずに戦地に乗り込んだのであった。愛知体育館の練習場で竹中選手に指導を受け決勝戦までいったが、奈良に敗れ2位に終わった。優勝は逸したものの大変頑張ってくれたと思う。キャプテン牧野裕、酒井直人、西川慎一、大門利明、岡田常雄、山下教明の



第2回全国中学校バドミントン選手権大会団体戦で準優勝した高松中学校

6人はよく頑張った。

全中2位の報が高松町に入った。丁度その日が、町制50周年の記念の日であった。めでたい町に花を添えてくれたのである。高松駅に着いた選手を町長さんはじめ多くの町民が駅前に出迎え祝ってくれた。高松町が、ますます、「バドミントンの町」になってきたのである。

暑い夏が過ぎ、葡萄の収穫も終えた48年の9月10日、高松町、石川県に中国羽毛球代表団が来た。曽昭濂、方豈祥たち11名、世界一のプレーを披露してくれた。あの時、強烈な印象を与えてくれたのは、準備運動のすごさ、高い打点からの強打、打たれ強い守備力であった。この中国羽毛球代表団訪日が石川バドのレベルを高めたのは確かであろう。

全中2位のメンバーが、中学での悔しさを晴らすのだと金市工に入学した。他中学出身の宮森庄吉君、水内浩君たちと共に頑張っていた。そして、インターハイで宿敵奈良正強高校を破り、中学での悔しさを晴らしたのである。私は、中学生を連れ金市工体育館によく行った。その度に、ＯＢである東茂樹氏の手厳しい指導を見た。河原山先生の片腕として金市工をより強くしているなあと感じた。

昭和50年、羽田俊哉、喜多義信、中田泰靖、上岸学たちが第５回の全中大会（大田区体育館)に出場した。丁度、金市工のメンバーが日本代表として韓国に行く前日会場にかけつけてくれた。羽田の叔母である竹中選手も応援してくれたが、宿舎のクーラーにあたり過ぎたのか動きが鈍かった。選手の健康管理面での指導力不足であった。昭和52年、第７回大会に滝川守、岡田一成たちを連れて伊勢に行ったが、第５回と同様ベスト16だった。

全中に出てもベスト16止まり、なんとか上位に入らなければと基本の徹底を図り、練習の強化に努めてきた。

昭和53年、男女が県でアベック優勝し、全国のキップを手にした。全中大会の下馬評では、男子が優勝候補、女子も上位であった。私も選手たちもひそかにねらっていた。羽田の次男義仁、村松博、酒井充英、三宅俊二郎そして、２年生の飯利友幸、羽田の三男憲治、女子は、喜多広美、山内美子、乾万里、竹中律子、長谷朱美、川島久美、２年生の長谷聖華、竹田裕美であった。

愛知県体育館の両サイドのコートで男女が戦っている。男子は対神奈川、事実上の優勝戦、１－１となり、羽田で勝負。力尽きて敗れた義仁は、体育館の出口に座り込んだままみんなのいる観客席に来なかったのである。体育館でもっと試合をやりたかったのであろう。責任感の強い少年だった。女子は香川と戦ったが敗れ、夏が終わったのである。

宿舎に帰った選手たちは、「今までバドミントンができたのは、先生やお父さん、お母さんのお陰です。ありがとうございました」と言って、親子共に涙を流したのであった。

翌年、長谷、竹田、東賀代美、沢由香里、竹原良恵、岸陽子が神戸に行ったがベスト16だった。

高松中の11年目、入学する１年生が、60年石川ＩＨ（インターハイ）の３年生になる。６年後の有望な選手の発掘に「竹中悦子バドミントン教室」を開いた。高松中バドミントン父兄会ＯＢの方々の働きかけで、小学校５、６年生を対象に基本指導、サイン会等を計画実施した。県内のトッププレーヤーを招いての教室であった。この教室のお陰で、たくさんの部員が４月に入部してくれたのである。

しかし、新１年生部員を受け持ってＩＨ選手にと思っていたが、河北台中に転勤してしまったのである。

女子部しかない河北台、早速、男子部を創ってもらった。新天地、河北台のスタートである。５月１日は、１年生入部の日である。高松の飯利の父健氏（元金市工ＰＴＡ会長）の勧めで、気谷篤人が入部してきた。きびきびした１年生も入ってきた。男子は１年生だけの部。ＩＨの選手にする子供たちである。ただ、先輩がいなく、うまいプレーを見よう見まねで覚えることはできない。そんな環境で、基本練習とフットワークを重点的にやってきた。２、３年の時の大会には、絶対勝たしたい。毎日、厳しい練習が続いた。

創部３年目、男子が県で優勝した。気谷、西島弘幸、田丸忠純たちは、北信越大会で福井光陽中（全中優勝）に大接戦の末、惜敗、全中出場を断たれたのである。しかし、彼らは、全国レベルに達していた。

県総合選手権でも、気谷が２、３年生連続で県シングルスチャンピオンに輝いた。３年で、田丸、西島も複で気谷、西村と組み１、２位となった。

気谷、西島、田丸と磐香有里はＩＨで活躍してくれた。あの時、県バド協会が選手強化を図っていたことを思い出す。医王山でよく合宿をした。そうそう、この子供たちの時、スピンサーブが認められ練習に時間をかけていたことも思い出す。

先輩のプレーを見ていた後輩たちが全国をめざして一段と力を入れてきた。気谷たちが３年生の時の１年生、大塚貴康、田丸裕一、山口美香たちが北信越大会で優勝し、全中の出場を決めた。大塚、田丸は健闘し３位に入った。

その頃の河北台の体育館、白尾の体育館は高校生、大学生、バド協会の人でいっぱいであった。60年ＩＨの前の年、県協会挙げての選手強化、大会運営準備の年であった。

そんな中、大塚、田丸たちのプレーを見ていた１年生は、「全国優勝」を目標に、自分に厳しい練習をしてきた。キャプテン花芳秀、北井淳、紺谷幸一、越野史郎、坂野靖、綾瀬寛隆、中村勲、杉浦康弘のメンバーが大きな優勝カップを手にしたのである。

昭和61年８月23日、栃木県真岡市体育館、相手のレシーブがネットに引っ掛かった。その瞬間、子供たちは、両手を挙げ、日本一の喜びを体いっぱいに表した。よく頑張った。

バドミントンの指導を始めて17年、その間、いつも心に思い続けていたことがあった。「高校、教員、一般は幾度も全国制覇を成し遂げ、石川県はバド大国として君臨している。その中にあって、なぜ中学校だけが……」であった。勝った瞬間、子供たちに最高の感動を与えることができた喜びと同時に、「ほっとした」というのが偽らざる心境であった。

今振り返ってみるに、この優勝は、県内バドミントン協会関係者の強い願いの表れであり、また、河原山先生のありがたい指導、県内各高等学校の監督の先生や部員、ＯＢ諸兄、県協会現役の選手の指導、高田、山口達夫コーチ、そして、本校武田淳一校長、池上公之先生、野川徹先生はじめ諸先生方の心強い声援のお陰であった。

父兄会からの心温まる差し入れのスイカを食べた後は、猛烈な試合の連続。練習相手の高校生が負けると、体育館横の飛び込みプールの10メートル台の上から飛び降りる賭けもしての真剣な練習であった。

61年の夏が終わり、新たな挑戦が始まった。しかし、翌年、春日井市へ竹谷努と二人で優勝カップの返還だけに行かなければならなかった。全中出場をさせてやることができず、竹谷たちに大変申し訳なかった。

河北台10年目、平成元年、体格の立派な女子３年生。１年の時から６人で集中した練習をし、全中（山口市）に出場した。笠嶋理恵、小寺夕夏、坂野紀子、羽喰涼子、宿野牧子、古谷みなりの６人は、文武両道、勉強もバドミントンも大好きな連中であった。合宿での学習時間は真剣そのものであった。また、今までの20年間の中で、全中の試合で負けて、一番涙した選手たちだったように思う。

この子らを最後に平成２年、津幡太白台小にかわったのである。転勤する時、河北台の３年生の指導を依頼された。

河北台の顧問になった田村隆一先生は、私の20年前と同じ立場であった。でも、若き情熱を持って頑張ってくれる先生と二人で指導することができたのである。

桜井宏子、杉本恵、河内和歌子、笠嶋恵、宿野美和、小寺恵美、能口ゆみ、山口志保子、

山本依子、松原哲也、道正慎一が全中に出場。四国坂出市で戦った。桜井が単で３位と健闘し、全日本のジュニア強化選手にもなった。この子ももう大学４年生、シャトルを追い続け頑張ってくれている。

バドミントンの指導に携わっての21年間はあっという間に過ぎてしまった。その間、すばらしい選手にめぐまれ、たくさんの人たちに支えられながら歩んできた楽しい日々であった。振り返ってみるに、全国大会の１回目から20回までに、男子７回、女子６回出させてもらった。そして、優勝１回、２位１回、３位２回を勝ち得ることができた。戦績は、21勝12敗、勝率６割４分であった。

中学校の指導を離れて、もう８年になる。バドミントンの道を歩んできた子供たちが、よく遊びに来てくれたり、電話をかけてきてくれたりする。元気な様子を見せてくれて、誠にうれしい限りである。

こうして今、協会50周年に当たり昔を振り返らせていただきお礼を申し上げたい。

終わりに、石川県バドミントン協会のますますのご発展をご祈念申し上げる次第である。

日本一になれて



津幡中学校教諭
浅野外志

第17回全国中学校選抜大会（昭和62年）は「目標と自信を持ったチームの強さ」を感じさせられた大会であった。

前年度の河北台中の団体優勝、宇ノ気中の個人複の優勝による「河北を制し、石川を制する者は全国を制する」の自信が選手たちの心を駆り立て、支えてくれた。

郡総体で優勝し、県総体、北信越を制していく過程で、選手達の気持ちは「自分達は全国優勝できる。全国制覇するんだ」へと高まっていき、北信越大会まで以上の闘志を持って全国大会に臨むことができた。

全国大会の初戦の２回戦は山王中（千葉）。練習を見るかぎり負けることはないだろう。その期待通り、３試合とも順調に勝ち３－０。この対戦で、調子に波のある草野孝司・柴田外次郎組が15－３、15－２で完勝し、勢いに乗ったことが本大会の大きなポイントの一つになった。

３回戦は大府西（愛知）。草野・柴田組と単の金津勲で２－０の勝ち。

準決勝は弘前一中（青森）。事実上の決勝戦であった。第１試合の草野・柴田組が15－11、５－15、15－11の苦戦ながらも予想以上の粘りで勝ち、後に続く金津、エースダブルスの大多晴久・竹中新弥組を考え、勝利への期待でベンチ、応援席が大いに沸いた。第２試合は単の金津。彼は、郡総体から団体、個人を通して負け知らずで、ポイントゲッターとし



てチームの躍進の原動力となってきた。しかし、彼の身上である攻撃を巧みにかわされ11－15、10－15でこの試合を落としてしまった。計算外と思える金津の敗戦で重苦しい雰囲気の中で始まった第3試合。大多・竹中組は、気持ちの切り替えも早く、重圧を感じさせないプレーで15－6、15－13で勝ち、難関を突破することができた。

決勝戦は田無一中（東京）。決勝戦という重圧より、準決勝を突破した勢いを持って試合に臨むことができた。第1試合こそ0－2で落としたが、選手達は落胆することもなく、第2試合の金津が準決勝の挽回とばかりに奮起。15－2、15－4で完勝し、チームを活気づけた。第3試合の大多・竹中組は第1セット15－6、第2セットも14－9でマッチポイント。ラリー中、相手のネット前から上げられたシャトルがバックラインを割った瞬間「優勝」。ベンチ、応援席から大きな歓声。部員、家族、指導者らが2年半の間、思い続けてきた瞬間である。

私の体の中は、こみ上げる熱いものと選手や多くの人への感謝の気持ち、そして安堵感のようなものでいっぱいになった。

高松中に赴任したこの年の4月、部活動担当の先生から「バドミントン部をもってもらえないか。今年のチームは強く、全国をねらえるかもしれない」と言われたとき、内心、戸惑いを感じた。私は本校に赴任するまでの10年近くソフトテニス部を指導し、全国大会に出場した経験はあるが、バドミントンに関してはまったくの素人であった。このような自分が顧問になって部員らの願いを叶えることができるだろうか。迷いに迷った。

迷った末にバドミントン部の顧問を引き受けることになったが、練習の様子を見聞きするうちに、それまで抱いていた迷い、不安が一掃された。

カーテンを閉め切った暑い体育館の中で、全員が大きな声を出しながら、きびきびとした動きで基本練習やゲーム形式の練習に取り組んでいる。あいさつもしっかりとできる。なかでもキャプテンの金津は、常に部員の先頭に立って練習をするすばらしいキャプテンで、彼にはずいぶん助けられた思いがする。彼はまた、運動能力に優れているだけでなく、自分で納得するまで練習を続ける努力家で、右の手のひらはいつもマメだらけであった。この金津に負けじと、大多、竹中ががんばる。そして、彼らに引っ張られるように草野、柴田、西孝広らが練習に取り組む。ここまで指導された前年度までの顧問の金津真禎・元外日角小校長、谷中清悟・光野中教諭に対し敬意の念でいっぱいであった。

金津先生は、日焼け止めオイルで背中に全国優勝と書いて甲ら干しをし、日焼けした背中に白く浮き出たその文字で選手を力付けてくれたり、切れたガットを部員に応じた強さに張り替えてくれたり、私にもいろいろと助言をしてくれた。谷中先生は、たびたび手紙で選手を励まし続けてくれた。

一方、技術的な面は高松町役場の牧野裕と高松町教委の藤橋俊和の両氏が多忙の中を毎週末と大会前には必ず指導に来て下さった。普段の練習で、部員がゲーム練習の後などにアドバイスを求めてくることがよくあった。私が「自分のどこが悪かったと思う？」と聞くと、彼らはポイントを押さえた答えをする。「じゃあ、自分で何とかしろ」と言うことにしていたが、次の練習でそのポイントを考えながらするところが彼らのえらい点であったが、それでも納得できないときは、「今度コーチが来たときに教えてもらおう」と課題にしておいた。高松中学校の輝かしい実績は牧野、藤橋両氏の熱心な指導によるところが大である。

この他にも、高校生のＯＢ、ＯＧが自分達の練習の合間をぬって本校を訪れ、真剣にゲームなどの相手をしてくれ、レベルの高い練習をこなすことができた。さらには、度々体育館に足を運んで部員を励ましてくれた父兄の方々の全面的な協力も私たちを大いに力付けてくれた。このような環境のおかげで、私は部員の体調面と精神面のコンディションづくりに専念することができた。

大きな目標を持ち、それに向かって努力する部員、熱心や指導者、そして多くの方々の理解と協力の結晶の「全国優勝」であった。

全中をふりかえって



鹿西中学校教頭
観田健治

「平成８年度第26回全国バドミントン選手権大会男子優勝石川県田鶴浜中学校」というアナウンスが、愛知県大府市体育館に響き渡った時「ついに頂点に立ったなあ」という安堵の気持ちと同時に、一年前の苦い思い出が頭をよぎった。それは前年度の神奈川県大会での準決勝で、後に指摘された〝オーダーミス〟のことである。香川第一中との試合の際、エースの酒井忠相をダブルスにまわして敗退してしまったことである。チームの事情があったにせよ、このことは、私の頭の中から一年間離れなかった。しかし、この年は、団体３位、大畠・山下組が優勝、酒井が３位となりこの経験が次の年の優勝につながったことは言うまでもない。

田舎の小さな学校が、全国制覇出来た要因を門外漢の素人監督である私なりに考えて見ると、第一に、選手がバドミントン大好き人間になっていることをまずあげたい。これは平野武志・平野貢両コーチのお陰であり、とりわけ、相馬小学校時代の貢氏の貢献大である。「鬼ごっこやゲームの合間にバドミントンも教える」と自らも言われているように、子どもの心をしっかりとらえた指導に感心してしまう。

第二に、藤田典和氏に代表される県バド協会の学校セクトを作らない、〝県は一つ〟という強化練習にある。北信越大会での石川県合同ミーティング時の松田新二郎氏の山下淳へ

のアドバイスは、技術的に悩んでいた彼が立ち直るきっかけとなり、私にとっても非常にありがたかった。

第三は、並なみならぬ保護者の方の努力である。過保護にならずしかも監督・コーチとの呼吸も合わせていくことは非常に難しいことである。「パチンコに時間と金をかけるよりも、健康的でいいわね」は、まさに真理である。

第四は、町当局の支援である。特に全国大会には、二度とも、学校前からバスを準備してくれ、他の学校が会場移動に電車やタクシーを乗り継いでいる中、何の心配もなく移動出来たことは、選手のコンディション作り上、どれだけ助けられたか知れない。多くの方々の力の支えや、条件がそろってこその全国制覇なのだとつくづく感ずる。

最後に素晴らしい選手達のことを述べて、終わりにしたい。平成7年度、酒井忠相、大畠隆史を送り出してから、山下淳・広瀬雅士・長尾昌典を中心とした練習が開始された。全国を見据えての部活動であるから、周りからのプレッシャーも相当なものであった。何かにつけ「そんな態度で……」とことある毎に結びつけられ、そんな中で「キャプテン交代」事件があり、ペア変更などが起きた。中学生には精神的支えが必要であることを痛感させられた。しかし彼らは、最後まであきらめず、持ちまえの楽天的で底抜けの明るさを失わずやり抜いてくれた。試合の最中も、常に前向きで、団体戦の山となって準決勝、北海道・広陵中戦で、相手が二年生だとわかると、広瀬・長尾組は「まだ全中に勝つには早すぎることをわからせてやるか……」とコートに出て行き、そのとおり簡単に退けた。

私にとって、本当にすごい生徒達との出会いであったと思っている。新しい発見と感動と驚きの2年間を私に与えて下さった、すべての方々に心から感謝申し上げて、筆を置きたい。

バドミントン石川を彩る人たち

バド狂　50年の足跡



名誉理事長
中島寿禧

協会50周年おめでとうございます。私のバドミントンとの出会いは、戦後間もない、昭和22年第２回金沢国体の時であった。当時公開競技として四高の講堂（現中央公園）で日本バドミントン協会初代理事長の宮沢氏から紹介された。当時競技開催準備に携わっていた私がそれを見て、何と華麗なスポーツだと一遍に虜になってしまっていた。

すぐ仲間達と空き地に縄を張り、始めたのが始まりであった。金沢市バドミントンクラブ（K. B. C）を私のテニス仲間と結成して、小学校の体育館を借りて楽しんだ。ネットも無く縄を張って行う程度のものであったが、[illegible]になってしまった。

すぐ普及活動に廻り、自衛隊や映画館の舞台で紹介したり、K. B. Cの会員の所属職場、Y. M. C. A、貯金局、清水建設、津田駒、興和火災等、次々とクラブが結成されて、皆夢中で取り組んだものだった。

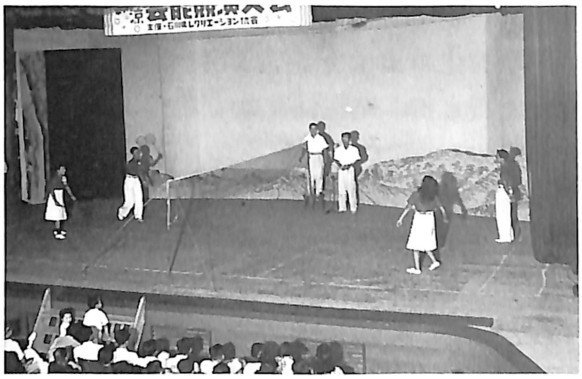
当時レクリエーション協会の杉本氏（朝日新聞社）、生山氏(陸連)、それに富士銀行の人達とK. B. Cが合同で協会結成の話となり、昭和23年１月第１回会議が富士銀行の会議室で開かれ、初代会長に真柄要助氏、理事長に久保田誠氏を推して、協会が発足した。



第１回バドミントン講習会（昭和22年、金沢自衛隊の中庭にて）

当時の石川新聞社が全面的にバックアップしてくれ、普及活動にも一段と力がはいっていき、４月には高岡町中学体育館で、第１回協会結成記念大会を催し、60余名の参加を得て盛大であった。

「バドミントンは日本古来の追い羽根にて親しみやすく、老若男女、四季を通して楽しめる」をキャッチフレーズに、来る日も来る日も各事業所、学校を廻り普及にと、私のバドキチの第一歩が始まったのである。新興スポーツとして加速度的に愛好者がふえてきたが、皆自己流で、シャトル(陸鳥)を遠くに飛ばし、スマッシュで決めるという単純な戦法であったが、南方で経験された爪長氏が会員となり、ドロップ、ヘアピン、また私が長崎



普及活動として北国第一劇場（金沢・並木町）の舞台での一幕（昭和24年）



国体総合優勝表彰式（昭和50年）

のG. H. Q.に単身他流試合を申し込み、見事に打ちのめされた折教わったカット打法を取り入れてから、急激に技量をのばしていき、24年新潟での第１回北日本大会には、全種目に優勝した。

24年の第３回全日本大会を地方では初めて金沢で開催し、23県470名の選手を迎え、盛大に行われ、県選出の中島、香村、波多野、大友、紙尾（男）、貝原、登、高田、成瀬（女）選手等は、各種目に活躍した。

県内におけるバドミントンの関心はますます高まり、金沢医大(現金沢大医学部)、日本硬質陶器、北陸電力、郵政局、また高校では、七尾、泉丘、二水、桜丘、津幡、金商、金市工、松任に部が作られ、一般団体18、高校20となり、更に各都市部に協会が結成され、25年９月に第１回都市対抗大会(片山津)が開かれた。その他、県内においては、県体、北陸三県大会などの活動の機会が与えられ、県外の活動と相俟って、バドミントン王国といわれる基礎がつくられた。

しかし、創成期には、県や他の競技団体からは、「なんだ羽根つきか、女のやるスポーツだ」と常に軽視されていたので、何とかバドミントンをメジャーの仲間入りをさせねば、それには第一に強くなる事、基礎を作り実績を作る事が肝心だと思った。

その為に地方では初めての全日本選手権大会を昭和24年に、全国高校選手権大会を29年に、金沢市で誘致開催した。みんな手弁当で頑張ったものである。

昭和26年第２回大会で３位（泉丘）。27年第３回大会で全国優勝（二水）を果たした。29年第５回大会地元金沢市開催で、二水高校が２度目の優勝、２位泉丘。33年第９回大会２位（津幡）、個人で山崎喜久子（金城）単複優勝、川節子（金城）複優勝。国体では、26年第６回大会一般女子２位、高校男子２位。27年第７回大会一般女子優勝（貝原まさえ・登悦子・高田八重子・岩倉衣絵）、高校男子３位。28年第８回大会一般女子３位、高校男子２位。29年第９回大会高校男子２位。34年第14回大会一般男子２位。昭和26年第４回全日本大会で登悦子単複、高田八重子複優勝。協会発足から発展躍進の足掛かりをつけた。昭和20年代から30年代にかけて、その活躍が第１期バドミントン王国の到来であった。

しかし、その時代には、県、市、体協の援助は一切無く、皆手弁当で頑張り、毎年赤字の協会をどうして運営していくかが、第一の



国体総合優勝時の選手（昭和51年）

苦労であった。シャトルはいたんだ羽根をセメダインで直し、ボロボロになるまで使い、少しでも練習できる様に運動具組合に頼み、協会で使う分は、メーカーより直接分けてもらう許可をもらったり、あの手この手で、大変な時代であった。

昭和35年から45年代は、第２期バド王国の到来である。全日本級の選手として栂野尾（竹中）悦子、銭谷欽治、松下（沢田）力を送り出し、国体では教員男子の５連勝・10回優勝、高校男子優勝、その他上位入賞25回。特筆すべきは、国体で長年の願望であった総合優勝を、昭和50年30回大会（三重）、昭和51年31回大会（佐賀）と連覇し、輝かしい活動を重ねて自他共に認めた黄金時代であった。48年の第１回日中親善競技大会も忘れられない一つの節目であった。

基礎の上でも、大学、高校、中学は勿論、教職員、実業団と組織されており、登録人員も年々増加し、当初の目的が少しずつ強化され、体協に於ける位置も重きをなし、他の競技団体より軽視される事もなく確固たるものとなり、昭和28年より、私は体協の理事として、その活動の場を与えられた。

この土壌に種をまき、苗を育てるには、婦人、ジュニア、社会人層が一体となり、将来の選手を生み出す為の三本柱が必要であると考えた折も折、昭和66年に石川国体という話が出て来た。

先行投資ですでに家庭婦人連盟（お母さんたち）が結成され、その活躍はめざましく、お母さん達の熱意も一段と高まって来ており、次は子供達、小・中学生を含めたジュニア層の結成に力を入れた。当初は中学校の軽い抵抗もあったが、発足間もなく、爆発的に各郡市部に広がり、ジュニアの指導者の賛同を得て、大会出場も制限する程になり、この土壌より、毎年優秀な選手が育ってくる確信が得られた。

昭和50年代に入り、いよいよ66年石川国体が本決まりとなり、運営面の最後の砦である社会人（お父さんたち）連盟の結成に入り、当初の目的の三本柱が出来上がってきたので、後は至上命令である、国体での総合優勝（３度目）になりふりかまわず頑張るのみであった。それも皆さんの努力により達成され、一つの区切りとなり、私の役目も終わった。

戦後、アマチュア協会の貧困赤字財政に苦しみながら、遮二無二普及発展につくして、50年の歴史を積み重ねて、現在、実業団、社会人、家庭婦人、教職員、少年の各連盟も結成され、小学校、中学校、高校、大学とすべての組織がつくられ、登録人員も１万名を超え、羽根つきマイナースポーツといわれてきたバドミントンも、今ではメジャースポーツとしてバドミントン王国を誇っている。

これはひとえに各分野の役員、指導者、愛好者の努力の賜物であり、更に次の飛躍へと翔いてもらいたい。この基盤、土壌が伝統を守り、若い力の育成に最大の力を発揮するも

のと思われる。種をまき、苗を育て大木に見事な花を咲かせなければならない。出来上がったレールを、どの様に舵取りしていくかが、今後の協会に課せられた使命であり、つとめであると思っている。期待している。

プレーヤーとして、監督として、理事長として、半世紀に亘る私のバドミントン人生も終わった。ただ一つ心残りなのは、ともに苦労してきた、故・石川元一副会長の引退の花道を、国体で実現できなかった事が悔やまれる。尚、今日まで良きパートナーとして、協会運営に力をつくされた村西一先生に感謝をして、筆を置く。

こよなくバドミントンを愛した恩師

金沢大学名誉教授
梅田良三

初めに、石川県バドミントン協会結成50周年を心から御祝い申し上げます。

さて、恩師松田龍一先生は、昭和6年から38年に停年退職されるまでの32年間を、金沢大学医学部耳鼻咽喉科学教授として、多くの専門医を育成され、昭和54年に享年81で亡くなられた。その時に先生の弟子の一人である私が丁度教授となっていた関係で、奥様から先生が昭和18年から20年間にわたって記入されてこられた一冊の立派なメモ帳を、遺品として頂戴した。そのメモ帳の記載から先生を偲ぶよすがとして、昭和20年代でバドミントンに関する事項の一部について述べることにする。

昭和23年7月1日、教室勉強会の後に、バドミントンの講習を受ける（二人で来演され、その一人は選手権保持者である）。

昭和23年8月5日、勉強会後にバドミントン協会員の方と練習試合をする。

昭和23年9月18日、長町小学校で石川県バドミントン秋期大会が開かれる。教室から5人が出場し、男子シングルス・ダブルス・ミックスの3種目で優勝。

昭和24年8月20日、石川県第1回体育大会バドミントン（馬場小学校）に松田以下21名が大挙出場した。

昭和24年9月10日、バドミントンの指導を受けた宮地・三浦・中西の3氏を招待し、茶


松田龍一先生

話会。

昭和25年４月14日～16日、全日本バドミントン選手権大会に松田以下５人が出場し、ベテラン複で松田・武内第３位となる。

昭和26年４月６日～８日、第４回全日本バドミントン選手権大会（東京）に松田以下６名が出場し壮年ダブルスで松田・酒井第２位となる。

昭和27年12月14日、越田県バドミントン協会長の招きにより、11名が小松でオール小松とバドをやり、次に御馳走になる。

昭和28年10月18日、金沢大学バドミントン部主催で一般新人選手権大会開かる。

昭和29年１月15日、第１回越田杯勤労者大会（小松市）で優勝する。

昭和29年６月20日、松田杯新人戦の男子複に長岡・佐藤組が優勝する（両人共に現在も金沢市で耳鼻科を開院中）。

昭和30年６月12日、松田杯新人戦のダブルスに吉川・梅田（小生）組が第２位。

最後に一言申しあげる。社会人・学生の新人の登竜門の大会として、昭和27年に松田龍一杯争年新人バドミントン大会が開催され、平成９年度の今日までに第46回と続いていることについては、天国におられる松田先生も大いに喜んでおられることと思う。皆様の御力添えを今後とも宜しく御願い申し上げる。

勝つ為には何をしてでもよいのか



北方　匡

1966（昭和41）年当時、中国はその国の成立過程の問題から国連にまだ承認されず、世界的には正式な国とは認められていなかった。

スポーツの世界でも「ＩＦ」（国際スポーツ競技連盟）に非加盟という事で国際大会に出場する事は認められていなかった。

しかし卓球をはじめ世界のトップクラスの力をもつ競技種目はいくつかあるといわれていた。バドミントンもその一つであった。

その中国が中心となり世界にその実力をアピールする意味も含めて、GANEFO（ガネフォ＝新興国競技大会）なるものをその年の11月20日から12月10日まで、カンボジアの首都プノンペンで開催された。

当時の石川県バドミントン協会理事長であった中島寿禧氏を団長として私も含めて４人の選手が出場した（この事は後日の昭和48年に石川県で行われた、第１回中・日友好バドミントン金沢大会開催の大きな引きがねになった）。「ＩＦ」非加盟の国が中心となる大会に出場する為、一時的に日本バドミントン協会をはなれるが、帰国後も国内の大会出場には支障をきたさないという条件でガネフオに行った。

大会参加のもう一つの意味は、将来正式に世界のヒノキ舞台に出てくるであろう中国チームの視察という目的があった。

帰国後ただちに日本バドミントン協会に、中国チームの驚異的な強さの内容を報告し無事責務をはたした。

その時私がなけなしのお金をはたいて買った8ミリカメラで、中国選手の素晴らしいプレーをつぶさに撮影してきた。その貴重なフィルムを日本でも当時名の知られたある監督さんに、将来の優秀な日本選手育成の為のお手本にしたいという大義名分でお貸ししたが未だに返却は勿論、何の音沙汰もない。

この事と別に帰国後、次年度の国体北信越予選に、現石川県バドミントン協会理事長の河原山晴夫さん等と出場し、1位となり代表権を獲得し、本大会出場の準備練習中の所、私のガネフオ出場についてある県がクレームをつけた事で、本大会出場とり消しと予選2位チームの出場を許可するという通知があった。ビックリ仰天というか寝耳に水というか、その県のやり方にあきれてしまった。100%ゆずってクレームをつける事を許すとしても、予選の試合も済み自チームが負けてからでなく、もし不審であれば予選の試合の前に申し出るのが、フェアな精神というかスポーツマンシップに則るやり方ではないであろうか。

この私のガネフオ参加の為の国体出場停止の件は、スポーツの世界に政治が介入する事の不当さという事で朝日新聞にもとり上げられて報道された。

ゲームをする以上、わざわざ負ける為にする人など一人もない。しかし勝敗は必ずどちらかにある。要はフェアな精神である。人それぞれ何歳迄の命かわからないが、その人の一生をつらぬく気持ちでそのスポーツにかかわっているのであれば、監督、選手、役員を問わず、その競技に向きあう考え方の質がいかに大切であるかは申す迄もない。

賤莫賤于無骨力（賤とは骨力無きより賤なるは無し）。

いやしいという事は、正しい精神的支柱、バックボーン、信念のない生き方ほど、いやしいという事はない。という中国の古人の格言がある。

かがやかしい50年の石川県バドミントン協会の歴史を称賛すると共に、今後ますます充実し隆盛する為、正しい精神的バックボーンを失わず、協会が発展するよう心から祈念いたします。

監督冥利に尽きる30年



石川県協会副理事長
村西　一

現役監督を退いて4年の月日が経った今でも、時として言葉に言い表すことの出来ない空虚感に苛まれている自分に気付く事がある。この事は私にとって高校バドミントン部監督30年（大聖寺高校6年、金沢二水高校24年）の関わりが、今までの人生の中で、大きな比重を占めている証にほかならない。また競技スポーツを通じての多くの人達との出会いと繋がりを体験出来た自分を、幸福に思う時でもある。

監督生活30年間を思い出して見ると、男女いずれかの専門店にすべきとの周囲の意見を無視し、部活動は男女一緒であるべきと、二兎を狙った事。レクリエーション部員や体力づくり部員を包含していては勝てないとの忠告にも耳を貸さず、雑貨店に終始したこと。進学校で何が出来るのかとのそしりをよそ目に、勉学と部活動は両立させて当然と考えたこと。等々、余りにも拘わりの多い監督であったと、反省もしている。しかし、各種全国大会等を加で訪れなかった県は、全国47都道府県中2県に過ぎない。これこそ立派な選手諸君に恵まれた故であり、監督冥利に尽きる毎年であった。当時の選手諸君の競技に対する姿勢、努力、工夫に敬意を表し、改めてお礼を言いたい。加えて、バドミントンなのか？酒なのか？　将又（はたまた）、教育談義なのか？　その原点は分からないが、良く飲み・喰い・話しながら懇意にして下さった全国や県内の部長、監督諸兄氏のご厚情に感謝を申し上げたい。

さて、私の拙い監督生活の中で感じた事柄の一端を、指導者と選手諸君に伝えたい。その一つは、競技力を向上させるに必要な第一条件は、競技に対する姿勢にあるという事である。その姿勢とは、物の見方や考え方であり、問題解決能力に他ならない。単に運動能力が優れているとか、体格に恵まれているとかという狭義の素質のみでは決してない。従って指導者は、勝利至上主義に走る余りに、技術指導のみに偏り、運動馬鹿を作ったり次の段階で競技が嫌いになるような選手づくりを避けてほしい。自分で考え、工夫し、努力の出来る選手に育ててほしいものである。各種チャンピオンの養成は目標ではなく結果である。あくまでも選手各自が、他の地域社会で、職場で、仕事上のチャンピオンたらんとし、楽しく、強く、大きな人生を送れるよう指導・援助をしてほしいものだ。

選手諸君。〝練習は嘘をつかない〟という言葉がある。試合で勝ちたいと思う人は全員であっても、勝つ為の努力、工夫をしている人は意外と少ない。指導者がいない。練習時間や場所がない。金がない。選手が集まらない等、愚痴ばかりの議論に終始し、肝心の練習方法や特に練習内容に努力や工夫を忘れてはいないか、今一度チェックをしてほしい。また競技力の向上は素質のみではないから競技生活途中での逆転現象はあり得る。人には早生もいれば、晩生もいる。現時点での満足や悲観はナンセンスであり、更なる目標に向かって頑張ってほしい。

最後に諸先輩が脈々として築かれてきたバドミントン王国石川が、その名の通りの実績を保ち、岡田会長と河原山理事長を中心に、更なる発展が出来るよう微力ながら尽くしたい。

未来に向かって



長谷川スポーツ
長谷川進

縁あって平成10年度より金沢学院大学バドミントン部のヘッドコーチを引き受けることになった。藤花高校教員時代より実に22年ぶりの現場復帰といった感じである。途中、国体成年男子監督、北國銀行男子コーチとあったが、監督、コーチというより相談相手、助言者といった程度しか出来なかった。それは私の取り組み姿勢の不足と相手が自分のバド観を確立しているりっぱな社会人だったからと考える。

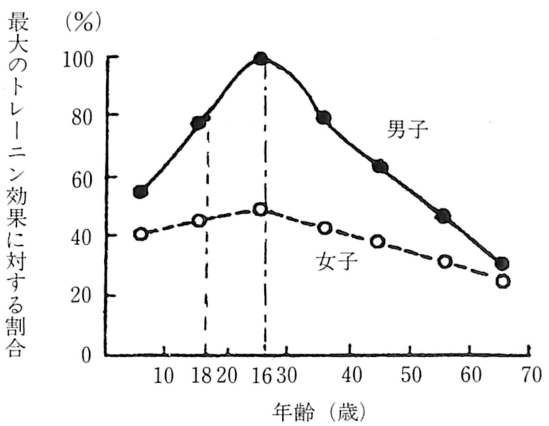
来年からの学院大での対象は18歳の男子、まさに熱い鉄である。心身ともに鍛えるには一番可能性の高い大切な時期である。ただ学院大に入学予定の約８名の内、インターハイ個人戦出場者は３名、全国レベルになると１名だけであるが「これだけのメンバーで結果を出せ」という天の声と受け止め、このような場を与えてくださった岡田学院大理事長はじめ学院大関係者の方々に感謝するとともに期待に応えられるよう頑張りたいと思う。

さて毎年ジャパンオープンを観ながら全国の指導者といろいろな話をするのが楽しみのひとつであるが数年前に「高校時代、韓国、中国と対戦しても、けっこうバドミントン(勝負)になっている。それが１、２年たつと、すごい差だ。特に男子はひどいね」。これはナショナルチームに何人もの選手を送りこまれ日韓中高校大会の常連某監督の談話の一部である。要するに日本では大学１、２年にかけて伸び悩みし韓国、中国等はこの時期に急速に力をつけている、ということだと思う。

ところで日本アマスポーツ界では一般的に小学校、中学校、高校とそれぞれの時代に華々しい全国大会があり、一部の選手を除き殆どはそれぞれの時代で指導者が変わり、そしてそれぞれの時代で『勝つ』ことを周りから期待される。したがって長期的展望に基づいた土台作りをしている時間と余裕がとりにくいのが現状だと思う。

いま我が石川バドミントン界はかつて無い黄金時代を迎えている。全中、インターハイ、国体と輝かしい戦績のラッシュである。ただ残念なのは成年が直接参加していない事である。好調なこの時期に将来に対する備えが必要なのはいうまでもない。

学院大バドミントン部の頑張りが成年のレベルアップ、ひいては石川全体のレベルアップにつながる事と日本の大学バド界に一石を投じることを確信し、今後とも、皆様方のご支援とご指導の程よろしく、お願いいたします。



筋力トレーニング効果の性・年齢別差異
(ヘッティンガー、1968)

志あるところに道ありき
－可能性に向かって－



舛田圭太

石川県バドミントン協会創設50周年おめでとうございます。そして、50周年の節目の時期にプレーができ寄稿できることを光栄に思います。

ものごころがついたときには、すでにラケットを握りバドミントン競技の〝とりこ〟になっていました。決めるか決められるかのスリル、スマッシュが決まったときの喜び、更には試練を乗り越え勝った嬉しさ等、楽しみながら競技に取り組んでいたことを覚えています。

そして、そのころ、いつかは全国や国際の舞台で活躍したいという意識が芽生え始めました。

中学生の時は、全国中学校選抜大会に出場でき、シングルスの２回戦で第３シードながらファイナルゲーム０－９となり、劣勢から14オールのセッティングに持ち込み勝利を収め、あとは順調に勝ち上がって３位入賞を果たしました。

その成績と夢をもって、憧れの金沢市立工業高校に入学しました。環境に恵まれた金沢市立工業高校では、夢が現実となり、自分の力以上の成果が得られました。金沢市立工業高校で、また石川県でやれたからこそいまの自分があるのだと、心から感謝しています。

高校在学中、多くの立派な指導者の方に巡り合え、指導を受けましたが、特に彼島先生は、技術指導はもちろん選手のためにという熱意が伝わってきて、先生の存在自体に安心感が得られ、自分を信じて理解してくれる先生に少しでも応えたい一心で「不思議な力」が湧き上がって来たように感じました。

そんな日々の中で二つのことが特に心に残っています。一つは、高校に入学して間もないインタハイ県予選団体決勝戦の第１シングルスで、団体経験のない僕を抜てきしていただいた事です。まさか使ってもらえるとは思わなかった僕は、信頼に応えようと、また先が明るくなるのを感じ夢中で与えられた試練にのぞみました。

もう一つは、３年生の広島国体を前にした海外遠征で、国体優先で出場を取りやめるよう迫る関係者に対して、僕の海外遠征もしたい気持ちを察し、先のことを考え「両方とる」ことをすすめてくれたことです。遠征に行けないと思っていた僕は、絶対やってやるという気になったことはいうまでもありません。

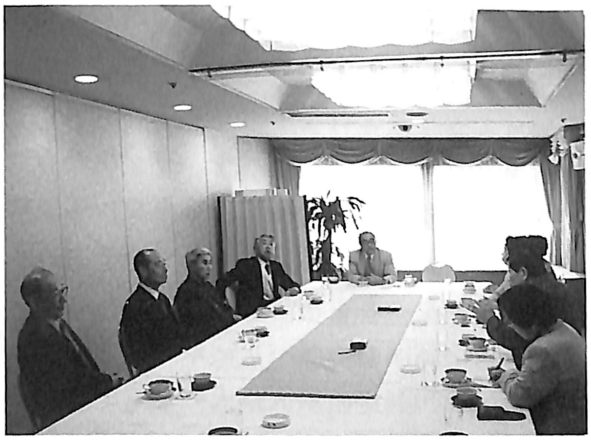
インタハイシングルス２連覇、全日本ジュニア優勝、オランダ国際ジュニア単複優勝、全日本総合シングルス２位、そしてどの大会よりもしたかった団体の国体優勝と多くのすばらしい経験ができました。

今、大会結果を振り返ってみて、「県初、史上初」や「何年ぶり」ということが多いことに気づきます。これまで教えていただいたことを糧に、「誰もやらないことをやる」ことを信条とし、未知への挑戦を更に続けていきたいと思います。２年後には、お世話になった先生方に県内初のシドニー行きの切符をプレゼントすることを約束いたします。

そして、僭越ですが一人でも多くの方がバドミントン競技に注目する一助になればと思います。

最後に、自分をここまで育てていただいた郷土の協会が、ますます発展することを心よりお祈りいたします。

座談会
バド王国を築いた礎



期　日　平成９年11月25日(火)
会　場　金沢ニューグランドホテル
出席者　大友佐泰　北川悦子　香村高璋
　　澁谷弘利　爪長憲一　出口まさえ
　　中島寿禧（50音順・敬称略）
司　会　河原山晴夫　菅井由美子
記　録　棒田昌生

河原山●本日は貴重なお時間をさいていただき、お越しくださいまして誠にありがとうございます。私、現在、中島前理事長の後を受け継いで理事長をしております河原山と申します。

今年は協会創立50周年を迎えますので、50周年記念誌を作ることで現在着々と作業をしている途中でございます。その記念誌には創設時に大変ご苦労され、またご活躍をされた方々に思い出話をしていただいて、記念誌に載せたく思っております。本日は大先輩の皆さん方に、忌憚のないご意見やご経験について何でもよろしいのでどしどしご発言をしていただきたいと思います。

それでは最初に自己紹介を、まず協会側からいたします。

棒田●棒田と申します。今、金沢商業高校に勤めております。50年史の編集をしております。

菅井●菅井と申します。県協会の常務理事として会計を仰せつかっております。

北川●旧姓登でございます。本当にお世話になりました。今、北川悦子でございます。仕事はバドミントンを引退した頃からクッキングスクールをやっておりまして、今、金沢医療管理専門学校をやっております。

出口●旧姓貝原でございます。現在尾口村に住んでおります。主婦でございます。

大友●大友でございます。昔、ＫＢＣでバドミントンをやっていました。それから後、金沢大学に入りましたが、２年の時に石川プレートという会社を始めて、その時点でバドミントンをやめました。その後、昭和40年にバドミントンをもう１回したくなりまして、


澁谷弘利さん

松任にバドミントン会館を建て、そこで少年、ママさんの団体戦なんかをやったりして遊んでいました。また、少年の部の子供の育成を2年か3年ほどやりました。

小学校4年ぐらいの時に、そこで育った子らがいま大学を出たという年頃でございます。私も続けてやろうと思ったけれども、心臓が続かなくて、バドミントンをやめました。ゴルフも中途半端、平成元年に息子に会社の社長を譲りました。今、会長として好きなように人生を送らせていただいております。

爪長●爪長でございます。仕事は農業をやっています。昭和18年に白紙(しらがみ)動員で徴兵されてスマトラへ渡り、スマトラのソロウという町で初めてバドミントンというものを見たんです。何だ日本の羽根つきじゃないかと思ったが、向こうは国技ですから随分と盛んにやっていました。それを3年間習った。習ったと言うんかね、遊びでやっていてまさか日本でバドミントンというとは思わなかったですね。昭和22年の金沢での国体の時に神奈川県の人が金沢へバドミントンを教えにきて、金市工の講堂でやっていました。

私はそれを見て、こんなところでバドミントンができるもんかな、じゃあやってみようと始めたんですよ。そしたら、3年間やっていたから結構上手やったんかね。神奈川の人は、「あれ、石川にこんなできる人がおるのか。ひとつ協会でもつくってやってくれんか」と。そんな話があったけど、もちろんやる気もなしに、そのままの状態で何年か過ぎ、ここにおられる人らが何かクラブをつくったと聞いて、交ぜてもらってやったんです。

中島●中島です。女性と一緒で、旧姓三浦と申します。選手として一生懸命やっとった時分は三浦でやっていたんで、日本協会や全国でも三浦で通っております。選手を長年やっている間に結婚の話も出まして、そして中島家へ養子に行ったということで、現在中島と名乗っております。

澁谷●澁谷でございます。今、話が出た金沢での国体の時は、私は中学の3年生。その当時バレーボールをしていて、ラインズマンにかり出されたことを、思い出しました。中学生から、旧制四高の間バレーボールをしていました。昭和24年に京大に入ったんですが、大学2年の時、夏休みに帰ってきましたら、森山町の小学校だったと思うんですが、石川県のバドミントン選手権があり、見に行きました。中島さんが首から胸へアスコットのようなのを下げていらして、バドミントンって格好のいいスタイルでするんだなと、思ったことを今でも覚えています。

女性の羽根つきぐらいに思っていたのが、やり始めたら非常に面白いんです。昭和25年に、京大バドミントン部を創設しました。

金沢へ帰ってきたのは昭和28年。京都のバドミントン協会が昭和26年にできたと思うんですが、石川県の協会は先進県というか既に出来上がってやっていた。

そこへ大学を卒業して帰ってきて、一緒にやらしていただいて、中島さんともダブルスを組んで国体にも行きましたし、楽しい思い出で一杯です。

香村●香村高璋です。私は三浦さんと同期で

金商を卒業しました。金商時代には軟式庭球をやっていまして、卒業して彼は運動具屋さんに勤め、そこでバドミントンというのが流行ると、お前もやれと勧誘されました。それが始まりなんです。

会場設営など、なんでも一緒になってやったんです。いくつの時でしたか夏休みに盲腸になりまして、それでバドミントンをおしまいにしたんです。それから、菓子の卸しを始め、今も、現役で走っておるんですけども。それからはずっとご無沙汰で今はもっぱら春は山菜採りやら、イワナ釣り、夏は鮎釣り、秋はコケ採りやら、芋掘りに行ったりして、まあそんなことをして生きています。仕事が忙しいもんですから、なかなか暇がなくて。

バドミントンに関しては24歳の時でしたかな、盲腸になったのは。それまでに何回か国体やら全日本やらという所へ参加させていただきまして、結構思い出があります。

バドミントンの普及

河原山●ありがとうございました。それでは、まず最初にお聞きしたいのは、爪長さんがインドネシアでバドミントンをし、戦後、帰ってこられた時にはまだやる相手もいなかったらしいんですけど。最初に爪長さん以外でバドミントンを始めた方はどなたですか。

大友●中島さんと私です。中島さんらと一緒に大島運動具屋の前で。その時分宮地さんとか富士銀行の久保田さんとかも一緒でした。

河原山●久保田さんは初代理事長ですね。

大友●そういう人たちと一緒にルールブックを開きながら、腰から下でサーブをしなきゃいけないとか。皆さんテニスをやっていたもんだから、スマッシュはできる。腰から下でサーブし、相手がスマッシュをポンと打ったら、その時分はとれるはずがないんですよ。


香村高璋さん

大島運動具屋の隣に教育委員会がありましてね、そこがちょっと引っこんでいて、風がないもんで、最初は羽根つきでしたな。

中島●アウトドアだったな。

大友●その後、バドミントンをしたのは、今の片町の芝寿しのあるあの角にフラワーガーデンがあって、そこでもやったな。それから学校を借りて歩いて。

河原山●その頃されたのが中島さんと大友さんで、後は学生とか社会人の方々が始めたわけですか。

中島●そうですね。勧誘ですよ。今大友くんが言われたように、そのグループで縄を張って外でやりだして、外じゃ風があるから学校を借りようかと言って講堂を借りて。まあ5、6人やね。そしてやっぱり仲間が多いほど楽しいから、増やそうじゃないかということで、それから普及活動に入ったわけです。

大友●中西くんとか。

澁谷●大島の運動具屋の前でやったのは何年でしたか。

中島●昭和22年。

大友●国体が済んだ後ですよ。

河原山●中島さんは、その国体でバドミントン競技を見られたんですか。

中島●世話をしとったわけ。私は運動具屋に


中島寿禧さん

おったから。コーチというか、講師もうちを通じてやっとるもんだから。会場の設営とか、いろんな国体の世話をしとったんです。

河原山●それがもともとの始まりですね。オープン競技、石川県で。

中島●オープンじゃなく公開競技。同じことだけど。ただ紹介やね。

大友●こういう競技があるという紹介だけだったんですね。

澁谷●そこにはどういう選手が来たんですか。

中島●初代理事長の宮沢さん。宮沢さんが連れてきたのはナルトスポーツの相馬さんとか。４人来たんや。

河原山●そして22年の国体が終わって、23年から女性の方々も入ってきたわけですか。

澁谷●その先にね、県の協会は誰がどうしてつくったとかその話を。

中島●だから22年にそういうグループができていたから。そしたらね、レクリエーション大会というのがあったんですよ。それは朝日新聞社が主催してて、杉本さんとか池山さん一緒になっているレクリエーション協会。そのレクリエーション協会について行ったのが、ニシナガ運動具店。お互いに仲良く一緒にやろうということで会議を持ったのですが、向こうは全然できてなかったんですよ。

澁谷●向こうってニシナガの方。

中島●ええ。レクリエーション協会の方は、５、６人グループで行ったのに。そして富士銀行の人も仲間にいたから、そこであちこち呼びかけて。

大友●富士銀行の久保田さんとＹＭＣＡの高山さん、それから自衛隊の宮地さん。

中島●興亜火災の福田さんとか、清水建設の土井さんとか。

協会づくり

河原山●具体的に協会づくりというのは、どのようにやられたんですか。

中島●23年の１月に、富士銀行の会議室に集まって、会長を誰にしますか、理事長を誰にしますかということを決めたわけです。会長は初代真柄要助さん。理事長は富士銀行の久保田さん。

澁谷●何で真柄さんになったんですか。誰か知っていて頼んだんですか。

大友●そうです。真柄建設の人もバドミントンをしとったので。

中島●やっぱり富士銀行がしていたから。

澁谷●富士銀行の当時の支店長さん？

大友●いや、久保田さんは支店長じゃなかったな。久保田さんが、真柄さんに頼んできたんじゃないかな。

澁谷●たまたまその人が金沢へ転勤してきて。

大友●バドミントンは全然やっていない人やった。

河原山●そしたら爪長さんは。

中島●もっと２、３年後です。

大友●ＫＢＣを作って、私らが子供たちを指導していた時に爪長さんが、「おい、わしも交ぜてくれ」と。裸足のおっさんが何を言うとるんかと思ったね。

中島●あれは覚えとる。長町小学校で裸足で



ね。私こってんこてんにやられた。
大友●初めて爪長さんのショートを見てびっくりした。こんなやり方があるのかと思って。ショートというのは爪長さんに習った。
菅井●真柄さんが初期の会長になられたというのは石川県バドミントン協会ですね。ＫＢＣとかじゃなくて。
大友●ＫＢＣは同好会や。
河原山●香村さんはいつからやられたんですか。
香村●スタートはほとんど一緒。富士銀行の久保田さんとか。この人は転勤族やね。
中島●結局ね、何故こうなったかというと、私が運動具屋におったから。貯金局とか銀行とかへ物を売りに行って、その時の話にバドミントンを少し普及してくれないかとか、やってくれないかとかお願いした。
河原山●中島さんはそんな時から協会の功績大なんですね。
中島●貯金局は早いうちに入ったね。
河原山●そして各高等学校にも回られたんですか。
中島●そうです。高等学校も順番に回って。
河原山●確かに昭和24年、第１回の神奈川県のインターハイには、もう石川県から出てましたね、冬。
中島●そう24年です。
澁谷●第１回の石川県選手権というのは何年ですか。
中島●23年の春に高岡町でやったんです。
澁谷●何人ほど集まったんですか。
中島●60人ぐらい。インターハイの前にやれやれと。
河原山●女性はどうでしたか。
中島●出ていましたよ。
河原山●出口さんや、北川さんは。
北川●私はその頃まだ高校生だから、ずっと後です。
河原山●女性では出口さんが早かったんですか。
中島●出口さんとか、清水建設の成瀬さんとか。
大友●それから興亜火災の西村さんとか。
澁谷●みんなルールを知らなかったのに、試合はどうしていたんですか。
北川●ショートを知らなかったというのは、初めは打ってばっかりいたわけね。
大友●そうそう。
中島●サーブをボーンと後ろへ上げるけど、かえってこなくて、真ん中ぐらいしか。それでスマッシュを打って勝ち。
大友●いま、初心者にバドミントンをさせても後ろまでかえってこないでしょう。それと一緒。
澁谷●シャトルコックも飛ばなかったな。
菅井●その時分はラケットは竹製ですか。
大友●いや、私はアメリカ製のヒッコリーを使っていました。
中島●それが自慢でね。うらやましかったな。
爪長●ヒッコリーって何ですか。木でしょう。
大友●ヒッコリーっていう木。昔、スキー板に使う材料の一番いいのがヒッコリーってい


大友佐泰さん

う木やった。重たいんやわ。それで私がそれを削って細いラインを作り出したら、それを真似して、これはいいと作りだしたのがサンバタさん。丸いラケットの最初は私なんですよ。

澁谷●そのラケットはどこから持ってきたんですか。

大友●どこから手に入れたのかな。

中島●私らはあれがうらやましくて。私が持っていたのは木の、太くて重たいやつです。

澁谷●テニスのラケットみたいな。

中島●それを振り回すだけ。力でね。そこで教わったのがガラスで削ること。これは大友くんに教わった。ガラスで削ったら細くて軽くなる。その代わりラケットがひよる。

大友●S字形に。

中島●まともなラケットは一つもない。

大友●S字形ラケットといわれたね。とにかく使った後、プレスに挟んでおかなかったら明くる日にはみんな変形して。

河原山●爪長さんは国体の選手にはならなかったんですか。

爪長●なれなかったんです。

大友●1週間か10日で勝つようになったもん。ヘアピン習ったら1週間ぐらいで勝ったね。

河原山●そんなことを教えずにいきなり国体予選に出られとったら爪長さんが国体選手になっていた。

大友●まちがいなく爪長さんはなっとるよ。

河原山●澁谷さんがミックスで全日本で3連覇されたのは、昭和何年でしたか。

澁谷●26年、27年、28年です。

大友●私がね、金沢大学でバドミントン部をつくって、その時に小山くんとか大西くんとかがいて、京都へ試合に行った。大学のリーグ戦で、あの時に京都大学ともやった。総あたり制で8チームやったね、澁谷さん。

澁谷●あんまり覚えてないね。

大友●総あたり制で全部やって、金沢大学が全勝した。1試合もおとさずに。

河原山●これで協会の設立が昭和23年ということがわかりました。

澁谷●今度は24年にどんなことがあったか、25年にどんなことがあったとそんな方がいいんじゃないかいね。そうでないと話が進まない。

大友●しかしそこまで覚えがない。私が全日本選手権に行って、北海道の佐藤さんと1回戦であたった。ジャンケンで負けてサーブ権が向こうへ行って、向こうからサーブされて、結局サーブチェンジが1回もなしで負けた。

河原山●それは昭和何年の話ですか。

大友●24年だろうと思う。

中島●確か金沢大学にいて、全日本でランキング3位になった。26年か、その辺やろ。

大友●その前や。

澁谷●多分昭和25年やろ。

大友●全国大会に初めて行った時や。

河原山●そしたら、ちょっと整理しますけど、昭和23年に協会ができましたね。協会の組織ができて、プレイヤーが自分たちの練習をするので金沢にKBCができたわけですね。それは何年ですか。できたのは。

ＫＢＣの役割

中島●もうできていた。

河原山●協会の前にグループができていて、それがＫＢＣという形で。

中島●そして合同したという感じや。ＫＢＣが中心になって協会づくりをやった。

河原山●私がいろんな書類を見ると、協会設立は神奈川、東京、愛知、北海道、石川が非常に早かった。だから石川県は当初から競技レベルが全国のトップクラスで全日本選手権も石川県でやっていますね。

中島●24年や。

河原山●24年にもう全日本選手権をするだけの組織とか石川県選手の競技レベルも高かったということで、24年の一番大きい出来事はそれをしたということですね。それは何回目ですか。

中島●第３回。その前は東京、神奈川で開き、地方へ出たのは石川が初めて。

澁谷●北川さん、出口さんが全日本のダブルスやシングルスで優勝したのは何年でしたか。

出口●27年です。

北川●私たちがバドミントンを大西さんらとやったのは、学区制というのがしかれた時で。学区制というのは、昭和のどの辺ですか。

河原山●私らが新制中学校のときで、25年です。第一高女や第二高女の生徒で津幡出身は津幡へ行けということになったわけですね。

北川●そうそう。それからバドミントンがパーッと広がっていった。

澁谷●今の泉丘、二水、桜丘という名前になったのが昭和25年やね。

大友●私がテニスをやめて、金商で最初にバドミントン部を作ったのは私かも知れません。

澁谷●あの時分には二水が強かったね。それは中島さんが指導をして強くなったんかね。


北川悦子さん

中島●私が運動具屋におったでしょう。その普及活動と商売を兼ねて各学校を回っていた。泉丘も行ったし、金市工が泉野町にあった時の土間の体育館にも行ったし、それから二水はもちろんね。しょっちゅう。３時か４時に学校を回ってね、目ぼしい生徒がいたらＫＢＣへひっぱった。

河原山●私らはＫＢＣへ行って練習するのが一番の練習になったですよ。

中島●泉丘では河原山くんが強いから、そして二水では上田が強いからＫＢＣへ来いって。

澁谷●亡くなった松島さんもあなたが連れて来たんですか。

中島●そうや。そして皆ＫＢＣに集めて、練習しながら教えていた。そこへ富永さんが入ってきて技術を教えた。私らも習ったりした。それから私もＧＨＱやＹＭＣＡへ武者修行に行って覚えてきて、それをまた教えた。

大友●その頃、ＹＭＣＡは強かったね。

中島●運動具屋におったから、できたことでね。仕事なんか何もしなくて、バドミントンばっかりやっとった感じだ。

北川●大友さんの奥さまの中井さんが私らと同じ年。学区制になって始めたんですか。

大友●そうそう。学区制になって始めた。

北川●だから始めた頃は一緒ですね。

大友●七尾の高田さんとか。


河原山晴夫

北川●そう。学区制になっていっぺんに県立高校がやりましたよね。

河原山●私が1年の時に大友さんが3年でね。土曜日になると泉丘においでるんです。何でかなと思っていたら、結局目当てがあったわけなんです。男子は教えてくれずに女子ばっかり教えて。

国体での活躍

澁谷●最初に石川県の選手として日本選手権なり国体で勝ったというのは北川さんたちが初めてですか。

北川●そう。

中島●国体で優勝したのは一般女子が一番早かった。

河原山●27年の、仙台の国体ですよ。

中島●貝原、登、高田、岩倉の4人でね。

河原山●四国の善通寺で28年の国体があり、私は滋賀県から出ました。

澁谷●善通寺のときは僕は石川県の選手で中[illegible]ダブルスを組んだ。高松宮さんの前で試合をやっている写真があるね。

大友●その時分には私はもうバドミントンを引退している。

河原山●香村さんが国体選手というのは、いつごろですか。

香村●初めだけです。

河原山●最初は中島さん、大友さん、香村さんのメンバーですか。

中島●国体は第4回までがオープン。あの時は選手権みたいなもんやった。第5回は昭和26年やった。香村くんや大友くんとみんなで行ったのは、北日本大会で新潟でやった時や。全部優勝をさらってきた。少年の部で優勝する。ベテランの部で優勝する。一般の部の女子で優勝する。新潟は怒っておったもんね。

河原山●ベテランは爪長さんですね。

澁谷●北日本選手権ってあったんや。僕が京都にいた時は西日本選手権とか関西選手権というのがあったね。シングルスもダブルスもミックスダブルスも僕が勝った。

河原山●澁谷さんが京都大学を卒業されたのは何年ですか。

澁谷●28年です。

河原山●そしたら私が高校3年の国体練習の時、昭和27年に確か澁谷さんが金沢においでて。

澁谷●休みには帰ってきて、一緒に練習させてもらった。

河原山●私は28年3月に高校を卒業して滋賀県へ行ったんです。大津へね。その時に澁谷さんとお兄さんが、もう本当に科学的というか、選手の横におられ、はい何分これ、何分これっていう指導をされていたのを覚えております。

同志社の選手とか京大の選手がいて、私は滋賀県の国体選手で一緒に練習したりしました。28年3月の卒業でしたら、何故あの時に大津においでたんですか。

澁谷●西宮に会社の事務所や親戚があって、卒業後、しばらくいたんです。

北川●信さん（澁谷亮治氏夫人）と私たち一緒によくやりましたが、あの方もその頃やってらしたんですか。

澁谷●京都で始めた頃からずっと一緒です。
北川●そうですね。同じ頃だったから。
澁谷●悦ちゃんが澁谷工業にいたのは何年ごろ。
北川●短大を出てから1年ほど。
河原山●澁谷工業へお勤めでしたか。
北川●そう。バドミントンをしたくて。
河原山●出口さんはずっと所属なしで一般ですか。ＫＢＣで練習をされていたのですか。
出口●ＫＢＣでずっとやっていました。家庭裁判所の方に勤めて。
中島●女性で石田さんとか。宮沢さんもいたね。
澁谷●北川さんがシングルスで日本選手権をとったのはいつですか。
北川●短大1年の時。澁谷さんが信さんとミックスダブルスで勝ったでしょう。その時一緒だったはずだわ。奈良で。
河原山●ちょっと待って、北川さんは全日本で優勝されてますか。
澁谷●あなた北川で見とるから。登で出ているはずですよ。
河原山●それで澁谷さん、当時の小島さんもミックスで優勝されたんですか。
北川●あの時一緒だったわ。私も優勝したけど、そのミックスも勝ったんじゃなかった？奈良で。
澁谷●27年ですよ。
北川●年度は忘れちゃったけど。澁谷さんがミックスで優勝したのはいつ？
澁谷●26年、27年、28年。信さんと一緒に。
北川●ずっと優勝したの？
河原山●3連覇されてる。
中島●あの川くんが優勝してるだろ、インターハイで。
河原山●もちろん、それは高校の部で書いてもらっています。全日本は山崎が金城を卒業して熊本女子大へ行った時に、横井って香川出身の人と組んでダブルスで1回優勝している。

それで今までで10人いるんです。

大友●インターハイは、いっぱいいるな。
河原山●石川県は皆さんがご活躍されていた時が第1期黄金時代ですね。国体も高得点をあげて。いろんな大会で上位入賞しております。それから落ちたんです。そして我々が大学へ行って、教員になって戻ってきて、そのあと頑張り出しました。中島さんが監督で長い間教員の部で勝って、そして生徒を指導してまた高校が強くなって、国体で得点をあげるようになったのが、第2期黄金時代ですね。

それからまた落ちて。ここ数年前から今度は中学、中島さんがつくっていったジュニアが育って彼らが高校、大学生になって、いま第3期黄金時代です。昨年も石川県の40競技団体の中で国体で一番天皇杯得点を取っているのがバドミントン協会、3年連続一番多いです。中島さんは40年間理事長をされて、ジュニアをはじめ家庭婦人連盟、社会人連盟などをつくられ、大功労者ですね。
澁谷●成績の話はちょっとおいて、大功労者の苦労話でも。
中島●皆さんのを聞いた方がいいんじゃないかな。
河原山●いや、最初から石川国体までの40年間をね。
中島●ある程度は原稿に書いている。
河原山●石川県体育協会も来年、50年史を出すんです。そこで中島さんのことについては最後にきちっと大功労者だと書きました。

バドミントンの地位向上

中島●青春をスポーツにぶつけたというのが始まりです。たまたまそこにバドミントンがあった。バドミントン以外に人生はないというほど、やってきた。何であれだけできたのかなと思うことは、たくさんあります。バドミントンが体協へ加盟させてもらえなかった時代が5、6年ありましたね。何故加盟させてくれないんかといったら、バドミントンなんか女のするスポーツじゃないか、羽根つきじゃないかと。中西知事はずーっとそう思っていたからね。ちらっと「バドミントン？なんじゃあんなの」と言ってね。私は正式に抗議すると言ったこともある。

大友●バドミントンを知らない人は羽根つきだと思う。

中島●体協でもね、バドミントンなんて子供扱いだった。だから加盟させてもらえなかった。何とかしてこの連中の鼻をあかしてやろうと思ったね。そのためにはまず強くならなきゃ駄目だ。その次には組織をつくらなくちゃ駄目だということで、一生懸命になったね。そして、強くなって国体でもある程度成績をあげてくると、体協もほっとけないようになって、バドミントンに加盟の許可をくれた。

今じゃ体協へ行っても、どこへ行ってもバドミントンさまさまだろうと思うけど。

河原山●さまさまですね。お陰さまで。

中島●バドミントンが一番頑張っているから。

澁谷●中西さんが初めて知事になられたのは昭和38年。昭和40年代には、バドミントンはテニスやバレーやバスケットよりももっと



ハードなスポーツだということは一般にはわかっていたけどね。

中島●わかっていた。それで、中西さんに国体を見てきてくれと言ったけど、1回も来ないんだよ。あの人はラグビー部のマネジャーしていたので、ラグビー以外はスポーツではないという頭だったかも。

澁谷●ラグビー、サッカーに比べれば、また別だけど。他の屋内スポーツに比べるとうんとハードだね。

河原山●ボクシングの次にハードですね。

中島●見た人、やった人は身にしみてわかっている。ボクシングに次いでハードだという人はたくさんおられるね。

大友●バドミントンが何故ひどいかといったら、後ろさがりがあるから。バスケットでも回れ右して走るでしょう。バックステップがあるのはバドミントンとボクシングだけ。バドミントンは後ろを見とったら、もう球はいってしまうからな。

中島●そういう論法は初めて聞いた。そう言われればそうだな。

北川●バウンドもないからね。

河原山●それでは続けて中島さん。平成3年の石川国体までをお願いします

中島●年ごとに世間の評価も、また県の評価も体協の評価も良くなってね。私として最後

の仕上げは、石川国体で総合優勝をすることでした。コーチや役員の人が一生懸命になって頑張って、最後を盛り上げてくれた。

大友●ジュニアの部はそれでつくったんだよ。

中島●さっき河原山くんも僕がジュニアを育ててきたと言われたけど、一番先に大友くんに頼んだわけや。

大友●そうそう。

中島●それで小学生を集めて、大友くんに任せたわけや。彼も一生懸命になって、頑張ってくれた。次に市町村に広めなければいけないということで、各市町村の指導者を呼んでつくるように頼んだわけや。次に子供に影響力のあるお父さんを対象にした社会人連盟、お母さんを対象にした家庭婦人連盟、子供・ジュニアを対象にした少年連盟、これを確立すれば、毎年県内のいたる所から必ず優秀な選手が育ってくるものと確信していた。この組織づくりに力を注いだ15年間が特に心に残りますが、石川国体の優勝にもつながった。協会の50年の歴史についていえば、継続は力なりで、この三本柱を今後も大切に育てていかなければなりません。

女性選手のパイオニア

菅井●それでは女性の立場から、出口さんと北川さんにバドミントンを通じて楽しかったこととか、苦しかったこととかいろいろ思い出があおりだろうと思うんですけれども、その中でも印象的なことをお二人にお聞きしたいなと思うんです。

河原山●女性選手のパイオニアとしてやり始めた当時のことをちょっと。

菅井●私たちの大先輩で女性として石川県にバドミントンを開拓されたというか第一人者として、後輩である私たちに思い出話をお願いします。


出口まさえさん

出口●ものすごく楽しかったんです。あの当時は車もありませんし、ずっと会場まで自転車で行きました。自転車もオンボロでしたしね。とにかく何とか強くなりたいなという思いで。

成瀬さんという人がおいでて、その人を何とか負かせられないかと思ったりね。第1回は成瀬さんがとられた。第2回はどうにか私が勝った。

澁谷●その時分はいくつだったの。

出口●18ぐらい。

河原山●第1回というのは何年ですか。

出口●23年、24年に勝って、それからご縁がありまして、6回ほど。6回の間に、27年の仙台大会があって優勝したんだけど、あの当時は優勝カップでなくてＮＨＫからの花瓶なんですよ。いまだに大事に持ってますけどね。賞状は今も額に入れています。それから、私は北海道大会でやめたんです。

河原山●それは何年ですか。

出口●29年。だから私は22年から29年ぐらいまでお世話になったんです。皆さんいい方ばかりでお世話になりました。

河原山●楽しかったと。

出口●楽しくさせていただきまして、お陰さまでありがとうございました。

北川●貝原さんと私とペアみたいですけど、


爪長憲一さん

貝原さんとの出会いというのは、試合になってからよね。私は高校の時からやっていまして、短大で一般女子というのになって、その時にペアになって。ということから始まったのね。

出口●あの当時、一生懸命になれるものが一つでもあればいいと思ってね。「花嫁修業をせい」とか、「おてんばさん」て言われた時期もありました。私はあの頃母親がいなかったから勝手にしてたかもしれませんけどね。よく父親に、ラケットに手紙があるって言われてね。女の子は習い事をせいという文章が書いてあったのを覚えています。ほんとにバドミントンはいい体験でした。面白かったし、今でいうオテンバかな。

河原山●それでは北川さんは。

北川●私はね、初め、卓球をしていて、高校へ入ってテニスをしてたんです。そしたら大西さんという人がきて、講堂で縄を張って、ヨレヨレの羽根でバドミントンをやり始めました。それで新人大会に出たら、一般女子と一緒だったと思うんですけど、北陸電力の和田さんという人がいらして、初めてその人に勝ったんです。それから、やっぱり勝つのが面白いから、テニスをほったらかしにしてバドミントンを。その時に飯田先生という方が顧問だったんですが、その先生がまた一生懸命になって。

大友●飯田先生は熱心な先生だった。

北川●その頃中川さんと岩倉さんと３人がペアでした。ずっと高校で上位で、全国でも２位か１位になっていました。高校を出てから一般女子として、その時出口さんとペアになって。

河原山●引退というか試合に出なくなったのは昭和何年ごろですか。

北川●29年に短大を出て、それから澁谷さんの所で１年お世話になって、結婚をしてからもまだ北海道の時は行ったと思うんですけど。

澁谷●そうやね。北海道で思い出したけど、それは昭和29年やったね。悦ちゃんがうちの会社にたまたまいた。亡くなった親父が確か三代目の県協会の会長をしとった。選手ではないが、兄と結婚していた信さんも行くというんで、親父も兄貴も僕も信さんも北川さんも。会社はあの当時、30人か40人の小さな会社でしたが、ＮＨＫのニュースで親子兄弟が国体へ参加と報道されました。今ならワイワイ宣伝になったと思うけど。

北川●澁谷さんのお父さんが会長の時がありましたね。澁谷工業といったらバドミントンという感じで、その頃。

河原山●それでは、これだけはどうしてもというようなお話はないでしょうか。

澁谷●私は今、一部上場会社の社長で、兄が会長でいる。一般的に兄弟が仲良くやっている企業もあるけど、兄弟が喧嘩して、発展しない会社もたくさんある。うちの場合、中学生、高校生の頃は結構つかみ合いの喧嘩をしとったけど、大学で兄弟でダブルス組んで、いいチームワークをつくった。それがずっと幸いして、今この歳になっても、何か一言お互いに言えばすぐ「意思が通ずる」ということで、仲良く会社の経営をやれるということのことが、非常によかったなと思います。バドミントンのお陰です。

河原山●他には、ございませんか。

北川●専門学校をやりまして、いつも全種目の球技大会というのがあるんです。私、いざとなると自分の歳も忘れて一生懸命応援するもんですから、今年も石川県専修学校球技大会で、うちの学校がバドミントンで優勝したんです。そのようなことで、今もバドミントンに触れながら頑張っています。それと今でも出口さんといろんなことで仲良くさせて頂き、和気あいあいとお付き合いを続けています。

創成期の思い出

澁谷●さっきの爪長さんのインドネシアの話は初めて聞きました。

爪長●向こうは国技なんですよ。しかも赤道直下だから風が吹かない。だから外でできる。どんな小さい村へ行ってもコートの１面や２面は必ずあったんです。

私は農業指導員で行ったんだけど、向こうへ行ったら行政監督官で、仕事は何もなく遊んでたんですよ。皆がバドミントンをやっとるからやってみようかなと。羽根つきだと思ったがやり始めたら面白くて。さっき、大友くんが行ったように裸足で、あそこはみんなが裸足なんですよ。私は農業してたから現地の人と一緒に裸足でやっとったんです。

澁谷●ジャカルタにいらっしゃったんですか。

爪長●歌にクモマンソルというのがあるでしょう。あの町なんです。

河原山●スマトラ島ですね。

爪長●スマトラ島のちょうど真ん中のところです。ブキティンキというあそこの首府なんですがね。あの時分は世界大会があった。


菅井由美子

スマトラのブキティンキの誰かが世界大会で優勝したという話を聞いて、その人とやってみたことがあるんです。大変強かったです。２年ぐらい経ってからだけどね。

大友●金沢へ来てバドミントンをしたのは。

爪長●戻ったのは昭和21年だから、その時30歳だったと思う。だから32、3歳の時でしょう。一番先に金市工の講堂で神奈川県の人とやったんです。それが最初で、その後あなたたちと大和の裏の露天でやったことがあるんですよ。それから後はどこかの小学校を借りたから来いと言われて何回も行ったことがあるけど。大学の松田教授が好きでね。あの人のパートナーになって、四国も行ったし東京の選手権にも行ったけど、勝ったことはなかった。２位になったことは２度あるけどね。大学の先生とやっとったから、病気になった時にはいいと思った。

大友●爪長さんは最後までズックを履かなかったんかね。とにかく裸足やった。昔の悪い体育館で、刺がささらんかとよく言ったもんね。

中島●あの時分のズックなんか１週間か10日しか持たなかった。

河原山●ゴムも悪かったんですね。

大友●消しゴムみたいやった。うちのお袋さんに「ズック、この間買うたでしょう」とよく叱られた。

澁谷●靴下も自分でつぎはぎして履いとった。

爪長●そうなると裸足の方がいいですよ。
香村●本当にズックは早く穴があいたね。爪先だけね。
河原山●香村さんが国体の選手されとった時はどこかお勤めだったんですか。
香村●自営です。
河原山●それで自由時間がとれたんですか。
香村●若い時はまだ親父も元気だったから出られたんだけど、だんだん責任が重くなって。
河原山●そうでしたか。わかりました。

そろそろ時間もまいりましたので、このあたりで終わらせていただきます。長時間ありがとうございました。皆さま方のご活躍により石川県バドミントン協会の礎ができ、今日までそれなりの成果を収めてきました。

プレーヤーを引退された後、中島さんは約40年間理事長をされ、大友さんは役員をされながら少年層の強化にも携わられました。そして澁谷さんは、ずっと役員をされ、特に家庭婦人連盟のお世話をされました。また国体選手を会社で採用していただいたり、経済面で大変なご援助をして下さったり、本当に頭の下がる思いです。

それでは皆さま方の今後ご健勝をお祈りいたしますとともに、今後もバドミントン協会のことをよろしくお願いいたします。

資料編

石川県バドミントン協会年表

周年	年	西暦	月日	主なできごと・成績
0	昭23	1948	3・28	**○石川県バドミントン協会創立**
				○第2回全日本選手権大会（横浜市）
				女子単2位　成瀬龍子
1	昭24	1949		**○石川県高等学校体育連盟にバドミントン部加盟**
				初代専門部長・秋山宗治（菫台高校：現金沢商業高校）　初代専門委員長・杉森三吉（二水高校）
			4・17	**○第3回全日本選手権大会（金沢市）**
				女子単2位　貝原まさえ
2	昭25	1950		**○第1回全国高等学校バドミントン選手権大会（神奈川県横浜市）**
				男子団体　金沢泉丘　3位　女子団体　津幡　2位
				○第5回国民体育大会（愛知県名古屋市）
				一般女子4位　高校男子4位
3	昭26	1951		○第2回全国高等学校選手権大会（北海道札幌市）
				男子団体　金沢泉丘　3位　金沢二水　4位
				○第6回国民体育大会（広島県広島市）
				一般女子2位　高校男子2位
				○石川県中学校総合体育大会バドミントン競技
				男子の部でスタート
				○第5回全日本選手権大会（奈良市）
				女子単優勝　登　悦子
				混合複優勝　澁谷弘利・小島信
4	昭27	1952		○第3回全国高等学校選手権大会（香川県善通寺市）
				男子団体　金沢二水　優勝　金沢泉丘　2位
				○第7回国民体育大会（宮城県仙台市）
				一般女子優勝
				監督　西田聡馳　選手　貝原まさえ（ＫＢＣ） 高田八重子（七尾高）登悦子（津幡高） 岩倉衣絵（津幡高）
				高校男子3位
				○石川県中学校総合体育大会　女子の部スタート
				○第6回全日本選手権大会
				混合複優勝　澁谷弘利・小島信
5	昭28	1953		○第4回全国高等学校選手権大会（山形県山形市）
				男子団体　金沢二水　4位

周年	年	西暦	月日	主なできごと・成績
				○第８回国民体育大会（香川県善通寺市）
				一般男子４位　一般女子３位　高校男子２位
				○第７回全日本選手権大会
				混合複優勝　澁谷弘利・小島信
6	昭29	1954		○第５回全国高等学校選手権大会（金沢市）
				男子団体　金沢二水　優勝（２回目）
				男子単　　関（二水）・北方（二水）３位
				○第９回国民体育大会（北海道札幌市）
				高校男子２位
7	昭30	1955		○第６回全国高等学校選手権大会（兵庫県神戸市）
				男子　金沢二水　２位
				○第10回国民体育大会（神奈川県横浜市）
				高校男子２位
8	昭31	1956	３・10	○第５回全日本実業団選手権大会（富山県高岡市）
				※石川県初参加　金沢大学附属病院（男子団体ベスト８）
				○第11回国民体育大会（兵庫県神戸市）
				一般男子４位
9	昭32	1957		○第８回全国高等学校選手権大会（島根県松江市）
				女子単　長田（北陸学院）２位
				女子複　北島・松田（金城：現　遊学館）３位
				○第12回国民体育大会（静岡県富士市）
				高校男子２位　高校女子３位
10	昭33	1958		○第９回全国高等学校選手権大会（新潟県新潟市）
				男子団体　津幡　２位
				女子単　　山崎（金城）優勝　女子複　山崎・川（金城）優勝
				○第13回国民体育大会（富山県高岡市）
				高校男子２位　高校女子２位
11	昭34	1959		○第10回全国高等学校選手権大会
				男子団体　津幡　４位　女子団体　金城　４位
				○第14回国民体育大会（東京都足立区）※教員男子の部新設
				一般男子２位
				○第13回全日本選手権大会
				女子複優勝　田島外茂子・山崎紀久子
12	昭35	1960		○第15回国民体育大会（熊本県菊池市）

周年	年	西暦	月日	主なできごと・成績
				教員男子優勝
				監督　新田喜久男（石川トヨタ）　選手　北方匡（藤花高教）
				河原山晴夫（押野中教）茂藤寛（根上中教）
				○第14回全日本総合選手権大会
				男子複優勝　沢田力・森晃一
13	昭36	1961	4・1	**○実業団バドミントン連盟設立**
			7・7	**○実業団バドミントン連盟、県協会に加盟**
			7・25	○全日本実業団バドミントン連盟発足
				○第16回国民体育大会（秋田県象潟町）
				一般男子4位
				教員男子優勝（2回目）
				監督　新田喜久男（石川トヨタ）　選手　北方匡（藤花高教）
				河原山晴夫（押野中教）江尻桂三（内川中教）
				高校女子5位
				○第15回全日本総合選手権大会
				男子複優勝　沢田力・森晃一
14	昭37	1962	4・1	**○実業団連盟　全日本実業団バドミントン連盟に加盟**
			4・29	○第12回全日本実業団選手権大会（熊本県熊本市）
				男子複ベスト8　北方・新田
				○第1回全日本教職員選手権大会（東京）
				一般男子単優勝　北方　一般男子複優勝　北方・河原山
				○第17回国民体育大会（岡山県倉敷市）
				一般男子5位
				教員男子優勝（3回目）
				監督　中島寿禧（中六商店）　選手　北方匡（藤花高教）
				河原山晴夫（押野中教）江尻桂三（内川中教）
				○第16回全日本総合選手権大会
				男子複優勝　沢田力・森晃一
15	昭38	1963		○第2回全日本教職員選手権大会（群馬）
				一般男子複優勝　北方・河原山
				○第18回国民体育大会（山口県下関市）
				教員男子優勝（4回目）
				監督　中島寿禧（中六商店）　選手　北方匡（藤花高教）
				河原山晴夫（押野中教）江尻桂三（内川中教）

周年	年	西暦	月日	主なできごと・成績
16	昭39	1964		○第19回国民体育大会（新潟県三条市） 一般男子３位　教員男子２位
17	昭40	1965		○第20回国民体育大会（岐阜県岐阜市） 一般男子４位 **教員男子優勝（５回目）** 監督　中島寿禧（中六商店）　選手　北方匡（藤花高教） 河原山晴夫（押野中教）村西一（大聖寺高教）
18	昭41	1966		○第21回国民体育大会（大分県日田市） 一般男子５位　教員男子２位
19	昭42	1967		○第18回全国高等学校選手権大会（金沢市） **男子団体　金沢市工　優勝** 男子単　黒田（金沢）２位 男子複　高来・流（金市工）、山本・松本（金市工）３位 ○第６回全日本教職員選手権大会（富山） **一般男子複優勝　北方・原** ○第22回国民体育大会（埼玉県越谷市） 一般男子５位
20	昭43	1968	5	**○石川県教職員バドミントン連盟創立** 初代会長　松田龍一（金沢大学） ○第19回全国高等学校選手権大会（広島県福山市） 男子団体　金沢市工　２位 ○第７回全日本教職員選手権大会（大阪） **混合複優勝　北方・鎌田** ○第23回国民体育大会（福井県勝山市） 一般男子５位　教員男子２位 **○第22回全日本総合選手権大会** **女子複優勝　相沢マチ子・竹中悦子**
21	昭44	1969		○第20回全国高等学校選手権大会（群馬県桐生市） **男子団体　金沢市工　優勝（２回目）** 男子単　小中（金市工）３位 男子複　小中・村谷（金市工）３位 ○第５回女子世界選手権大会（ユーバー杯）**優勝　竹中悦子** ○第８回全日本教職員選手権大会（埼玉） **一般男子複優勝　北方・原**

周年	年	西暦	月日	主なできごと・成績
				○第24回国民体育大会（長崎県諫早市）
				一般男子５位　教員男子３位
				○第23回全日本総合選手権大会
				女子複優勝　相沢マチ子・竹中悦子
22	昭45	1970	3	○全英選手権
				シングルス優勝　竹中悦子
			4・1	**○実業団連盟規約制定**
				初代会長・大友佐泰（石川プレート）
				初代理事長・中田吉昭（倉庫精練）
				この年　石川県実業団選手権・寺井大会スタート
				○第１回石川県実業団選手権大会（個人戦）
				○第21回全国高等学校選手権大会（愛知県名古屋市）
				男子単　銭谷（大聖寺）２位
				○第25回国民体育大会（岩手県釜石市）
				総合２位　一般男子５位　教員男子２位　高校男子２位
				○第24回全日本総合選手権大会
				女子単優勝　竹中悦子
				女子複優勝　相沢マチ子・竹中悦子
23	昭46	1971		○第26回国民体育大会（和歌山県湯浅町）
				一般男子５位　教員男子５位
24	昭47	1972	3	○全英選手権
				ダブルス優勝　竹中悦子
			6・4	**○第１回北信越実業団選手権大会（富山県高岡市）**
			6	○第６回女子世界選手権大会（ユーバー杯）**優勝　竹中悦子**
				○第23回全国高等学校選手権大会（山形県新庄市）
				男子団体　金沢市工　３位
				男子単　　原（金市工）３位　男子複　原・林（金市工）３位
			8	○第２回全国中学校大会（愛知県）
				男子団体２位　高松
				○第11回全日本教職員選手権大会（秋田）
				一般団体優勝　石川県
				○第27回国民体育大会（鹿児島県鹿児島市）
				総合２位　一般男子５位　教員男子３位　高校男子２位
				○第26回全日本総合選手権大会

周年	年	西暦	月日	主なできごと・成績
				女子複優勝　相沢マチ子・竹中悦子
25	昭48	1973	3	○全英選手権
				ダブルス優勝　竹中悦子
				○第24回全国高等学校選手権大会（三重県四日市市）
				男子団体　金沢市工　優勝（3回目）
				○第12回全日本教職員選手権大会（滋賀）
				一般男子団体優勝　石川県
				○特別国民体育大会（沖縄返還記念大会　沖縄県石垣市）
				※一般女子の部に石川県割り当て
				一般女子3位
				○第28回国民体育大会（千葉県茂原市）
				一般男子5位　教員男子2位
				○第27回全日本総合選手権大会（新潟市）
				女子複優勝　相沢マチ子・竹中悦子
				混合複優勝　栂野尾昌一・竹中悦子
26	昭49	1974	5・26	○第3回北信越実業団選手権大会で津田駒工業男女準優勝（新潟市）
				○第25回全国高等学校選手権大会（福岡県嬉野町）
				男子団体　金沢市工　3位
				男子単　　滝川（金市工）2位
				男子複　　滝川・船本（金市工）2位
				○第29回国民体育大会（茨城県石岡市）
				一般男子5位　教員男子2位
				○第28回全日本総合選手権大会
				男子単優勝　銭谷欽治
				混合複優勝　栂野尾昌一・竹中悦子
27	昭50	1975		○実業団連盟　第4回北信越実業団選手権大会を主管開催（石川県体育館）
				○第3回全国高等学校選抜選手権大会（東京都）
				男子団体　石川県　3位
				男子単　　牧野（金市工）2位
				男子複　　水内・西川（金市工）2位
			3	○全英選手権
				ダブルス優勝　竹中悦子

周年	年	西暦	月日	主なできごと・成績
				○第７回女子世界選手権大会（ユーバー杯） **２位　竹中悦子**
			７・５	○第25回全日本実業団選手権大会（富山県高岡市）
				男子単ベスト８　堂谷内
				○第26回全国高等学校選手権大会（茨城県水戸市）
				男子団体　金沢市工　優勝（４回目）
				女子団体　藤花（現　尾山台）３位
				男子単　　坂本（七尾農）・宮森（金市工）３位
				男子複　宮森・酒井（金市工）２位
				女子単　　石田（藤花）３位
				○第14回全日本教職員選手権大会（栃木）
				一般団体優勝　石川県
				○第30回国民体育大会（三重県松阪市）
				※種目名変更　成年男子を一般と教員に
				総合優勝
				成年男子・教員男子優勝（６回目）
				監督　中島寿禧（中六商店）　選手　原栄一（七尾工教）
				長谷川進（藤花高教）和田修（向陽高教）
				少年男子２位　少年女子４位
				○第29回全日本総合選手権大会
				女子複優勝　竹中悦子・植野恵美子
28	昭51	1976	４・１	○実業団連盟　二代目会長に谷口一夫（マイハウス）
				○第４回全国高校選抜大会（福島県郡山市）
				男子団体　石川県　３位
			６・25	○第26回全日本実業団選手権大会（神奈川県藤沢市）
				40歳男子単３位　原
				○第27回全国高等学校選手権大会（長野県中野市）
				男子団体　金沢市工　優勝（５回目）
				男子単　　重山（金市工）３位
				○第31回国民体育大会（佐賀県牛津町）
				※ナショナルメンバー出場不可
				総合優勝（２回目）
				成年男子・一般男子３位
				成年男子・教員男子優勝（７回目）
				監督　中島寿禧（中六商店）　選手　原栄一（七尾工教）

周年	年	西暦	月日	主なできごと・成績
				長谷川進（明和養護教）和田修（向陽高教）
				少年男子優勝
				監督　河原山晴夫（金市工教）　選手　重山成生（金市工）
				森田均（金市工）坂本昌嗣（金市工）
			10・24	**○第１回石川県家庭婦人大会（石川県体育館）開催**
				契機に石川県家庭婦人バドミントン連盟を結成
				初代会長　澁谷弘利（澁谷工業）
				理事長　窪田香代（丸の内クラブ）
				○第30回全日本総合選手権大会
				男子単優勝　銭谷欽治
				女子複優勝　栂野尾悦子・植野恵美子
				混合複優勝　栂野尾昌一・栂野尾悦子
29	昭52	1977		○第６回北信越実業団選手権大会男子で金沢市役所、女子の石川プレートともに準優勝（富山県高岡市）
				○第５回全国高校選抜大会（福島県郡山市）
				男子単　清水（金市工）３位
			3	○全英選手権
				ダブルス優勝　栂野尾悦子
			4・17	**○家庭婦人連盟　第１回石川県家庭婦人親睦会開催**
			6・17	○第27回全日本実業団選手権大会（大阪市・京都市）
				40歳男子単３位　原　**40歳男子複優勝　岡崎・飴谷**
				○第28回全国高等学校選手権大会（岡山県倉敷市）
				男子団体　金沢市工　２位
				○第16回全日本教職員選手権大会（山口）
				一般男子単優勝　舛田　30歳男子単優勝　原
				30歳男子複優勝　北方・原
				○第32回国民体育大会（青森県浪岡町）
				総合４位
				成年男子・一般男子５位
				成年男子・教員男子優勝（８回目）
				監督　中島寿禧（中六商店）　選手　原栄一（七尾工教）
				長谷川進（明和養護教）舛田吉光（大根布東小教）
				成年女子５位
				○第31回全日本総合選手権大会

周年	年	西暦	月日	主なできごと・成績
				男子単優勝　銭谷欽治
30	昭53	1978	5・20	○家庭婦人連盟　第5回全国家庭婦人大会を主管開催
			6・13	○第28回全日本実業団選手権大会（東京都駒沢）
				40歳男子複優勝　岡崎・飴谷（2回目）
				○第17回全日本教職員選手権大会（宮城）
				30歳男子単優勝　和田
				30歳男子複優勝　原・和田組
				○第33回国民体育大会（長野県塩尻市）
				成年男子・一般男子3位
				成年男子・教員男子優勝（9回目）
				監督　中島寿禧（中六商店）　選手　長谷川進（明和養護教）
				舛田吉光（大根布東小教）和田修（向陽高教）
				○第21回全日本社会人選手権大会（大津市）
				男子単優勝　長谷川進
				○第32回全日本総合選手権大会
				男子単優勝　銭谷欽治
31	昭54	1979	6・22	○第29回全日本実業団選手権大会（岡山県倉敷市）
				男子単ベスト8　米　40歳男子単3位　岡崎
				40歳男子複3位　岡崎・飴谷
			7・22	○実業団連盟　第1回県民サークル大会を開催（松任市）
				○第7回全国高校選抜大会（東京都）
				女子複　小路・宮崎（金城）3位
				○第30回全国高等学校選手権大会（滋賀県大津市）
				男子単　村本（七尾工）・坂井（金市工）3位
				○第18回全日本教職員選手権大会（福岡）
				一般男子団体優勝　石川県
				一般男子単優勝　長谷川
				○第34回国民体育大会（宮崎県西都市）
				成年男子・一般男子4位
				成年男子・教員男子優勝（10回目）
				監督　中島寿禧（中六商店）　選手　長谷川進（明和養護教）
				舛田吉光（大根布東小教）和田修（向陽高教）
				○第33回全日本総合選手権大会
				男子単優勝　銭谷欽治

周年	年	西暦	月日	主なできごと・成績
				総合複優勝　栂野尾昌一・栂野尾悦子
				○第１回バドッ子大会（現ジュニア大会）開催
32	昭55	1980	2・3	**○第１回親子バドミントン大会開催（石川県体育館）**
			5・18	○実業団連盟　第９回北信越実業団選手権大会を主管開催（石川県体育館）
			6・13	○第30回全日本実業団選手権大会（愛媛県新居浜市）
				30歳男子単３位　石川　40歳男子複２位　岡崎・飴谷
				○教職員連盟　第19回全日本教職員選手権大会開催（金沢市）
				一般男子団体優勝　石川県
				一般男子単優勝　長谷川　30歳男子複優勝　原・和田
				○第35回国民体育大会（栃木県真岡市）
				※教員男子部廃止・教員１名をメンバーに　県単独出場は持ち回りに
				成年男子２位
33	昭56	1981	2・11	○家庭婦人連盟　二代目理事長に岡根良子（美川クラブ）
				○第９回全国高校選抜大会（滋賀県大津市）
				男子団体　金沢市工　２位
				男子単　　村松（金市工）３位
			6	**○石川県実業団バドミントンリーグを創設**
				○第32回全国高等学校選手権大会（神奈川県平塚市）
				男子単　村松（金市工）３位
				男子複　羽田・村松（金市工）２位
				○第20回全日本教職員選手権大会（福島）
				一般女子単優勝　伊東　30歳男子単優勝　原
				30歳男子複優勝　原・和田
			9・10	○第31回全日本実業団選手権大会（愛知県名古屋市）
				30歳男子単優勝　堂谷内　※この年で個人戦廃止
				○第36回国民体育大会（滋賀県大津市）
				総合５位　成年男子５位　成年女子５位　少年男子３位
				○第35回全日本総合選手権大会
				男子単優勝　銭谷欽治　男子複優勝　銭谷欽治・西山博司
				混合複優勝　栂野尾昌一・栂野尾悦子
34	昭57	1982	5・9	**○石川県実業団リーグに女子の部設置**
				○第33回全国高等学校選手権大会（鹿児島県枕崎市）
				男子団体　金沢市工　２位

周年	年	西暦	月日	主なできごと・成績
				男子単　　山尾（金市工）３位
				男子複　羽田・山尾（金市工）３位
				○第21回全日本教職員選手権大会（佐賀）
				30歳男子単優勝　和田
				○第37回国民体育大会（島根県大東市）※教員１名の規則廃止
				総合４位　成年男子５位　成年女子４位　少年男子２位
35	昭58	1983	8・24	**○第１回全日本家庭婦人バドミントン競技会（東京・板橋区立小豆沢体育館）に家庭婦人連盟より参加**
				○第38回国民体育大会（群馬県桐生市）
				成年男子５位
				○第１回小学生バドミントン交歓会開催
36	昭59	1984	2・26	**○石川県少年バドミントン連盟発足**
				初代会長　松島桃喜男　理事長　奥村明義
			5・20	**○第13回北信越実業団選手権大会で北國銀行女子が初優勝（新潟市）**
				○第12回全国高校選抜バドミントン選手権大会（栃木県足利市）
				女子単　堀（二水）３位　女子複　川端・岡田（二水）３位
			7・8	**○家庭婦人連盟第１回北信越家庭婦人大会を主管開催（石川県体育館）（※第１回～第５回まで）**
				２位　野々市クラブ
				○第35回全国高等学校選手権大会（秋田県大曲市）
				男子団体　金沢市工　３位
				男子複　　荒木・宇田（金市工）３位
				○第23回全日本教職員選手権大会（青森）
				一般女子団体優勝　石川県
			8	○第14回全国中学校大会（大阪市）
				男子単３位　小池田（宇ノ気）　男子複３位　大塚田丸（河北台）
				○第39回国民体育大会（奈良県田原本町）
				成年男子５位　成年女子２位
			12・12	**○第38回全日本総合選手権**
				男子単優勝　銭谷欽治　男子複優勝　宮森庄吉・井上哲章
				混合複２位　毛利達彦（金沢市役所）・彼島佳子（北國銀行）
37	昭60	1985	1・22	○毛利達彦・彼島佳子　ジャパンオープン出場（桐生市）

周年	年	西暦	月日	主なできごと・成績
			2・17	**○親子バドミントン大会をファミリーバドミントン大会と改称し開催（石川県体育館）**
			3・10	**○実業団連盟　福井リーグとの定期戦を創設（寺井町体育館）**
			4・1	○実業団連盟　副会長に駒谷良則（金沢市役所）、二代目理事長に安江勉（津田駒）
				○第13回全国高校選抜選手権大会（金沢市）
				男子団体　金沢市工　2位
				男子単　　山本（金市工）3位
				男子複　中川・西島（金市工）優勝、気谷・山本（金市工）2位
				女子単　　一木（金城）3位
			5・12	○実業団連盟　第14回北信越実業団選手権大会を主管開催
				毛利　シングルスでベスト8
			8	○第36回全国高等学校選手権大会（金沢市）
				男子団体　金沢市工　3位
				男子単　　山本（金市工）3位
				男子複　気谷・山本（金市工）2位、中川・西島（金市工）3位
				○第24回全日本教職員選手権大会（福井）
				一般女子複優勝　小路・小野　混合複優勝　舛田・小路
			8	○第15回全国中学校大会（北海道登別市）
				女子複3位　橋本・宗藤（宇ノ気）
				○第40回国民体育大会（鳥取県大栄町）
				少年男子2位
				○少年連盟　小学生交歓会から個人戦を分離
				能登地区を栂野尾杯、河北・加賀地区を松下杯、加賀を銭谷杯、と分割し、全日本選手権者の冠大会に
38	昭61	1986		○第14回全国高校選抜選手権大会（沖縄県那覇市）
				男子団体　金沢市工　3位
				男子単　　藤島・石田（金市工）2位
				○第37回全国高等学校選手権大会（山口県下関市）
				男子団体　金沢市工　2位
				○第25回全日本教職員選手権大会（広島）
				一般女子団体優勝　石川県
			8	○第16回全国中学校大会（栃木県真岡市）
				男子団体優勝　河北台

周年	年	西暦	月日	主なできごと・成績
				男子複優勝　藤島・藤森（宇ノ気）
				○第41回国民体育大会（山梨県勝沼町）
				成年男子５位
39	昭62	1987	8	○第17回全国中学校大会（愛知県春日井市）
				男子団体優勝　高松
				○第42回国民体育大会（沖縄県糸満市）
				総合３位　成年男子５位　成年女子３位　少年男子５位
				○第３回東日本小学生大会
				男子団体優勝　鹿島ジュニア　女子団体３位　相馬クラブ
40	昭63	1988		○第16回全国高校選抜大会（兵庫県宝塚市）
				男子団体　金沢市工　２位
				男子単　塩谷（金市工）３位
			5・8	**○第17回北信越実業団選手権大会で男子北國銀行が初優勝（福井市）**
			5・8	○家庭婦人連盟第５回北信越家庭婦人大会を主管開催（金沢市総合体育館）※以後各県持回りとなる。
				野々市クラブ　２位
			6・15	**○実業団連盟　第38回全日本実業団選手権大会を主管開催**
				（金沢市総合体育館他）
				男子団体ベスト８　金沢市役所
				○第39回全国高等学校選手権大会（兵庫県宝塚市）
				男子団体　金沢市工　３位
			8	○第18回全国中学校大会（盛岡市）
				男子複２位　石本・本田（美川）
			8・24	**○少年連盟　香港・日本親善ジュニアバドミントン鹿島大会を開催**
				○第43回国民体育大会（京都市長岡京市）※２巡目に入り得点集計方法変更
				成年男子５位
41	平１	1989		○第17回全国高校選抜大会（栃木県宇都宮市）
				男子複　藤島・紺谷（金市工）３位
			5・21	○第18回北信越実業団選手権大会で男子北國銀行２連覇（新潟県燕市）
				○第40回全国高等学校選手権大会（高知県高知市）

周年	年	西暦	月日	主なできごと・成績
				女子複　中橋・多田（向陽）3位
				○第44回国民体育大会（北海道登別市）
				総合4位　成年男子5位　成年女子5位　少年男子4位
				少年女子5位
			9	**○石川県社会人バドミントン連盟創立**
				初代会長　上野英吉（石川トヨペット）
				初代理事長　東茂樹（倉庫精練）
			9・17	**○社会人連盟　第1回石川県バドミントンリーグ前期戦開催（石川県体育館）**
42	平2	1990		○第18回全国高校選抜大会（東京都葛飾区）
				男子複　大多・石本（金市工）優勝
			3・24	**○少年連盟　第1回北陸3県小学生バドミントン交歓会を開催（美川町）**
			4・27	○クイーンズ・サーキット　三協ー北國シリーズ開催
			5・13	○実業団連盟　北信越実業団選手権大会を主管開催（金沢市中央市民体育館）
				男子団体　北國銀行優勝（3回目）
			7・27	○家庭婦人連盟　第8回全日本家庭婦人競技大会を主管開催（金沢市総合体育館）
				○第41回全国高等学校選手権大会（宮城県塩竈市）
				男子団体　金沢市工　2位
			8	○第20回全国中学校大会（香川県坂出市）
				女子単3位　桜井（河北台）
				○第45回国民体育大会（福岡県筑紫野市）
				成年男子5位　少年女子4位
			11・25	○社会人連盟　第7回ヤマハ杯を主催　社会人連盟に移行
				○第12回日本リーグ
				男子6位　北國銀行
43	平3	1991	2・15	○家庭婦人連盟　三代目理事長に武田恵子（中央フレンズ）
				○第19回全国高校選抜大会（富山県高岡市）
				男子団体　金沢二水　2位
				男子単　　石本（金市工）3位
			4・1	○実業団連盟　三代目会長に大門重樹（北國銀行）・谷口前会長は顧問に・副会長に畠山丈治（ＮＴＴ北陸）

周年	年	西暦	月日	主なできごと・成績
				○毛利達彦（金沢市役所）・山本明彦（北國銀行）・中尾仁美（北國銀行）がジャパンオープンに出場
			5・26	**○実業団連盟　「石川県実業団リーグ10年の歩み」を刊行**
			6・12	○第41回全日本実業団選手権大会（宮城県仙台市） 男子団体ベスト8　北國銀行
				○第42回全国高等学校選手権大会（静岡県富士市） 男子団体　金沢二水　2位 男子単　　石本（金市工）3位
			10・13	**○第46回国民体育大会（美川町総合スポーツセンター）** **総合優勝（3回目）** 成年男子3位　成年女子3位　少年男子3位　少年女子3位
				○第13回日本リーグ 男子4位　北國銀行
44	平4	1992		○第20回全国高校選抜大会（栃木県宇都宮市） 女子団体　金沢向陽　3位
			6・17	○第42回全日本実業団選手権大会（広島県広島市） 男子団体ベスト8　北國銀行
				○第31回全日本教職員選手権大会（熊本） **30歳女子単優勝　伊東　30歳女子複優勝　桶谷・伊東**
			8	○第22回全国中学校大会（富山県高岡市） 男子単3位　徳坂（医王山）
				○第47回国民体育大会（山形県新庄市） 総合6位　成年男子5位　少年男子5位　少年女子4位
			11・15	**○社会人連盟　第1回ダブルス交歓会開催**
			11・22	**○第1回全国小学生選手権大会（京都府立体育館）** **男子単優勝　茶谷**
			11・23	○実業団連盟　第14回日本リーグを主管開催（金沢市総合体育館）
				○第14回日本リーグ 男子8位　北國銀行
45	平5	1993	5	○社会人連盟　リーグ戦の編成方針を改革　実力に見合ったピラミッド制を採用
			6・13	○家庭婦人連盟第10回北信越家庭婦人大会を主管開催（金沢市総合体育館） 野々市クラブ　3位

周年	年	西暦	月日	主なできごと・成績
			6・23	○第43回全日本実業団選手権大会（富山県高岡市他）
				男子団体ベスト8　北國銀行
			7	○第9回東日本小学生大会（静岡県富士宮市）
				男子団体優勝　相馬クラブ
				男子6年単優勝　山下　3位　広瀬
				男子6年複3位　柴田・柴田
				○第32回全日本教職員選手権大会（神奈川）
				30歳女子単優勝　伊東　30歳女子複優勝　桶谷・伊東
			8・22	**○家庭婦人連盟　第1回石川ふれ愛バドミントン交歓会開催**
			8	○第23回全国中学校大会（大津市）
				男子単3位　舛田（犀生）
				○第48回国民体育大会（香川県坂出市）
				成年男子5位
46	平6	1994	3	○少年連盟二代目会長に、谷口明（カナカン）
			6・15	○第44回全日本実業団選手権大会（福岡県福岡市）
				男子団体ベスト8　北國銀行
			7	○第20回東日本小学生大会（千葉ポートアリーナ）
				男子団体2位　相馬クラブ
				男子6年単3位　谷口
				男子6年複3位　中村・寺井　小林・橋本
			8	**○教職員連盟　第33回全日本教職員選手権大会開催（金沢市）**
			8	○第24回全国中学校大会（北海道旭川市）
				男子団体3位　高松
				女子単2位　　岩脇（西南部）
				○第49回国民体育大会（愛知県大府市）
				総合7位　成年男子5位　少年男子3位
47	平7	1995		○第23回全国高校選抜大会（埼玉県上尾市）
				男子団体　金沢市工　3位　**女子団体　金沢向陽　優勝**
				男子複　　徳坂・舛田（金市工）3位
			3・31	**○社会人連盟　上野会長死去**
			5・13	○実業団連盟　第24回北信越実業団選手権大会を主管開催（金沢市総合体育館）
			6・21	○第45回全日本実業団選手権大会（北海道札幌市）
				男子団体ベスト8　北國銀行

周年	年	西暦	月日	主なできごと・成績
				○第46回全国高等学校選手権大会（島根県松江市）
				男子団体　金沢市工　3位　女子団体　金沢向陽　2位
				男子単　　舛田（金市工）優勝
				男子複　徳坂・舛田（金市工）3位
				女子複　　片糸・中島（向陽）優勝
				○第34回全日本教職員選手権大会（鳥取）
				30歳女子複優勝　桶谷・伊東
			8	○第25回全国中学校大会（川崎市）
				男子団体3位　田鶴浜
				男子単3位　　茶谷（北鳴）・酒井（田鶴浜）
				男子複優勝　大畠・山下（田鶴浜）
				○第50回国民体育大会（福島県白河市）※大学生　地元より出場可
				ナショナルメンバーも出場可
				総合3位　少年男子3位
				少年女子優勝
				監督　和田修（向陽高教）　選手　中島珠美（向陽高）
				片糸由希子（向陽高）堀哲子（向陽高）
			11・23	○実業団連盟　第17回日本リーグを主管開催（松任市文化体育館）
				○第49回全日本総合選手権大会
				混合複優勝　気谷篤人・佐々木忍
				男子単2位　舛田圭太（金市工）
			12・25	**○第4回全国小学生選手権大会（金沢市）**
				東日本と西日本で分離開催されていた大会から個人戦を分離統一大会となる
				6年生男子単5位　北山　6年生男子複5位　広瀬・藤井
				5年生以下男子複3位　新田・山端　5年生以下女子単　伊東
48	平8	1996		○第24回全国高校選抜選手権大会（北海道札幌市）
				男子単　舛田（金市工）2位
				女子単　堀（向陽）3位　女子複　堀・奥村（向陽）3位
			3・24	○社会人連盟　次期会長に要明英二氏（石川トヨペット社長）就任
			3	○家庭婦人連盟二代目会長に岡根良子、四代目理事長に長谷川清美（三馬クラブ）
			3	○少年連盟二代目理事長に松田新二郎
			7・3	○第46回全日本実業団選手権大会（東京都）

周年	年	西暦	月日	主なできごと・成績
				男子団体ベスト８　北國銀行
			7	**○第10回ジャカルタオープン選手権大会**
				混合複３位　舛田圭太（金市工）
			7・26	○第14回全日本家庭婦人競技大会（島根県松江市）
				クラブ対抗で金沢フレンド　ベスト８
				○第47回全国高等学校選手権大会（山梨県甲府市）
				女子団体　金沢向陽　２位
				男子単　　舛田（金市工）優勝
				女子複　　堀・奥村（向陽）３位
			8	○第26回全国中学校バドミントン大会（愛知県大府市）
				男子団体優勝　田鶴浜　２位　高松　女子団体３位　美川
				男子複優勝　広瀬・長尾（田鶴浜）　３位　金田・堀田（高松）
				○第51回国民体育大会（広島県三原市）
				総合４位
				少年男子優勝（２回目）
				監督　彼島重範（金市工教）
				選手　舛田圭太（金市工）車浩明（金市工）酒井忠相（金市工）
				少年女子４位
			12・26	○第５回全国小学生選手権大会（東京都葛飾区）
				６年生女子単５位　中山
				５年生以下男子複３位　山本・長尾　５年生以下女子単５位
				西村　５年生以下女子複５位　今井・関戸
49	平９	1997	1	○舛田圭太・車浩明（金市工）ヨネックスオープンジャパン'97に出場
			3	**○'97ヨーロッパジュニア交流会（オランダ・ハーレム市）**
				男子単複優勝　舛田圭太
				○'97ヨーロッパジュニア交流会（ドイツ・ボトロップ市）
				男子単２位・男子複優勝　舛田圭太
			4・1	○実業団連盟　三代目理事長に太田博之（金沢市役所）
			4	**○河原山理事長、日本バドミントン協会強化本部長に就任**
				○第25回全国高校選抜大会（京都府長岡京市）
				男子団体　金沢市工　３位
			6・11	○第47回全日本実業団選手権大会（熊本県八代市）
				男子団体ベスト８　北國銀行

周年	年	西暦	月日	主なできごと・成績
			8	○第48回全国高等学校選手権大会（京都府長岡京市）
				男子団体　金沢市工　3位
				女子複　　田井・舛田（向陽）優勝
			8	○第27回全国中学校大会（愛媛県新居浜市）
				男子団体3位　鹿島
				○第51回全日本総合選手権大会
				男子複優勝　太田慎二・竹鼻拓也
				男子単2位　舛田圭太
			10	○第52回国民体育大会（大阪府大東市）
				総合　2位　少年男子　3位
				少年女子　2位　成年男子　5位
50	平10	1998	1	○車浩明（金市工）田井美幸・舛田恵（向陽）ヨネックスオープン
				ジャパン'98に出場
			3	**○石川県バドミントン協会創立50周年**
			3	○少年連盟三代目会長に北山吉明（北山クリニック）
			4・19	**○石川県バドミントン協会創立50周年記念式典**

競技会記録

全日本総合選手権優勝者(注：昭和34年までは全日本選手権大会)

種目 / 年度	男子 シングルス	男子 ダブルス	女子 シングルス	女子 ダブルス	混合ダブルス
昭22(1947)	岡　淳一	広田敏秀・藤井光男	中村たき	川俣千枝子・中村たき	森　勇・岡　広子
23(1948)	岡　淳一	広田敏秀・藤井光男	吉田とよ子	川俣千枝子・中村たき	Eエマール・川俣千枝子
24(1949)	岡　淳一	岡　淳一・相馬万吉	吉田とよ子	吉田とよ子・田村知江子	山田康久・田村知江子
25(1950)	岡　淳一	岡　淳一・岡　道明	遠藤文子	遠藤文子・小林歌子	山田康久・田村知江子
26(1951)	広田敏秀	広田敏秀・岡　道明	**登　悦子**	堀江綾子・保田久子	**澁谷弘利・小島　信**
27(1952)	広田敏秀	吉原秀雄・藤井昂一	吉田光子	遠藤文子・荒川とみ子	**澁谷弘利・小島　信**
28(1953)	望月文雄	佐藤芳明・山崎　茂	荒川とみ子	小林歌子・荒川とみ子	**澁谷弘利・小島　信**
29(1954)	上田益弘	片石兼敏・加藤正則	大川良子	大川良子・藤田光子	上谷茂己・小沢良美
30(1955)	片石兼敏	片石兼敏・加藤正則	権田節子	戸田寿子・小林桂子	小飼栄一・本庄純子
31(1956)	佐藤芳朗	片石兼敏・永井栄一	横井キヌエ	大川良子・小林歌子	石原利通・戸田寿子
32(1957)	永井栄一	永井栄一・並木信裕	田島外茂子	田島外茂子・宮川ツヤエ	石原利通・戸田寿子
33(1958)	佐藤芳朗	永井栄一・並木信裕	田島外茂子	田島玲子・高島洋子	貝戸　塵・諸田みや子
34(1959)	板垣隆房	山田善康・中村　智	田島外茂子	田島玲子・**山崎紀久子**	北島克英・有木とみ子
35(1960)	小宮好雄	**沢田　力**・森　晃一	橘美智子	高橋泰子・長野文子	毛利清志・根岸　純
36(1961)	小宮好雄	**沢田　力**・森　晃一	秋山文子	木村政子・横山満子	杉田　博子・杉田良子
37(1962)	宮永武司	**沢田　力**・森　晃一	高木紀子	高木紀子・諸田みや子	星野忠男・有木とみ子
38(1963)	渡部鉱一	鈴木幸春・東条義昭	横山文子	有木とみ子・三原弘美	星野忠男・有木とみ子
39(1964)	宮永武司	堺　栄一・宮永武司	高木紀子	高木紀子・天野博江	星野忠男・有木とみ子
40(1965)	秋山真男	堺　栄一・宮永武司	横山満子	高木紀子・天野博江	東条義昭・横井文子
41(1966)	小島一平	堺　栄一・宮永武司	高木紀子	高木紀子・天野博江	小宮好雄・上野明美
42(1967)	小島一平	秋山真男・小島一平	高木紀子	高木紀子・天野博江	板垣善憲・大田節子
43(1968)	小島一平	秋山真男・小島一平	高橋とも子	相沢マチ子・**竹中悦子**	鈴木健二・有木とみ子
44(1969)	小島一平	秋山真男・小島一平	湯木博恵	相沢マチ子・**竹中悦子**	鈴木健二・有木とみ子
45(1970)	小島一平	堺　栄一・栂野尾昌一	**竹中悦子**	相沢マチ子・**竹中悦子**	堺　栄一・天野博江
46(1971)	栂野尾昌一	鈴木建二・池田信孝	中山紀子	中山紀子・湯木博恵	堺　栄一・天野博江
47(1972)	小島一平	秋山真男・小島一平	湯木博恵	相沢マチ子・**竹中悦子**	堺　栄一・天野博江
48(1973)	小島一平	池田信孝・栂野尾昌一	湯木博恵	相沢マチ子・**竹中悦子**	栂野尾昌一・**竹中悦子**
49(1974)	**銭谷欽治**	池田信孝・栂野尾昌一	湯木博恵	湯木博恵・池田美加	栂野尾昌一・**竹中悦子**
50(1975)	小島一平	飯野佳孝・土田証雄	湯木博恵	**竹中悦子**・植野恵美子	今井茂満・池田美加
51(1976)	**銭谷欽治**	池田信孝・栂野尾昌一	湯木博恵	**栂野尾悦子**・植野恵美子	栂野尾昌一・**栂野尾悦子**
52(1977)	**銭谷欽治**	飯野信孝・土田証雄	近藤小織	徳田敦子・高田幹子	日下　昇・牛田真由美
53(1978)	**銭谷欽治**	飯野信孝・土田証雄	徳田敦子	徳田敦子・高田幹子	中井基夫・千葉陽子
54(1979)	**銭谷欽治**	池田信孝・尾崎幹雄	米倉よし子	米倉よし子・徳田敦子	栂野尾昌一・**栂野尾悦子**
55(1980)	長谷川博幸	飯野佳孝・土田証雄	北田スミ子	米倉よし子・徳田敦子	中井基夫・端　洋護
56(1981)	**銭谷欽治**	**銭谷欽治**・西山博司	北田スミ子	米倉よし子・徳田敦子	栂野尾昌一・**栂野尾悦子**
57(1982)	長谷川博幸	長谷川博幸・宮本幸弘	北田スミ子	米倉よし子・徳田敦子	辻　敏弘・徳永順子
58(1983)	長谷川博幸	松野修二・松浦進二	東海林文子	米倉よし子・徳田敦子	鈴木　裕・関根和子
59(1984)	**銭谷欽治**	**宮森庄吉**・井上哲章	北田スミ子	米倉よし子・徳田敦子	工士恭司・陣内貴美子
60(1985)	西山博司	松野修二・松浦進二	北田スミ子	高峯和子・里　和枝	冨田章夫・冨田美千子
61(1986)	松浦進二	松野修二・松浦進二	北田スミ子	米倉よし子・徳田敦子	谷田尚嗣・高峯和子
62(1987)	西山博司	松野修二・松浦進二	北田スミ子	田児よし子・徳田敦子	長谷川博幸・森山弘美
63(1988)	松浦進二	松野修二・松浦進二	北田スミ子	陣内貴美子・森　久子	谷田尚嗣・廣田時子
平元(1989)	松野修二	松野修二・松浦進二	宮村愛子	陣内貴美子・森　久子	谷田尚嗣・廣田時子
2(1990)	松浦進二	松野修二・松浦進二	水井妃佐子	陣内貴美子・森　久子	早戸敬雄・田代美智世
3(1991)	松野修二	松野修二・松浦進二	松尾知美	松尾知美・捧　匡子	辻田泰昌・松田治子
4(1992)	霜上和宏	松野修二・松浦進二	宮村愛子	廣田時子・小池由扶子	古賀勝志・藤本暢子
5(1993)	町田文彦	松野修二・松浦進二	水井妃佐子	廣田時子・小池由扶子	今井章弘・甲斐美和
6(1994)	町田文彦	江藤裕樹・柳谷辰哉	水井妃佐子	松尾知美・阪本雅子	今井章弘・甲斐美和
7(1995)	町田文彦	町田文彦・渡辺清一	水井妃佐子	松尾知美・阪本雅子	**気谷篤人**・佐々木忍
8(1996)	須賀隆弘	片山卓哉・久保田雄三	井田貴子	岩田良子・松田治子	今井紀夫・松田治子
9(1997)	太田慎二	太田慎二・**竹鼻拓也**	井田貴子	中山智香子・増茂孝枝	宮　康二・田児よし子

登悦子は現在北川、小島信は現在澁谷（亮治氏夫人）、沢田力は現在松下、竹中悦子は現在栂野尾

年度	回数	開催地	総合成績	一般男子 選手名	所属	成績	教員男子 選手名	所属	成績	一般女子 選手名	所属	成績
昭24年(1949)	4	東京都		個人戦オープン								
昭25年(1950)	5	名古屋市		○高岡弘明 三浦比佐志 香村孝明 大友佐泰 田村祥爾	 KBC KBC 金沢大学 倉庫精練㈱					○高岡弘明 貝原まさえ 高田八重子 登　悦子 中川とし	 KBC 七尾高 津幡高 津幡高	4位
昭26年(1951)	6	広島市		○西田聡馳 三浦比佐志 香村孝明 大友佐泰	 KBC KBC		成績の、集計方法			○飯塚栄一 貝原まさえ 高田八重子 登　悦子	 KBC 七尾高 津幡高	2位
昭27年(1952)	7	仙台市		○西田聡馳 三浦比佐志 大友佐泰 東　正直 松島桃喜男	 KBC KBC KBC KBC		1位の得点　10点 2位の得点　7点 3位の得点　6点			○西田聡馳 貝原まさえ 高田八重子 登　悦子 岩倉衣絵	 KBC 七尾高 津幡高 津幡高	優勝
昭28年(1953)	8	善通寺市		○石川元一 東　正直 松島桃喜男 澁谷弘利 三浦比佐志	KBC KBC KBC 澁谷工業㈱ KBC	4位	4位の得点　5点 5位の得点 2.5点 種目別で集計し、順位点をつけていく方法			○石川元一 貝原まさえ 登　悦子 島谷須磨子 町駒ヤス子	KBC KBC 澁谷工業㈱ 澁谷工業㈱ 金短大	3位
昭29年(1954)	9	札幌市		○澁谷亮治 三浦比佐志 澁谷弘利 東　正直	澁谷工業㈱ KBC 澁谷工業㈱ ㈱丸越					○石川元一 登　悦子 貝原まさえ 澁谷　信	 石川繊維㈱ KBC 澁谷工業㈱	
昭30年(1955)	10	横浜市		○三浦比佐志 江尻桂三 山本圭三 岡崎健一	KBC 七尾OB							
昭31年(1956)	11	神戸市		○三浦比佐志 東　正直 澁谷弘利 岡崎健一	KBC KBC KBC 七尾OB	4位				○増林　博 北川悦子 島谷須磨子 山本香代	KBC	
昭32年(1957)	12	富士市		○三浦比佐志 東　正直 新田正治 岡崎健一	KBC KBC KBC 七尾OB					○増林　博 庄田美枝子 島谷須磨子 藤田喜美子	KBC	
昭33年(1958)	13	高岡市		○増林　博 新田正治 酒井明夫 岡崎健一	KBC KBC KBC 七尾OB		教員男子の部新設			○伊藤義雄 有田順子 松田富美子 山本香代	伊藤商店	
昭34年(1959)	14	足立区		○山本圭二 新田正治 酒井明夫 村田和男	KBC 日新火災㈱ 金沢金網㈱ 丸一石油	2位				○山本圭二 有田順子 川　節子 山本英子	KBC 岸商事㈱ 中村運動具店 金沢信用金庫	
昭35年(1960)	15	菊池市		○松島桃喜男 新田正治 岡崎健一 中田吉昭	松島洋品店 二水OB 七尾OB 倉庫精練㈱		○新田喜久男 北方　匡 河原山晴夫 茂藤　寛	石川トヨタ㈱ 藤花高教 押野中教 根上中教	優勝			
昭36年(1961)	16	象潟町		○ 新田正治 三島明雄 中田吉昭	 二水OB 赤座繊維㈱ 倉庫精練㈱	4位	○新田喜久男 北方　匡 河原山晴夫 江尻桂三	石川トヨタ㈱ 藤花高教 押野中教 根上中教	優勝			
昭37年(1962)	17	倉敷市		○松島桃喜男 新田正治 岡崎健一 中田吉昭	松島洋品店 二水OB 七尾OB 倉庫精練㈱	5位	○中島寿禧 北方　匡 河原山晴夫 江尻桂三	中六商店 藤花高教 押野中教 内川中教	優勝			

石川県選手団名簿・成績表－1

高校男子 選手名	所属	成績	高校女子 選手名	所属	成績	備考
○高岡弘明兼		4位				
藤川俊雄	七尾高					
東　正直	二水高					
西　貞夫	泉丘高					
新保岩夫	泉丘高					
○西田聡馳		2位				
東　正直	二水高					
西　貞夫	泉丘高					
諸江秀一	菫代高					
○伊藤義雄	伊藤商店	3位	○伊藤義雄	伊藤商店		
諸江秀一	菫台高		島谷須磨子	羽咋高		
井上晴夫	泉丘高		中川保子	羽咋高		
山本圭三	二水高		南　富子	津幡高		
上田　稔	二水高		五十嵐清子	二水高		
○澁谷亮治	澁谷工業㈱	2位	○			
江尻桂三	二水高		石黒志津子	二水高		
辻　貞三	二水高		小森博子	津幡高		
半田外喜男	泉丘高		橋本栄子	小松高		
岡崎健一	七尾高		村　正子	津幡高		
○大友佐泰		2位				
西村嘉彦	二水高					
江尻桂三	二水高					
島谷　昇	泉丘高					
○澁谷弘利	ＫＢＣ	2位	○石川元一	ＫＢＣ		北陸3県予選
北方　匡	二水高		若村他嘉子	北陸学院		
関　功	二水高		大坪愛子	北陸学院		
米谷外喜彦	二水高		藤田喜美子	二水高		
			○増林　博	ＫＢＣ		北陸・甲信越予選
			有田順子	二水高		
			因幡美枝子	羽咋高		
			長田悠喜子	北陸学院		
○三浦比佐志	ＫＢＣ	2位	○増林　博	ＫＢＣ	3位	北信越予選
酒井明夫	津幡高		有田順子	二水高		
村田和男	津幡高		長田悠喜子	北陸学院		
堀　知章	二水高		松田富美子	金城高		
○増林　博	ＫＢＣ	2位	○伊藤義雄	伊藤商店	3位	
沢田　力	津幡高		山崎紀久子	金城高		
酒井政雄	津幡高		川　節子	金城高		
堀　知章	二水高		竹多光子	金城高		
						北信越予選
			○新田喜久男	石川トヨタ㈱	5位	
			中屋悦子	金城高		
			黒川美代子	金城高		
			館扶佐子	藤花高		

国民体育大会バドミントン競技

年度	回数	開催地	総合成績	一般男子			教員男子			一般女子		
				選手名	所属	成績	選手名	所属	成績	選手名	所属	成績
昭38年(1963)	18	下関市		○奥村明義 新田正治 岡崎健一 中田吉昭	奥村履物店 清水建設㈱ 岡崎商店 倉庫精練㈱		○中島寿禧 北方匡 河原山晴夫 江尻桂三	中六商店 藤花高教 押野中教 内川中教	優勝			
昭39年(1964)	19	三条市		○増林博 新田正治 村田和男 松下力	金沢地方貯金局 清水建設㈱ 金沢クラブ 金沢クラブ	3位	○中島寿禧 北方匡 河原山晴夫 江尻桂三	中六商店 藤花高教 金市工高教 内川中教	2位			
昭40年(1965)	20	岐阜市		○増林博 村田和男 松下力 松田新二郎	金沢地方貯金局 金沢クラブ 金沢クラブ ㈱前多商店	4位	○中島寿禧 北方匡 河原山晴夫 村西一	中六商店 藤花高教 金市工高教 大聖寺高教	優勝			
昭41年(1966)	21	日田市		○増林博 松下力 奥村明義 中田吉昭	金沢地方貯金局 金沢電話局 奥村履物店 倉庫精練㈱	5位	○中島寿禧 北方匡 河原山晴夫 原栄一	中六商店 藤花高教 金市工高教 輪島高教	2位			
昭42年(1967)	22	越谷市		○増林博 松下力 新田正治 東茂樹	金沢地方貯金局 金沢電話局 清水建設㈱ 倉庫精練㈱	5位	国際問題で出場停止(GANEFO)予選は、突破したが……					
昭43年(1968)	23	勝山市		○増林博 松下力 東茂樹 山本秀夫	金沢地方貯金局 北陸電気通信局 倉庫精練㈱ 津田駒工業㈱	5位	○中島寿禧 北方匡 原栄一 村西一	北陸合同漬物 藤花高教 津幡高教 大聖寺高教	2位			
昭44年(1969)	24	謡早市		○新田正治 松下力 黒田博 安江勉	清水建設㈱ 北陸電気通信局 三精商会 津田駒工業㈱	5位	○東正直 北方匡 原栄一 村西一	自営 藤花高教 津幡高教 大聖寺高教	3位			
昭45年(1970)	25	釜石市	総合2位	○新田正治 松下力 山本秀夫 安江勉	清水建設㈱ 北陸電気通信局 津田駒工業㈱ 津田駒工業㈱	5位	○中島寿禧 北方匡 原栄一 松本忠之	中六商店 藤花高教 津幡高教 七尾城北高教	2位			
昭46年(1971)	26	湯浅町		○村西一 松下力 山本秀夫 堂谷内均	二水高教 電通 津田駒工業㈱ 津田駒工業㈱	5位	○中島寿禧 北方匡 原栄一 和田修	中六商店 藤花高教 津幡高教 加賀聖城高教	5位			
昭47年(1972)	27	鹿児島市	総合2位	○村西一 松下力 東茂樹 堂谷内均	二水高教 電通 倉庫精練㈱ 津田駒工業㈱	5位	○中島寿禧 北方匡 原栄一 長谷川進	中六商店 藤花高教 七尾工高教 藤花高教	3位			
昭48年(1973)	特別国体	石垣市								○奥村明義 沢野容子 庭田清枝 松田京子	奥村履物店 こばと保育園 越野和裁 松下電器北陸	3位
昭48年(1973)	28	茂原市		○村西一 松下力 東茂樹 相川進	二水高教 電通 倉庫精練㈱ 知栄建設㈱	5位	○中島寿禧 原栄一 長谷川進 和田修	中六商店 七尾工高教 藤花高教 加賀聖城高教	3位			
昭49年(1974)	29	石岡市		○村西一 松下力 東茂樹 堂谷内均	二水高教 輪島電報電話局 倉庫精練㈱ 津田駒工業㈱	5位	○中島寿禧 原栄一 長谷川進 高来秀夫	中六商店 七尾工高教 藤花高教 金沢高教	2位			

石川県選手団名簿・成績表－２

高校男子			高校女子			備考
選手名	所属	成績	選手名	所属	成績	
○河原山晴夫 銭谷欽治 竹村勇治 青山信吾	金市工高教 大聖寺高 金市工高 金市工高	2位				
○河原山晴夫 原　敏男 山下敏行 谷島助男	金市工高教 金市工高 金市工高 金市工高	2位				

国民体育大会バドミントン競技

年度	回数	開催地	総合成績	成年男子 一般男子 選手名	所属	成績	成年男子 教員男子 選手名	所属	成績	成年女子 選手名	所属	成績
昭50年 (1975)	30	松阪市	総合優勝	この年より、種目名称変更、また、成年男子は、一般男子と教員男子に分かれた。								
				○村西　一	二水高教		○中島寿禧	中六商店	優勝			
				松下　力	輪島電報電話局		原　栄一	七尾工高教				
				東　茂樹	倉庫精練㈱		長谷川進	明和養護教				
				堂谷内均	津田駒工業㈱		和田　修	向陽高校				
昭51年 (1976)	31	牛津町	総合優勝	この年より、ナショナルチームメンバーは出場できなくなる。								
				○村西　一	二水高教	3位	○中島寿禧	中六商店	優勝			
				相川　進	竹森建設㈱		原　栄一	七尾工高教				
				米　正隆	北陸コカコーラ		長谷川進	明和養護教				
				堂谷内均	津田駒工業㈱		和田　修	向陽高校				
昭52年 (1977)	32	浪岡町	総合4位	○村西　一	二水高教	5位	○中島寿禧	中六商店	優勝	○松下　力	電通	5位
				相川　進	竹森建設㈱		原　栄一	七尾工高教		石垣輝子	石川プレート㈱	
				米　正隆	北陸コカコーラ		長谷川進	明和養護教		角谷美早子	貯金局	
				堂谷内均	津田駒工業㈱		舛田吉光	大根布東子教		角谷俊子	福井銀行㈱	
昭53年 (1978)	33	塩尻市		○村西　一	二水高教	3位	○中島寿禧	中六商店	優勝			
				相川　進	竹森建設㈱		長谷川進	明和養護教				
				米　正隆	北陸コカコーラ		舛田吉光	大根布東小教				
				堂谷内均	津田駒工業㈱		和田　修	向陽高教				
昭54年 (1979)	34	西都市		○村西　一	二水高教	4位	○中島寿禧	中六商店	優勝			
				堂谷内均	津田駒工業㈱		長谷川進	明和養護教				
				米　正隆	北陸コカコーラ		舛田吉光	大根布東小教				
				原　敏男	カナカン㈱		和田　修	向陽高教				
昭55年 (1980)	35	真岡市		この年より、教員男子部門廃止、ただし、１名教員を入れる。また、県単独出場が持								
				○村西　一	二水高教	2位				○松下　力	北陸電気通信局	
				長谷川進	松任農高教					桶谷千鶴子	桶谷歯科	
				舛田吉光	明和養護教					石垣輝子	石川プレート㈱	
				堂谷内均	津田駒工業㈱					宮野明子	ろう学校教	
昭56年 (1981)	36	大津市	総合5位	○中島寿禧	中六商店	5位				○北方　匡	藤花高教	5位
				長谷川進	RSハセガワ					桶谷千鶴子	桶谷歯科	
				舛田吉光	明和養護教					宮野明子	ろう学校教	
				酒井直人	㈱ゴーセン					松井祐美子	澁谷工業㈱	
昭57年 (1982)	37	大東町		この年より、教員１名を入れる規制廃止。								
				○中島寿禧	中六商店	5位				○和田　修	向陽高教	4位
				長谷川進	RSハセガワ					桶谷千鶴子	桶谷歯科	
				舛田吉光	能登島中教					伊東ひとみ	尾山台高教	
				毛利達彦	金沢市役所					宮野明子	ろう学校教	
昭58年 (1983)	38	桐生市		○松下　力	北陸電気通信局	5位						
				長谷川進	RSハセガワ							
				舛田吉光	県体育館							
				毛利達彦	金沢市役所							
昭59年 (1984)	39	田原本町		○松下　力	北陸電気通信局	5位				○和田　修	向陽高教	2位
				長谷川進	RSハセガワ					伊東ひとみ	尾山台高教	
				舛田吉光	県体育館					小野順子	西南部中教	
				毛利達彦	金沢市役所					小路和代	内灘高教員	
昭60年 (1985)	40	大栄町										
昭61年 (1986)	41	勝沼町		○松下　力	北陸電気通信局	5位						
				酒井直人	㈱ゴーセン							
				舛田吉光	県体育館							
				毛利達彦	金沢市役所							
昭62年 (1987)	42	糸満市	総合3位	○松下　力	北陸電気通信局	5位				○東　茂樹	倉庫精練㈱	3位
				酒井直人	㈱ゴーセン					彼島佳子	㈱北國銀行	
				舛田吉光	県体育館					小路和代	内灘中教	
				毛利達彦	金沢市役所					水本幸代	㈱北國銀行	

石川県選手団名簿・成績表－3

少年男子			少年女子			備考
選手名	所属	成績	選手名	所属	成績	
○河原山晴夫 宮森庄吉 酒井直人 坂本宏志	金市工高教 金市工高 金市工高 七尾農高	2位	○北方　匡 石田ひとみ 石垣輝子 池田恵美子	4位		
○河原山晴夫 重山成生 森田　均 坂本昌嗣	金市工高教 金市工高 金市工高 金市工高	優勝				
○河原山晴夫 坂井外喜男 金谷賢一 村本幹夫	金市工高教 金市工高 金市工高 七尾工高					
ち回りとなる。						
○河原山晴夫 中嶋　修 羽田義仁 村松　博	金市工高教 金市工高 金市工高 金市工高					県単；成年女子
○河原山晴夫 羽田義仁 村松　博 宮本照啓	金市工高教 金市工高 金市工高 金市工高	3位				県単；少年男子
○河原山晴夫 山尾克則 岡島浩一 羽田憲治	金市工高教 金市工高 金市工高 金市工高	2位	○村西　一 長谷聖華 太田真由美 岡田由美	二水高教 二水高 金沢商高 金城高		県単；少年女子
○宮崎重範 清水一昭 嶋田隆志 清水善長	金市工高教 金市工高 金市工高 松陵工高		○西川慎一 栂木雅恵 岡田由美 前多美穂	金城高教 金城高 金城高 金城高		県単；成年女子
			○村西　一 岡田真澄 川端加世 堀　正枝	二水高教 二水高 二水高 二水高		県単；成年女子
○宮崎重範 気谷篤人 山本明彦 中川　守	金市工高教 金市工高 金市工高 金市工高	2位	○北方　匡 一木千代乃 前川裕美 黒川幸子	尾山台高教 金城高 金城高 尾山台高		県単；少年男子
○彼島重範 石田　満 小池田基 武田　修	金市工高教 金市工高 金市工高 金市工高		○村西　一 中田裕子 谷川絹代 門前裕子	二水高教 尾山台高 向陽高 二水高		県単；少年女子
○彼島重範 小池田基 武田　修 見神雅彦	金市工高教 金市工高 金市工高 七尾工高	5位				県単；成年男子

年度	回数	開催地	総合成績	成年男子 一般男子 選手名	所属	成績	成年男子 教員男子 選手名	所属	成績	成年女子 選手名	所属	成績
昭63年 (1988)	43	長岡京市		2巡目に入り、得点集計方法変更								
				○長谷川進 毛利達彦 酒井直人 羽田義仁	RSﾊｾｶﾞﾜ 金沢市役所 ㈱ゴーセン ㈱北國銀行	5位				○東　茂樹 水本幸代 岡田真澄 斎藤美和子	倉庫精練㈱ ㈱北國銀行 ㈱北國銀行 ㈱北國銀行	
平元年 (1989)	44	登別市	総合4位	○長谷川進 毛利達彦 坂井外喜男 羽田義仁	RSﾊｾｶﾞﾜ 金沢市役所 NTT北陸 ㈱北國銀行	5位				○東　茂樹 岡田真澄 斎藤美和子 黒川孝子	倉庫精練㈱ ㈱北國銀行 ㈱北國銀行 自営	5位
平2年 (1990)	45	筑紫野市		○長谷川進 毛利達彦 羽田義仁 山本明彦	RSﾊｾｶﾞﾜ 金沢市役所 ㈱北國銀行 ㈱北國銀行	5位				○東　茂樹 岡田真澄 中尾仁美 黒川孝子	倉庫精練㈱ ㈱北國銀行 ㈱北國銀行 澁谷工業㈱	
平3年 (1991)	46	美川町	総合優勝	○長谷川進 毛利達彦 羽田義仁 崎田健一	RSﾊｾｶﾞﾜ 金沢市役所 ㈱北國銀行 ㈱北國銀行	3位				○東　茂樹 小泉陽子 上浜陽子 中尾仁美	倉庫精練㈱ 県体育協会 澁谷工業㈱ ㈱北國銀行	3位
平4年 (1992)	47	新庄市	総合6位	○長谷川進 羽田義仁 崎田健一 星　明彦	RSﾊｾｶﾞﾜ ㈱北國銀行 ㈱北國銀行 ㈱北國銀行	5位				○東　茂樹 小泉陽子 上浜陽子 中田裕子	倉庫精練㈱ 澁谷工業㈱ 澁谷工業㈱ ㈱北國銀行	
平5年 (1993)	48	坂出市		○長谷川進 羽田義仁 山本明彦 武田　修	RSﾊｾｶﾞﾜ ㈱北國銀行 ㈱北國銀行 ㈱北國銀行	5位						
平6年 (1994)	49	大府市	総合7位	○長谷川進 崎田健一 山本明彦 武田　修	RSﾊｾｶﾞﾜ ㈱北國銀行 ㈱北國銀行 ㈱北國銀行	5位						
平7年 (1995)	50	白河市	総合3位	この年より、大学生が出身高校の地元県より出場できるようになった。また、ナシ								
				○長谷川進 崎田健一 山本明彦 武田　修	RSﾊｾｶﾞﾜ ㈱北國銀行 ㈱北國銀行 ㈱北國銀行							
平8年 (1996)	51	三原市	総合4位							○東　茂樹 下村絵里 中嶋智子 中村奈穂子	倉庫精練㈱ ㈱北國銀行 ㈱北國銀行 ㈱北國銀行	
平9年 (1997)	52	大東市	総合2位	○崎田健一 武田　修 石本明男 舛田圭太	㈱北國銀行 ㈱北國銀行 ㈱北國銀行 日本体育大学							

1位；40点
2位；35点
3位；30点
4位；25点
5位；12.5点
参加点；10点

競技種目の得点がそのままその県の得点に累計

石川県選手団名簿・成績表－4

少年男子			少年女子			備考
選手名	所属	成績	選手名	所属	成績	
						県単；成年女子
○村田耕一	松陵工高教	4位	○和田　修	向陽高教	5位	県単；少年女子
田中康裕	松陵工高		中橋利美	向陽高		
小松竜成	松陵工高		多田久美	向陽高		
紺谷幸一	金市工高		村田佳苗	二水高		
○村西　一	二水高教		○和田　修	向陽高教	4位	県単；少年女子
寺尾隆司	二水高		多田久美	向陽高		
大多晴久	金市工高		安田香奈	向陽高		
石本明男	金市工高		津田藍子	向陽高		
○村西　一	二水高教	3位	○和田　修	向陽高教	3位	県単；成年男子
青木　康	二水高		津田藍子	向陽高		
竹鼻拓也	二水高		安田香奈	向陽高		
石本明男	金市工高		丸山実支子	二水高		
○彼島重範	金市工高教	5位	○和田　修	向陽高教	4位	県単；成年女子
沖野威一郎	金市工高		佐竹綾乃	向陽高		
加藤　亘	金市工高		中嶋智子	向陽高		
森　智麿	金市工高		松田奈緒子	向陽高		
○彼島重範	金市工高教		○村西　一	二水高教		県単；少年男子
古澤清吾	金市工高		杉本　恵	二水高		
鶴見　崇	金市工高		桜井宏子	二水高		
津田光一郎	金市工高		吉田恵美	二水高		
○彼島重範	金市工高教		○和田　修	向陽高教		県単；少年女子
津田光一郎	金市工高		中島珠美	向陽高		
奥森正志	金市工高		片糸由希子	向陽高		
舛田圭太	金市工高		中村奈穂子	向陽高		
ョナルメンバーも出れるようになった						
○彼島重範	金市工高教	3位	○和田　修	向陽高教	優勝	県単；成年男子
徳坂　渉	金市工高		中島珠美	向陽高		
栄代正男	金市工高		片糸由希子	向陽高		
舛田圭太	金市工高		堀　哲子	向陽高		
○彼島重範	金市工高教	優勝	○和田　修	向陽高教	4位	県単；成年女子
舛田圭太	金市工高		堀　哲子	向陽高		
車　浩明	金市工高		奥村亜紀代	向陽高		
酒井忠相	金市工高		田井美幸	向陽高		
○彼島重範	金市工高教	3位	○和田　修	向陽高教	2位	県単；少年男子
車　浩明	金市工高		田井美幸	向陽高		
酒井忠相	金市工高		舛田　恵	向陽高		
茶谷徳靖	金市工高		田村恵理	向陽高		



美川町で開催された第46回国民体育大会のバドミントン競技開会式

県協会主催大会優勝の記録

年度	団体総合		渋谷杯混合ダブルス
	男子	女子	チャンピオン
昭47(1972)	津田駒工業	津幡高校	
48(1973)	金沢市立工業高校	津幡高校	
49(1974)	金沢市役所	藤花高校	
50(1975)	松任クラブ	藤花高校	
51(1976)	松任クラブ	加賀クラブ	
52(1977)	松任クラブ	金沢二水高校	
53(1978)	松任クラブ	金城高校	石垣輝子・長谷川進
54(1979)	松任クラブ	金沢向陽高校	高僧智子・田上喜弘
55(1980)	七尾クラブ	金城高校	森成美・酒井直人
56(1981)	七尾クラブ	高松ウィンテックス	片糸康子・油野公徳
57(1982)	高松ウィンテックス	金沢二水高校	森成美・酒井直人
58(1983)	金沢市役所	金城高校	森成美・酒井直人
59(1984)	高松ウィンテックス	金沢二水高校	小野順子・長谷川進
60(1985)	金沢市立工業高校	北國銀行	小路和代・舛田吉光
61(1986)	金沢市役所	北國銀行	小路和代・舛田吉光
62(1987)	金沢市立工業高校	北國銀行	彼島佳子・羽田義仁
63(1988)	北國銀行	北國銀行	岡田真澄・舛田吉光
平元(1989)	北國銀行	金沢向陽高校	辻清美・高橋光一
2 (1990)	北國銀行	北國銀行	中尾仁美・羽田義仁
3 (1991)	北國銀行	北國銀行	辻清美・高橋光一
4 (1992)	北國銀行	北國銀行	小泉陽子・羽田義仁
5 (1993)	北國銀行	北國銀行	中嶋智子・羽田憲治
6 (1994)	北國銀行	北國銀行	辻清美・高橋光一
7 (1995)	北國銀行	金沢向陽高校	下村絵里・武田修
8 (1996)	北國銀行	北國銀行	彼島佳子・村本幹夫
(97)	北國銀行	金沢向陽高校	下村絵里・武田修

石川県個人総合選手権優勝者(一般の部)

年　　度	開催地	一般男子単	一般男子複	一般女子単	一般女子複
昭23(1948)					
24(1949)					
25(1950)	金沢市	三浦(KBC)	三浦・香村(KBC)	貝原(KBC)	三浦・林(泉岡・高等師範付)
26(1951)					
27(1952)	小松市	大友(KBC)	大友・香村(KBC)	登(KBC)	岩倉・登(KBC)
28(1953)	金沢市	澁谷弟(澁谷工)	澁谷兄弟(澁谷工)	登(羽咋)	登・貝原(KBC)
29(1954)	金沢市	東(丸越)	澁谷兄弟(澁谷工)	貝原(KBC)	登・貝原(KBC)
30(1955)	金沢市	岡崎(七尾)	東・中島(丸越・中六)	登(石川繊)	澁谷・村(澁谷工)
31(1956)	金沢市	関(二水OB)	米谷・硎谷(二水OB)	山本(二水OG)	山本・石黒(二水OG)
32(1957)	金沢市	北方(二水OB)	東・中島(KNB)	山本(二水OG)	山本・藤田(二水OG)
33(1958)	金沢市	新田(二水OB)	村田・酒井(津幡)	長田(保育短)	
34(1959)	金沢市	酒井(河北)	村田・酒井(河北)	長田(北陸栄専)	川・松田(中村運動具店・金城OG)
35(1960)	金沢市	北方(藤花教)	北方・新田(藤花教・二水OB)	川(大和)	川・藤江(大和・石川プレート)
36(1961)	金沢市	新田(二水OB)	北方・河原山(藤花教・押野教)	藤江(石川プ)	藤江・岡田(石川プ・金城OG)
37(1962)	金沢市				藤江・加藤(石川プ)
38(1963)	金沢市				
39(1964)	金沢市	北方(藤花教)	北方・河原山(藤花教・金市工教)	左尾(藤花)	小林・白川(藤花)
40(1965)	金沢市	松田(前多商)		左尾(藤花)	左尾・福田(藤花)
41(1966)	金沢市	東(金市工)	高来・流(金市工)	竹中(二水)	竹中・坂本(二水)
42(1967)	金沢市				
43(1968)	金沢市	沢田(北陸電通)	沢田・黒田(北陸電通・三精商)	沢野(津幡)	山口・北林(藤花)
44(1969)	金沢市	桶谷(中央大)	松下・奥村(電通・二水OB)	中村(金大)	中村・富田(金大)
45(1970)	金沢市	池本(近畿大)	相川・池本(金市工OB)	藤井(穴水教)	中村・富田(金大)
46(1971)	金沢市	相川(中央大)	相川・銭谷(中央大)	沢野(金城)	田中・庭田(辰ロク)
47(1972)	金沢市	銭谷(中央大)	北方・長谷川(藤花教)	沢野(金城保)	田中・庭田(辰ロク)
48(1973)	金沢市	長谷川(藤花教)	松下・相川(電通・知栄建設)	森田(東女体大)	田丸・横山(津幡)
49(1974)	金沢市	長谷川(藤花教)	北方・長谷川(藤花教)	石田(藤花)	石田・石垣(藤花)
50(1975)	金沢市	長谷川(藤花教)	相川・米(知栄建・コカコーラ)	石田(藤花)	角谷・高僧(加賀ク・安藤薬品)
51(1976)	金沢市	堂谷内(津田駒)	長谷川・東(明和教・倉庫精練)	石垣(石川プ)	石垣・川端(石川プレート)
52(1977)	金沢市	長谷川(明和教)	長谷川・舛田(明和教・大根布東教)	小野(尾山台)	石垣・角谷(石川プ・貯金局)
53(1978)	金沢市	長谷川(明和教)	長谷川・舛田(明和教・大根布東教)	石垣(石川プ)	石垣・角谷(石川プ・貯金局)
54(1979)	金沢市	舛田(大根布東教)	長谷川・舛田(明和教・大根布東教)	小野(日女短)	石垣・中川(石川プ・菅井法律)
55(1980)	金沢市	舛田(大根布東教)	酒井・水内(ゴーセン・富樫教)	桶谷(桶谷歯科)	片糸・桶谷(石羽会)
56(1981)	金沢市	長谷川(RSハセガワ)	長谷川・酒井(RSハセガワ・ゴーセン)	伊東(尾山台教)	宮野・伊東(豊教・尾山台教員)
57(1982)	金沢市	毛利(金沢市役所)	長谷川・毛利(RSハセガワ・金沢市役所)	伊東(尾山台教)	長谷・大田(二水・金商)
58(1983)	金沢市	毛利(金沢市役所)	長谷川・舛田(RSハセガワ・県体育館)	小野(西南部教)	彼島・長谷(日本楽器・青山学院)
59(1984)	金沢市	舛田(県体育館)	酒井・毛利(ゴーセン・金沢市役所)	伊東(尾山台教)	伊東・彼島(尾山台教・北國銀行)
60(1985)	金沢市	舛田(県体育館)	酒井・毛利(ゴーセン・金沢市役所)	小野(西南部教)	伊東・彼島(尾山台教・北國銀行)
61(1986)	金沢市	舛田(県体育館)	長谷川・羽田俊(RSハセガワ・サンレース)	小路(内灘教)	小野・小路(西南部教・内灘教)
62(1987)	金沢市	舛田(県体育館)	酒井・藤橋(ゴーセン・高松町役)	彼島(北國銀行)	水本・谷川(北國銀行・PFU)
63(1988)	金沢市	毛利(金沢市役所)	毛利・羽田義(市役所・北國銀行)	水本(北國銀行)	水本・岡田(北國銀行)
平元(1989)	金沢市	毛利(金沢市役所)	西島・武田(北國銀行)	岡田(北國銀行)	岡田・斉藤(北國銀行)
2(1990)	金沢市	崎田(北國銀行)	羽田憲・崎田(北國銀行)	中尾(北國銀行)	多田・安田(向陽)
3(1991)	金沢市	山本(北國銀行)	山本・武田(北國銀行)	小泉(県体協)	小泉・上浜(体協・渋谷工)
4(1992)	金沢市	森(金市工)	山本・武田(北國銀行)	小泉(県体協)	小泉・上浜(体協・渋谷工)
5(1993)	金沢市	山本(北國銀行)	坂井・山尾(NTT)	津田(東海大学)	中田・中嶋(北國銀行)
6(1994)	金沢市	崎田(北國銀行)	西島・小池田(北國銀行)	中島(向陽)	中嶋・下村(北國銀行)
7(1995)	金沢市	舛田(金市工)	山本・武田(北國銀行)	中島(向陽)	中島・片糸(向陽)
8(1996)	金沢市	舛田(金市工)	石本・舛田(北國銀行・金市工)	堀(向陽)	堀・奥村(向陽)
9(1997)	金沢市	石本(北國銀行)	武田・石本(北國銀行)	田井(向陽)	田村・舛田(向陽)

石川県個人総合選手権優勝者(成年の部)

年度	成年男子単	成年男子複	成年女子複
昭23(1948)			
24(1949)			
25(1950)			
26(1951)			
27(1952)	飯塚(金大医)	八木・飯塚(金大医)	
28(1953)	飯塚(金大医)	飯塚・加納(金大医)	
29(1954)	飯塚(金大医)	瓜長・松田(金大医)	
30(1955)	鶴屋(小松)	伊東・鶴屋(小松)	
31(1956)			
32(1957)			
33(1958)			
34(1959)	中島(NKB)		
35(1960)			
36(1961)	中島(NKB)		
37(1962)			
38(1963)			
39(1964)	中島(中六)		
40(1965)	桜木(津田駒)		
41(1966)			
42(1967)			
43(1968)	倉(小松製)	原・竹村(水曜会)	
44(1969)	桜木(津田駒)		
45(1970)	原(小松製)		
46(1971)	毛利(小松協)	毛利・玉井(小松協会)	
47(1972)	村西(二水教)	村西・中田(二水教・倉庫精練)	
48(1973)	毛利(小松協)	原・毛利(小松製・小松協)	
49(1974)	毛利(小松協)		
50(1975)		村田・紺谷(水鳥クラブ)	
51(1976)	毛利(小松協)	松田・大杉(美川クラブ)	
52(1977)	毛利(長田郵便局)	北方・中田(尾山台教・倉庫精練)	
53(1978)	中村(松任協)	中田・中村(松任協会)	
54(1979)	原(七尾協)	高来・黒田(金沢協・片山電)	
55(1980)	油野(ABUス)	油野・原(ABUス・日成ビ)	
56(1981)	油野(ABUス)	油野・原(ABUス・日成ビ)	
57(1982)	油野(ABUス)	高来・村中(金沢教・三馬ク)	
58(1983)	近藤(加賀ク)	原・流(日成ビ・三馬公)	
59(1984)	油野(金糖)	原・田上(七尾クラブ)	片糸・辻(FCC)
60(1985)	油野(カナカン)	浜谷・谷島(NTT)	辻・津田(FCC)
61(1986)	谷島(NTT)	浜谷・谷島(NTT)	森田・中島(高松ク・宇ノ気ク)
62(1987)	谷島(NTT)	浜谷・谷島(NTT)	関戸・角(小松クラブ)
63(1988)	谷島(NTT)	浜谷・谷島(NTT)	堂谷内・中村(額バード)
平元(1989)	山本(七尾ク)	山本・越沢(七尾クラブ)	中村・北野(額バード)
2(1990)	谷島(NTT)	浜谷・谷島(NTT)	中村・北野(額バード)
3(1991)	堂谷内(桶谷歯)	浜谷・谷島(NTT)	片糸・片山(あすなろ)
4(1992)	谷島(NTT)	村本・宮坂(七尾ク)	桶谷・北野(額バード)
5(1993)	谷島(NTT)	谷島・村本(NTT)	片糸・内田(あすなろ)
6(1994)	谷島(NTT)	谷島・村本(NTT)	彼島・桶谷(MS・星稜教)
7(1995)	丹野(瓢友ク)	村本・宮坂(七尾ク)	桶谷・中村(額バード)
8(1996)	谷島(NTT)	宮坂・塩山(七尾ク・輪島ク)	竹井・中村(額バード)
9(1997)	水内(金市工教)	宮坂・塩山(七尾ク・輪島ク)	片糸・村(あすなろ)

石川県個人総合選手権優勝者(壮年の部)

年　度	壮年男子単	壮年男子複	壮年女子複	壮年女子複45歳以上	混合複
昭23(1948)					
24(1949)					
25(1950)	伊藤(ＫＢＣ)				爪長・貝原(ＫＢＣ)
26(1951)					
27(1952)	酒井(金大医)	酒井・松田(ＫＢＣ)			登　・大西(河北・金大医)
28(1953)	酒井(金大医)	酒井・松田(ＫＢＣ)			小島・澁谷弟(澁谷工)
29(1954)	松田(金大医)				三浦・貝原(ＫＢＣ)
30(1955)	堀野(珠洲)				澁谷弟・村(澁谷工)
31(1956)	堀野(第百生)	松田・瓜長(ＫＢＣ)			中島・石黒(KBC・二水OG)
32(1957)					北方・石黒(二水ＯＢＧ)
33(1958)					
34(1959)					
35(1960)					
36(1961)	小池(小松)				
37(1962)					堂井・　館　(泉丘ク・平井)
38(1963)					
39(1964)	伊藤(自営)				北方・長柄(藤花教・短大)
40(1965)					
41(1966)					
42(1967)					
43(1968)					
44(1969)					
45(1970)					渡辺・　東　(渋谷工・倉庫精検)
46(1971)					沢野・　原　(金城・津幡教)
47(1972)					沢野・　原　(金城・七工教)
48(1973)					角谷・　東　(加賀ク・倉庫精検)
49(1974)					巽　・向井(女子短・金大)
50(1975)					山下・　辻　(小松協会)
51(1976)	原　(小松製作所)	飴谷・岡崎(七尾協会)			高僧・田上(七尾協会)
52(1977)	岡崎(七尾協)	飴谷・岡崎(七尾協会)			高僧・田上(七尾協会)
53(1978)	岡崎(七尾協)	飴谷・岡崎(七尾協会)			
54(1979)	岡崎(七尾協)	北方・奥村(尾山台教・自営)			
55(1980)	岡崎(七尾協)	北方・奥村(尾山台教・自営)			
56(1981)	奥村(金沢協)	北方・奥村(尾山台教・自営)			
57(1982)	松田(美川協)	村田・松田(中屋商・美川協)			
58(1983)	松田(美川協)	山本・玉村(国鉄)			
59(1984)		村田・松田(中屋商・美川協)	村田・田辺(小坂公・大徳ク)		
60(1985)	岡崎(七尾協)	村田・松田(中屋商・美川協)	堤　・花井(伏見台ク・せせらぎク)		
61(1986)	松田(ＳＳマツダ)	村田・松田(中屋商・マツダス)	田辺・村田(大徳ク・小坂ク)		
62(1987)	松田(ＳＳマツダ)	玉村・山本(ＪＲ西日本)	落合・鍋島(崎浦クラブ)		
63(1988)	松田(ＳＳマツダ)	玉村・山本(ＪＲ西日本)	田辺・小林(大徳ク・馬場ク)	谷内坂・岡崎(七尾ク)	
平元(1989)	松田(ＳＳマツダ)	原　・川尻(七尾クラブ)			
2 (1990)	原　(七尾ク)	原　・川尻(七尾クラブ)			
3 (1991)	油野(あすなろ)	原　・川尻(七尾クラブ)			
4 (1992)	松田(ＳＳマツダ)	山本・村中(額バード・三馬ク)			
5 (1993)	油野(あすなろ)	本出・近藤(加賀クラブ)	堤　・田辺(あすなろ)		
6 (1994)	油野(あすなろ)	本出・近藤(加賀クラブ)			
7 (1995)	堂谷内(Ａ・ラボ)	本出・近藤(加賀クラブ)			
8 (1996)	堂谷内(Ａ・ラボ)	本出・近藤(加賀クラブ)	奥村・山本(正美保・小坂公)		
9 (1997)	堂谷内(Ａ・ラボ)	本出・近藤(加賀クラブ)	桶谷・勝木(星稜教・額クラブ)		

石川県個人総合選手権優勝者(少年の部)

年　度	少年男子単	少年男子複	少年女子単	少年女子複
昭23(1948)				
24(1949)				
25(1950)	大友(KBC)	大友・能尾(KBC)		
26(1951)				
27(1952)				
28(1953)				
29(1954)	辻 (二水OB)	江尻・西村(二水)	村 (澁谷工)	石黒・山本(澁谷工・石機)
30(1955)	鳥屋(大和)	江尻・西村(二水OB)	日向(小松)	山崎・田中(種中)
31(1956)				
32(1957)				
33(1958)				
34(1959)				
35(1960)				
36(1961)				
37(1962)	紺谷(津幡)	東田・中山(金沢)	長柄(藤花)	今 ・長柄(藤花)

石川県個人総合選手権優勝者(中学の部)

年　度	中学男子単	中学男子複	中学女子単	中学女子複
昭47(1972)	守山(御祓)	守山・高橋(御祓)	石田(城南)	福原・高木(東部)
48(1973)	坂本(東部)	高山・森田(津幡)	元橋(東部)	福原・高木(東部)
49(1974)	高橋(東部)	坂本・山田(東部)	宮本(門前)	荒木・宮本(門前)
50(1975)	川崎(東部)	垣内・中道(東部)	小路(門前)	相原・長谷川(門前)
51(1976)	木戸(医王山)	北 ・山本(宇ノ気)	小路(門前)	小路・宮崎(門前)
52(1977)	中島(医王山)	小山・芋塚(東部)	久保(東部)	久保・藤重(東部)
53(1978)	村松(高松)	羽田・村松(高松)	喜多(高松)	喜多・ 乾 (高松)
54(1979)	飯利(高松)	飯利・長谷(高松)	長谷(高松)	長谷・竹田(高松)
55(1980)	奥村(御祓)	舟津・西村(内灘)	岡田(高松)	上山・前多(高松)
56(1981)	気谷(河北台)	小川・ 森 (高松)	堀 (国府)	川渕・岡田(高松)
57(1982)	気谷(河北台)	気谷・田丸(河北台)	一木(高松)	一木・門前(高松)
58(1983)	石田(医王山)	白川・山口(河北台)	中川(河北台)	中川・古谷(河北台)
59(1984)	沢村(高松)	板井・金谷(高松)	山田(宇ノ気)	金子・田丸(河北台)
60(1985)	油井(宇ノ気)	宮本・中舎(津幡)	小山(高松)	橋本・宗藤(宇ノ気)
61 1986)	北井(河北台)	花 ・北井(河北台)	中橋(高松)	杉本・油野(宇ノ気)
62(1987)	寺尾(犀川)	石本・本田(美川)	丸山(港)	室田・室田(河北台)
63(1988)	青木(野田)	石本・本田(美川)	津田(津幡)	鍵谷・安田(美川)
平元(1989)	加藤(野田)	加藤・ 森 (野田・泉)	中嶋(宇ノ気)	笠島・古谷(河北台)
2 (1990)	津田(津幡)	斉藤・藤田(医王山)	櫻井(河北台)	櫻井・河内(河北台)
3 (1991)	津田(津幡)	津田・中村(津幡・浅野川)	吉田(美川)	橘 ・ 音 (高岡)
4 (1992)	徳坂(医王山)	青山・徳坂(緑・医王山)	中島(浅野川)	岩脇・奥村(西南部・北星)
5 (1993)	舛田(犀生)	舛田・松田(犀生・城南)	堀 (美川)	岩脇・奥村(西南部・北星)
6 (1994)	小塚(北鳴)	茶谷・酒井(北鳴・田鶴浜)	田村(美川)	明福・田井(美川)
7 (1995)	茶谷(北鳴)	茶谷・酒井(北鳴・田鶴浜)	舛田(犀生)	舛田・渡辺(犀生・野々市)
8 (1996)	山下(田鶴浜)	山下・広瀬(田鶴浜)	西 (美川)	西 ・今村(美川)
9 (1997)	横山(鹿島)	車 ・横山(鹿島)	加賀(鹿島)	加賀・西村(鹿島・森本)

松田杯争奪バドミントン大会優勝者

回	開催期日	種目	男子		女子	
2	昭28(1953)	単	武　部(北銀)		小　西(貯金局)	
		複	西　村(金大)	高　桑(金大)	小　西(貯金局)	米　田(貯金局)
3	29(1954)	単A級	福　村(電通)		五十嵐(二水OG)	
		単B級	西　田(金大)		平　賀(金大)	
		複A級	新　森(中央OB)	桜　木(野町)	五十嵐(二水OG)	藤　弥(二水OG)
		複B級	東　(金大)	茂　藤(金大)		
6	32(1957)	単A級	富士原(金沢)		高　橋(金沢女短大)	
		単B級	桜　木(津田駒工業)		佐久間(長土塀)	
		複	渡　辺(豆耳鼻科)	吉　川(豆耳鼻科)	木　町(看護学校)	盛　一(看護学校)
7	33(1958)	単A級	佃　(金大)		松　永(金沢)	
		単B級	木　村(日硬)		米　沢(倉庫精練㈱)	
		複	江　尻(金大)	江　口(金大)	中　谷(金沢)	松　永(金沢)
10	36(1961)	単A級	土　田(金大)		西　野(短大)	
		単B級	木　村(日硬)			
		複	土　田(金大)	金　田(金大)	西　野(短大)	沢　田(短大)
12	38(1963)	単A級	竹　内(津田駒工業)		出　和(倉庫精練㈱)	
		単B級	室　(倉庫精練㈱)			
		複	稲　松(新竪)	堀　(新竪)	平　木(看護学院)	長　原(看護学院)
22	48(1973)	単A級	東　海(小松製作所)		西　野(大同工業㈱)	
		単B級	中　川(中央クラブ)		北　村(辰口クラブ)	
		複	滝根(竹)(金市工定時制)	滝根(松)(金市工定時制)	西　野(大同工業㈱)	北　出(大同工業㈱)
27	53(1978)	単A級	毛　利(金大)		萩　本(小松協会)	
		単B級	西　川(金医大)			
30	56(1981)	単A級	背　川(金工大)		市　川(短大)	
		単B級	岡　部(津幡)			
		複	辻　(三馬ク)	村　中(三馬ク)	宮　川(勤体協)	萩　谷(勤体協)
39	平2(1990)	単	杉　林(額バード)		村　上(額バード)	
		複	宮　川(瓢友クラブ)	八　幡(瓢友クラブ)	村　上(額バード)	槻　(額バード)
40	3(1991)	単	谷　野(中央クラブ)		岸　(飛翔会)	
		複	古　川(中央クラブ)	谷　野(中央クラブ)	岸　(飛翔会)	塗　師(飛翔会)
41	4(1992)	単	橋　爪(小坂クラブ)		浜　田(富士通北陸)	
		複	武　部(富士通北陸)	宮　谷(富士通北陸)	高　松(倉庫精練㈱)	中　田(倉庫精練㈱)
42	5(1993)	単	武　部(富士通北陸)		直　江(金沢クラブ)	
		複	柿　本(翼会)	吉　岡(翼会)	谷　口(南部クラブ)	大　島(南部クラブ)
43	6(1994)	単	亀　田(渋谷工業㈱)		本　郷(飛翔会)	
		複	七　野(飛翔会)	神　田(飛翔会)	本　郷(飛翔会)	河　崎(飛翔会)
44	7(1995)	単	中　村(オールプレーヤーズ)		鶴　来(倉庫精練㈱)	
		複	山　水(飛翔会)	浜　田(飛翔会)		
45	8(1996)	単	宮　谷(たうんず)		奥　村(北陸学院短)	
		複	山　内(飛翔会)	渡　辺(飛翔会)	沢　(鶴来クラブ)	向　口(鶴来クラブ)

46	9 (1997)	単	宮　本(オールプレーヤーズ)	大　澤(飛翔会)
		複	松　原(オールプレーヤーズ)　高　橋(オールプレーヤーズ)	鶴　来(倉庫精練㈱)　石　田(倉庫精練㈱)

松田杯争奪バドミントン大会の歴史

昭和27年に松田龍一杯争奪新人バドミントン大会として開催され、平成９年度で第46回と続いている。

社会人、学生の新人の登竜門の大会として設立。

松田龍一先生は金沢大学医学部耳鼻咽喉科教授で自らも80歳近くまでバドミントンを愛好されて、享年81で亡くなられた。現在、松田教授の門下生で組織されている〝松門会〟のご協力で毎年６月上旬に開催している。

平成元年まで、学生連盟が主管していたが諸般の事情により、県協会普及部で運営している。

ゴーセン杯争奪バドミントン大会

回	開催期日	会場	優勝チーム
1	昭55(1980) 3月23日	金沢市	材木公民館A
2	56(1981) 3月22日	金沢市	三馬公民館A
3	57(1982) 3月21日	金沢市	三和
4	58(1983) 3月13日	金沢市	小松A
5	59(1984) 3月18日	金沢市	三馬公民館A
6	60(1985) 3月18日	金沢市	小松クラブA
7	61(1986) 3月23日	金沢市	七尾クラブ
8	62(1987) 3月22日	金沢市	宇ノ気A
9	63(1988) 3月20日	金沢市	宇ノ気A
10	平元(1989) 3月19日	金沢市	瓢友クラブC
11	2 (1990) 3月11日	金沢市	額バードA
12	3 (1991) 3月10日	金沢市	飛翔会A
13	4 (1992) 3月 8日	金沢市	飛翔会A
14	5 (1993) 3月14日	金沢市	高松クラブA
15	6 (1994) 3月13日	金沢市	瓢友クラブA
16	7 (1995) 3月12日	金沢市	三馬クラブA
17	8 (1996) 3月20日	金沢市	高松クラブA
18	9 (1997) 3月23日	金沢市	飛翔会A
19	10(1998) 3月15日	金沢市	飛翔会A

県バドミントンダブルス大会(ヤマハ杯)

回	開催期日	会場	種別	優勝チーム
1	昭59(1984)11月 3 日	金沢市	男子	北天クラブ
2	60(1985)11月24日	金沢市	男子	錦城ラブゲーム
3	61(1986)11月 2 日	金沢市	男子	瓢友クラブ
4	62(1987)11月 1 日	金沢市	男子	瓢友クラブ
5	63(1988)11月23日	金沢市	男子	医王山ＢＣ
6	平元(1989)11月 5 日	金沢市	男子１部	瓢友クラブ
			２部	三馬クラブ
7	2 (1990)11月25日	金沢市	男子１部	翼会
			２部	三和クラブ
			女子	瓢友クラブ
8	3 (1991)10月27日	金沢市	男子１部	飛翔会A
			２部	額バードA
			女子	三馬クラブ

ゴーセン杯争奪バドミントン大会の歴史

昭和55年に第１回を開き、平成９年度で第19回と続いている。

県協会普及部で、社会人の愛好者の増加とともに練習の成果を発揮する大会として設立。

㈱ゴーセンに依頼し冠大会として協力をいただいている。

試合形式：女子ダブルス
男子ダブルス
混合ダブルス

過去、３年間県外大会出場選手及び県個人戦青年種目ベスト８は出場できない大会。

県バドミントンダブルス大会（ヤマハ杯）の歴史

昭和59年に第１回ヤマハ杯を開催、平成３年まで続く。平成４年より名称を県バドミントンダブルス大会と変更し現在に至る。

県協会普及部で、家庭婦人連盟の発展と共に、〝パパさん〟の大会を計画立案。当初、㈱サンバタに協力を依頼し、サンバタ杯争奪大会として要項を発送した。しかしながら、大会直前に㈱サンバタが倒産し、急遽当時の県協会中島理事長が㈱ヤマハに依頼し、大会が成立した。

平成元年に、社会人連盟が創立したので運営を社会人連盟に移管する。但し、石川国体までその余剰金を国体協力金として折半することで合意。その精神は、大会名称が変更した現在でもジュニア強化協力金として受け継がれている。

平成３年に、㈱ヤマハが後援を辞退する旨通知があり社会人連盟としてはなんらかの形で大会を継続したく県ダブルス大会を立案し県協会の承認を受け現在に至る。今、生涯スポーツとして合計年齢100歳以上のクラスもあり年初めの１月下旬に開催している。

ダブルス交歓会優勝者

回	開催期日	会場	種別	個人	複
1	平4(1992)11月15日	金沢市	男子A	北西・吉岡(翼会)	
			男子B	梅木・山田(瓢友ク)	
			女子A	安田・坂本(三馬ク)	
			女子B	森田・川端(高松ク)	
2	平5(1993)11月14日	金沢市	男子A	北西・吉岡(翼会)	
			男子B	宮川・八幡(翼会)	
			男子C	山水・柿本(翼会)	
			女子A	安田・山本(北電)	
			女子B	西井・大垣(鹿島)	
			女子C	高田・大久保(あさの)	
3	平6(1994)11月27日	金沢市	男子フリーダム	喜谷・山内(飛翔会)	
			男子ナイスミドル	弓立・中村(小松電)	
			男子ナイスシニヤ	高来・石井(フェニックス)	
			男子ビギナーA	池田・三伝(瓢友)	
			男子ビギナーB	高崎・安達(南小立野)	
			女子フリーダム	安田・坂本(三馬)	
			女子ナイスミドル	神野・西村(あすなろ)	
			女子ナイスシニア	高田・笠間(大徳)	
			女子ビギナーA	山根・下(グリップ・野々市)	
			女子ビギナーB	古道・新田(野々市)	
4	平7(1995)11月26日	金沢市	男子フリーダム	小又・池田(I. B. C)	
			男子ナイスミドル	中島・嵐山(グリップ)	
			男子ナイスシニヤ	高来・石井(フェニックス)	
			男子ビギナーA	小西・高橋(オールプレーヤーズ)	
			男子ビギナーB	前田・能村(小坂)	
			女子フリーダム	堀岡・北口(倉庫精練)	
			女子ナイスミドル	神野・西村(あすなろ)	
			女子ナイスシニア	高田・笠間(大徳)	
			女子ビギナーA	渡辺・河原(浅野川)	
			女子ビギナーB	蛇田・松田(小坂)	
5	平9(1997)1月12日	金沢市	男子フリーダム	小又・池田(I. B. C)	
			男子ナイスミドル	藤田・花野(瓢友)	
			男子ナイスシニヤ	高来・石井(フェニックス)	
			男子ビギナーA	長谷川・長谷川(I. B. C)	
			男子ビギナーB	村上・馬場(小坂)	
			男子ベストシニア	若松・辻(三馬)	
			女子フリーダム	高島・山本(金沢C・北陸電力)	
			女子ナイスミドル	村上・幸田(フェニックス)	
			女子ナイスシニア	坂田・山田(フェニックス)	
			女子ビギナーA	新田・潟渕(浅野川シャトル)	
			女子ビギナーB	山口・木村(加賀)	
			女子ベストシニア	増田・岡田(三馬)	

全日本実業団選手権大会

回	開催年	開催地	主な成績
5	昭31(1956)	高岡市	男子団体 ベスト8 金沢大学附属病院
12	昭37(1962)	熊本市	男子複 ベスト8 北方 匡・新田正治
25	昭50(1975)	高岡市	男子単 ベスト8 堂谷内均
26	昭51(1976)	藤沢市	40歳以上男子単 3位 原 明弘
27	昭52(1977)	大阪市	40歳以上男子単 3位 原 明弘
		京都市	40歳以上男子複 **優勝** **岡崎健一・飴谷信夫**
28	昭53(1978)	東京都	40歳以上男子複 **優勝** **岡崎健一・飴谷信夫**
29	昭54(1979)	倉敷市	40歳以上男子単 3位 岡崎健一
			40歳以上男子複 3位 岡崎健一・飴谷信夫
30	昭55(1980)	新居浜市	30歳以上男子単 3位 石川順一
			40歳以上男子複 2位 岡崎健一・飴谷信夫
31	昭56(1981)	名古屋市	30歳以上男子単 **優勝** **堂谷内均**
38	昭63(1988)	**金沢市**	男子団体 ベスト8 金沢市役所
41	平3(1991)	仙台市	男子団体 ベスト8 北國銀行
42	平4(1992)	広島市	男子団体 ベスト8 北國銀行
43	平5(1993)	高岡市ほか	男子団体 ベスト8 北國銀行
44	平6(1994)	福岡市	男子団体 ベスト8 北國銀行
45	平7(1995)	札幌市	男子団体 ベスト8 北國銀行
46	平8(1996)	東京都	男子団体 ベスト8 北國銀行
47	平9(1997)	八代市	男子団体 ベスト8 北國銀行

☆日本リーグへの北國銀行チームの挑戦

◇男子

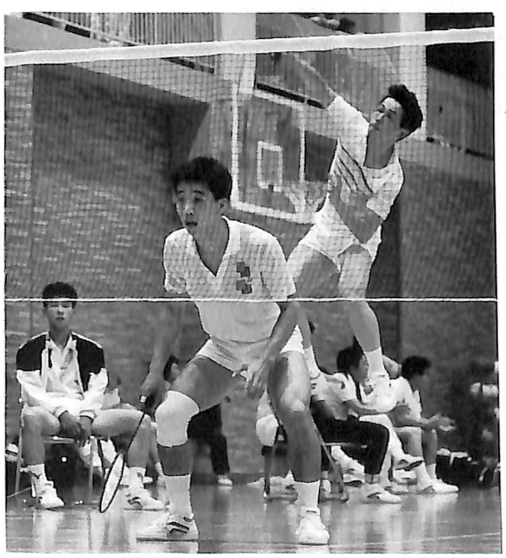
平成2年(第12回) 3勝4敗 6位
平成3年(第13回) 3勝4敗 4位
平成4年(第14回) 1勝6敗 8位

☆2部リーグ(実業団リーグ)

	◇男子	◇女子
平成2年(第12回)	3位	4位
平成3年(第13回)	**(1部)**	2位
平成4年(第14回)	**(1部)**	3位
平成5年(第15回)	2位	4位
平成6年(第16回)	2位	4位
平成7年(第17回)	**優勝**	5位
平成8年(第18回)	**優勝**	4位
平成9年(第19回)	2位	7位

北信越実業団選手権大会

回	開催年	開催地	男子				女子			
			優勝	2位	3位		優勝	2位	3位	
1	昭47(1972)	高岡市			津田駒工業					
2	昭48(1973)	福井市			津田駒工業					
3	昭49(1974)	新潟市		津田駒工業	金沢市役所			津田駒工業		
4	昭50(1975)	**金沢市**			金沢市役所	小松製作所粟津工場			日興證券	大同工業
5	昭51(1976)	塩尻市		金沢市役所	小松製作所粟津工場			石川プレート		
6	昭52(1977)	高岡市		金沢市役所	小松製作所粟津工場			石川プレート		
7	昭53(1978)	福井市			金沢市役所					
8	昭54(1979)	新潟市			金沢市役所					
9	昭55(1980)	**金沢市**		ゴーセン	金沢市役所			石川プレート	菅井法律事務所	
10	昭56(1981)	更埴市								
11	昭57(1982)	高岡市		金沢市役所						
12	昭58(1983)	福井市		金沢市役所	ゴーセン			倉庫精練	北國銀行	
13	昭59(1984)	新潟市		金沢市役所	ゴーセン		**北國銀行**		倉庫精練	
14	昭60(1985)	**金沢市**		金沢市役所	ゴーセン	NTT北陸			北國銀行	倉庫精練
15	昭61(1986)	中野市			NTT北陸			北國銀行	倉庫精練	
16	昭62(1987)	高岡市			PFU			北國銀行	PFU	
17	昭63(1988)	福井市	**北國銀行**	金沢市役所				北國銀行	PFU	
18	平元(1989)	燕市	**北國銀行**	金沢市役所					北國銀行	
19	平2(1990)	**金沢市**	**北國銀行**	NTT北陸					北國銀行	PFU
20	平3(1991)	更埴市		北國銀行				北國銀行		
21	平4(1992)	高岡市		北國銀行				北國銀行		
22	平5(1993)	福井市		北國銀行				北國銀行		
23	平6(1994)	新潟市		北國銀行	金沢市役所	NTT北陸			北國銀行	
24	平7(1995)	**金沢市**		北國銀行	金沢市役所				北國銀行	
25	平8(1996)	松本市		北國銀行	金沢市役所				北國銀行	
26	平9(1997)	高岡市		北國銀行	金沢市役所				北國銀行	



北信越実業団選手権大会男子団体で優勝した北國銀行の西島・武田組（平成2年5月）

石川県実業団選手権大会優勝者

回	開催年	会場	男子						女子		混合
			青年単	青年複	成年単	成年複	壮年単	壮年複	青年単	青年複	
1	昭和45年(1970)	小松市体育館	奥村明義	中田吉昭・東　茂樹	岡崎健一	原　明弘・藤井信弘	亀山忠典	亀山忠典・久野　澄	石田順子	渡辺芳美・鉄矢清美	渡辺芳美・東　茂樹
2	46年(1971)	小松市体育館	堂谷内均	安江　勉・山本秀夫	毛利信雄	岡崎健一・中田吉昭	亀山忠典		庭田清枝	庭田清枝・田中照美	角谷外代子・東　茂樹
3	47年(1972)	小松市来広体育館	堂谷内均	安江　勉・堂谷内均	毛利信雄	岡崎健一・中田吉昭			田中照美	庭田清枝・田中照美	道場久美子・東　茂樹
4	48年(1973)	小松市来広体育館	相川　進	中田清昭・東　茂樹	毛利信雄	岡崎健一・中田吉昭	加納孝一		角谷俊子	角谷俊子・竜節 小松協会	田村節子・堂谷内均
5	49年(1974)	小松市来広体育館	堂谷内均	堂谷内均・木下一彦	毛利信雄	岡崎健一・中田吉昭	亀山忠典		高木敏美	高木敏美・高畠悦子	角谷千代子・東　茂樹
6	50年(1975)	若宮健民体育館	堂谷内均	相川　進・米　正隆	毛利信雄	岡崎健一・中田吉昭	東　正直	小山清司・岡崎健一	角谷俊子	高畠悦子・高僧智子	角谷俊子・石川順一
7	51年(1976)	若宮健民体育館	堂谷内均	相川　進・米　正隆	岡崎健一	岡崎健一・中田吉昭	東　正直	大友佐泰・東　正直	角谷俊子	片糸康子・辻　玲子	角谷俊子・東　茂樹
8	52年(1977)	若宮健民体育館	堂谷内均	相川　進・米　正隆	毛利信雄	中田吉昭・安江　勉	岡崎健一	岡崎健一・飴谷信夫	石垣輝子	石垣輝子・川端文子	
9	53年(1978)	内灘町体育館	米　正隆	相川　進・米　正隆	油野徳公	中田吉昭・太田博之	東　正直		丸岡真弓	高僧智子・林弥和子	
10	54年(1979)	若宮健民体育館	米　正隆	相川　進・米　正隆	油野徳公	東　茂樹・太田博之	奥村明義	原　明弘・中西良一	中川千栄子	石垣輝子・中川千栄子	
11	55年(1980)	若宮健民体育館	相川　進	米田幸生・池本和雄		東　茂樹・室　勉	奥村明義		桶谷千鶴子	桶谷千鶴子・村田悦子	
12	56年(1981)	高松町勤労者体育センター	長谷川進	四家　裕・村本幹夫	油野徳公	油野徳公・原　正人	奥村明義	辻　禎造・奥村明義	山本朋美	山本朋美・横川浩美	
13	57年(1982)	若宮健民体育館	毛利達彦	毛利達彦・太村正信	油野徳公	油野徳公・原　正人	中西良一	玉村正司・中西良一	桶谷千鶴子	桶谷千鶴子・太村直美	
14	58年(1983)	若宮健民体育館	毛利達彦	毛利達彦・田村　稔	相川　進	相川　進・平　康治	中西良一	松田新二郎・村谷信男	黒田信子	桶谷千鶴子・堂谷内まき子	
15	59年(1984)	若宮健民体育館	毛利達彦	長谷川進・室田繁行	相川　進	相川　進・平　康治	松田新二郎	中西良一・玉村正司	彼島佳子	彼島佳子・中川真紀	
16	60年(1985)	若宮健民体育館	長谷川進	酒井直人・谷島英夫	松田新二郎	谷島助男・宮本勝裕		中西良一・玉村正司	黒田信子	桶谷千鶴子・堂谷内まき子	
17	61年(1986)	野々市町民体育館	羽田義仁	羽田義仁・西島弘幸					水本幸代	彼島佳子・水本幸代	
18	62年(1987)	野々市町民体育館	羽田義仁	羽田義仁・西島弘幸					水本幸代	岡田真澄・斎藤美和子	
19	63年(1988)	野々市町民体育館	羽田義仁	西島弘幸・武田　修					水本幸代	斎藤美和子・油野敏美	
20	平成元年(1989)	松任市総合体育館	坂井外喜男	羽田義仁・崎田健一					岡田真澄	岡田真澄・斎藤美和子	
21	平成2年(1990)	北國銀行スポーツセンター	武田　修	羽田義仁・山本明彦					岡田真澄	岡田真澄・中尾仁美	

平成3年より、参加者減と類似大会が多いことで中断

石川県実業団リーグ優勝チーム

開催年	男子						女子	
	1部A	1部B	順位戦	2部				
昭56(1981)	金沢市役所	電電北陸	電電北陸	収納アパレル七尾				
	1部	2部	3部	4部	5部	6部	1部	2部
昭57(1982)	金沢市役所	北陸郵政局	日野車体金沢	伸晃化学			澁谷工業	
昭58(1983)	金沢市役所	石川県庁	北陸電力	ユーザック			菅井法律事務所	
昭59(1984)	電電北陸	石川プレート	ユーザック	北國銀行			北國銀行	
昭60(1985)	金沢市役所	ユーザック	NTT北陸B	津田駒B			北國銀行	
昭61(1986)	NTT北陸	津田駒	NTT北陸B	カナカン	金大職員		北國銀行	津田駒
昭62(1987)	金沢市役所	JR西日本金沢	北國銀行	北陸電力	福島印刷		北國銀行	津田駒
昭63(1988)	NTT北陸	北國銀行	金大職員	福島印刷	小松電子	金大職員C	北國銀行	津田駒
平元(1989)	北國銀行	津田駒	福島印刷	日野車体金沢	金大職員B	ナルックス	北國銀行	橋本確文堂
平2(1990)	北國銀行	福島印刷	石川県庁	金沢市役所B	NTT北陸C	北陸郵政局C	北國銀行	津田駒
平3(1991)	北國銀行	RSハセガワ	北陸電力A	松下電器液晶	北陸郵政局C	北陸電力C	北國銀行	橋本確文堂
平4(1992)	北國銀行	北陸電力	小松製作所	石川県庁B	松任市役所	松下電器液晶B	北國銀行	津田駒
平5(1993)	北國銀行	金大職員	JR西日本金沢	津田駒B	北陸電力B	高桑美術印刷	北國銀行	津田駒
平6(1994)	北國銀行	ゴーセン	北陸郵政局	金大職員B	金沢市役所B	ナルックス	北國銀行	津田駒
平7(1995)	北國銀行	RSハセガワ	金大職員	澁谷工業	ナルックス	小松電子B	北國銀行	北陸電力
平8(1996)	北國銀行	津田駒	澁谷工業	金大職員B	加賀東芝		北國銀行	倉庫精練
平9(1997)	北國銀行	松下電器液晶	福島印刷B	北陸電力B	アムズ		北國銀行	

石川県寺井大会優勝者

常設会場　寺井町体育館

回	開催年	男子			女子		
		団体	単	複	団体	単	複
1	昭45(1970)	津田駒工業	山本秀夫	中田吉昭・東　茂樹	辰口クラブ	田中照美	平松美恵子・荒井幸江
2	46(1971)	津田駒工業	長谷川進	安江　勉・山本秀夫	能美クラブ	田中照美	角谷外代子・塗師(小松クラ)
3	47(1972)	津田駒工業	長谷川進	原　栄一・中村貞夫	能美クラブ	田中照美	角谷外代子・塗師(小松クラ)
4	48(1973)	金沢市役所	長谷川進	中田吉昭・東　茂樹	能美クラブ	角谷俊子	田中照美・庭田清枝
5	49(1974)	津田駒工業	長谷川進	池本和雄・山下敏行	小松水曜会	角谷俊子	角谷外代子・関戸恵美子
6	50(1975)	松任協会	長谷川進	相川　進・米　正隆	小松水曜会	角谷俊子	辻　鈴子・巽　恵子
7	51(1976)	松任協会	長谷川進	黒田　博・高来秀夫	石川プレート	江川友子	石垣輝子・川端文子
8	52(1977)	七尾協会	長谷川進	黒田　博・高来秀夫	七尾協会	牧野三千代	石垣輝子・川端文子
9	53(1978)	金沢高校クラブ	長谷川進	竹中康弘・石村　守	小松協会	萩本恵子	中田扶佐子・東　俊子
10	54(1979)	七尾協会	舛田吉光	黒田　博・高来秀夫	藤花クラブ	宮野明子	石垣輝子・中川千栄子
11	55(1980)	加賀クラブ	舛田吉光	相川　進・新村秋男	石川羽球会	桶谷千鶴子	宮野明子・石垣輝子
12	56(1981)	高松ウィンテックス	長谷川進	酒井直人・牧野　裕	桶谷歯科	横川浩美	桶谷千鶴子・片糸康子
13	57(1982)	高松ウィンテックス	高橋光一	高来秀夫・村中　猛	高松ウィンテックス	都賀田明美	伊東ひとみ・宮野明子
14	58(1983)	金沢市役所	毛利達彦	藤橋和俊・羽田俊哉	O. M. G.	黒田信子	桶谷千鶴子・片糸康子
15	59(1984)	金沢市役所	毛利達彦	長谷川進・羽田俊哉	桶谷歯科	黒田信子	桶谷千鶴子・栂木雅恵
16	60(1985)	高松ウィンテックス	舛田吉光	長谷川進・羽田俊哉	北國銀行	彼島佳子	小路和代・日向明子
17	61(1986)	高松ウィンテックス	舛田吉光	藤橋和俊・羽田俊哉	北國銀行	水本幸代	桶谷千鶴子・片糸康子
18	62(1987)	北國銀行	舛田吉光	長谷川進・羽田憲治	北國銀行	水本幸代	岡田真澄・斎藤美和子
19	63(1988)	小松クラブ	高橋光一	長谷川進・安川直人	北國銀行	岡田真澄	斎藤美和子・油野敏美
20	平元(1989)	北國銀行	崎田建一	西島弘幸・武田　修	北國銀行	岡田真澄	堅田美奈子・閤田和恵
21	2(1990)	美川クラブ	高橋光一	水内　浩・伊東勝之	北國銀行	中尾仁美	大田真由美・水本幸代
22	3(1991)	大吟醸クラブ	高橋光一	佐々木康人・大井川久	辰口クラブ		千場早苗・中西純子
23	4(1992)	大吟醸クラブ	永井俊宏	大井川久・板井雅春	澁谷工業	小山真澄美	小泉陽子・上浜陽子
24	5(1993)	大吟醸クラブ	高橋光一	大井川久・板井雅春	津田駒工業		中島晴美・竹原瑠美
25	6(1994)	大吟醸クラブ	亀田俊明	大井川久・佐々木康人	瓢友クラブ	大沢真紀	古道美智子・下小百合
26	7(1995)	大吟醸クラブ	柴田雄次	大井川久・板井雅春	倉庫精練		堀岡亮子・北口智美
27	8(1996)	大吟醸クラブ	柴田雄次	大井川久・宮前　仁	福島印刷	鶴来陽子	大沢真紀・本郷美佐子
28	9(1997)	大吟醸クラブ	村本幹夫	大井川久・宮前　仁	福島印刷	向川佳伸	山口いづみ・森佐也加

石川県社会人バドミントン選手権大会優勝者

		青年男子		青年女子		混合
		単	複	単	複	
昭47(1972) 4月23日	寺井町	堂谷内均 (津田駒)	安江　勉・堂谷内均 (津田駒)	富田敬子 (金沢大学)	庭田清枝・佐藤深雪 (辰口クラブ・七尾)	安江　勉・富田啓子 (津田駒・金沢大学)
昭48(1973) 4月22日	寺井町	長谷川進 (藤花高校教)	北方　匡・長谷川進 (藤花高校教)	沢野容子 こばと保育園	沢野容子・庭田清枝 (こばと保育園・辰口クラブ)	原　栄一・沢野容子 (七尾工高教・こばと保育園)
昭49(1974) 4月28日	寺井町	堂谷内均 (津田駒)	東　茂樹・相川　進 (倉庫精練・知栄建設)	村井広美 北陸学院短大	高畠悦子・高木敏美 (津田駒)	金田敬子・山下敏行 (北陸学院短大・金沢市役所)
昭50(1975) 4月27日	寺井町	長谷川進 (藤花高校教)	相川　進・米　正隆 (知栄建設・北陸コカコーラ)	角谷俊子 (加賀クラブ)	角谷俊子・石田紀子 (加賀クラブ)	石田紀子・相川　進 (大聖寺高校教・知栄建設)
昭51(1976) 4月25日	寺井町	堂谷内均 (津田駒)	相川　進・米　正隆 (知栄建設・北陸コカコーラ)	角谷美早子 金沢女子短大	角谷美早子・広田久美子 (金沢女子短大)	角谷俊子・近藤朝範 (加賀クラブ)
昭52(1977) 4月24日	寺井町	長谷川進 (明和養護教)	東　茂樹・松下　力 (倉庫精練・電通)	石垣輝子 石川プレート	石垣輝子・川端文子 (石川プレート)	田上嘉弘・高僧智子 (七尾クラブ)
昭53(1978) 4月23日	寺井町	堂谷内均 (津田駒)	東　茂樹・原　敏男 (倉庫精練・カナカン)	成瀬はるみ (金沢大学)	成瀬はるみ・山崎裕子 (金沢大学)	
昭54(1979) 4月22日	寺井町	長谷川進 (明和養護教)	長谷川進・舛田吉光 (明和養護教・大根布東小教)	石垣輝子 石川プレート	石垣輝子・中川千栄子 (石川プレート・菅井法律事務所)	
昭55(1980) 4月29日	寺井町	舛田吉光 (明和養護教)	酒井直人・谷島英男 (ゴーセン)	宮野明子 (ろう学校教)	桶谷千鶴子・片糸康子 (石川羽球会)	
昭56(1981) 4月26日	寺井町	堂谷内均 (桶谷歯科)	酒井直人・水内　浩 (ゴーセン・富樫小教)	伊東ひとみ 尾山台高校教	宮野明子・伊東ひとみ (ろう学校・尾山台高校教)	
昭57(1982) 4月25日	寺井町	長谷川進 (RSハセガワ)	長谷川進・酒井直人 (RSハセガワ・ゴーセン)	伊東ひとみ 尾山台高校教	宮野明子・伊東ひとみ (ろう学校・尾山台高校教)	
昭58(1983) 4月24日	寺井町	毛利達彦 (金沢市役所)	長谷川進・酒井直人 (RSハセガワ・ゴーセン)	伊東ひとみ 尾山台高校教	宮野明子・伊東ひとみ (ろう学校・尾山台高校教)	
昭59(1984) 4月22日	寺井町	舛田吉光 (県体育館)	酒井直人・毛利達彦 (ゴーセン・金沢市役所)	伊東ひとみ 尾山台高校教	伊東ひとみ・彼島佳子 (尾山台高校教・北國銀行)	
昭60(1985) 4月21日	寺井町	舛田吉光 (県体育館)	酒井直人・毛利達彦 (ゴーセン・金沢市役所)	彼島佳子 (北國銀行)	彼島佳子・小野順子 (北國銀行・西南部中教)	
昭61(1986) 4月22日	美川町 金沢市	舛田吉光 (県体育館)	酒井直人・毛利達彦 (ゴーセン・金沢市役所)	日向明子 (小松養護教)	小野順子・日向明子 (西南部中教・小松養護教)	
昭62(1987) 4月26日	美川町	舛田吉光 (県体育館)	酒井直人・毛利達彦 (ゴーセン・金沢市役所)	彼島佳子 (北國銀行)	彼島佳子・小路和代 (北國銀行・内灘中教)	
昭63(1988) 4月24日	美川町	舛田吉光 (県体育館)	毛利達彦・羽田義仁 (金沢市役所・北國銀行)	水本幸代 (北國銀行)	岡田真澄・斉藤美和子 (北國銀行)	
平元(1989) 4月23日	美川町	毛利達彦 (金沢市役所)	坂井外喜男・崎田健一 (NTT・北國銀行)	岡田真澄 (北國銀行)	水本幸代・斉藤美和子 (北國銀行)	
平2(1990) 4月22日	美川町	羽田義仁 (北國銀行)	西島弘幸・武田　修 (北國銀行)	中尾仁美 (北國銀行)	斉藤美和子・中尾仁美 (北國銀行)	
平3(1991) [illegible]	美川町	羽田義仁 (北國銀行)	山本明彦・武田　修 (北國銀行)	中尾仁美 (北國銀行)	岡田真澄・中尾仁美 (北國銀行)	
平4(1992) 4月19日	美川町	羽田義仁 (北國銀行)	星　明彦・武田　修 (北國銀行)	中田裕子 (北國銀行)	中尾仁美・中田裕子 (北國銀行)	
平5(1993) 4月18日	美川町	山本明彦 (北國銀行)	西島弘幸・武田　修 (北國銀行)	中田裕子 (北國銀行)	中田裕子・中嶋智子 (北國銀行)	
平6(1994) 4月17日	美川町	毛利達彦 (金沢市役所)	山本明彦・武田　修 (北國銀行)	中田裕子 (北國銀行)	中田裕子・中嶋智子 (北國銀行)	
平7(1995) 4月16日	美川町	山本明彦 (金沢市役所)	山本明彦・武田　修 (北國銀行)	中田裕子 (北國銀行)	下村絵里・中嶋智子 (北國銀行)	
平8(1996) 4月21日	美川町	武田　修 (北國銀行)	山本明彦・武田　修 (北國銀行)	下村絵里 (北國銀行)	下村絵里・中嶋智子 (北國銀行)	
平9(1997) 4月20日	美川町	毛利達彦 (金沢市役所)	武田　修・石本明男 (北國銀行)	松田奈緒子 (北國銀行)	下村絵里・安田香奈 (北國銀行)	

石川県バドミントンリーグ(第1～8回)・石川県バドミントン社会人リーグ(第9回～)

回	年度	開催期日	会場	クラス別	団体 1位	団体 2位	団体 3位
1	平元(1989)	9月17日	金沢市	男子1部	大吟醸	美川A	翼会
	2(1990)	2月4日		2部	飛翔会A	瓢友	宇ノ気
				3部	羽咋ク	七尾シャトルB	瓢友B
				4部	美川B	小坂B	石川製作所
				女子1部	小坂ク	小松ク	額A
				2部	野々市ク	美川ク	あすなろク
				3部	七尾シャトルB	野々市B	せせらぎク
2	2(1990)	7月8日	金沢市	男子1	美川A	大吟醸	翼会A
		10月28日		2部	七尾ク	額A	瓢友A
				3部	七尾シャトルク	千坂	瓢友B
				4部	三馬ク	医王山	小坂B
				5部	あすなろ	北陸日本電器	大浦公民館A
				6部	津幡ク	小松B	勤体協
				7部	七尾天遊会A	材木ク	千坂B
				8部	七尾天遊会A	大浦公民館B	中央フレンズ
				女子1部	金商ク	小坂ク	額バードA
				2部	美川ク	飛翔会	あすなろA
				3部	三馬ク	鶴来A	瓢友ク
				4部	七尾天遊会	中央フレンズ	せせらぎ
				5部	野々市C	翼会	七尾シャトル
3	3(1991)	7月14日	金沢市	男子1	美川A	七尾A	大吟醸
		11月17日	七尾市	2部	額バードA	羽咋	飛翔会A
				3部	瓢友クA	三馬A	千坂A
				4部	医王山	あすなろA	能美ク
				5部	大浦公民館A	小松B	美川B
				6部	飛翔会B	金沢ク	七尾天遊会A
				7部	千坂ク	鹿島ク	七尾シャトルB
				8部	中央フレンズ	内灘コアラ	千代野
				9部	浅野川シャトル	瓢友D	金沢高専
				10部	三和ク	三馬B	ニューフェイス
				11部	たけのこ	七尾ロートル	ニューフェイスB
				女子1部	金沢ク	藤花OG	額A
				2部	高松クA	三馬A	あすなろA
				3部	千坂ク	あすなろB	高松B
				4部	三和クA	小坂ク	七尾シャトルB
				5部	大徳ク	三馬B	内灘コアラ
				6部	内灘ク	材木公民館	津幡サーティ
				7部	美川B	額B	三和D
4	4(1992)	7月12日	美川町	男子1	大吟醸	七尾ク	美川A
		10月18日	七尾市	2部	瓢友A	羽咋ク	飛翔会
				3部	あすなろクA	IBCB	千坂A
				4部	小坂B	美川B	大浦公民館
				5部	七重天遊会A	金沢ク	新神田A
				6部	鹿島F－A	津幡ク	額バードB
				7部	中央フレンズ	内灘コアラ	松陽ク
				8部	フェニックスA	浅野川	千代野
				9部	たけのこ	三馬B	ニューフェイス
				10部	七尾ナイター	富士通北陸ク	医学A
				11部	材木ク	ニューフェイスB	フェニックスB

				12部	小松シャトルズ	アスナロB	額バードC
				13部	七尾ロートル	ホワイトシャトル	フェニックスC
				女子1部	金沢ク	額バードA	尾山台
				2部	三馬	あすなろA	鶴来A
				3部	小坂ク	フェニックス	七尾レディA
				4部	鶴来B	大徳A	三馬B
				5部	フェニックス	材木ク	内灘コアラ
				6部	額バードB	美川B	フェニックスC
				7部	能美ク	千代野	鹿島A
				8部	大徳B	すみれA	医学部
				9部	松陽ク	美川C	額バードC
5	5 (1993)	7月25日	美川町	男子1	大吟醸	七尾ク	美川A
		10月23日	金沢市	2部	翼会A	飛翔会	小松水曜会
				3部	千坂A	美川B	I. B. C
				4部A1	金沢ク	宇ノ気	能美ク
				4部B1	鹿島F－A	小松稚松	新神田A
				5部A1	松陽ラヴスマ	たけのこ塾	三馬B
				5部B1	フェニックスA	ニッコー	額バードB
				5部C1	浅野川	ニューフェイスA	富士通北陸ク
				5部D1	七尾ナイター	中央フレンズ	コアラ
				6部A1	New City KANAZAWA	あすなろB	志賀原子力
				6部B1	材木尾山	小松第一シャトル	西南部
				6部C1	七尾シャトル	ニューフェイスB	フェニックスB
				6部D1	松陽ラヴカップ	ホワイトシャトル	陽風園
				女子1部	尾山台ク	額バードA	金沢ク
				2部	高松クA	小松ク	飛翔会
				3部	二水ク	大徳A	フェニックスA
				4部1A	高松クB	津幡サーティ	内灘ク
				4部B1	額バードB	三馬B	美川B
				5部A1	鹿島F－A	大徳B	ニッコー
				5部B1	松陽ラブスマ	スミレ	フェニックスC
				5部C1	額バードC	新神田B	石川高専
				5部D1	能美ク	千代野A	陽風園
				6部A1	野々市A	浅野川	西南部クB
				6部B1	大浦公民館	ラブオール	城西ク
6	6 (1994)	7月17日	七尾市	男子1	大吟醸	七尾ク	額A
				2部	飛翔会A	千坂A	瓢友
				3部	三馬A	金沢ク	I. B. CB
				4部A1	七尾ナイター	松陽ラヴ	
				4部B1	フェニックスA	能美ク	小松稚松
				5部A1	たけのこ塾	New City KANAZAWA	大浦
				5部B1	材木尾山	飛翔B	三馬B
				5部C1	ニューフェイスA	飛翔会B	額バードB
				5部D1	たうんず	中央フレンズ	ニューフェイスB
				6部A1	ヴウイセ高松	鹿島B	勤体協サークル
				6部B1	フェニックスB	向陽ク	九八
				6部C1	宝町ク	陽風ク	NAB B
				6部D1	千代野ク	美川D	立山
				7部A1	大吟醸A	小立野スマッシュ	押野
				女子1部	金沢ク	額バードA	高松
				2部	二水ク	瓢友ク	小坂A
				3部	あすなろA	フェニックスB	大徳A

				4部1A	津幡サーティA	能美クA	鹿島
				4部B1	内灘クB	三馬B	千坂
				5部A1	大浦公民館A	新神田A	NBA
				5部B1	ラブオールB	中央フレンズA	大徳B
				5部C1	浅野川シャトルA	宝町クA	すみれA
				5部D1	あすなろC	千代野A	美川C
				6部A1	小松第一A	馬場クA	材木C
				6部B1	城西クB	美川DB	大徳C
				6部C1	I.B.C	美川EB	小坂B
7	7(1995)	7月16日	金沢市	男子1	大吟醸A	七尾クA	飛翔会A
		11月13日	美川町	2部	美川クA	瓢友A	三馬A
				3部	七尾ナイターズA	小松水曜会A	小坂B
				4部A1	たけのこA	松陽ラヴィA	小松稚松A
				4部B1	材木尾山塾A	ニューフェイスA	新神田A
				5部A1	ヴァイセ高松A	フェニックスB	浅野川シャトルA
				5部B1	三馬B	瓢友B	七尾シャトルB
				5部C1	飛翔会B	宇ノ気B	額バードB
				5部D1	中央フレンズB	向陽クB	小松第一B
				6部A1	コアラA	小立野スA	九八メイト
				6部B1	大吟醸B	あすなろB	勤体協
				6部C1	グリップ	内灘クC	SUZUBT
				6部D1	七尾ロートル	押野クC	翼会B
				7部A1	BOYS	加賀クC	小立野スB
				7部B1	風林火山	輪島クC	ロジステックス
				7部C1	オールプレーヤーズ	NFクC	イーグルスA
				女子1部	尾山台クA	金沢クA	額バードA
				2部	あすなろA	瓢友クA	飛翔会
				3部	内灘クA	大徳A	フェニックスA
				4部1A	能美辰口A	額バードB	あすなろC
				4部B1	ラブ・オールB	浅野川B	翼会A
				5部A1	新神田A	材木A	小松第一A
				5部B1	フェニックスA	中央フレンズB	新神田A
				5部C1	七尾クB	I.B.C	野々市A
				5部D1	千代野クB	すみれB	西南部
				6部A1	翼会B	フェニックスC	野々市B
				6部B1	あさのシャトルB	小坂B	SAKURA
				6部C1	七尾シャトルB	大徳C	内灘B
				6部D1	津幡サーティー	鶴来B	材木B
8	8(1996)	7月14日	金沢市	男子1	大吟醸A	七尾	美川A
			美川町	2部	翼会A	瓢友A	七尾ナイターズ
			松任市	3部	材木尾山A	小松水曜会	小坂B
		11月10日	美川町	4部A1	ヴァイセハーゼン高松	中央フレンズA	鹿島FーA
			松任市	4部B1	飛翔会	金沢クB	三馬B
				5部A1	小松第一シャトル	コアラ	フェニックスB
				5部B1	大吟醸B	津幡クB	浅野川シャトル
				5部C1	宇ノ気クB	七尾シャトル倶楽部	たうんず
				5部D1	New City KANAZAWA	能美クB	内灘クB
				6部A1	風林火山	BADBOYS	N・B・AA
				6部B1	オールプレーヤーズ	ニューフェイスB	鹿島FーB
				6部C1	N・FクB	宝町クB	美川クD
				6部D1	加賀クB	輪島クB	ラヴスマッシュE
				7部A1	石川高専	Eagls	サンメンバーズ石川

				7部B1	IBCスペシャル	ロジスティックス	フェニックスC
				7部C1	三馬C	宝町B	小立野スマッシュB
				女子1部	金沢ク	尾山台クA	額バードA
				2部	二水ク	飛翔会A	内灘クA
				3部	小坂バドク	大徳クA	能美辰口A
				4部1A	額バードB	新神田A	あすなろB
				4部B1	七尾ク	千代野ク	浅野川シャトルズ
				5部A1	野々市ク	七尾シャトル倶	千坂ク
				5部B1	N・B・A	あさのシャトルA	城西ク
				5部C1	ラヴスマッシュY	翼会B	すみれク
				5部D1	鶴来ク	中央フレンズ	材木クA
				6部A1	石川高専	SUZU BT	能美辰口B
				6部B1	新神田C	美羽会	小立野スマッシュ
				6部C1	加賀ク	米泉クA	SAKURA
9	9(1997)	7月27日	美川町	男子1部	大吟醸A	七尾	飛翔会A
			小松市	2部	I・B・CA	羽咋クA	七尾ナイターズ
			寺井町	3部	小松水曜会	飛翔会B	小坂B
		11月9日	美川町	4部A	中央フレンズ	ふっくら	I・B・CB
			津幡町	4部B	金沢	宇ノ気	大吟醸B
			七塚町	5部A	風林火山	輪島	コアラ
				5部B	オールプレーヤーズ	BAD BOYS	ラブスマッシュ
				5部C	七尾シャトル	N・Fクラブ	ニューフェイスB
				5部D	小松稚松ク	能美ク	たうんず
				6部A	美川クC	N・B・AA	大浦公民館
				6部B	I・B・C	鹿島フラッパーズB	千代野ク
				6部C	チームアクセス	三馬クC	陽風バドク
				6部D	あすなろクB	ラブスマッシュE	翼会B
				7部A	チームUZI A	ラブスマッシュX	瓢友クC
				7部B	立山ク	ラブバドクA	鶴来バドク
				7部C	フェニックスC	ラブバトクB	チームUZI B
				7部D	あふた～5	西南部ク	能美辰口ク
				女子1部	尾山台ク	二水ク	あすなろクA
				2部	美川クA	飛翔会A	内灘クA
				3部	津幡クA	瓢友ク	七尾ク
				4部A	フェニックスA	野々市クA	新神田クA
				4部B	千代野ク	ラブオール	あすなろクB
				5部A	くろゆりク	大浦公民館	大徳クC
				5部B	加賀ク	あさのシャトルA	翼会A
				5部C	フェニックスB	翼会B	大徳クB
				5部D	中央フレンズ	小松水曜会	小松第一シャトルズ
				6部A	津幡クB	SAKURA	野々市バドクC
				6部B	ラブバトク	押野ク	高松クB
				6部C	能美辰口クB	津幡サーティー	小松芦城ク
				6部D	フェニックスC	立山ク	小坂バドクB

全国家庭婦人バドミントン競技大会

回	開催年月日	会場	団体	個人
5	昭53(1978) 5月20日・21日	金沢市	Aブロック　優勝　藤花クラブ	パールクラス　優勝　坂田他美子・植谷千鶴子
			Bブロック　2位　ISMクラブ	2位　関戸美恵子・辻　鈴子
			Cブロック	ゴールドクラス　3位　田辺英子・田辺昭子
			Dブロック　2位　湊婦人体力づくりA	ダイヤモンドクラス　3位　渋谷　信・菅井由美子
14	平8(1991) 7月26日～28日	松江市	クラブ対抗　ベスト8　金沢フレンド	



北信越家庭婦人クラブ対抗バドミントン大会

回	開催年月日	会場	種目	優勝	2位	3位
1	昭59(1984)	金沢市	Aクラス		野々市クラブ	
	7月8日		Bクラス	野々市クラブA	城南クラブ	
			Cクラス	諸江シャトルズ	野々市クラブD	
			Dクラス	味噌蔵公民館	長土塀公民館	中央シャトル
2	昭60(1985)	金沢市	Aクラス	三馬公民館	村木公民館	
	7月7日		Bクラス	諸江シャトルズ	あすなろクラブ	味噌蔵公民館
			Cクラス		中央シャトルスB	城南クラブ
			Dクラス	せせらぎクラブ		くろゆりクラブ
3	昭61(1986)	金沢市	Aクラス	額バードクラブ	野々市クラブ	三馬公民館
	7月7日		Bクラス①		あすなろクラブ	瓢友クラブ
			Bクラス②			諸江シャトルズ　城西クラブ
			Cクラス①		千代野バドクラブ	あすなろクラブ　中央フレンズ
			Cクラス②		城南クラブ	せせらぎクラブ
			Dクラス	あすなろクラブ		大浦公民館　城南クラブ
4	昭62(1987)	金沢市	Aクラス			野々市クラブ
	5月10日		Bクラス①		諸江シャトルズ	美川クラブ
			Bクラス②			中央フレンズ
			Cクラス①	大浦公民館	せせらぎクラブ	美川クラブ　諸江シャトルズ
			Cクラス②		あすなろクラブ	美川クラブ
			Dクラス		クィーンシャトルズ	味噌蔵バドクラブ　高松クラブ

5	昭63(1988) 5月10日	金沢市	Aクラス Bクラス① Bクラス② Cクラス① Cクラス② Dクラス	 額バードB 美川クラブ 諸江シャトルズ あさのシャトル 野々市クラブ	野々市クラブ 野々市クラブ 七尾レディス せせらぎクラブ あさのシャトル	あすなろクラブ 額バードA 粟崎バドクラブ 津幡サーティひまわり会 美川クラブ
6	平元(1989) 6月11日	富山市	Aクラス Bクラス Cクラス	 あすなろクラブ あさのシャトルA	野々市クラブ せせらぎクラブ	 高松クラブ あすなろクラブ
7	平2(1990) 6月10	福井市				
8	平3(1991) 6月9日	長野市	Aクラス Bクラス Cクラス Dクラス	 あすなろクラブ	野々市クラブ 額バードクラブ	 大徳クラブ 額バードクラブ
9	平4(1992) 6月17日	新潟市	Aクラス Bクラス Cクラス Dクラス	 医王クラブ	 あすなろクラブ	 材木公民館
10	平5(1993) 6月13日	金沢市	Aクラス Bクラス Cクラス Dクラス		 額バード あさのシャトル	野々市クラブ あすなろクラブ 美川クラブ 野々市クラブ 伏見台クラブ 野々市クラブ
11	平6(1994) 6月12日	富山市	Bクラス	額バード		
12	平7(1995) 6月4日	武生市	Aクラス Bクラス Cクラス Dクラス	野々市クラブA	 諸江シャトルズ	 額バードA 額バードC
13	平8(1996) 6月9日	長野市	Aクラス Bクラス	 金沢フレンドA	額バード	
14	平9(1997) 6月8日	柏崎市	Aクラス Bクラス Cクラス Dクラス	金沢フレンド	 金沢フレンドA	 粟崎バドミントン あさのシャトル

※　Aクラス……代表権の部、Bクラス……上級の部、Cクラス……中級の部、Dクラス……初級の部

石川県家庭婦人バドミントン競技会団体戦優勝クラブ

回	開催年月日	会場	ゴールドクラス	エメラルドクラス		ダイヤモンドクラス		パールクラス		
				A	B	A	B	A	B	C
1	昭51(1976) 10月24日	金沢市	藤花クラブA	松任クラブ		松ヶ枝クラブ				
2	昭52(1977) 10月2日	金沢市	小松クラブ	三馬公民館		凌婦人クラブ				
3	昭53(1978) 10月8日	金沢市	藤花クラブ	長土塀公民館		根上クラブ	長土塀公民館			
4	昭54(1979) 10月28日	金沢市	K. O. G.	三馬公民館		大徳バドミントンクラブ	野々市レディス			
5	昭55(1980) 10月26日	金沢市	金城OG	根上バドミントン		太白台クラブ	美川スポーツクラブA			
6	昭56(1981) 10月25日	金沢市	大徳クラブ	馬場クラブ		額バードクラブ		せせらぎクラブ		
7	昭57(1982) 11月14日	金沢市	伏見台公民館	丸の内クラブ		みそぐら公民館		小松クラブ	高松病院A	
8	昭58(1983) 10月16日	金沢市	額バード	長土塀公民館		三馬公民館		小松クラブ	材木公民館A	
9	昭59(1984) 10月21日	金沢市	大徳クラブ	芳斉クラブ		千代野クラブ		野々市シャトルズA	中央シャトルズ	
10	昭60(1985) 10月27日	金沢市	野々市御園クラブ	材木公民館		大徳クラブ		津幡サーティ	せせらぎクラブ	城西クラブ
11	昭61(1986) 10月5日	金沢市	あすなろクラブ	三馬公民館		中央フレンズ	あすなろクラブ	ひまわり会	大浦公民館	
12	昭62(1987) 10月25日	金沢市	額バード	千代野バドクラブ	城西クラブ	野々市クラブA	美川クラブ	あさのシャトル	野々市クラブA	
13	昭63(1988) 10月23日	金沢市	野々市クラブA	材木公民館	くろゆりクラブ	せせらぎクラブ	あさのシャトル	クィーンシャトルズ	あさのシャトル	
14	平元(1989) 10月22日	金沢市	額バード	新神田クラブ	鶴来バドクラブ	大浦公民館		西南部サークルA	美川クラブA	すみれクラブ
15	平2(1990) 10月21日	金沢市	三馬クラブA	あすなろクラブ	あさのシャトル	伏見台クラブ	美川クラブ	千代野クラブ	粟崎クラブ	
16	平3(1991) 10月20日	金沢市	鶴来バドクラブA	西南部クラブ	野々市クラブA	馬場クラブ	材木公民館	あさのシャトル	美川クラブ	
17	平4(1992) 10月25日	美川町	大徳クラブA	高松クラブ		あさのシャトル	田上クラブ	新神田クラブB	クィーンシャトルズ	
18	平5(1993) 10月24日	金沢市	大徳クラブA	千代野クラブ		大浦公民館		粟ケ崎クラブ		
19	平6(1994) 10月24日	金沢市	フェニックスクラブ	野々市クラブA		大徳クラブ		フェニックスクラブ		
20	平7(1995) 10月22日	金沢市	額バード	城西クラブ		フェニックスクラブ		くろゆりクラブ		
21	平8(1996) 10月20日	金沢市	あすなろクラブ	粟ケ崎クラブ		あさのシャトル		ラヴ・スマッシュ		
22	平9(1997) 10月19日	金沢市	あすなろクラブA	ラブスマッシュA		ベストシャトルズA		K. L. C		

全国小学生バドミントン選手権

回	開催年月日	開催地	種目	順位	
4	平7（1995） 12月23・24日	金沢市	5年以下男子 ダブルス	3位	新田 峰・山瑞康裕（下甘田）
			6年男子 シングルス	5位	北山順平（中央）
			6年男子 ダブルス	5位	広瀬宜之・藤井拓海（相馬）
			5年以下女子 シングルス	5位	伊東可奈（大徳）
5	平8（1996） 12月26・27日	葛飾区	5年以下男子 ダブルス	3位	山本道雄・長尾孝哲（相馬）
			5年以下女子 シングルス	ベスト8	西村沙希（金沢）
			6年女子 シングルス	ベスト8	中山奈都季（金沢）
			5年以下女子 ダブルス	ベスト8	今井杏利・関戸美聡（芦城）
6	平9（1997） 12月26・27日	高松市	5年以下男子 シングルス	3位	山口 俊（下甘田）
			6年男子 シングルス	ベスト8	山田一哉（東浅川）
			6年男子 ダブルス	ベスト8	熊田有希・鳥山達矢（湊）

北陸三県小学生バドミントン交歓会

回	開催年	開催地	種目	優勝	2位	3位	
1	平2（1990）	美川町	男子	金沢ジュニア教室	志賀町バド教室	松任JBC	鹿島ジュニア
			女子	富山ジュニアA	中央ジュニアクラブ	小松ジュニアクラブ	湊ジュニア
2	平3（1991）	美川町	男子	金沢ジュニア教室	富山ジュニアA	社南小学校	鹿島ジュニア
			女子	富山ジュニアA	富山ジュニアB	湊ジュニア	中央ジュニア
3	平4（1992）	福井市	6年男子	金沢ジュニア教室	鹿島ジュニア教室	富山ジュニア	春山小学校
			6年女子	中央ジュニア	富山ジュニア	水橋西部小学校	金沢ジュニア教室
			5年男子	金沢ジュニア教室	鹿島ジュニア教室	富山ジュニア	寒江小学校
			5年女子	富山ジュニア	水橋西部小学校	足羽スポーツ少年団	金沢ジュニア教室
4	平5（1993）	富山市	6年男子	金沢ジュニア教室	相馬クラブ	寒江小学校	成器西スポーツ少年団
			6年女子	愛宕スポーツ少年団	庄南クラブ	富山ジュニアA	砺波東部少年団
			5年男子	相馬クラブ	鹿島ジュニア教室	足羽ジュニア	鳴鹿SP
			5年女子	鹿島ジュニア教室	水橋西部小学校	富山ジュニアA	富山ジュニアB
5	平6（1994）	美川町	6年男子	相馬クラブ	鹿島ジュニア	富山ジュニアA	下甘田ジュニア
			6年女子	鹿島ジュニア	富山ジュニアA	金沢ジュニア	湊ジュニア
			5年男子	相馬クラブ	足羽ジュニア教室	富山ジュニアA	富山ジュニアB
			5年女子	富山ジュニアA	富山ジュニアB	勝山ジュニア	足羽ジュニア
6	平7（1995）	丸岡町	6年男子	富山ジュニアA	相馬ジュニア	鹿島ジュニア	富山ジュニアB
			6年女子	富山ジュニアA	鹿島ジュニア	勝山ジュニア	富山ジュニアB
			5年男子	足羽ジュニア	勝山ジュニア	中央ジュニア	社南バドミントン
			5年女子	富山ジュニアA	富山ジュニアB	中央ジュニア	社南バドミントン
7	平8（1996）	富山市	6年男子	足羽ジュニア	富山ジュニアA	中央ジュニア	勝山ジュニア
			6年女子	富山ジュニアA	中央ジュニア	富山ジュニアD	富山ジュニアB
			5年男子	富山ジュニアC	富山ジュニアB	下甘田ジュニア	東浅川スポーツクラブ
			5年女子	富山ジュニアA	富山ジュニアB	大徳ジュニア	富山ジュニアC
8	平9（1997）	美川町	6年男子	富山ジュニアA	下甘田ジュニア	相馬クラブ	ひまわりジュニア
			6年女子	富山ジュニアA	富山ジュニアB	ひまわりジュニア	足羽ジュニア
			5年男子	富山ジュニアA	足羽ジュニア	大徳ジュニア	富山ジュニアB
			5年女子	富山ジュニアA	大徳ジュニア	美川ジュニア	芦城ジュニア

石川県小学生バドミントン交歓会

回	年	参加数		団体戦			
				優勝	2位	3位	
1	昭和58年	男子	8	鹿島ジュニア	長土塀クラブ		
		女子	16	瓢箪クラブA	湊ジュニアA		
2	59年	男子	9	鹿島ジュニアA	医王山クラブA	湊ジュニア	長土塀クラブ
		女子	17	鹿島ジュニアA	鹿島ジュニアB	美川ジュニアA	鹿島ジュニアB
3	60年	男子	13	鹿島ジュニアA	馬場スポーツA	鹿島ジュニアB	相馬クラブ
		女子	22	鹿島ジュニアA	美川ジュニアA	湊ジュニアA	金沢ジュニア
4	61年	男子	16	鹿島ジュニアA	金沢ジュニアA	相馬クラブ	湊ジュニア
		女子	26	金沢ジュニアA	湊ジュニアA	相馬クラブA	小松ジュニア
5	62年	男子	15	鹿島ジュニアA	金沢ジュニアA	七塚A	相馬クラブA
		女子	24	相馬クラブA	美川ジュニアA	湊ジュニアA	金沢ジュニアA
6	63年	男子	21	鹿島ジュニアA	金沢ジュニアA	湊ジュニアA	小松ジュニアA
		女子	39	七塚ジュニアA	湊ジュニアA	湊ジュニアB	七塚D
7	平成元年	男子	20	鹿島ジュニアA	塩屋ジュニアA	志賀町バド教室A	相馬クラブ
		女子	39	小松ジュニアA	湊ジュニアB	湊ジュニアA	河北台ジュニアA
8	2年	男子	20	金沢ジュニアA	志賀町バド教室A	松任ジュニア	鹿島ジュニアA
		女子	39	湊ジュニアA	小松ジュニアA	美川ジュニアA	中央ジュニアA
9	3年	男子	26	金沢ジュニアA	鹿島ジュニアA	美川ジュニアA	志賀町バド教室A
		女子	38	湊ジュニアA	美川ジュニアA	中央ジュニアA	河北台ジュニアA
10	4年	男子	29	金沢ジュニア	鹿島ジュニア	相馬クラブ	美川ジュニア
		女子	36	瓢箪クラブA	湊ジュニアA	美川ジュニアA	湊ジュニアA
11	5年	5年男子	12	鹿島ジュニア	相馬クラブA	加賀ジュニアA	小松ジュニアA
		5年女子	23	鹿島ジュニア	湊ジュニアA	小松ジュニア	美川ジュニアA
		6年男子	20	金沢ジュニア	相馬クラブ	加賀ジュニアA	美川ジュニア
		6年女子	23	湊クラブA	金沢ジュニア	中央ジュニア	鹿島ジュニア
13	7年	5年男子	10	相馬クラブ	金沢ジュニア	中央ジュニア	鹿島ジュニア
		5年女子	31	美川ジュニアA	鹿島ジュニア	中央ジュニア	金沢ジュニア
		6年男子	15	鹿島ジュニア	相馬クラブ	下甘田ジュニア	小松ジュニア
		6年女子	25	鹿島ジュニア	湊ジュニア	美川ジュニア	金沢ジュニア
14	8年	5年男子	17	下甘田ジュニア	東浅川A	崎浦ジュニア	相馬クラブ
		5年女子	28	大徳ジュニアA	中央ジュニア	ひまわりジュニア	小松ジュニアA
		6年男子	12	中央ジュニア	相馬クラブ	鹿島ジュニア	ひまわりジュニア
		6年女子	29	中央ジュニアA	芦城ジュニアA	鹿島ジュニア	美川ジュニア
15	9年	5年男子	9	大徳ジュニア	相馬クラブ	中央ジュニア	
		5年女子	37	大徳ジュニアA	美川ジュニアA	加賀ジュニア	芦城JBC
		6年男子	17	相馬クラブ	下甘田ジュニア	崎浦ジュニア	ひまわりジュニア
		6年女子	25	野々市ジュニア	ひまわりジュニア	中央ジュニア	小松ジュニアA
16	10年	5年男子	17	大徳ジュニア	中央ジュニア	高松ジュニア	相馬クラブ
		5年女子	37	崎浦ジュニア	中央ジュニアA	湊ジュニア	ひまわりA
		6年男子	12	相馬クラブ	湊ジュニア	大徳ジュニア	中央ジュニア
		6年女子	29	大徳ジュニア	芦城JBC	加賀ジュニア	美川ジュニアA

北國杯争奪少年バドミントン選抜大会

小学5年生以下　男子の部

回	年	1　位	2　位	3　位	
1	昭60(1985)	加藤　亘(金沢ジ)	桑原忠志(鹿島ジ)	広瀬孝教(相馬ク)	早瀬康生(相馬ク)
2	61(1986)	古沢清悟(鹿島ジ)	西村和晃(鹿島ジ)	栄代正男(松任ジ)	鶴見　崇(金沢ジ)
3	62(1987)	栄代正男(松任ジ)	湯田喜一郎(小松ジ)	木下政彦(鹿島ジ)	林　貴志(東浅川)
4	63(1988)	栄代正男(松任ジ)	木下政彦(鹿島ジ)	青山圭吾(金沢ジ)	愛多地康雄(湊　ジ)
5	平元(1989)	舛田圭太(金沢ジ)	寺尾和俊(金沢ジ)	中村成実(相馬ク)	荒井志郎(塩　屋)
6	2 (1990)	寺尾和俊(金沢ジ)	村山孝之(志賀ジ)	岸　豊(小松ジ)	谷口雅亮(鹿島ジ)
7	3 (1991)	茶谷徳靖(金沢ジ)	安中大喜(下甘田)	中村　徹(金沢ジ)	南　武志(美川ジ)
8	4 (1992)	山下　淳(相　馬)	広瀬雅士(相　馬)	横山康博(下甘田)	岡本高志(小　松)
9	5 (1993)	横山康博(下甘田)	谷口　航(相　馬)	小林紀史(相　馬)	車　淳史(鹿　島)
10	6 (1994)	岩内佑之(中　央)	三室至大(相　馬)	梅田雅彦(中　央)	広瀬宣之(相　馬)
11	7 (1995)	村上　亮(崎　浦)	高塚大輔(　湊　)	山下幸司(相　馬)	藤井孝太(下甘田)
12	8 (1996)	山田一哉(東浅川)	宮村順也(金沢ジ)	山本道雄(相　馬)	伊東克範(大徳ジ)
13	9 (1997)	伊東克範(大　徳)	山口　俊(下甘田)	豊島俊樹(中央)	安藤総平(大　徳)

小学5年生以下　女子の部

回	年	1　位	2　位	3　位	
1	昭60(1985)	寺尾宏美(金沢ジ)	佐竹綾乃(相馬ク)	高田奈津希(湊　ジ)	村瀬玲子(金沢ジ)
2	61(1986)	青木静香(相馬ジ)	池田葉子(鹿島ジ)	平山香津恵(相馬ク)	杉本　恵(七塚ジ)
3	62(1987)	酒井利佳(小松ジ)	吉田恵美(湊　ジ)	西田奈津美(湊　ジ)	西山正峰(小松ジ)
4	63(1988)	能口沙也香(七塚ジ)	徳井香織(小松ジ)	音　律子(中央ジ)	橘久美子(中央ジ)
5	平元(1989)	堀　哲子(湊　ジ)	沢田知恵(湊　ジ)	青木由香(相馬ク)	南　裕子(美川ジ)
6	2 (1990)	加納祐紀(中央ジ)	岩脇　史(金沢ジ)	亀井美夏(河北台)	松本早貴恵(松任ジ)
7	3 (1991)	田村恵里(湊　ジ)	江尻恭子(大徳ジ)	舛田　恵(金沢ジ)	宮　祐子(中央ジ)
8	4 (1992)	谷路めぐみ(鹿　島)	加賀裕美(鹿　島)	関戸美紀(小　松)	今村優子(美　川)
9	5 (1993)	加賀裕美(鹿　島)	梅津知恵(美　川)	浜上知佳(美　川)	浅島裕美(芦　城)
10	6 (1994)	古川智子(中　央)	野村祐喜子(中　央)	水江真貴子(中　央)	宮久美子(中　央)
11	7 (1995)	伊東可奈(大　徳)	西村沙希(金　沢)	田村真莉(中　央)	張本優理奈(芦　城)
12	8 (1996)	伊東可奈(大　徳)	木村　綾(野々市ジ)	村田美沙子(大徳ジ)	西村沙希(金沢ジ)
13	9 (1997)	西村沙希(金　沢)	村上夏樹(崎　浦)	嶋田桃子(野々市)	岡田仁美(中　央)

小学6年生　男子の部

回	年	1　位	2　位	3　位
1	昭60(1985)	栄代良和(松南小)	小又一外(医王山)	水口　透(鹿島中)	折池寿文(医王山)
2	61(1986)	加藤　亘(金沢ジ)	広瀬考教(相馬ク)	吉田茂昭(湊　ジ)	沖野威一郎(七塚ジ)
3	62(1987)	古沢清悟(鹿島ジ)	徳井隆宏(小松ジ)	西村和晃(鹿島ジ)	鶴見　隆(金沢ジ)
4	63(1988)	高野大輔(鹿島ジ)	湯田喜一郎(小松ジ)	前田　登(鹿島ジ)	寛永　譲(相馬ク)
5	平元(1989)	青山圭吾(金沢ジ)	栄代正男(松任ジ)	木埜下伸彦(塩　屋)	木下政彦(鹿　島)
6	2 (1990)	舛田圭太(金沢ジ)	田中　聡(鹿島ジ)	西村仁志(鹿島ジ)	池島健広(鹿島ジ)
7	3 (1991)	寺尾和俊(金沢ジ)	車　浩明(鹿島ジ)	村山孝之(下甘田)	谷口雅亮(鹿島ジ)
8	4 (1992)	茶谷徳靖(金　沢)	酒井忠相(相　馬)	中川智史(美　川)	南　武志(美　川)
9	5 (1993)	山下　淳(相　馬)	広瀬雅士(相　馬)	岸　匠(ひまわり)	柴田寛之(相　馬)
10	6 (1994)	横山康博(下甘田)	車　淳史(鹿　島)	小林紀史(相　馬)	谷口　航(相　馬)
11	7 (1995)	北山順平(中　央)	野崎貴浩(中　央)	梅田雅彦(中　央)	三室至大(相　馬)
12	8 (1996)	山下幸司(相馬ク)	岩下真輔(崎浦ジ)	永井達也(加賀ジ)	中井雄介(東浅川ジ)
13	9 (1997)	宮村順也(金　沢)	山田一哉(東浅川)	山本道雄(相　馬)	三室彰矩(相　馬)

小学6年生　女子の部

回	年	1　位	2　位	3　位
1	昭60(1985)	酒井千賀(小松ジ)	松本陽子(金沢ク)	北口祥子(鹿島ジ)	宮本真理子(田鶴浜)
2	61(1986)	寺尾宏美(金沢ジ)	佐竹綾乃(相馬ク)	高田奈津希(湊　ジ)	栄代久美子(松　南)
3	62(1987)	青木静香(相馬ク)	池田葉子(鹿島ジ)	杉本　恵(七塚ジ)	能口優美(七塚ジ)
4	63(1988)	吉田恵美香(湊　ジ)	高田美紀(湊　ジ)	西山正峰(小松ジ)	酒井利佳(小松ジ)
5	平元(1989)	徳井香織(小　松)	音　律子(中央ジ)	松田美希子(美　川)	橘久美子(中　央)
6	2 (1990)	坂下裕美絵(金沢ジ)	青木由香(相馬ジ)	木原光代(中央ジ)	上段由香利(金沢ジ)
7	3 (1991)	岩脇　史(金沢ジ)	加納祐紀(中央ジ)	新田真琴(美川ジ)	田井美幸(美川ジ)
8	4 (1992)	田村恵里(　湊　)	宮田知江(　湊　)	江尻恭子(大　徳)	村山千春(下甘田)
9	5 (1993)	谷路めぐみ(鹿　島)	関戸美紀(小　松)	西　宏予(　湊　)	今井雅絵(鹿　島)
10	6 (1994)	加賀裕美(鹿　島)	梅津知恵(美　川)	堀江梨香(中　央)	浅島裕美(芦　城)
11	7 (1995)	本出奈月(加　賀)	古川智子(中　央)	宮久美子(中　央)	山口真美(鹿　島)
12	8 (1996)	通次尚美(ひまわりジ)	中山奈都希(金沢ジ)	張本優里奈(芦城ジ)	三島寛子(野々市ジ)
13	9 (1997)	伊東可奈(大　徳)	北村　綾(野々市)	木村咲絵(加　賀)	御前香苗(美　川)

中学1年生　男子の部

回	年	1　位	2　位	3　位
1	昭60(1985)	寺尾隆司(金沢ジ)	斎藤　守(医王山)	徳坂　信(医王山)	延命良和(鹿島中)
2	61(1986)	栄代良和(松任中)	松下直史(泉　中)	日光和之(鹿島中)	三浦正徳(金沢ジ)
3	62(1987)	加藤　亘(金沢ジ)	桑原忠志(鹿島中)	市井爾郎(鹿島中)	沖野威一郎(河北台)
4	63(1988)	古沢清悟(鹿島中)	青山大吾(金沢ジ)	鶴見　隆(金沢ジ)	西村和晃(鹿島中)
5	平元(1989)	高野大輔(鹿島中)	中出清一(丸ノ内)	前田　登(鹿島ジ)	湯田喜一郎(板　津)
6	2 (1990)	青山圭吾(緑　中)	栄代正男(松任中)	徳坂　渉(医王山)	木下政彦(鹿島中)
7	3 (1991)	舛田圭太(犀生中)	松田憲治(城南中)	西村仁志(鹿島中)	青山和哉(松任中)
8	4 (1992)	中本憲和(西南部中)	車　浩明(鹿島中)	加賀康浩(鹿島中)	中田義輝(中央J)
9	5 (1993)	茶谷徳靖(北鳴中)	酒井忠相(田鶴浜中)	山崎大樹(松任J)	浅井隼人(鳴和中)
10	6 (1994)	山下　淳(田鶴浜中)	広瀬雅士(田鶴浜中)	岸　匠(丸ノ内中)	山本貴浩(鹿島中)
11	7 (1995)	車　淳史(鹿島中)	谷口　航(田鶴浜中)	表　英徳(鹿島中)	横山康博(鹿島中)
12	8 (1996)	北山順平(中央ジ)	中野真至(河北台中)	野崎貴浩(中央ジ)	藤井拓海(田鶴浜中)
13	9 (1997)	苗嶋伸吾(金　沢)	村上　亮(金　沢)	岩下真輔(金　沢)	山下章司(田鶴浜中)

中学1年生　女子の部

回	年	1　位	2　位	3　位
1	昭60(1985)	森田斎子(美川中)	鶴見千恵子(金　沢)	山下亜希子(鹿島中)	松田和華子(美川中)
2	61(1986)	丸山実支子(浅川中)	藤田美紀(美川中)	松本陽子(泉　中)	宮城香代子(金　沢)
3	62(1987)	寺尾宏美(犀川中)	佐竹綾乃(田鶴浜中)	栄代久美子(松任中)	高田奈津希(美川中)
4	63(1988)	池田葉子(鹿島中)	青木静香(田鶴浜中)	河内和歌子(河北台中)	中川紀子(金沢ジ)
5	平元(1989)	吉田恵美(美　川)	西山正峰(松　陽)	酒井利佳(丸ノ内)	高田美希(美　川)
6	2 (1990)	橘久美子(中央ジ)	音　律子(中央ジ)	中村奈穂子(鳴和中)	加納和紀(中央ジ)
7	3 (1991)	堀　哲子(美川中)	沢田知恵(美川中)	坂下裕美絵(北鳴中)	奥村亜紀代(松任中)
8	4 (1992)	岩脇　史(西南部中)	加納祐紀(中央J)	新田真琴(美川中)	島　奈央(金沢J)
9	5 (1993)	田村恵理(美川中)	舛田　恵(犀生中)	山本郁恵(鹿島中)	横山留美子(泉　中)
10	6 (1994)	谷路めぐみ(鹿島中)	今井雅絵(鹿島中)	西　宏予(美川中)	曽我寛美(浅野川中)
11	7 (1995)	加賀裕美(鹿島中)	堀絵梨香(中央J)	梅津知恵(美川中)	濱上知佳(美川中)
12	8 (1996)	古川智子(中央ジ)	水江真貴子(中央ジ)	古道和佳奈(金沢ジ)	高来　愛(中央ジ)
13	9 (1997)	通次尚美(ひまわり)	青山早希(野々市)	田村真梨(中　央)	中山奈都季(西南部中)

中学2年生　男子の部

回	年	1　位	2　位	3　位
	9 (1997)	北山順平(中　央)	藤井拓海(田鶴浜中)	中野真至(河北台中)	野崎貴浩(中　央)

中学2年生　女子の部

回	年	1　位	2　位	3　位
13	9 (1997)	古川智子(中　央)	水江真貴子(中　央)	本出奈月(錦城中)	高柳久美(鹿島中)

石川県ジュニアバドミントン競技会

回	年度	会場		小4	小5	小6	中1	中2
1	昭54(1979)	石川県体育館	男子		藤島誠孝 小池田久 (金津)	米倉央記 宮西克幸 (瓢箪)	喜綿洋人 橋本一 (宇ノ気)	細田俊久 荒木守 (西南部)
			女子	口田薫 池田真喜子 (瓢箪)	浜田典子 村上美智代 (瓢箪)	赤土真希子 石田かほり (金石・菊川)	石丸礼乃 河野真里 (金大付)	丸山晴美 大久保睦子 (津幡)
2	55(1980)	石川県体育館	男子	清水直哉 黒田和信 (辰口)	沢矢孝弘 山本長治 (相馬)	小石一寿 北間俊秀 (瓢箪)	塗田 浜田 (額)	中 高野 (松任)
			女子	堀泰子 後川陽子 (瓢箪)	口田薫 池田真喜子 (瓢箪)	酒井奈津子 林友子 (瓢箪)	石田かほり 赤土真希子 (金石)	中田 竹中 (御祓)
3	56(1981)	石川県体育館	男子		清水直哉 黒田和信 (辰口)	中栄康博 東稔 (瓢箪)	小石一寿 北間俊秀 (小将町)	
			女子		堀泰子 植村文恵 (瓢箪)	田口薫 池田真喜子 (瓢箪)	酒井奈津子 林友子 (小将町)	
4	57(1982)	石川県体育館	男子		松井順一 酒井操助 (長土塀)	三野勝 平山覚 (相馬)		
			女子		柏北 宮本 (越路)	古澤香 吉本美和 (越路)		酒井奈津子 村上美智代 (小将町)
5	58(1983)	石川県体育館	男子		斉藤守 徳坂真 (医王山)	古澤清英 前田宏 (鹿島ジ)	梅木武司 藤田義昭 (医王山)	沢村彰 板井雅春 (高松)
			女子		池田真紀子 森田斉子 (湊ジ)	前裕美子 鍛冶香名美 (美川ジ)	堀泰子 後川陽子 (小将町)	池田真紀子 渡辺貴子 (野々市)
6	59(1984)	石川県体育館	男子	桑原忠志 古沢清悟 (鹿島ジ)	石本明男 本多暁暢 (湊ジ)	延命良和 桑原久司 (鹿島ジ)	古澤清英 前田宏 (鹿島中)	宮本義紀 中舎宗満 (津幡中)
			女子	佐竹綾乃 竹馬真子 (相馬)	安田香奈 藤田美紀 (湊ジ)	山下亜希子 山口智恵 (鹿島ジ)	藤本美代 柏比恭子 (鹿島中)	堀泰子 松本朋子 (小将町中)
7	60(1985)	石川県体育館	男子	古沢清悟 西村和晃 (鹿島ジ)	広瀬考教 臼池勢 (相馬)	松下直史 加藤亘 (金沢ジ)	延命嘉和 桑原久司 (鹿島中)	
			女子	青木静香 藤岡美由紀 (相馬)	寺尾宏美 村瀬玲子 (金沢ジ)	宮城香代子 松本陽子 (金沢ジ)	山下亜希子 山岸由紀子 (鹿島中)	

8	61(1986)	石川県体育館	男子	栄代政男 伊藤　誠 (松任ジ)	鶴見　崇 高来大介 (金沢ジ)	桑原忠志 市井爾郎 (鹿島ジ)	青木　康 松下直史 (金沢ジ)	西村幸盛 高田真二 (津幡中)
			女子	酒井利佳 西山正峰 (小松ジ)	青木静香 藤岡美由紀 (相馬)	寺尾宏美 村瀬玲子 (金沢ジ)	宮城香代子 松本陽子 (金沢ジ)	室田有紀 田丸明子 (河北台中)
9	62(1987)	石川県体育館	男子	栄代政男 伊藤　誠 (松任ジ)	高野大輔 前田　登 (鹿島ジ)	古沢清悟 西村和晃 (鹿島ジ)	加藤　亘 奥村宣仁 (金沢ジ)	青木　康 三浦正徳 (金沢ジ)
			女子	宮下睦代 佐竹友恵 (相馬ク)	高田美希 川上千夏子 (湊　ジ)	杉本　恵 能口優美 (七塚ジ)	佐竹綾乃 山本千鶴 (田鶴浜中)	宮城香代子 寺尾宏美 (金沢ジ)
10	63(1988)	金沢市総合体育館	男子	舛田圭太 藤村広輔 (金沢ジ)	栄代正男 伊藤　誠 (松任ジ)	高野大輔 前田　登 (鹿島ジ)	古沢清悟 西村和晃 (鹿島中)	広瀬考教 柴田清則 (田鶴浜中)
			女子	堀　哲子 沢田智恵 (湊　ジ)	音　律子 橘久美子 (中央ジ)	酒井利佳 西山正峰 (小松ジ)	青木静香 遠藤亜希子 (田鶴浜中)	松田奈緒子 愛多知永里子 (美川中)
11	平元(1989)	金沢市総合体育館	男子	加賀康治 谷口雅亮 (鹿島ジ)	舛田圭太 寺尾和俊 (金沢ジ)	栄代正男 伊藤　誠 (松任ジ)	中村　毅 青山圭吾 (金沢ジ)	鶴見　崇 青山大吾 (金沢ジ)
			女子	亀井美夏 裏野奈津子 (河北台ジ)	堀　哲子 沢田智恵 (湊　ジ)	音　律子 橘久美子 (中央ジ)	酒井利佳 西山正峰 (小松ジ)	高桑佳代子 中川紀子 (金沢ジ)
12	平2(1990)	金沢市総合体育館	男子	南　武志 猪　真歩 (美川ジ)	加賀康治 谷口雅亮 (鹿島ジ)	舛田圭太 寺尾和俊 (金沢ジ)	青山圭吾 高尾大志 (金沢ジ)	津田光一郎 中村　毅 (金沢ジ)
			女子	田村恵理 宮田知江 (湊　ジ)	加納裕紀 松本綾乃 (中央ジ)	沢田知恵 堀　哲子 (湊　ジ)	橘久美子 音　律子 (中央ジ)	鶴来陽子 西田　麗 (高松中)
13	平3(1991)	石川県体育館	男子	広瀬雅士 山下　淳 (相馬ク)	茶谷徳靖 中村　徹 (金沢ジ)	加賀康治 谷口雅亮 (鹿島ジ)	舛田圭太 松田憲治 (金沢ジ)	
			女子	加賀裕美 木下美代子 (鹿島ジ)	田村恵里 宮田知江 (湊　ジ)	加納祐紀 松本綾乃 (中央ジ)	青木由香 寛永美穂 (田鶴浜)	
14	平4(1992)	金沢市総合体育館	男子	小林紀史 谷口　航 (相馬ク)	山下　淳 広瀬雅士 (相馬ク)	南　武志 中川智史 (美川ジ)	加賀康治 谷口雅亮 (鹿島中)	松田憲治 篠田卓也 (金沢ジ)
			女子	梅津知恵 浜上知佳 (美川ジ)	今井雅絵 谷路めぐみ (鹿島ジ)	宮田知江 長田亜紀 (湊　ジ)	加納祐紀 松本綾乃 (高岡中)	堀　哲子 沢田知恵 (美川中)

15	平5（1993）	金沢市総合体育館	男子	岩内佑野 石川修一 （中央ジ）	車　淳史 京徳　昭 （鹿島ジ）	山下　淳 広瀬雅士 （相馬ク）	酒井忠相 大畠隆史 （田鶴浜）	岡田直行 竹中純也 （高松中）
			女子	山口真美 高柳久美 （鹿島ジ）	加賀裕美 高柳麻里 （鹿島ジ）	谷路めぐみ 今井雅絵 （鹿島ジ）	川村恵里 宮田知江 （美川中）	明福麻衣子 田井美幸 （美川中）
16	平6（1994）	金沢市総合体育館	男子	岩下真輔 村上　亮 （崎浦ジ）	北山順平 梅田雅彦 （中央ジ）	谷口　航 小林紀史 （相馬ジ）	山下　淳 広瀬雅士 （田鶴浜ジ）	酒井忠相 大畠隆史 （田鶴浜ジ）
			女子	伊東可奈 村田美沙子 （大徳ジ）	古川智子 宮久美子 （中央ジ）	加賀裕美 高柳麻里 （鹿島ジ）	今井雅絵 谷路めぐみ （鹿島中）	田村恵理 長田亜紀 （美川中）
17	平7（1995）	美川町総合スポーツセンター	男子	宮村順也 宮村祐弥 （東浅川少連）	石黒　俊 宮川郁也 （ひまわり）	北山順平 梅田雅彦 （中央ジ）	車　淳史 横山康治 （鹿島中）	山下　淳 広瀬雅士 （田鶴浜中）
			女子	伊東可奈 村田美沙子 （大徳ジ）	西村真梨 池田有未 （中央ジ）	水江真貴子 古川智子 （中央ジ）	吉嶋倫子 西村木綿香 （金沢ジ）	西　宏予 今村優子 （美川中）
18	平8（1996）	金沢市総合体育館	男子	伊東克範 安藤総平 （大　徳）	山田一哉 宮村祐弥 （東浅川）	山瑞康裕 新田　峰 （下甘田）	岩内佑之 野崎貴浩 （中　央）	斉藤雅志 里谷祐平 （医王山中）
			女子	泉　亜衣 岡田仁美 （中　央）	伊東可奈 村田美沙子 （大　徳）	米谷亮子 通次尚美 （ひまわり）	水江真貴子 古川智子 （中　央）	梅津知恵 鰍場宏美 （美川中）
19	平9（1997）	美川町総合スポーツセンター	男子	伊東克範 安藤総平 （大　徳）	中村和貴 豊島俊樹 （中　央）	山本道雄 長尾孝哲 （相　馬）	村上　亮 苗島伸吾 （金　沢）	北山順平 梅田雅彦 （中　央）
			女子	興津由佳 南出なつき （ひまわり）	村上夏樹 園田祐衣 （崎　浦）	伊東可奈 村田美沙子 （大　徳）	通次尚美 米谷亮子 （ひまわり）	古川智子 水江真貴子 （中　央）

北信越(北陸三県)バドミントン大会・全国中学校バドミントン大会

年	回	大会名 会場	団体	個人			
				単		複	
				男子	女子	男子	女子
45(1970)		北陸三	女子3位 東部			2位 木下一彦 中井厚明 (鹿島) ベスト4 亀井義昭 藤岡一郎 (鹿島)	2位 松村 永江 (東部) ベスト4 杉森 大成 (東部)
46(1971)		北陸三	男子2位 東部 女子3位 東部			2位 小島 藤沢 (東部) 3位 水本里弘 村岡利治 (鹿島) 3位 本橋和幸 福多正彦 (鹿島)	3位 高橋 山田 (東部)
47(1972)		北陸三	男子2位 高松 女子1位 東部			1位 酒井直人 西川慎一 (高松) 2位 牧野 裕 大門利昭 (高松) 3位 鵜浦 今田 (東部)	3位 林喜久美 沖野有子 (高松)
47(1972)	2回	全国	男子2位 高松				
48(1973)		北陸三	男子1位 医王山 女子3位 剱地			3位 船塚 茂 山田大元 (鹿島)	1位 竹村 朽木 (河内) 3位 中川 山口 (河北台)
49(1974)		北陸三	男子2位 東部 女子2位 門前				
50(1975)		北陸三	男子1位 高松 女子3位 門前			3位 羽田俊哉 喜多義信 (高松)	1位 荒木 宮本 (門前) 2位 竹原 池田 (門前)
51(1976)		北陸三	男子2位 東部 女子1位 門前				1位 長谷川 脇田 (門前) 2位 相原 小路

							(門前)
52(1977)		北陸三	男子2位 高　松 女子1位 宇ノ気			2位 北 松本 (宇ノ気)	1位 藤島 松井 (宇ノ気) 2位 宮崎 木下 (門前) 3位 今村 種本 (宇ノ気)
53(1978)		北陸三	男子2位 高　松 男子3位 高　松				
54(1979)		北陸三	男子2位 高　松 3位 津　幡 女子1位 高　松 3位 宇ノ気				1位 長谷聖華 竹田裕美 (高松) 2位 杉本 松田 (宇ノ気)
55(1980)	1回	北信越 福井県	男子2位 宇ノ気 女子2位 高　松		3位 栂木 (門前)		1位 上山由美子 前多美穂 (高松) 2位 岡田由美 桜井一枝 (高松)
56(1981)	2回	北信越 富山県					
57(1982)	3回	北信越 長野県	男子3位 河北台 女子3位 高　松	3位 気谷篤人 (河北台)	1位 一木千代乃 (高松) 2位 山口 (宇ノ気)	2位 和田 宮坂 (御祓) 3位 小林 島田 (東部)	
57(1982)	12回	全　国			ベスト8 一木千代乃 (高松)		
58(1983)	4回	北信越 石川県	女子2位 高　松 3位 宇ノ気	1位 石田　満 (医王山)	3位 中田 (松任)	3位 沢本 宮下 (宇ノ気)	2位 素野 小林 (宇ノ気) 3位 古谷 西谷 (河北台)
59(1984)	5回	北信越 新潟県	男子3位 高　松 女子2位 宇ノ気 3位 河北台	1位 小池田 (宇ノ気)	1位 山口 (河北台) 2位 山田 (宇ノ気)	1位 大塚 田丸 (河北台)	
59(1984)	14回	全　国		3位 小池田 (宇ノ気)		3位 大塚 田丸	

						（河北台）	
60(1985)	6回	北信越 福井県	男子2位　宇ノ気 女子2位　宇ノ気	1位　油井 （宇ノ気）		3位　村井 塩谷	2位　橋本 宗藤 3位　村中 西 （国府）
60(1985)	15回	全国 登別市					3位　橋本 3位　宗藤 （宇ノ気）
61(1987)		北信越	男子1位　河北台 女子1位　宇ノ気 2位　高松	1位　北井淳 （河北台）	1位　中橋利美 （高松）	1位　藤島 藤森 （宇ノ気）	1位　油野 杉本 （宇ノ気） 3位　林田 喜多 （宇ノ気）
61(1987)	16回	全国	男子1位　河北台			1位　藤島 藤森 （宇ノ気）	
62(1987)	8回	北信越	男子1位　高松 女子1位　高松	1位　金津勲 （高松）	1位　多田 （宇ノ気） 3位　室田 （河北台）	3位　大多晴久 竹中新弥 （高松）	1位　柴田としみ 小川めぐみ （高松） 2位　柴田美智子 鶴来悦子 （高松）
62(1987)	17回	全国	男子1位　高松 女子　高松 ベスト8				ベスト8　柴田としみ 小川めぐみ （高松）
63(1988)	9回	北信越	男子1位　宇ノ気 3位　河北台	1位　松下直史 （泉） 2位　青木康 （野田）	1位　宮城香代子 （金大付） 2位　丸山実支子 （湊）	1位　石本明男 本田暁暢 （美川） 2位　山本勝 吉田誠 （泉）	3位　新蔵 西谷 （河北台）
63(1988)	18回	全国	男子　宇ノ気 ベスト8 女子　美川 ベスト8			2位　石本明男 本田暁暢 （美川） ベスト8　山本勝 吉田誠 （泉）	
平元(1989)	10回	北信越	男子1位　高松 2位　宇ノ気	1位　加藤亘 （野田） 3位　沖野 （河北台）	1位　寺尾隆司 （犀川） 2位　高田奈津希 （美川）	1位　岡田宏邦 羽田英克 （高松） 3位　山内泰志 堀田建悟 （高松）	1位　森敦子 一花望 （高松）
平元(1989)	19回	全国		ベスト8　加藤亘 （野田）		ベスト8　岡田宏邦 羽田英克 （高松）	
2(1990)	11回	北信越 福井市	男子2位　医王山 女子1位　河北台	1位　鶴見崇 （高岡）	1位　桜井宏子 （河北台）	1位　斉藤健 藤田雄祐	1位　杉本恵 笠嶋真理

			2位 美川	3位 古沢清悟（鹿島）	3位 青木 静（田鶴浜）	（医王山） 2位 道正慎一 松原哲也（河北台） 3位 安田昭博 三嶋達也（美川）	（河北台） 3位 宿野美和 河内和歌子（河北台）
2（1990）	20回	全国 坂出市	女子 河北台 ベスト8	ベスト8 鶴見 崇（高岡）	3位 桜井宏子（河北台）		
3（1991）	12回	北信越	女子3位 高松	2位 津田光一朗（津幡） 3位 中村 毅（浅野川）	2位 吉田恵美（美川） 3位 早苗洋美（宇ノ気）	2位 吉田 剛 石崎直樹（美川）	3位 西田 麗 高田美恵子（高松）
3（1991）	21回	全国		ベスト8 津田光一朗（津幡）			
4（1992）	13回	北信越 上田市	男子1位 高松 3位 高岡 3位 緑	1位 徳坂 渉（医王山） 2位 青山圭吾（緑） 3位 愛多地康雄（美川）	1位 中村奈穂子（鳴和） 2位 中島珠美（浅野川）	2位 角地孝司 松本雅之（高岡） 3位 田嶋邦亮 新納貴喜（緑）	3位 橘久美子 音 律子（高岡）
4（1992）	22回	全国 高岡市	男子 高松 ベスト8	3位 徳坂 渉（医王山）			
5（1993）	14回	北信越 美川町	男子2位 高松 女子1位 美川 3位 宇ノ気	1位 舛田圭太（犀生） 3位 茶谷徳靖（北鳴）	1位 堀 哲子（美川） 2位 岩脇 史（西南部） 3位 坂下（北鳴）	3位 奥 清人 村井 充（美川）	1位 沢田知恵 南 裕子（美川） 2位 赤井 中本（宇ノ気）
5（1993）	23回	全国	女子 美川 ベスト8	3位 舛田圭太（犀生）	ベスト8 堀 哲子（美川）		ベスト8 沢田知恵 南 裕子（美川）
6（1994）	15回	北信越 新発田市	男子1位 高松 2位 高岡 3位 鹿島 女子1位 美川 3位 鹿島	1位 茶谷徳靖（北鳴） 2位 車 浩明（鹿島） 3位 岡田直行（高松）	1位 岩脇 史（西南部） 2位 志村恵里（美川） 3位 舛田 恵（犀生）	2位 竹中純也 谷口智久（高松） 3位 新田昭宏 中嶋敏博（医王山） 3位 千場正明 長谷川純（高岡）	1位 今村恵子 明福麻衣子（美川） 2位 田井美幸 新田真琴（美川）
6（1994）	24回	全国 旭川市	男子3位 高松	ベスト8 車 浩明（鹿島）	2位 岩脇 史（西南部）	ベスト8 竹中純也 谷口智久（高松）	
7（1995）	16回	北信越 勝山市	男子1位 田鶴浜 2位 美川 3位 鹿島 女子1位 美川 3位 高松	1位 茶谷徳靖（北鳴） 2位 酒井（田鶴浜） 3位 南 武志（美川）	1位 田村恵里（美川） 2位 舛田 恵（犀生）	1位 大畠隆史 山下 淳（田鶴浜） 2位 猪 真歩 二口祐輔（美川）	1位 沢 千春 坂本知美（高松） 3位 西 宏子 今村優子（美川）

7 (1995)	25回	全　国	男子3位　田鶴浜 女　子　美　川 ベスト8	3 位　茶谷徳靖 （北鳴） 3 位　酒井忠相 （田鶴浜） ベスト8　南　武志 （美川）		1 位　大畠隆史 山下　淳 （田鶴浜）	
8 (1996)	17回	北信越 滑川市	男子1位　田鶴浜 2位　高　松 女子2位　美　川	1 位　山下　淳 （田鶴浜）	3 位　西　宏子 （美川）	1 位　広瀬雅士 長尾昌典 （田鶴浜） 2 位　金田拓也 堀田洋平 （高松）	3 位　今村優子 本田喜美 （美川）
8 (1996)	26回	全　国 大府市	男子1位　田鶴浜 2位　高　松 女子3位　美　川	ベスト8　山下　淳 （田鶴浜）	ベスト8　西　宏子 （美川）	1 位　広瀬雅士 長尾昌典 （田鶴浜） 3 位　金田拓也 堀田洋平 （高松）	
9 (1997)	18回	北信越 松本市	男子1位　田鶴浜 2位　鹿　島 女子3位　高　岡 3位　美　川	1 位　横山康博 （鹿島） 2 位　谷口　航 （田鶴浜）	2 位　加賀裕美 （鹿島）	3 位　車　淳史 表　英徳 （鹿島） 3 位　小林紀史 寺井雅哉 （田鶴浜）	3 位　田井紀子 鰍場宏美 （美川）
9 (1997)	27回	全国 新居浜市	男子3位　鹿　島 女　子　高　松 ベスト8				

石川県中学校総合体育大会バドミントン競技

回	年度・西暦	期日	会場 市町村	団体 上段：男子 下段：女子	個人			
					単		複	
					男子	女子	男子	女子
1	昭26(1951)			男子 西荒屋				
2	27(1952)			男子 東部 女子 紫錦台				
3	28(1953)		金沢市 小将町中	男子 東部 女子 種				
4	29(1954)		金沢市 小将町中	男子 金津 女子 種				
5	30(1955)			男子 小将町 女子 種				
6	31(1956)			男子 紫錦台 女子 種				
7	32(1957)			男子 東部 女子 金城				
8	33(1958)			男子 種 女子 高松				
9	34(1959)			男子 紫錦台 女子 高松				
10	35(1960)			男子 種 女子 高松				
11	36(1961)			男子 鹿島 女子 河北台				
12	37(1962)			男子 押野 女子 藤花				
13	38(1963)			男子 根上 女子 辰口				
14	39(1964)			男子 押野 女子 高松				
15	40(1965)			男子 辰口 女子 押野				
16	41(1966)			男子 医王山 女子 高松				
17	42(1967)			男子 鹿島 女子 高松				
18	43(1968)			男子 鹿島 女子 高松				
19	44(1969)			男子 高松 女子 東部				
20	45(1970)			男子 高松 女子 東部				

21	46(1971)	7月31日 8月1日	七尾市	男子 東部 女子 東部			小島 越沢 (東部)	高橋 山田 (東部)
22	47(1972)	7月29日 30日	金沢市	男子 高松 女子 東部			牧野 裕 大門利昭 (高松)	竹村 伊藤 (河内)
23	48(1973)	7月28日 29日	小松市	男子 医王山 女子 釼地			折戸勝宏 山口正和 (高松)	竹村 朽木 (河内)
24	49(1974)	7月27日 28日		男子 東部 女子 門前			坂本 山田 (東部)	坂口 宮本 (門前)
25	50(1975)	7月26日 27日	七尾市 小丸山小	男子 高松 女子 門前			羽田俊哉 喜多義信 (高松)	荒木 宮本 (門前)
26	51(1976)	7月25日 26日	松任市 若宮体	男子 東部 女子 門前			小林 加藤 (泉)	長谷川 脇田 (門前)
27	52(1977)	7月30日 31日	小松市	男子 高松 女子 宇ノ気			芋塚 船本 (東部)	藤島 松井 (宇ノ気)
28	53(1978)	7月27日 28日	松任市	男子 高松 女子 高松			羽田義仁 村松 博 (高松)	喜多広美 乾 万里 (高松)
29	54(1979)	7月28日 29日	七尾市	男子 津幡 女子 高松			飯利友幸 長谷嘉信 (高松)	杉本 松田 (宇ノ気)
30	55(1980)	7月26日 27日		男子 宇ノ気 女子 高松	高島直樹 (医王山)	栂木 (門前)	島田 上出 (宇ノ気)	上山由美子 前多美穂 (高松)
31	56(1981)			男子 御祓 女子 高松	荒木 (津幡)	堀 (国府)	寺西 了 西川 (宇ノ気)	川淵 岡田 (国府)
32	57(1982)	7月25日 26日	松任市 若宮体	男子 河北台 女子 高松	気谷篤人 (河北台)	一木千代乃 (高松)	和田 宮坂 (御祓)	油野敏美 宮島佳寿子 (高松)
33	58(1983)	7月27日 28日	七尾市 七尾工高 七尾女子	男子 宇ノ気 女子 高松	石田 満 (医王山)	門前裕子 (高松)	沢本 宮下 (宇ノ気)	素野 小林 子 (宇ノ気)
34	59(1984)		七塚町 河北台健民体	男子 高松 女子 宇ノ気	小池田 基 (宇ノ気)	山口 (河北台)	大塚 田丸 (河北台)	田丸 田村 (河北台)
35	60(1985)		小松市 南部中体	男子 宇ノ気 女子 宇ノ気	油井 (宇ノ気)	中村 (宇ノ気)	村井 塩谷 (宇ノ気)	橋本 宗藤 (宇ノ気)

36	61(1986)			男子 河北台 女子 宇ノ気	北井 淳 (河北台)	中橋利美 (高 松)	花 坂野 (河北台)	油野 杉本 (宇ノ気)
37	62(1987)		七尾市	男子 高 松 女子 高 松	北津 勲 (高 松)	多田 (宇ノ気)	大多晴久 竹中新弥 (高 松)	柴田としみ 小川めぐみ (高 松)
38	63(1988)		美川町 町民体	男子 宇ノ気 女子 美 川	青木 康 (野 田)	宮城香代子 (金大付)	石本明男 本田暁暢 (美 川)	鍵谷真樹 安田香奈 (美 川)
39	平元(1989)			男子 宇ノ気 女子 河北台	加藤 亘 (野 田)	寺尾隆司 (犀 川)	岡田宏邦 羽田英克 (高 松)	松田奈緒子 堀 悦子 (美 川)
40	2 (1990)		美川町 町民体	男子 河北台 女子 美 川	鶴見 崇 (高 岡)	桜井宏子 (河北台)	斉藤 健 藤田雄祐 (医王山)	杉本 恵 笠嶋真理 (河北台)
41	3 (1991)		七尾市	男子 宇ノ気 女子 高 松	津田光一朗 (津 幡)	吉田恵美 (美 川)	赤井 池田 (宇ノ気)	西田 麗 高田美恵子 (高 松)
42	4 (1992)	7月18日 19日	美川町 総合スポ	男子 高 松 女子 美 川	青山圭吾 (緑)	中島珠美 (浅野川)	田嶋邦亮 新納貴喜 (緑)	松田美希子 堀 哲子 (美 川)
43	5 (1993)		小松市 南部中	男子 宇ノ気 女子 美 川	舛田圭太 (犀 生)	堀 哲子 (美 川)	稲谷 松本 (宇ノ気)	沢田知恵 南 裕子 (美 川)
44	6 (1994)		美川町 総合スポ	男子 高 松 女子 美 川	車 浩明 (鹿 島)	岩脇 史 (西南部)	竹中純也 谷口智久 (高 松)	田井美幸 新田真琴 (美 川)
45	7 (1995)		七尾市 東部中	男子 田鶴浜 女子 高 松	茶谷徳靖 (北 鳴)	田村恵里 (美 川)	大畠隆史 山下 淳 (田鶴浜)	西 宏予 今村優子 (美 川)
46	8 (1996)		金沢市 総合体	男子 田鶴浜 女子 美 川	山下 淳 (田鶴浜)	西 宏子 (美 川)	金田拓也 堀田洋平 (高 松)	今村優子 本田喜美 (美 川)
47	9 (1997)		美川町 総合スポ	男子 鹿 島 女子 美 川	谷口 航 (田鶴浜)	梅津智恵 (美 川)	小林紀史 寺井雅也 (田鶴浜)	竹中里佳 谷口 薫 (高 松)

石川県中学生選抜バドミントン大会

回	年	種目	男子の部		女子の部	
			1位	2位	1位	2位
1	昭57(1982)	単	気谷(河北台)	多田(御祓)	一木(高松)	石田(金石)
		複	気谷・田丸(河北台)	小林・島田(東部)	磐香・新蔵(河北台)	石田・下田(金石)
2	58(1983)	単	石田(医王山)	藤島(宇ノ気)	中川(河北台)	素野(宇ノ気)
		複	藤島・小池田(河北台)	沢木・宮下(宇ノ気)	門前・西(高松)	林・浜田(小将町)
3	59(1984)	単	小池田(宇ノ気)	沢村(高松)	山口(河北台)	山田(宇ノ気)
		複	田村・坂本(医王山)	武田・西村(津幡)	山口・能任(河北台)	松井・山本(宇ノ気)
4	60(1985)	単	高畠(北星)	満淵(東部)	橋本(宇ノ気)	鵜飼(河北台)
		複	梅木・亀井(医王山)	高田・能口(河北台)	橋本・宗藤(宇ノ気)	田中・菊地(宇ノ気)
5	61(1986)	単	高瀬(津幡)	北井(河北台)	中橋(高松)	喜多(高松)
		複	花・北井(河北台)	田中・高瀬(津幡)	宮本・柏比(鹿島)	松本・油野(宇ノ気)
6	62(1987)	単	今津(河北台)	寺尾(犀川)	室田(河北台)	多田(宇ノ気)
		複	松原・竹田(北星)	土野・浜野(羽咋)	荒木・多田(宇ノ気)	宮城・松本(金大付・泉)
7	63(1988)	単	石本(美川)	青木(野田)	津田(津幡)	前田(美川)
		複	石本・本田(美川)	竹鼻・小川(北星)	藤田・吉田(美川)	安田・鍵谷(美川)
8	平元(1989)	単	加藤(野田)	宮下(宇ノ気)	松田(美川)	高田(美川)
		複	加藤・森(野田・泉)	小川・山内(高松)	松田・高田(美川)	寺尾・佐竹(犀川・田鶴浜)
9	2(1990)	単	鶴見(高岡)	内潟(河北台)	青木(田鶴浜)	桜井(河北台)
		複	斉藤・藤田(医王山)	安田・三嶋(美川)	河内・宿野(河北台)	杉本・笠島(河北台)
10	3(1991)	単	津田(津幡)	中村(浅野川)	吉田(美川)	鶴来(高松)
		複	吉井・石崎(美川)	北岡・山口(河北台)	山口・北村(高岡)	橘・音(高岡)
11	4(1992)	単	愛多地(美川)	青山(緑)	中村(鳴和)	中島(浅野川)
		複	多嶋・新納(緑)	羽田・谷(高松)	橘・音(高岡)	松田・沢田(美川)
12	5(1993)	単	舛田(犀生)	松田(城南)	堀(美川)	岩脇(西南部)
		複	奥・村井(美川)	宮谷・松本(宇ノ気)	南・吉田(美川)	赤井・中本(宇ノ気)
13	6(1994)	単	茶谷(北鳴)	中本(西南部)	岩脇(西南部)	明福(美川)
		複	中嶋・新田(医王山)	谷口・竹中(高松)	新田・田井(美川)	田中・江尻(大徳)
14	7(1995)	単	酒井(田鶴浜)	茶谷(北鳴)	舛田(犀生)	田村(美川)
		複	大畠・山下(田鶴浜)	猪・二口(美川)	沢・坂本(高松)	今井・谷路(鹿島)
15	8(1996)	単	山下(田鶴浜)	嶋田(犀生)	曽我(浅野川)	西(美川)
		複	広瀬・長尾(田鶴浜)	堀田・金田(高松)	今井・塚田(鹿島)	今村・島野(美川)
		団体	鹿島中	田鶴浜中	高岡中	美川中
16	9(1997)	単	横山(鹿島)	谷口(田鶴浜)	西村(森本)	北出(錦城)
		複	表・車(鹿島)	小林・寺井(田鶴浜)	竹中・谷口(高松)	田井・濱上(美川)
17	10(1998)	団体	高岡中	田鶴浜中	高岡中	津幡中
		単	中野(河北台)	塩木(美川)	古川(高岡)	本出(美川)
		複	岩内・梅田(高岡)	松本・今(高松)	宮崎・山口(鹿島)	若松・小舘(高岡)

石川県バドミントン中学１年生大会

回	年　度		団　体	個人シングルス	個　人　ダ　ブ　ル　ス
1	昭60(1985)	男子	医王山中学校	寺　尾(金沢J)	高　田・西　村(津幡)
		女子	河北台中学校	室　田(河北台)	朝　倉・相　高(鹿島)
2	61(1986)	男子	医王山中学校	松　下(　泉　)	石　本・本　田(美川)
		女子	美川中学校	宮　城(金沢J)	吉　田・鍵　谷(美川)
3	62(1987)	男子	田鶴浜中学校	加　藤(野田)	柴　田・広　瀬(田鶴浜)
		女子	美川中学校A	寺　尾(金沢J)	栄　代・伊　藤(松任)
4	63(1988)	男子	鹿島中学校	鶴　見(高岡)	斉　藤・藤　田(医王山)
		女子	河北台中学校A	青　木(田鶴浜)	河　内・野　口(河北台)
5	平元(1989)	男子	美川中学校	高　野(鹿島)	吉　井・田　中(美川)
		女子	美川中学校	吉　田(美川)	北　村・山　口(高岡)
6	2 (1990)	男子	緑中学校	青　山(　緑　)	中　村・村　守(鹿島)
		女子	美川中学校A	橘　(高岡)	奥　村・　森　(金沢J)
7	3 (1991)	男子	錦城中学校	舛　田(犀生)	村　井・加　端(美川)
		女子	美川中学校	沢　田(美川)	南　・吉　田(美川)
8	4 (1992)	男子	鹿島中学校	中　本(西南部)	加　賀・谷　口(鹿島)
		女子	美川中学校	岩　脇(西南部)	今　村・田　井(美川)
9	5 (1993)	男子	金沢ジュニア	茶　谷(金沢J)	浅　井・越　野(金沢J)
		女子	美川中学校	舛　田(犀生)	宮　・石　黒(高岡)
10	6 (1994)	男子	鹿島中学校	山　下(田鶴浜)	奥　村・山　口(医王山)
		女子	鹿島中学校	谷　路(鹿島)	今　村・本　田(美川)
11	7 (1995)	男子	鹿島中学校	横　山(鹿島)	表　・　車　(美川)
		女子	美川中学校	加　賀(鹿島)	濱　上・田　井(美川)
12	8 (1996)	男子	高岡中学校	北　山(高岡)	藤　井・廣　瀬(田鶴浜)
		女子	高岡中学校	古　川(高岡)	浜　田・岡　山(小松J)
13	9 (1997)	男子	金沢ジュニア	村　上(金沢J)	坂　井・山　口(田鶴浜)
		女子	高岡中学校	中　山(西南部)	鍛　治・明　福(美川)

全国高等学校総合体育大会

年度	開催地	男子 団体	男子 複	男子 単
昭25(1950)	横浜市	3位 泉丘		
26(1951)	札幌市	3位 泉丘 4位 二水		
27(1952)	善通寺町	優勝 二水 2位 泉丘		
28(1953)	山形市	4位 二水		
29(1954)	金沢市	優勝 二水		
30(1955)	神戸市	2位 二水		3位 関 3位 北方(二水)
31(1956)	仙台市			
32(1957)	松江市			
33(1958)	新潟市	2位 津幡		
34(1959)	会津若松市	4位 津幡		
35(1960)	久留米市			
36(1961)	弘前市			
37(1962)	高岡市			
38(1963)	鶴岡市			
39(1964)	京都市			
40(1965)	熊本市			
41(1966)	弘前市			
42(1967)	金沢市	優勝 金市工	3位 高来・流(金市工) 3位 山本・松本(金市工)	2位 黒田(金市工)
43(1968)	福山市	2位 金市工		
44(1969)	桐生市	優勝 金市工	3位 小中・村谷(金市工)	3位 小中(金市工)
45(1970)	名古屋市			2位 銭谷(大聖寺)
46(1971)	善通寺市			
47(1972)	新庄市	3位 金市工	3位 原・林(金市工)	3位 原(金市工)
48(1973)	四日市市	優勝 金市工		
49(1974)	嬉野町	3位 金市工	2位 滝川・船本(金市工)	2位 滝川(金市工)
50(1975)	水戸市	優勝 金市工	2位 宮本・酒井(金市工)	3位 坂本(七尾農) 3位 宮守(金市工)
51(1976)	中野市	優勝 金市工		3位 重山(金市工)
52(1977)	倉敷市	2位 金市工		
53(1978)	会津若松市			
54(1979)	大津市			3位 村本(七尾工) 3位 坂井(金市工)
55(1980)	善通寺市			
56(1981)	平塚市		2位 羽田・村松(金市工)	3位 村松(金市工)
57(1982)	枕崎市	2位 金市工	3位 羽田・山尾(金市工)	3位 山尾(金市工)
58(1983)	豊橋市			
59(1984)	大曲市	3位 金市工	3位 荒木・宇田(金市工)	
[illegible]	[illegible]市	3位 金市工	2位 気谷・山本(金市工) 3位 中川・西島(金市工)	3位 山本(金市工)
61(1986)	下関市	2位 金市工		
62(1987)	登別市			
63(1988)	宝塚市	3位 金市工		
平元(1989)	高知市			
2(1990)	塩竈市	2位 金市工		
3(1991)	富士市	2位 金沢二水		3位 石本(金市工)
4(1992)	西都市			
5(1993)	宇都宮市			
6(1994)	高岡市			
7(1995)	松江市	3位 金市工	3位 徳坂・舛田(金市工)	優勝 舛田(金市工)
8(1996)	甲府市			優勝 舛田(金市工)
9(1997)	長岡京市	3位 金市工		

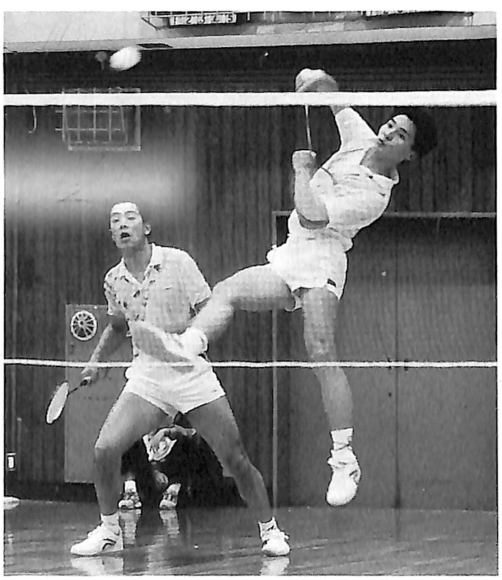
女子		
団体	複	単
2位　津幡		
	3位　北島・松田（金城）	2位　長田（北陸）
	優勝　山崎・川（金城）	優勝　山崎（金城）
4位　金城		
3位　藤花		3位　石田（藤花）
	3位　中橋・多田（向陽）	
2位　金沢向陽	優勝　中島・片糸（向陽）	
2位　金沢向陽	3位　堀・奥村（向陽）	
	優勝　田井・舛田（向陽）	



金沢市で開催された第36回全国高校総合体育大会男子ダブルスで2位となった金市工の気谷・山本組

北信越高等学校総合体育大会

年度	開催地	男子				女子			
		優勝	2位	3位		優勝	2位	3位	
昭53(1978)	金沢市	金市工		七尾工				金城	
54(1979)	新潟市	金市工	七尾工				金城	金沢向陽	
55(1980)	福井市	金市工		七尾工					
56(1981)	高岡市	金市工						金沢向陽	
57(1982)	上田市		金市工				金城	金沢商業	
58(1983)	金沢市	金市工	星稜	金沢二水			金沢二水	金城	金沢向陽
59(1984)	新潟市	金市工		金沢二水			金沢向陽	金沢二水	
60(1985)	福井市			金市工			尾山台	金城	金沢向陽
61(1986)	高岡市	金市工		七尾工			金沢向陽	金沢二水	
62(1987)	上田市	金市工					金城	金沢向陽	
63(1988)	金沢市	金市工		金沢二水			金沢二水		
平元(1989)	上越市							金沢向陽	
2(1990)	福井市	金沢二水	金市工			金沢向陽	金沢二水		
3(1991)	高岡市	金沢二水	金市工			金沢向陽			
4(1992)	松本市			金市工	松陵工業	金沢向陽		金沢二水	
5(1993)	金沢市	金市工						金沢二水	
6(1994)	新潟市	金市工				金沢向陽		金沢二水	
7(1995)	福井市	金市工				金沢向陽			
8(1996)	高岡市	金市工				金沢向陽			
9(1997)	松本市	金市工				金沢向陽			



北信越高等学校総合体育大会で団体優勝した金市工の松原・古澤組
（平成5年6月）

全国高等学校選抜大会

		男子			女子		
		団体	複	単	団体	複	単
昭47(1972)	真岡市						
48(1973)	東京都						
49(1974)	東京都	3位 石川県	3位 水内・西川(金市工)	2位 牧野(金市工)			
50(1975)	桐生市	3位 石川県					
51(1976)	郡山市			3位 清水(金市工)			
52(1977)	奈良市						
53(1978)	東京都					3位 小路・宮崎(金城)	
54(1979)	真岡市						
55(1980)	大津市	2位 金市工		3位 村松(金市工)			
56(1981)	桐生市						
57(1982)	松江市						
58(1983)	足利市					3位 川端・岡田(二水)	3位 堀(金市工)
59(1984)	金沢市	2位 金市工	優勝 中川・西島(金市工) 2位 気谷・山本(金市工)	3位 山本(金市工)			3位 一木(金城)
60(1985)	那覇市	3位 金市工	2位 藤島・石田(金市工)				
61(1986)	帯広市			3位 塩谷(金市工)			
62(1987)	宝塚市	2位 金市工					
63(1988)	宇都宮市		3位 藤島・紺谷(金市工)				
平元(1989)	葛飾区		優勝 大多・石本(金市工)				
2(1990)	高岡市	2位 金沢二水		3位 石本(金市工)			
3(1991)	宇都宮市				3位 金沢向陽		
4(1992)	新潟市						
5(1993)	大府市						
6(1994)	上尾市	3位 金市工	3位 徳坂・舛田(金市工)		優勝 金沢向陽		
7(1995)	札幌市			2位 舛田(金市工)		3位 堀・奥村(向陽)	3位 堀(向陽)
8(1996)	長岡京市	3位 金市工					
9(1997)	東京都						

石川県高等学校総合体育大会

年度	男子			女子		
	団体	複	単	団体	複	単
昭24(1949)						
25(1950)	七尾			津幡		
26(1951)	菫台			津幡		
27(1952)	金沢二水			羽咋		
28(1953)	金沢泉丘			津幡		
29(1954)	金沢二水			津幡		
30(1955)	金沢二水	硎谷・米谷(二水)	北方(二水)	金沢二水	藤田・有田(二水)	藤田(二水)
31(1956)	金沢二水	村田・酒井(津幡)	新田(二水)	金沢二水	藤田・有田(二水)	有田(二水)
32(1957)	津幡	村田・酒井(津幡)	酒井(津幡)	金城	有田・吉田(二水)	有田(二水)
33(1958)	津幡	沢田・酒井(津幡)	沢田(津幡)	金城	山崎・川(金城)	山崎(金城)
34(1959)	津幡	川尻・池村(津幡)	供田(二水)	金城	藤江・竹多(金城)	酒井(七尾)
35(1960)	小松	亀田・松田(小松)	桶成(七尾)	津幡	竹多・中屋(金城)	竹多(金城)
36(1961)	津幡	島・村谷(津幡)	堂井(泉丘)	金城	中屋・黒川(金城)	中屋(金城)
37(1962)	金沢	東田・中山(金沢)	東井(金沢)	藤花	長柄・今(藤花)	長柄(藤花)
38(1963)	金沢	北方・山田(金沢)	三野(七尾商)	藤花	田中・東(金城)	田中(金城)
39(1964)	金沢	府岡・東(大聖寺)	北方(金沢)	藤花	小林・白川(藤花)	小林(藤花)
40(1965)	津幡	島田・鈴木(津幡)	中村(羽咋)	藤花	左尾・福田(藤花)	左尾(藤花)
41(1966)	金市工	東・高来(金市工)	東(金市工)	藤花	坂田・南(藤花)	竹中(二水)
42(1967)	金市工	高来・流(金市工)	山本(金市工)	藤花	桶作・鉄屋(藤花)	竹中(二水)
43(1968)	金市工	浜谷・池本(金市工)	相川(金市工)	藤花	山口・北林(藤花)	坂本(二水)
44(1969)	金市工	村谷・小中(金市工)	小中(金市工)	藤花	岡田・髭(藤花)	髭(藤花)
45(1970)	金市工	青山・竹村(金市工)	銭谷(大聖寺)	津幡	森田・三浦(津幡)	三浦(津幡)
46(1971)	金市工	米田・原(金市工)	高本(大聖寺)	津幡	架谷・麝香(藤花)	架谷(藤花)
47(1972)	金市工	原・林(金市工)	原(金市工)	津幡	気谷・横山(津幡)	気谷(津幡)
48(1973)	金市工	大窪・柳本(七尾)	木下(金市工)	津幡	坂口・横山(津幡)	坂口(津幡)
49(1974)	金市工	滝川・船本(金市工)	滝川(金市工)	藤花	高僧・中山(金城)	中山(金城)
50(1975)	金市工	宮森・酒井(金市工)	宮森(金市工)	藤花	石田・石垣(藤花)	石田(藤花)
51(1976)	金市工	重山・坂本(金市工)	重山(金市工)	金城	高木・今村(金城)	高木(金城)
52(1977)	金市工	高橋・六川(七尾工)	羽田俊(金市工)	金沢二水	松本・小野(尾山台)	小野(尾山台)
53(1978)	金市工	羽田・坂井(金市工)	羽田俊(金市工)	金城	中川・黒川(金城)	小野(尾山台)
54(1979)	金市工	宮坂・村本(七尾工)	坂井(金市工)	金沢向陽	小路・宮崎(金城)	小路(金城)
55(1980)	金市工	村松・羽田義(金市工)	中島(金市工)	金沢向陽	宮崎・日向(金城)	宮崎(金城)
56(1981)	金市工	村松・羽田義(金市工)	羽田義(金市工)	金沢向陽	長谷・杉本(二水)	西谷(向陽)
57(1982)	金市工	山尾・羽田義(金市工)	山尾(金市工)	金沢二水	大田・水本(金沢商)	長谷(二水)
58(1983)	金市工	清水・崎田(金市工)	嶋田(金市工)	金沢二水	岡田・前多(金城)	岡田(金城)
59(1984)	金市工	崎田・気谷(金市工)	荒木(金市工)	金沢二水	岡田・川端(二水)	堀(二水)
(1985)	金市工	中川・西島(金市工)	山本(金市工)	金城	一木・前川(金城)	一木(金城)
61(1986)	金市工	武田・大塚(金市工)	小池田(金市工)	金沢向陽	閤田・堅田(向陽)	中田(尾山台)
62(1987)	金市工	武田・大塚(金市工)	武田(金市工)	金城	山口・山田(金城)	山村(向陽)
63(1988)	金市工	油井・紺谷(金市工)	塩谷(金市工)	金沢向陽	橋本・中橋(向陽)	橋本(向陽)
平元(1989)	金市工	小松・田中(松陵工)	紺谷(金市工)	金沢向陽	中橋・多田(向陽)	中橋(向陽)
2(1990)	金市工	大多・石本(金市工)	寺尾(二水)	金沢向陽	多田・安田(向陽)	多田(向陽)
3(1991)	金沢二水	青木・竹鼻(二水)	青木(二水)	金沢向陽	宮城・吉田(二水)	津田(向陽)
4(1992)	金市工	加藤・沖野(金市工)	加藤(金市工)	金沢向陽	佐竹・中嶋(向陽)	佐竹(向陽)
5(1993)	金市工	古沢・松原(金市工)	津田(金市工)	金沢向陽	桜井・杉本(二水)	桜井(二水)
6(1994)	金市工	吉井・徳坂(金市工)	津田(金市工)	金沢向陽	中島・片糸(向陽)	片糸(向陽)
7(1995)	金市工	徳坂・舛田(金市工)	舛田(金市工)	金沢向陽	中島・片糸(向陽)	片糸(向陽)
8(1996)	金市工	舛田・酒井(金市工)	舛田(金市工)	金沢向陽	堀・奥村(向陽)	堀(向陽)
9(1997)	金市工	中嶋・茶谷(金市工)	酒井(金市工)	金沢向陽	田井・舛田(向陽)	田井(向陽)

石川県高等学校新人大会

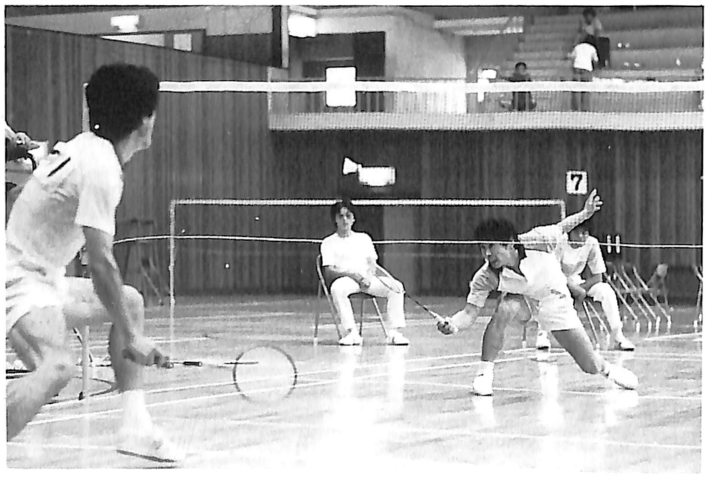
年度	男子			女子		
	団体	複	単	団体	複	単
昭31(1956)	津幡	中浦・額谷(泉丘)	高瀬(小松実)	金城	東中・松本(津幡)	松田(金城)
32(1957)		村西・村田(泉丘)	宮本(松任農)		小島・山本(金城)	村本(二水)
33(1958)	津幡	三島・川尻(津幡)	三島(津幡)	金城	藤江・竹多(金城)	山原(金城)
34(1959)	七尾	原・桶成(七尾)	松田(小松)	金城	木上・羽田(津幡)	
35(1960)	津幡	中村・紺谷(津幡)	角越(小松実)	金城	中屋・加藤(金城)	中屋(金城)
36(1961)	金沢	東田・中村(金沢)	東田(金沢)	藤花	田中・東(金城)	今(藤花)
37(1962)	七尾商業	竹田・原田(金沢)	三野(七尾商)	金城	田中・丹羽(金城)	田中(金城)
38(1963)	金沢泉丘	北方・山田(金沢)	北方(金沢)	金城	亀井・田村(金城)	小林(藤花)
39(1964)	七尾	島田・鈴木(津幡)	中村(羽咋)	藤花	左尾・福田(藤花)	左尾(藤花)
40(1965)	金市工	東・高来(金市工)	東(金市工)	藤花	坂田・南(藤花)	竹中(二水)
41(1966)	金市工	黒田・村中(金市工)	高来(金市工)	藤花	竹中・坂本(二水)	竹中(二水)
42(1967)	金市工	浜谷・池本(金市工)	浜谷(金市工)	津幡	坂本・小島(二水)	坂本(二水)
43(1968)	金市工	村谷・田賀(金市工)	小中(金市工)	藤花	村井・平島(津幡)	岡田(藤花)
44(1969)	金市工	青山・竹村(金市工)	竹村(金市工)	津幡	森田・三浦(津幡)	松田(二水)
45(1970)	金市工	米田・原(金市工)	高木(七尾工)	津幡	南・梶(津幡)	架谷(藤花)
46(1971)	金市工	木下・原(金市工)	原(金市工)	津幡	気谷・山崎(津幡)	気谷(津幡)
47(1972)	金市工	木下・小中(金市工)	木下(金市工)	津幡	坂口・横山(津幡)	坂口(津幡)
48(1973)	金市工	村岡・池田(七尾工)	船本(金市工)	金城	高僧・中山(金城)	石田(藤花)
49(1974)	金市工	水内・西川(金市工)	坂本(七尾農)	藤花	石田・石垣(藤花)	石田(藤花)
50(1975)	金市工	重山・森田(金市工)	重山(金市工)	金城	高木・渡辺(金城)	元橋(金城)
51(1976)	金市工	坂本・石崎(金市工)	坂本(金市工)	金沢二水	直江・中村(二水)	直江(二水)
52(1977)	金市工	羽田俊・三浦(金市工)	羽田俊(金市工)	金城	宮本・中川(金城)	小野(尾山台)
53(1978)	金市工	坂井・金谷(金市工)	坂井(金市工)	金沢向陽	小路・宮崎(金城)	小路(金城)
54(1979)	金市工	中島・村松(金市工)	中島(金市工)	金沢向陽	宮崎・日向(金城)	日向(金城)
55(1980)	金市工	羽田・村松(金市工)	羽田(金市工)	金沢二水	長谷・杉本(二水)	喜多(向陽)
56(1981)	金市工	羽田・山尾(金市工)	山尾(金市工)	金城	長谷・杉本(二水)	長谷(二水)
57(1982)	金市工	嶋田・島(金市工)	嶋田(金市工)	金沢二水	岡田・前多(金城)	岡田(金城)
58(1983)	金市工	崎田・気谷(金市工)	気谷(金市工)	金沢二水	川端・岡田(二水)	堀(二水)
59(1984)	金市工	中川・西島(金市工)	山本(金市工)	尾山台	一木・前川(金城)	一木(金城)
60(1985)	金市工	石田・藤島(金市工)	小池田(金市工)	金沢向陽	中川・西(金沢商)	中田(尾山台)
61(1986)	金市工	武田・大塚(金市工)	小池田(金市工)	金城	山田・山口(金城)	渡辺(二水)
62(1987)	金市工	塩谷・藤島(金市工)	塩谷(金市工)	金沢向陽	橋本・菊池(向陽)	橋本(向陽)
63(1988)	金市工	藤島・紺谷(金市工)	藤森(金市工)	金沢向陽	中橋・鍛冶(向陽)	中橋(向陽)
平元(1989)	金沢二水	大多・石本(金市工)	寺尾(二水)	金沢向陽	多田・澤田(向陽)	多田(向陽)
2(1990)	金沢二水	青木・竹鼻(二水)	竹鼻(二水)	金沢向陽	津田・藤田(向陽)	津田(向陽)
3(1991)	金市工	加藤・沖野(金市工)	加藤(金市工)	金沢向陽	中嶋・高田(向陽)	中嶋(向陽)
4(1992)	金市工	古沢・松原(金市工)	鶴見(金市工)	金沢二水	杉本・桜井(二水)	桜井(二水)
5(1993)	金市工	津田・奥森(金市工)	津田(金市工)	金沢向陽	中島・片糸(向陽)	中島(向陽)
6(1994)	金市工	徳坂・舛田(金市工)	徳坂(金市工)	金沢向陽	中島・片糸(向陽)	片糸(向陽)
7(1995)	金市工	舛田・車(金市工)	舛田(金市工)	金沢向陽	堀・奥村(向陽)	堀(向陽)
8(1996)	金市工	中嶋・茶谷(金市工)	車(金市工)	金沢向陽	田井・舛田(向陽)	田井(向陽)
9(1997)	金市工	酒井・茶谷(金市工)	茶谷(金市工)	金沢向陽	渡辺・西(向陽)	田村(向陽)

全日本教職員バドミントン選手権大会

回	開催期日	開催地	種目	優勝	2位	3位
1	昭37(1962)	東京都	一般男子単	北方匡		
			一般男子複	北方・河原山	江尻・茂藤	
2	38(1963)	群馬県	一般男子複	北方・河原山		
3	39(1964)	三重県	一般男子複			北方・河原山
4	40(1965)	大分県	一般男子単		北方匡	
			一般男子複		北方・河原山	
6	42(1967)	富山県	一般男子複	北方・原		
7	43(1968)	大阪府	一般男子複		北方・原	
			混合複	北方・鎌田		
8	44(1969)	埼玉県	一般男子団体			石川県
			一般男子複	北方・原		
9	45(1970)	岐阜県	混合複			北方・藤井
10	46(1971)	岡山県	一般男子団体			石川県
			一般男子単			長谷川進
11	47(1972)	秋田県	一般男子団体	石川県		
12	48(1973)	滋賀県	一般男子団体	石川県		
			壮年男子団体			石川県
			一般男子複		原・長谷川	
			30歳男子複		村西・松本	
13	49(1974)	熊本県	一般男子団体		石川県	
			成壮年団体		石川県	
14	50(1975)	栃木県	一般男子団体	石川県		
			成壮年団体			石川県
			30歳男子複			村西・松本
			混合複			北方・石田
15	51(1976)	東京都	一般男子団体			石川県
16	52(1977)	山口県	一般男子単	舛田吉光		長谷川進
			一般男子複			長谷川・舛田
			30歳男子単	原栄一		
			30歳男子複	北方・原		
17	53(1978)	宮城県	一般男子複		長谷川・舛田	
			30歳男子単	和田修	原栄一	
18	54(1979)	福岡県	一般男子団体	石川県		
			一般男子単	長谷川進	舛田吉光	
			一般男子複			長谷川・舛田
			30歳男子単			和田修
			30歳男子複		原・和田	
19	55(1980)	石川県	一般男子団体	石川県		
			一般女子団体		石川県	
			成壮年団体		石川県	
			一般男子単	長谷川進	舛田吉光	
			一般男子複			長谷川・舛田
			一般女子複		宮野・成瀬	
			30歳男子単		原栄一	和田修

			30歳男子複	原・和田			
			40歳男子複			北方・江尻	
20	56(1981)	福島県	一般男子団体		石川県		
			成壮年団体		石川県		
			一般男子単			水内浩	
			一般女子単	伊東ひとみ	宮野明子		
			30歳男子単	原栄一		和田修	
			30歳男子複	原・和田			
			40歳男子複		北方・西村		
21	57(1982)	佐賀県	一般男子団体		石川県		
			30歳男子単	和田修			
			30歳男子複			原・和田	
22	58(1983)	静岡県	一般男子複			水内・西川	
			30歳男子単			原栄一	
			30歳男子複		原・和田		
			40歳男子複		北方・松本		
23	59(1984)	青森県	一般女子団体	石川県			
			成壮年団体			石川県	
			30歳男子複			原・和田	
			40歳男子複	北方・松本			
24	60(1985)	福井県	一般女子団体		石川県		
			成壮年団体		石川県		
			一般女子単			小路和代	小野順子
			一般女子複	小路・小野			
			30歳男子複			和田・高来	
			混合複	舛田・小路			
25	61(1986)	広島県	一般女子団体	石川県			
			一般男子単		舛田吉光		
			40歳男子単			原栄一	
26	62(1987)	北海道	一般女子団体		石川県		
			一般男子複			舛田・水内	
			40歳男子単		原栄一		
			40歳男子複		原・松本		
27	63(1988)	奈良県	一般男子複			舛田・水内	
			40歳男子単		原栄一		
28	平元(1989)	香川県	40歳男子単		原栄一		
29	2(1990)	岩手県	40歳男子単			原栄一	
			40歳男子複			原・能崎	
30	3(1991)	愛知県	一般女子団体			石川県	
			40歳男子単			原栄一	
31	4(1992)	熊本県	一般女子団体			石川県	
			一般女子単			中島晴美	
			30歳男子複			舛田・水内	
			30歳女子卓	伊東ひとみ			
			30歳女子複	桶谷・伊東			
32	5(1993)	神奈川県	一般女子団体			石川県	

			30歳女子単	伊東ひとみ			
			30歳女子複	桶谷・伊東			
33	6（1994）	石川県	一般女子団体		石川県		
			成壮年団体			石川県	
			30歳男子複			舛田・水内	
			30歳女子単			伊東ひとみ	
			30歳女子複		宇都宮・東	桶谷・伊東	
			50歳男子複			原・松本	
34	7（1995）	鳥取県	30歳男子単		水内浩		
			30歳女子単			東順子	
			30歳女子複	桶谷・伊東		宇都宮・東	
			50歳男子単			原栄一	
35	8（1996）	千葉県	一般男子団体			石川県	
			30歳女子単			桶谷千鶴子	
			50歳男子単		原栄一		
36	9（1997）	和歌山県	一般男子団体		石川県		
			一般女子団体			石川県	
			30歳女子複	桶谷・伊東			



第19回全日本教職員バドミントン大会で石川県代表同士の一般男子シングルス決勝戦。長谷川が２－１で舛田を敗った。

石川県教職員バドミントン大会優勝者

回	開催期日	会場	団体	個人	
				男子複	混合複
1	昭43(1968)	金城高校	河北教員B		
2	44(1969)	金城高校	河北教員A		
3	45(1970)	金沢二水高校	河北教員B	塚本・村上(金大医学部)	
4	46(1971)	金沢二水高校	金沢大学がん研究所A	塚本・村上(金大医学部)	
5	47(1972)	金沢二水高校	金沢大学がん研究所A	塚本・松影(金大医学部)	石田・久野(金大医学部)
6	48(1973)	金沢二水高校	金沢大学医学部	塚本・松平(金大医学部)	寺西・鍛冶(金大医学部)
7	49(1974)	金沢二水高校	金沢大学医学部A	松平・寺西(金大医学部)	塚本・早川(金大医学部)
8	50(1975)	河北台商業高校	河北教員	松平・寺西(金大医学部)	大西・浅野(河北教員)
9	51(1976)	金沢二水高校	金沢大学A	松平・寺西(金大医学部)	亀山・寺田(金大)
10	52(1977)	津幡高校	金沢大学A	石田・宮崎(金大)	寺西・早川(金大)
11	53(1978)	河北台商業高校	金沢大学A	亀山・松平(金大)	石田・浦野(金大)
12	54(1979)	金沢商業高校	金沢大学B	亀山・石田(金大)	村本・森田(河北教員)
13	55(1980)	金沢大学医療技術短期大学	金沢大学A	石田・宮崎(金大)	松平・浦野(金大)
14	56(1981)	金沢西高校	金沢大学B	岡部・藤田(津幡高)	能崎・枝畑(中央高)
15	57(1982)	金沢西高校	金沢大学B	藤田・中谷(額小)	能崎・枝畑(金商高)
16	58(1983)	金沢西高校	金沢大学A	石田・宮崎(金大)	松平・寺尾(金大)
17	59(1984)	金沢西高校	金沢大学A	新伝・山岸(錦城養護)	北村・寺岡(錦城養護)
18	60(1985)	金沢大学医療技術短期大学	錦城養護A	定成・松永(北陸大)	石田・橋本(金大)
19	61(1986)	金沢大学医療技術短期大学	金沢大学A	定成・松永(北陸大)	伊藤・橋本(金大)
20	62(1987)	金沢大学医療技術短期大学	北陸大学A	大桑・大井川(北陸大)	中村・橋本(金大)
21	63(1988)	金沢商業高校	金沢大学A	能崎・棒田(金商高)	川田・橋本(金大)
22	平元(1989)	金沢商業高校	金沢大学A	堀田・中村(金大)	中島・橋本(金大)
23	2(1990)	金沢西高校	金沢大学A	南口・細木(錦城養護)	川田・素野(金大)
24	3(1991)	金沢西高校	金沢大学A	伊藤・中村(金大)	舩本・香室(金沢医大)
25	4(1992)	金沢西高校	金沢大学A	北山・舩本(金沢医大)	中村・鍛冶(金大)
26	5(1993)	金沢西高校	金沢大学A	堀田・伊藤(金大)	番場・寺岡(錦城養護)
27	6(1994)	北陸大学	金沢女子高校	南口・細木(錦城養護)	能崎・宇都宮(金女高・津幡高)
28	7(1995)	北陸大学	金沢市バドミントンクラブ	中口・北村(鹿西高・金商高)	能崎・宇都宮(金女高・津幡高)
29	8(1996)	北陸大学	金沢市バドミントンクラブ	中口・寺西(鹿西高・二水高)	河崎・河崎(T・H・I)
30	9(1997)	北陸大学	金沢市バドミントンクラブ	中口・山本(鹿西高・二水高)	能崎・宇都宮(伏見高・北陵高)

協会・連盟歴代役員

石川県バドミントン協会歴代役員

期間	会長	期間	理事長
昭和23～28年	真柄要助	昭和23年	久保田誠
昭和29～30年	越田壮太郎	昭和24年	宮地清
昭和31～32年	澁谷庚子智	昭和25年	西田聡馳
昭和33～40年	中林治詞	昭和26～27年	石川元一
昭和41～48年	宮下与吉	昭和28～平成4年	中島寿禧
昭和49～62年	宮下明	平成5～現在	河原山晴夫
昭和63～現在	岡田尚壮		

石川県実業団バドミントン連盟歴代役員

期間	会長	期間	理事長
昭和45～50年	大友佐泰（石川プレート）	昭和45～59年	中田吉明（倉庫精練）
昭和51～平成2年	谷口一夫（石川県議会議員）	昭和60～平成8年	安江勉（津田駒工業）
平成3～現在	大門重樹（北國銀行）	平成9～現在	太田博之（金沢市役所）

石川県社会人バドミントン連盟歴代役員

期間	会長	期間	理事長
平成元～7年	上野英吉（石川トヨペット）	平成元～現在	東茂樹（倉庫精練）
平成7～現在	要明英二（石川トヨペット）		

石川県家庭婦人バドミントン連盟

年度	会長	副会長	理事長	副理事長
昭和51年	澁谷弘利		窪田香代	菅井由美子　関戸美恵子
昭和52年	澁谷弘利	中　文彦	窪田香代	菅井由美子　関戸美恵子
昭和53年	澁谷弘利	中　文彦　石丸幹夫	窪田香代	菅井由美子　関戸美恵子
昭和54年	澁谷弘利	中　文彦　石丸幹夫	窪田香代	菅井由美子(普及)　関戸美恵子(加賀地区)　田辺英子(総務) 久世朋美(総務)　岡根良子(競技)　長谷川清美(競技) 村田悦子(競技)
昭和55年	澁谷弘利	中　文彦　石丸幹夫	窪田香代	菅井由美子(普及)　関戸美恵子(加賀地区)　田辺英子(総務) 久世朋美(総務)　岡根良子(競技)　長谷川清美(競技) 村田悦子(競技)
昭和56年	澁谷弘利	中　文彦　石丸幹夫	岡根良子	
昭和57年	澁谷弘利	中　文彦　石丸幹夫	岡根良子	
昭和58年	澁谷弘利	中　文彦　石丸幹夫	岡根良子	
昭和59年	澁谷弘利	中　文彦　石丸幹夫	岡根良子	
昭和60年	澁谷弘利	中　文彦　石丸幹夫	岡根良子	
昭和61年	澁谷弘利	中　文彦　石丸幹夫	岡根良子	
昭和62年	澁谷弘利	中　文彦　石丸幹夫	岡根良子	
昭和63年	澁谷弘利	中　文彦　石丸幹夫	岡根良子	
平成元年	澁谷弘利	中　文彦　石丸幹夫	岡根良子	
平成2年	澁谷弘利	中　文彦　石丸幹夫	岡根良子	
平成3年	澁谷弘利	中　文彦　石丸幹夫	武田恵子	
平成4年	澁谷弘利	中　文彦　石丸幹夫	武田恵子	
平成5年	澁谷弘利	中　文彦　石丸幹夫 岡根良子	武田恵子	
平成6年	澁谷弘利	中　文彦　石丸幹夫 岡根良子	武田恵子	
平成7年	澁谷弘利	中　文彦　石丸幹夫 岡根良子	武田恵子	
平成8年	岡根良子	武田恵子	長谷川清美	鍋島辰子
平成9年	岡根良子		長谷川清美	

石川県少年バドミントン連盟

	会長	副会長				理事長
昭和59～60年	松島桃喜男 (松島洋品店)	中谷欣二 (中谷整形外科)	山田勝二 (山田時計店)	新保岩夫 (金沢大栄青果)		奥村明義 (奥村履物店)
昭和61～62年	松島桃喜男 (松島洋品店)	山田勝二 (山田時計店)	新保岩夫 (金沢大栄青果)			奥村明義 (奥村履物店)
昭和63～平成元年	松島桃喜男 (松島洋品店)	新保岩夫 (金沢大栄青果)				奥村明義 (奥村履物店)
平成2～3年	松島桃喜男 (松島洋品店)	新保岩夫 (金沢大栄青果)	鶴見富男 (鶴見タイル)	増林博 (会社役員)		奥村明義 (奥村履物店)
平成4～5年	松島桃喜男 (松島洋品店)	新保岩夫 (金沢大栄青果)	鶴見富男 (鶴見タイル)	数馬嘉雄 (数馬酒造)		奥村明義 (奥村履物店)
平成6～7年	谷口明 (カナカン)	新保岩夫 (金沢大栄青果)	鶴見富男 (鶴見タイル)	数馬嘉雄 (数馬酒造)	秋田勲 佃一成 (佃食品)	奥村明義 (奥村履物店)
平成8～9年	谷口明 (カナカン)	新保岩夫 (金沢大栄青果)	鶴見富男 (鶴見タイル)	佃一成 (佃食品)	平野武志 (帯鋸加工所)	中谷孝一 (漆器協同組合)	松田新二郎 (ＳＳマツダ)
平成9～現在	北山吉明 (北山クリニック)	新保岩夫 (金沢大栄青果)	鶴見富男 (鶴見タイル)	佃一成 (佃食品)	平野武志 (帯鋸加工所)	中谷孝一 (漆器協同組合)	松田新二郎 (ＳＳマツダ)

石川県教職員バドミントン連盟

期間	会長
昭和43年	松田龍一
昭和44～46年	古道正進
昭和47～49年	蓮池進暢
昭和50～53年	大高彰八
昭和54～56年	山上俊夫
昭和57～60年	林美樹夫
昭和61年	小間覚
昭和62～63年	宇於崎春二
平成元～3年	今井弘
平成4～6年	河原山晴夫
平成7年	高見安彦
平成8年～現在	中村英夫

平成9年度役員

会長　中村英夫（金沢市立工業高校）
副会長　神谷民男（小松北高校）
　　中島広志（金沢大学）
　　一ノ木進（北陸大学）
評議員　原栄一（石川県教育委員会）
相談役　能崎喜吉（金沢伏見高校）
理事長　水内浩（金沢市立工業高校）
副理事長　大井川久（金沢市立米泉小学校）
事務局長　寺西了（金沢二水高校）

中学校体育連盟バドミントン専門部

	部長	副部長	
昭和26年	多々静次	北一治夫	
昭和27年	多々静次	北一治夫	
昭和28年	多々静次	北一治夫	
昭和29年	多々静次	北一治夫	
昭和30年	亀原収一	北一治夫	
昭和31年	亀原収一	北一治夫	
昭和32年	多々静次	田島昭夫	
昭和33年	天川外磨	池田昭夫	
昭和34年	天川外磨	池田昭夫	
昭和35年	西田美有	横川善泰	
昭和36年	西田美有	横川善泰	
昭和37年	西田美有	横川善泰	
昭和38年	野々市和雄	塚本竜一	
昭和39年	村本又彦	塚本竜一	
昭和40年	福浦耕介	江尻桂三	
昭和41年	石橋清末	江尻桂三	
昭和42年	堀田信吉	中村道夫	
昭和43年	長山千城(河北,津幡)	江尻桂三(金沢 野田)	
昭和44年	松原進(河北 宇ノ気)	江尻桂三(金沢 野田)	関祥一郎(金沢 紫錦台)
昭和45年	川口良(七尾 御祓)	江尻桂三(金沢 野田)	池田英寿(小松 芦城)
昭和46年	山口幸吉(七尾 島南)	前田輝代治(金沢 野田)	小山元也(七尾 御祓)
昭和47年	山田作平(鹿島 鹿島)	前田輝代治(金沢 野田)	
昭和48年	大西栄(鹿島 中島)	前田輝代治(金沢 野田)	池田英寿(小松 芦城)
昭和49年	大西栄(鹿島 中島)	前田輝代治(金沢 野田)	
昭和50年	木田幸吉(河北,津幡)	前田輝代治(金沢 野田)	小山元也(七尾 朝日)
昭和51年	南忠孝(河北 河合谷)	前田輝代治(金沢 野田)	
昭和52年	南忠孝(河北 河合谷)	北濃松喜(小松 芦城)	中村裕次(金沢 野田)
昭和53年	長山千城(河北 高松)	中村裕次(金沢 野田)	
昭和54年	長山千城(河北 高松)	中村裕次(金沢 野田)	小山元也(七尾 東部)
昭和55年	長山千城(河北 高松)	中村裕次(金沢 野田)	
昭和56年	岡田順吉(金沢 額)	中村裕次(金沢 野田)	北濃松喜(小松 松陽)
昭和57年	架谷行雄(河北 高松)	中村裕次(金沢 高尾台)	
昭和58年	山田博(河北 内灘)	越野清昭(金沢 泉)	水内浩(金沢 医王山)
		小山元也(七尾 東部)	
昭和59年	武田淳一(河北 河北台)	水内浩(金沢 医王山)	越野清昭(金沢 泉)
昭和60年	武田淳一(河北 河北台)	北濃松喜(小松 南部)	水内浩(石川 美川)
		越野清昭(金沢 泉)	
昭和61年	武田淳一(河北 河北台)	水内浩(石川 美川)	越野清昭(金沢 泉)
昭和62年	大田哲三(河北,津幡)	水内浩(石川 美川)	越野清昭(金沢 泉)
		坂井豊(七尾 東部)	
昭和63年	村田一典(松任 松任)	水内浩(石川 美川)	越野清昭(金沢 泉)
平成元年	山本五月(石川 美川)	水内浩(石川 美川)	越野清昭(金沢 泉)

	部長	専門委員長	専門副委員長
平成2年	山本五月(石川 美川)	水内浩(石川 美川)	越野清昭(金沢 泉)
平成3年	西村弘(河北 宇ノ気)	水内浩(石川 美川)	越野清昭(金沢 泉)
平成4年	北村邦夫(河北 津幡)	水内浩(石川 美川)	越野清昭(金沢 泉)
平成5年	北村邦夫(河北 津幡)	水内浩(石川 美川)	杉中達夫(金沢 高岡)
平成6年	奥野良雄(河北 宇ノ気)	越野清昭(金沢 野田)	藤田典知(鹿島 鹿島)
平成7年	奥野良雄(河北 宇ノ気)	越野清昭(金沢 野田)	藤田典知(鹿島 鹿島)
平成8年	山本健太郎(金沢 医王山)	越野清昭(金沢 野田)	藤田典知(鹿島 鹿島)
平成9年	水口武(鳳至 穴水)	越野清昭(金沢 野田)	藤田典知(鹿島 鹿島)
			杉中達夫(金沢 高岡)

高等学校体育連盟バドミントン専門部

	専門部長	専門委員長
昭和24年	秋山宗治(童台)	杉森喜三吉(二水)
昭和25年	秋山宗治(童台)	杉森喜三吉(二水)
昭和26年	寺西七郎(羽咋)	南武典(羽咋)
昭和27年	島田湖山(羽咋)	南武典(羽咋)
昭和28年	島田湖山(羽咋)	南武典(羽咋)
昭和29年	森井庸男(津幡)	森川憲三(二水)
昭和30年	森井庸男(津幡)	森川憲三(二水)
昭和31年	森井庸男(津幡)	森川憲三(二水)
昭和32年	浜中亘(大聖寺)	森川憲三(二水)
昭和33年	浅野律太郎(大聖寺)	森川憲三(二水)
昭和34年	浅野律太郎(大聖寺)	森川憲三(二水)
昭和35年	菊地計一(大聖寺)	森川憲三(二水)
昭和36年	菊地計一(大聖寺)	森川憲三(二水)
昭和37年	菊地計一(大聖寺)	森川憲三(二水)
昭和38年	金子信一(津幡)	飯田良信(津幡)
昭和39年	金子信一(津幡)	飯田良信(津幡)
昭和40年	金子信一(津幡)	飯田良信(松陵工)
昭和41年	村立造(津幡)	飯田良信(松陵工)
昭和42年	村立造(津幡)	飯田良信(松陵工)
昭和43年	古道正雄(二水)	飯田良信(松陵工)
昭和44年	古道正雄(二水)	飯田良信(松陵工)
昭和45年	古道正雄(二水)	飯田良信(松陵工)
昭和46年	古道正雄(二水)	飯田良信(松陵工)
昭和47年	蓮池進暢(二水)	飯田良信(松陵工)
昭和48年	蓮池進暢(二水)	飯田良信(松陵工)
昭和49年	蓮池進暢(二水)	飯田良信(松陵工)
昭和50年	大高彰八(二水)	飯田良信(松陵工)
昭和51年	大高彰八(二水)	飯田良信(松陵工)
昭和52年	大高彰八(二水)	飯田良信(松陵工)
昭和53年	大高彰八(二水)	飯田良信(松陵工)
昭和54年	山上俊夫(向陽)	飯田良信(松陵工)
昭和55年	山上俊夫(向陽)	飯田良信(松陵工)
昭和56年	山上俊夫(錦丘)	飯田良信(松陵工)
昭和57年	林美樹夫(松陵工)	河原山晴夫(金市工)
昭和58年	林美樹夫(松陵工)	河原山晴夫(金市工)
昭和59年	林美樹夫(松陵工)	河原山晴夫(金市工)
昭和60年	林美樹夫(松陵工)	村西一(二水)
昭和61年	小間覚(河北台)	村西一(二水)
昭和62年	宇於崎春二(松陵工)	村西一(二水)
昭和63年	宇於崎春二(松陵工)	村西一(二水)
平成元年	今井弘(松陵工)	村西一(二水)
平成2年	今井弘(松陵工)	村西一(二水)
平成3年	今井弘(松陵工)	和田修(向陽)
平成4年	河原山晴夫(金市工)	和田修(向陽)
平成5年	河原山晴夫(金市工)	和田修(向陽)
平成6年	河原山晴夫(金市工)	和田修(向陽)
平成7年	高見俊彦(金市工)	和田修(向陽)
平成8年	中村英夫(金市工)	和田修(向陽)
平成9年	中村英夫(金市工)	

編集後記

50年史編纂の話を初めて聞いたのは、平成6年（1994）のことであった。

これまで記念誌を出していなかったので、すべてゼロからのスタートだった。県協会加盟の各連盟から何人かの方々に出ていただいて、新聞記事の収集から作業が始まった。

1日ずつ新聞の縮刷版のページをめくってバドミントンの文字を探す作業は、単調でしかも膨大な時間を要求するものであったが、特に、縮刷版の無い、昭和20～30年代を担当し、マイクロフィルムを眺め続けた家庭婦人連盟の皆さんは、さぞご苦労なさったであろう。この新聞資料は、主として、年表と記録の基になった。

構成については、他県の記念誌を参考に何度かの会議を経て練り上げていった。全体を貫く方針として、「人間」を感じられるものにしたいと考えた。

執筆依頼を発送したのが平成9年の春であった。ほぼ1年という時間で、50年史を編集したことになる。各連盟の編集委員の方々は、本当にあわただしい思いをなさったであろう。

編集委員にお願いした作業は、各連盟史の執筆、各連盟の年表作成、主管する大会の記録の整理等であった。年表は、各連盟のものを年次ごとにまとめていく方法を採った。記録は、大会によって種目構成が大きく異なるため、統一書式が作れなかった。結局、北國新聞社出版局の皆さんに様々な書式の原稿をそのまま渡すことになった。記録の処理にはずいぶん手間がかかったことと思う。

期限だけが決まっていて、具体的な動きがない時の漠然とした不安は、余り思い出したくない類いのものであったが、いざ執筆や編集の段階になると、思ったよりスムーズに進んでいった感がある。やはり、「案ずるより産むが易し」で

編集委員をはじめ、各協会史執筆者、寄稿者、座談会参加者など多くの方々のご協力のおかげで、ぎりぎりではあるが発刊にこぎつけることができた。改めて感謝申し上げる次第である。

最後になるが、北國新聞社出版局の古河昌子局長、藤岡裕久係長、担当の沖野智子さんには、大変お手数をお掛けした。この場を借りて、お礼を申し上げたい。

平成10年3月20日

棒田昌生

創立50年史編集委員会

編集責任者　棒田昌生
編集委員長　河原山晴夫
編集委員　太田博之、安江　勉（実業団連盟）
東　茂樹、北村浩之、宮城静子（社会人連盟）
長谷川清美、堂谷内まき子（家庭婦人連盟）
松田新二郎、武田恵子（少年連盟）
越野清昭、東　順子（中体連）
和田　修、高井俊也（高体連）
水内　浩、寺西　了（教職員連盟）
委員会事務局　能崎喜吉
会　計　菅井由美子

石川県バドミントン協会創立50年史

平成10年4月19日発行

発行　石川県バドミントン協会
〒920-0937　金沢市丸の内3番3号
（財）石川県体育協会内

編集　50年史編集委員会

制作　北國新聞社出版局

© 1998 Printed in Japan　非売品　禁無断転載・複製

環日本海時代の拠点、金沢から、次代の人づくりを発信しています。

力強く、確かに、環日本海時代に向けて歩み続けている北陸。いま金沢は、その中核都市として、世界に視界を広げた街づくり・人づくりを、一歩一歩、着実に進めつつあります。金沢の風土と伝統に育てられた「文学部」と、国際化・高度化しつつある地域経済と企業活動を見据えた北陸初の「経営情報学部」を擁する金沢学院大学。短期大学、高等学校を備えた「総合学園」として、人材教育にいち早く取り組んでいます。



すばらしい環境にある大学校舎群、丘の下は金沢東高校の校舎



450人収容の講堂、視聴覚設備が完備している



最新の機器を備えたマルチメディア室



全館開架式の機能的な図書館

金沢学院大学　**金沢学院短期大学**　金沢学院大学附属**金沢東高等学校**

〒920-1302　金沢市末町10　電話（076）229－1181（代）

学校法人　金沢学院大学理事長
石川県バドミントン協会会長　岡田　尚壮



北陸の代表紙

北國新聞社

本　社 〒920-0961 金沢市香林坊2丁目5-1 ☎総合案内 (076)263-2111
☎読者サービスセンター (076)260-3466
富山本社 〒930-0084 富山市大手町5-1 ☎総合案内 (0764)91-8111

東京・大阪・名古屋・福井・小松・七尾・加賀・高岡各支社、松任など8総局、山中など22支局

●インターネットホームページ　http://www.hokkoku.co.jp/

購読のお申し込みは　0120-367-464（みんなよむよ）

Shibuya

限られた資源を生かすために



限りある資源の有効利用とクリーンな環境づくりへの取り組みが地球規模で進められています。シブヤグループでは、回収びんをきれいに洗って再利用する洗びん機をはじめ、生ごみを有機肥料化する発酵処理システムや食品工場の廃水をクリーンな水に処理するシステムなど、地球の未来環境づくりに貢献する各種製品を製作しています。

営業品目

- ボトリングシステム
- 医薬品製造システム
- 物流搬送システム
- 半導体製造システム
- ウォータジェット加工システム
- パッケージングシステム
- レーザ加工システム
- 医療機器
- 環境設備システム

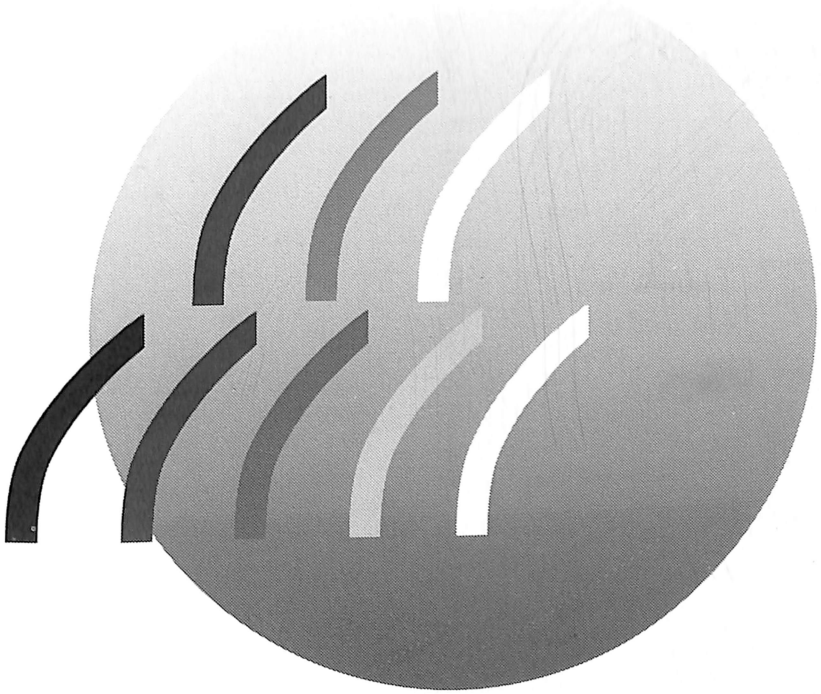
渋谷工業株式会社
〒920-8681 金沢市大豆田本町 TEL076-262-1201

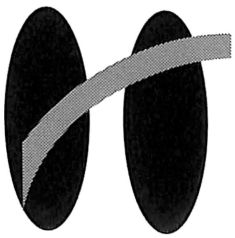
シブヤマシナリー株式会社
〒929-0447 石川県河北郡津幡町字旭山1番 TEL076-288-8811

豊かな明日へ、信頼の架け橋を

ふれあいの輪を拡げ、地域と共に
豊かな未来を築きます。







北國銀行

本店：金沢市下堤町１
TEL. 076-263-1111
国内：石川・富山・福井・東京・大阪・名古屋・京都
海外：香港支店・ニューヨーク・ロンドン（各駐在員事務所）

ホームページアドレス　http://www.nsknet.or.jp/hokkokubk/